文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

秋田創生COC+事業 実績報告書

＜平成27年度～令和元年度＞

秋田創生COC+協議会

目　次

ごあいさつ …… 1

Ⅰ．事業の概要 …… 3

Ⅱ．事業活動報告 …… 9

分野１　第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開 …… 11

分野２　第２の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進 …… 17

分野３　第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学） …… 21

分野４　事業運営・情報発信等 …… 23

Ⅲ．資料【平成30年度・令和元年度】 …… 25

分野１　第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開 …… 27

分野２　第２の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進 …… 47

分野３　第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学） …… 79

分野４　事業運営・情報発信等 …… 107

Ⅳ．資料【平成27年度～平成29年度】 …… 125

分野１　第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開 …… 127

分野２　第２の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進 …… 135

分野３　第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学） …… 147

分野４　事業運営・情報発信等 …… 165

ごあいさつ

秋田創生COC+協議会長
国立大学法人秋田大学長
山　本　文　雄

平成 27 年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されました「超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」は今年度で最終年度となりました。

本事業の補助期間終了にあたり、COC+ 参加校、参加自治体、参加企業等及び協力大学の事業協働機関の皆様をはじめ、秋田県内関係機関、県外 COC+ 大学関係者、および地域の皆様におかれまして、本事業への多大なるご理解、ご協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

さて、本事業においては、若者の地元定着の促進と若者の育成を図るべく、第 1 の柱「6 大学連携による『秋田おらほ学』の展開」による地域アイデンティティを持つ学生の育成、第 2 の柱「3 大学と地元企業群による就業支援・若者定着の促進」による学生と地元企業のマッチングの拡充、第 3 の柱「ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」による交流人口の拡大と助け合い社会の構築の 3 本の柱の取組を進めてまいりました。

この 3 本の柱の事業によって、地域を志向した教育プログラムを提供し、まずは地元秋田に目を向け、その魅力を知ってもらうとともに、大学で学んだ成果を活用して自ら地域を元気にしていこうという意欲的な学生を育てること、また、企業とのマッチングやインターンシップ等を通じて、県内には世界有数の技術をもつなどの魅力的な企業の存在を知ってもらうことにより、学生の意識が県内就職に向かうように、取組を進めてきたことから、その成果は徐々に現れてきております。また、こうした取組の成果を更に発揮させるため、これらの事業を再検討し、より効果的な方策でもって、補助期間終了後も継続することとしております。

本学においては、秋田県の未来を担う若者が、一人でも多く地元に定着して活躍できることを目指して、一層の努力をしてまいりますので、今後とも、本事業に対する皆さまのご支援、お力添えを賜れますよう、よろしくお願いいたします。

I. 事　業　の　概　要

Ⅰ．事業の概要

１．地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）とは

地域のための大学として地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学ＣＯＣ事業）を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業であり、平成 27 年度の文部科学省新規重点補助事業として 42 件が採択された。

２．秋田大学をＣＯＣ＋大学（事業責任大学）とするＣＯＣ＋事業の概要

（１）事業名

超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成

（２）事業の概要

人口減少が進む秋田県において、その主な要因は、自然減に加え、高校卒業後の就職・進学や大学等の卒業後の就職等による県外転出であり、人口問題対策として学卒者の県外流出に歯止めをかけることは、地（知）の拠点大学として地域の活性化に貢献する高等教育機関にとっても、喫緊の課題である。このため、5 年間で学生の地元就職率を 10%アップさせることを目指して、事業参画している 3 つの高等教育機関が、秋田県や地元経済団体等と協働し、「3 本の柱」の取組を進める。

第 1 の柱「6 大学連携『秋田おらほ学』の展開」は各大学の特徴に即して、ふるさと秋田についての魅力を伝える体制を整え、地域アイデンティティーを持つ学生を育成する取組である。第 2 の柱「大学と地元企業群による就業支援・若者定着の促進」はジョブシャドウイングの導入などのインターンシップ制度の拡充や新しいプログラムの開発、受入企業の掘り起こしや学生と企業のマッチング機会の拡大を図る取組である。第 3 の柱「ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」は交流人口の拡大や助け合い社会の構築に向けたモデルづくりの取組であり、スポーツサークル合宿や教育実習の誘致、聞き書きボランティア養成、認知症予防運動コグニサイズの普及活動等を展開する。

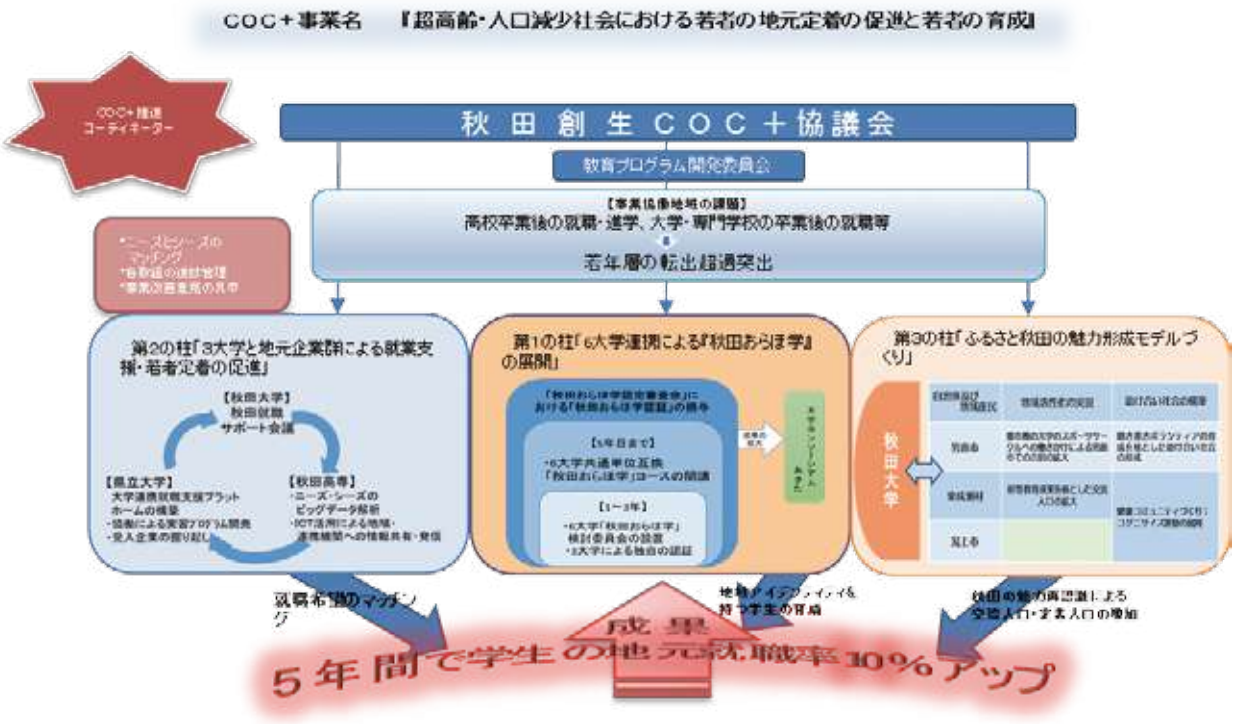
（３）事業実施体制

①　ＣＯＣ＋大学（事業責任大学）
　秋田大学
②　事業協働機関
　ア　ＣＯＣ＋参加校
　　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
　イ　参加自治体
　　秋田県
　ウ　参加企業等
　　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会
　　秋田県ふるさと定住機構　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会
③　事業の一部を協力する大学
　国際教養大学　秋田公立美術大学　日本赤十字秋田看護大学

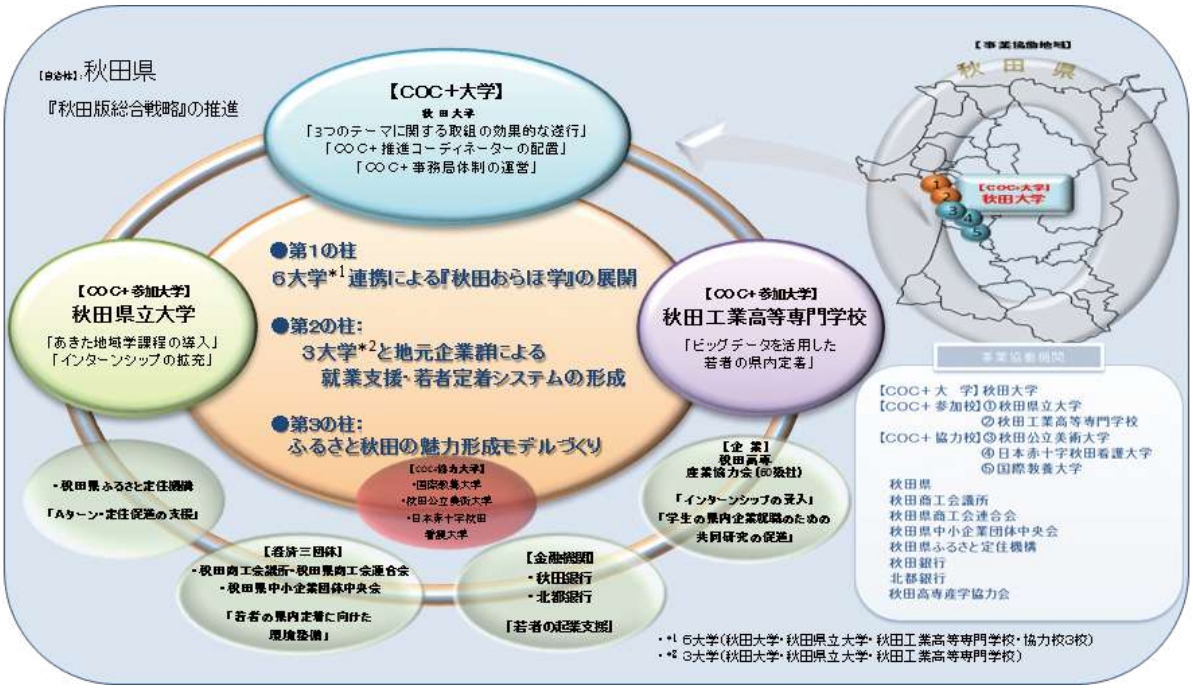
（４）事業目標

	平成 26 年度実績	令和元年度目標
①事業協働地域就職率	30.0%	39.9%
②事業協働機関へのインターンシップ参加者数	213 人	340 人
③事業協働機関雇用創出数	0 人	23 人

事業の概要図



各機関の連携図



ア　事業目標の達成状況

	H26	H27		H28		H29		H30		R1
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
①事業協働地域就職率	30.0%	32.1%	32.4%	34.1%	30.5%	36.2%	27.0%	38.1%	30.1%	39.9%
②事業協働機関へのインターンシップ参加者数	213人	261人	345人	288人	394人	305人	452人	322人	460人	340人
③事業協働機関雇用創出数	0人	4人	39人	4人	43人	8人	41人	18人	33人	23人

①事業協働地域就職率（県内就職率）

平成 30 年度事業協働地域就職率（県内就職率）の実績は秋田大学が 37.4% で前年比 4.1 ポイント増、秋田県立大学が 20.4% で前年比 4.0 ポイント増、秋田工業高等専門学校が 13.7% で前年比 0.5 ポイント減となった。3 校合計の実績は 30.1% で最終目標比 9.8 ポイントマイナスと依然厳しい状況にあるが、前年に比べ 3.1 ポイント上昇し、平成 29 年度まで続いていた下降傾向に歯止めがかかった。

②事業協働機関へのインターンシップ参加者数

平成 30 年度実績は 3 校合計で 460 人。内訳は秋田大学 203 人、秋田県立大学 226 人、秋田工業高等専門学校 31 人。秋田工業高等専門学校は前年比減、目標比マイナスであったが、秋田大学が前年比 8 人増、目標比 88 人プラス、秋田県立大学が前年比 17 人増、目標比 61 人プラスにより合計で前年比 8 人増、目標比 138 人プラスと順調に推移した。秋田大学と秋田県立大学では、通常のインターンシップに加えジョブシャドウイングへの参加者増も実績に貢献している。

③事業協働機関雇用創出数

平成 22 年度以降において、3 校からの就職実績が無かった公的機関を除く県内企業へ新たに就職した人数の合計及び 3 校合計の就職者数の最大値を上回る就職実績があった公的機関を除く県内企業について、その上回った分の人数の合計を事業協働機関雇用創出数としている。

平成 30 年度実績は合計で 33 人。内訳は秋田大学 17 人（目標比 7 人）、秋田県立大学 12 人（目標比 5 人）、秋田工業高等専門学校 4 人（目標比 3 人）。本事業における「秋田就職サポート会議」、「大学と県内企業による情報交換会」での、県内企業に対する積極的な採用活動を促す呼びかけにより、大卒採用実績が無かった企業等が積極的に採用に取り組むようになったこと、また、秋田県が発信する秋田県就活情報サイト「KocchAke ！」で学生が県内企業情報に触れる機会が増えたこと等が効果として挙げられる。

イ　その他の目標の達成状況

	H26	H27		H28		H29		H30		R1
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
①事業協働機関からの寄附講座数（秋田大学）	4講座	4講座	4講座	4講座	4講座	3講座	3講座	1講座	3講座	0講座
②大学以外の事業協働機関による事業への満足度	−	100%	81.25%	100%	84.37%	100%	87.5%	100%	96.88%	100%
③インターンシップ等受入事業所の増加（秋田県立大学）	−	10事業所	11事業所	20事業所	22事業所	25事業所	19事業所	30事業所	29事業所	40事業所

①事業協働機関からの寄付講座数（秋田大学）

平成 30 年度における事業協働機関からの寄附講座実績は次のとおりである。秋田県からの「総合地域医療推進講座」、「循環型医療教育システム学講座」（合計 128,000 千円）、DOWA ホールディングス株式会社からの「リサイクルプロセシング講座」（20,000 千円）の 3 講座となっており、秋田県の課題である地域医療の充実や主要産業であるリサイクル等に関する研究や科目開講を行っている。

②大学以外の事業協働機関による事業への満足度

平成 30 年度実績は 96.88% で前年度の 87.5% より向上。これは、秋田おらほ学認証制度のスタート、県内就職率の前年比上昇等事業進捗があったことについて、満足度向上の評価を得たものである。

③インターンシップ等受入事業所の増加（秋田県立大学）

平成 30 年度実績受入事業所数は 85 社であり、平成 26 年度実績 56 社に対し 29 社増、平成 29 年度に比べ 10 社増となった。ジョブシャドウイング担当コーディネーターによる受入先開拓活動が成果として現れている。

ウ　ア・イ以外に関する進捗状況（秋田大学の状況）

	平成 31 年 3 月 31 日現在
①学生の取組に対する認知状況	49.6%
②学生の地域志向科目受講状況	94.3%
③地域志向科目受講による地元就職意欲の喚起状況	30.2%
④大学教職員の取組に対する認知状況（認知している教職員の割合）	77.5%

①学生の取組に対する認知状況（アンケート）

調査対象の全学生（学部生、大学院生）5,206 人のうち回答者 1,111 人で回収率は 21.3%（前年度回収率 11.0%）。ＣＯＣ+の取組に対して認知している学生は 551 人で 49.6%（前年度調査 21.3%）。認知状況向上の要因として、各学部で実施する新入生ガイダンスにおいて、ＣＯＣ+事業の紹介及び秋田おらほ学認証制度の前提となるＣＯＣキャリア認証プログラムについて説明を実施したこと及び 2 年次以上ガイダンスにおいて、ＣＯＣ+事業を紹介したパンフレットを全在学生に配付したことによる情報発信の成果があったものと考えられる。

②学生の地域志向科目受講状況（学内データ）

地域志向科目を履修したことがある学生は 4,133 人で在籍学部生 4,384 人の 94.3%を占め、平成 29 年度の 80.1% より向上している。「ＣＯＣキャリア認証プログラム」の修了要件の対象となる地域志向科目の修得について、平成 26 年度に遡って認めているため、平成 30 年度の在籍学部生は入学後、教養基礎教育科目、専門教育科目のいずれかで地域志向科目を履修している。

③地域志向科目受講による地元就職意欲の喚起状況（アンケート）

地域志向科目を履修したことがあると回答した学生 529 人のうち、受講により地元就職意欲が喚起されたと回答した学生は 160 人で 30.2%。前年度調査 27.0% より向上。なお、令和元年度から教養基礎教育科目において地域との関与の度合いがより高い地域志向科目を 8 科目、理工学部において県内企業と連携した課題解決型授業として 2 科目を新たに開講しており、今後の学生における地元就職意欲喚起への効果が期待できる。

④大学教職員の取組に対する認知状況（アンケート）

調査対象 825 人のうち回答者 656 人で回収率 79.5% は前年並み。ＣＯＣ+の取組に対して認知している教職員は 77.5% と前年度の 66.8%より向上。ＣＯＣ+事業の概要、体制、これまでの取組等をまとめたパンフレットの全教職員配付による情報発信の成果があったものと考えられる。

Ⅱ. 事業活動報告

【平成 30 年度・令和元年度】

分野１　第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開

①６大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築

②「ＣＯＣキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

③「あきた地域学課程」の拡充（秋田県立大学）

④「ＣＯＣ＋授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

分野２　第２の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

⑤秋田就職サポート会議」及び「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の実施（秋田大学）

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

分野３　第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学）

⑨「聞き書きボランティア養成講座」の開催

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

分野４　事業運営・情報発信等

⑫「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催

⑬ＣＯＣ＋外部評価委員会の開催

⑭情報発信

分野１　第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開

【平成 30 年度・令和元年度】

①６大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築

地域を志向した教育プログラムに関する６大学共通の認証制度である「秋田おらほ学」認証の構築に向けて、各校の地域志向科目の提供状況の確認や認定要件等に関する事前調整を実施し、その結果を踏まえて、平成 30 年 12 月 7 日に「6 大学秋田おらほ学検討委員会」、平成 30 年 12 月 14 日「教育プログラム開発委員会」を開催し、平成 31 年 1 月 25 日付けで「６大学連携による『秋田おらほ学認証』に関する要項」を制定し、同認証制度を構築することができた。これを受け、各大学での学生への説明会を開催、申請受付を経て、平成 31 年 3 月 26 日に教育プログラム開発委員会にて第 1 期の秋田おらほ学認証者の審査を行い 32 人（秋田大学 24 人、秋田県立大学 8 人）の認証者を決定し、平成 31 年 4 月に認証書を交付した。秋田県内の６大学が独自に定める地域志向科目の学修等を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して「秋田おらほ学認証書」を交付することにより、地域に興味・関心を持つ学生の育成及び学生の地元就職意欲喚起に取り組んだ。また、認証書交付式について秋田魁新報（以下地元紙）の紙面に取り上げられ、秋田おらほ学認証の取組について広く情報発信することができた。

・「6 大学秋田おらほ学検討委員会」

・「教育プログラム開発委員会」

秋田おらほ学認証者数（人）

	平成 30 年度	令和元年度
秋田大学	24	22
秋田県立大学	8	5
合計	32	27

＊認証対象年次：秋田大学 3 年生、秋田県立大学 2 年生
＊令和元年度は予定者数

平成 30 年度秋田おらほ学認証者の主な就職先（人）

事業所名	人数
秋田県庁	3
秋田市役所	3
秋田地検	2
秋田地裁	1
秋田銀行	1
北都銀行	1
秋田県小学校教員	1
県内民間事業所等	7
その他	5
合計	24

＊合計 24 人は全て秋田大学生

本県の魅力や課題学ぶ「おらほ学」

履修学生に認証書交付

秋大と県立大の32人に

認証書を受け取る学生（右）

認証書交付式について秋田魁新報記事

「秋田おらほ学認証書交付式」

また、令和元年度はＣＯＣ＋事業から波及し、秋田おらほ学認証制度以外の他大学間の連携事業として、学生同士の連携・交流のイベントを実施した。一つ目が学生と県内社会人との交流による次世代の地域リーダーの育成を目的とした秋田大学教育文化学部地域文化学科主催の「あきた未来カフェ」であり、令和元年12月８日開催のイベントに学生４校14人（秋田大学10人、秋田県立大学１人、秋田高専２人、国際教養大学１人)、社会人10人が参加した。二つ目が県内大学で地域交流活動を展開している学生団体同士の連携構築を目的とした大学コンソーシアムあきた主催「学生交流フォーラムポスターセッション」であり、令和２年１月25日開催のイベントに８校（秋田大学、秋田県立大学、秋田高専、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学、同短期大学、秋田看護福祉大学）が参加した。

・「あきた未来カフェ」

・「学生交流フォーラム」ポスターセッション・活動紹介

②「ＣＯＣキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

地域課題解決に主体的に行動できる人材の育成を目的とし、一定数の地域志向科目を修得した学生に「あきた創生推進士」の称号を授与する「ＣＯＣキャリア認証プログラム」をスタートさせ２年目となる平成 30 年度は修了者 108 人（前年 95 人）を輩出した。また、地域志向科目の拡充を進め、令和元年度から教養教育科目における主題別科目（地域志向・キャリア形成）において、「秋田のくらし」や「秋田の産業」など８科目、理工学部においても県内企業と連携した課題解決型授業として、従来の「プロジェクト実践研究Ⅱ」に加え、「プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」の２科目を新たに開講することとなり、学生に秋田県への更なる興味・関心を持たせ、地元定着への意欲喚起を図った。

平成 30 年 11 月 13 日～ 14 日福井大学で開催されたＣＯＣ+フォーラム「はばたけ地域創生士サミット」にて、事例発表として、秋田大学教育文化学部の学生２人により、ＣＯＣキャリア認証プログラムの地域志向科目である地域連携プロジェクトゼミの実習報告を行い、全国から参集したＣＯＣ+事業関係者に向けて情報発信することができた。

「COCキャリア認証プログラム」認証者数（人）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
認証者数	95	108	113

＊令和元年度は予定者数

令和元年度の新設地域志向科目・受講者数（人）

	科目	受講者数
教養教育科目	「起業力」養成ゼミナールⅡ	10
	地域キャリアデザイン	42
	秋田のくらし	42
	超高齢社会と健康寿命　ー秋田県の保健医療の包括的な取り組み	5
	秋田の産業	140
	秋田の再生可能エネルギー	20
	秋田の産業史と経済の成り立ち	26
	秋田の地域資源と観光	36
理工学部	プロジェクト実践Ⅰ	12
	プロジェクト実践Ⅱ	11

「はばたけ地域創生士サミット」事例発表

③「あきた地域学課程」の拡充（秋田県立大学）

（ｉ）「あきた地域学」

あきた地域学課程（標準コース）の必修科目である「あきた地域学」を継続実施し、修了者が標準コースの認定を受けた。（平成 30 年度 413 人、令和元年度 423 人）

地域研修は、県内 4 市町（横手市、由利本荘市、三種町、美郷町）と連携して実施し、学生自身が研修地を選択して、地域の実情把握と抱えている問題の発掘に取り組んだ。受講後レポートには、多くの気づきや今後の展望が示されており、講義内容の内面化と地域課題への関心の高まりを確認できた。

受講した県内出身学生にとっては、地元の魅力や課題を再認識するなど、地域を見つめ直す契機となり、一方、県外出身学生にとっては、外部からの視点を生かした活性化策の提案などを通じて、秋田のみならず自分の故郷の課題を考えることにもつながった。

（ⅱ）「あきた地域学アドバンスト」

あきた地域学課程（上級コース）の必修科目である「あきた地域学アドバンスト」を、平成 30 年度から開講した。（平成 30 年度 34 人、令和元年度 34 人が修了）

さらに、「あきた地域学アドバンスト」に加え、上級コース認定に必要な地域関連科目（選択制）を修了した者が、上級コース認定を受けた。（平成 30 年度 23 人、令和元年度 22 人）

「あきた地域学アドバンスト」では、地域住民との交流をとおして具体的な地域課題に触れることで、「地域」への理解をより一層深化させることができた。また、「あきた地域学」での学びを発展させた実践的な活動の中で、情報収集力、問題解決力及びプレゼンテーション能力を養うとともに、地方社会の問題点を考え、それぞれの地域課題に対する視座を身に付けた。

○「あきた地域学」修了者数等の状況

年度	履修登録者数（人）			修了者数（人） ※地域創生推進士（標準）認定者数		
	システム	生物	合計	システム	生物	合計
H29	242	164	406	238	159	397
H30	247	167	414	246	167	413
R1	266	163	429	263	160	423
合計	755	494	1,249	747	486	1,233

※「システム」…システム科学技術学部、「生物」…生物資源科学部

○「あきた地域学アドバンスト」修了者数等の状況

年度	履修登録者数（人）			修了者数（人）		
	システム	生物	合計	システム	生物	合計
H30	19 【8】	15 【10】	34 【18】	19 【8】	15 【10】	34 【18】
R1	23 【11】	12 【8】	35 【19】	22 【10】	12 【8】	34 【18】
合計	42 【19】	27 【18】	69 【37】	41 【18】	27 【18】	68 【36】

※下段【 】内は、うち県内出身者の数。

○地域創生推進士（上級）認定状況

年度	地域創生推進士（上級）認定者数（人）		
	システム	生物	合計
H30	17 【7】	6 【4】	23 【11】
R1	10 【6】	12 【9】	22 【15】
合計	27 【13】	18 【13】	45 【26】

※下段【 】内は、うち県内出身者の数。
※令和元年度の数値は、認定見込みの者を含む。

・「あきた地域学」

由利鉄活性化、交流促進イベント…

地域課題解決へ 新鮮な提案続々

本荘キャンパス 県立大生、知恵絞る

県立大本荘キャンパスで「あきた地域学アドバンスト」を選択するシステム科学技術学部の2年生19人が、地域課題の解決に向け知恵を絞っている。先月学内で発表会を開き、これまで検討してきた四つのテーマについて、若者らしい斬新な視点でアイデアを提案した。

「私たちは、貸し出し自転車列車の導入を提案します」。由利高原鉄道の活性化策を検討したグループは、こう切り出した。

由利鉄が運行する鳥海山ろく線は「駅の周辺に観光地などがない」と指摘。降りた駅から気軽に移動する交通手段がほしいと訴えた。主要駅に貸し出し自転車を置くのではなく、増結した車両に自転車を積んで運行し、使用時に降ろす仕組みを提案した。

自転車は乗り捨て可能で、衛星利用測位システム（GPS）を利用して回収するという。この時に経路情報も把握できれば、お薦めコースの設定などにも役立てることができるとした上で、「鉄道利用者、沿線観光客の増加などが見込める」と結んだ。

担当する経営システム工学科の嶋崎真仁准教授は「駅利用者の多くは、再び駅に戻ってくるので回収費用はそれほどかからないだろう。トライしてみる価値はあるのではないか」と述べた。

学生は5、6月、本荘地域の活性化を図る住民組織「本荘まちづくり協議会」の三つの部会に参加。委員との意見交換などを通して四つのテーマを設定、検討を重ねてきた。

由利鉄以外のテーマは▽地域交流を促すイベント▽鳥海山木のおもちゃ美術館を地域住民に長く利用してもらうために▽地域資源の広報の在り方。

県立大は、本県の魅力を知り、活性化への方策を考える力を身に付けてもらおうと、昨年度から「あきた地域学」を1年生の必修科目として導入している。2年生は選択科目となっている。

由利鉄活性化策を発表した経営システム工学科の澤木剛さん(20)＝秋田市出身＝と、田中健太郎さん(19)＝大館市出身＝は「秋田のことを案外知らないことに気付いた。もっと秋田を学び、何か力になりたいと思い、2年でも地域学を選択した。授業を通して地域の人と交流でき、いろんな行事やアイデアを知ることができた。自転車列車についてはぜひ実現してほしい」と話していた。

（喜田良直）

地域の課題解決に向け、アイデアを発表する学生たち

名所を散策 活性化議論

横手金沢地区 県立大生が「地域学」実習

県立大システム科学技術学部（由利本荘市）の学生15人が9日、横手市金沢地区を訪問し、住民と合同で地元の魅力や課題を掘り起こすワークショップを行った。同大が昨年度創設した「あきた地域学」の現地実習。地元の歴史を生かした街づくりに取り組む住民たちと、活性化策を話し合った。

「地域学」は、地域を担う人材を育て、学生に県内定着を促す狙い。現地実習は、生物資源科学部を合わせ約400人いる1年生が10班に分かれて実施し、イベント運営に参加したり、住民と意見を交換したりする内容。同大と連携協定を結ぶ横手市など、県内5市町で受け入れている。

金沢地区には、平安後期の「後三年合戦」で決戦地となった「金沢柵」があったとされる。住民は30年前から、決戦地と推定される金沢公園の散策路整備や伝説の継承などに取り組んでいる。

この日参加した学生たちは午前中に公園を散策。合戦時、大勢の武士が埋められたとされる塚や、馬上の煮豆が偶然発酵したと伝わる「納豆発祥の地」のモニュメントなどを巡った。

午後に金沢公民館で行われたワークショップには約25人の住民も参加。地区の特徴を「子どもや高齢者の見守り、若手農家育成など世代間交流が活発」「少子化で伝統行事の継承が課題」などと説明した。

5班に分かれた意見交換では、学生たちが「後三年合戦の伝説が面白い」「鳥海山に臨む田園風景がきれい」などと地区の印象を語った。活性化策について各班から▽伝統芸能を集めた音楽祭の開催▽子どもたちが売り子になる朝市の実施▽歴史的な名所を巡るマラソン大会の開催―などのアイデアが出た。

情報工学を専攻する浜野伸一さん(18)は「とても面白い議論だった。今後学ぶIT技術が、こうした分野で生かせたらいい」と話した。

公園で案内役を務めた「歴史文化の里づくりをすすめる会」の本間恒会長(63)は「地元の魅力を多数指摘してもらい、われわれも自信が持てた。出たアイデアを生かしたい」と語った。

（福原斉）

金沢公園の名所を見学する学生たち

三種で健康づくり体験

県立大生が「地域学」研修

県立大が1年生の必修科目としている「あきた地域学」の実地研修が23日、三種町で行われ、生物資源科学部の学生ら76人が参加した。ウオーキングや温泉浴を組み合わせた健康保養地（クアオルト）事業や、特産のジュンサイなど地域の食材の活用策といった町内の取り組みを学んだ。

あきた地域学は、地域の資源や魅力を知ることで、活性化への方策を考え、将来秋田で暮らす人材として定着を目指すのが狙いで、2017年度から始めた。同町での実地研修は昨年度に続き2回目。

午前中は、クアオルトの体験と、昼食用の巻きずし作りの2班に分かれて学習した。釜谷浜海水浴場周辺では、血圧測定や準備体操をした学生たちが、町クアオルト研究会メンバーの指導で約3・2㌔を散策。コース案内の掲示板を巡ってウオーキングによる運動効果を体感した。午後からは、八竜農村環境改善センターで座学を行った。

クアオルトの体験に参加したアグリビジネス学科の石井優衣さん(18)は「お年寄りが多いと思ったが、地域おこし協力隊など若い人も参加していることに良い印象を持った」と話していた。

（棟方幸人）

林立する風力発電の風車を眺めながら浜辺を散策する学生ら

④「ＣＯＣ＋授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

（ｉ）ＣＯＣ＋講演会の開催

平成 30 年度は総計 680 人の本科学生に対して、地域の実務家教員６人による６回の「ＣＯＣ＋講演会」を開催して、地域の技術の特色、課題についての講演を行った。県内企業の経営者や技術者、公共団体関係者等の講師による地域産業及び地域企業の魅力発信、産業･雇用政策の紹介を目的とした講演等により、学生の地域への興味が増進し、学生の県内企業情報への問合せも増えてきており､地域に根ざした｢課題の発見｣･｢課題の設定｣能力が向上してきている。

（ⅱ）ＣＯＣ＋授業：４科目（８単位分）の開講

ＣＯＣ＋授業として「地域産業Ⅰ」､「地域産業Ⅱ」､「地域史」､「地域計画」を開講した。地域産業Ⅰ、Ⅱでは地域産業の特色、課題、可能性（未開拓領域）などについて、地域計画では地域の資源・エネルギーの豊富さ、産業の可能性などについて、異なる立場の実務家教員の講義を実施し、学生において地域の理解を深め、地域への興味が増加しているとともに、実務家教員や企業技術者とのコミュニケーションから「地域密着」への教育効果が生まれてきている。

COC+授業

COC+授業 受講者数	H28	H29	H30	R01
地域産業Ⅰ	4	3	9	14
地域産業Ⅱ		14	7	10
地域史	4		3	3
地域計画		2	3	5

※ H28 度地域産業Ⅰ、地域史のみの開講
※ H29 度地域史は開講無し

分野２　第２の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

【平成30年度・令和元年度】

⑤「秋田就職サポート会議」及び「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催

（ｉ）「秋田就職サポート会議」の開催

ＣＯＣ+事業に参画する６大学と秋田県や県内経済団体などの事業協働機関等で構成する「秋田就職サポート会議」（平成 30 年 8 月 8 日と平成 31 年 1 月 31 日、令和元年 8 月 8 日と令和 2 年 2 月 21 日）を開催し、前年度の県内就職実績や本年度の就職動向について情報共有を図るとともに、各大学や県による県内就職推進の取組についての紹介と意見交換を行い、引き続き、大学と事業協働機関の連携した県内就職支援の取組を実施していくことを確認した。

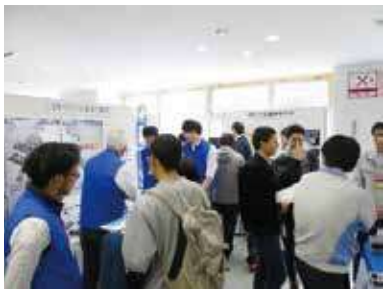
平成 31 年 1 月 31 日開催

（ⅱ）「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催

大学と秋田県との共催により、秋田県立大学（平成 30 年 10 月 17 日、令和元年 10 月 18 日）秋田大学（平成 30 年 10 月 23 日、令和元年 11 月 6 日）を会場に「秋田ものづくりオープンカレッジ」を開催した。令和元年度は県内の自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の 4 分野に携わる 38 社（前年 38 社）のブース出展と県内企業 1 社の講演会を行った。企業展には秋田県立大学会場に 242 人（前年 251 人）秋田大学会場に 369 人（前年 258 人）の来場者、講演会には秋田県立大学会場に 50 人（前年 69 人）秋田大学会場に 60 人（前年 103 人）の聴講者を集め、高度な技術による製品や事業内容など、県内企業の魅力を多くの学生に伝えることにより、学生と県内企業とのマッチングを促進した。また、企業展について地元紙の紙面に取り上げられ、学生の県内就職支援の取組について広く情報発信することができた。

令和元年 8 月 8 日開催

・「秋田ものづくりオープンカレッジ」



第 1 部の様子（秋田大学）

第 2 部の様子（秋田大学）

県内企業の技術知って
県立大本荘キャンパス
38社、学生らに業務紹介

秋田魁新報記事（秋田県立大学）

「秋田ものづくりオープンカレッジ」参加状況

	出展ブース		企業展来場者		講演会聴講者	
	H30	R01	H30	R01	H30	R01
秋田大学	38 社	38 社	258 人	369 人	103 人	60 人
秋田県立大学	38 社	38 社	251 人	242 人	69 人	50 人

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の実施（秋田大学）

（ⅰ）「インターンシップセミナー」の開催

インターンシップ受入予定企業による学生へのプレゼン大会として「インターンシップセミナー」（平成30年5月23日、令和元年5月21日）を開催した。令和元年は参加企業12社（前年12社）により学生88人（前年90人）へ企業内容、インターンシップ内容等について説明を行い、学生のインターンシップ参加を促進した。

（ⅱ）「大学と県内企業による情報交換会」の開催

秋田大学で平成29年度に単独で取組を始めた、「大学と県内企業による情報交換会」について、平成30年度からは、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校との3大学連携事業として、北秋田市（平成30年9月5日、令和元年9月24日）、秋田大学（平成30年9月6日、令和元年9月26日）、横手市（平成30年9月7日、令和元年9月27日）を会場として開催した。令和元年度は合計78社（前年79社）の参加があり、県内企業による採用活動の事例紹介や3大学と企業との個別相談会を実施して、参加企業に対し早期の採用活動を実施するよう促し、参加企業からはその重要性の認識ができた旨の前向きな意見が寄せられた。

県北会場

中央会場

県南会場

（ⅲ）「ジョブシャドウイング」等の実施

平成29年度まで秋田県立大学が単独で実施していた短期間の職場観察型インターンシップであるジョブシャドウイングについて、平成30年度は秋田県立大学の主導により秋田大学においても実施し学生が参加した。（平成30年度6社7人、令和元年度4社8人）

また、令和2年2月14日に事業協働機関である秋田銀行との連携により、県南地区の企業3社への職場見学バスツアーを初めて実施し、理工学部生等11名が参加した。

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

ジョブシャドウイングについて、担当するコーディネーターが、県内の高い技術力を有する企業や、先進的な経営を行っている企業等を訪問のうえ受け入れを要請し、1・2年生を中心に実施した。（平成30年度23社113人、令和元年度21社110人）

また、実施にあたっては、各企業の特色を学生が理解しやすいオーダーメイドのプログラムを企業と協働で開発し、参加学生に提供した。参加した学生からは、「地元秋田で働くことのメリットを知ることができたので、今後進路を決める際の判断材料としたい。」などジョブシャドウイングの効果を示す肯定的な意見や感想が寄せられた。

経営者講話

ランチミーティング

職場見学

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

（ⅰ）「地域密着型校外実習」の実施

4年生の選択科目として「地域密着型校外実習」を開講し、平成30年度は31人（前年44人）の学生が県内の企業等におけるインターンシップを行った。

（ⅱ）ＣＯＣ+研修会の開催、ＣＯＣ+研究会等の実施

県内企業2社を会場に「ＣＯＣ+研修会」を開催し、工場見学と研修会を行い、開催企業との連携強化を図った。

30年度から「県内企業を知る会」を開催し、秋田高専産学協力会会員である参加企業42社について、参加学生98人に向け企業内容およびインターンシップ内容の情報公開を実施した。

インターンシップ受入企業等数と県内実施率

県内インターンシップ実施先

インターンシップ先への就職者数

県内就職率・県内就職者数実績推移

	H26	H27	H28	H29	H30	R01
	実績	実績	実績	実績	実績	目標
秋田大学	37.9%	37.8%	36.4%	33.3%	37.4%	48.0%
	279 人	297 人	272 人	234 人	250 人	
秋田県立大学	19.3%	25.1%	18.4%	16.4%	20.4%	29.4%
	55 人	67 人	52 人	46 人	58 人	
秋田工業高等専門学校	9.5%	12.8%	22.7%	14.2%	13.7%	20.0%
	13 人	15 人	27 人	16 人	17 人	
合計	30.0%	32.4%	30.5%	27.0%	30.1%	39.9%
	347 人	379 人	351 人	296 人	325 人	

令和2年3月卒業者　就職内定県内率状況　（人）

		平成31年2月末				令和2年2月末			
		合計	県内	県外	県内率	合計	県内	県外	県内率
秋田大学	国際資源	61	5	56	8.2%	65	4	61	6.2%
	教育文化	155	85	70	54.8%	191	99	92	51.8%
	医	223	96	127	43.0%	224	94	130	42.0%
	医学科	121	45	76	37.2%	116	47	69	40.5%
	保健学科	102	51	51	50.0%	108	47	61	43.5%
	理工	197	40	157	20.3%	215	36	179	16.7%
	計	636	226	410	35.5%	695	233	462	33.5%
秋田県立大学	システム科学技術	161	24	137	14.9%	169	30	139	17.8%
	生物資源科学	122	34	88	27.9%	120	38	82	31.7%
	計	283	58	225	20.5%	289	68	221	23.5%
秋田工業高等専門学校		124	17	107	13.7%	92	18	74	19.6%
合計		1,043	301	742	28.9%	1,076	319	757	29.6%

分野３　第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学）

【平成30年度・令和元年度】

⑨「聞き書きボランティア養成講座」の開催

聞き書きに関する高校生を対象とした外部講師招聘による「聞き書きボランティア養成講座」（平成 30 年 7 月 6 日、令和元年 7 月 5 日）を開催した。令和元年度は秋田西高校、金足農業高校の生徒 23 人（前年 25 人）が参加した。令和元年 7 月 30 日には両高校の生徒により、潟上市の高齢者から実際に話を聞く「聞き書きボランティア実践活動」を実施し、令和元年 10 月 23 日に聞き取りした話を文字にして作成・製本した聞き書き小冊子の贈呈会を開催した。また、贈呈会について、朝日新聞及び地元紙の紙面に取り上げられ、聞き書きに関する取組について、広く情報発信することができた。

令和元年 8 月 31 日に医学系研究科教員 1 名が聞き書きに関する全国組織の研修会である「第 5 回聞き書き学校 in 一ノ関」に参加し、聞き書き指導者としてのスキルアップを図った。

外部講師による養成講座

実践活動

・「聞き書きボランティア養成講座」

金足農、秋田西高の16人
高齢者の半生一冊に
聞き書きの成果まとめる

金足農業高校（秋田市）と秋田西高校（潟上市）の生徒16人が、高齢者の思い出話を記録する「聞き書きボランティア」に取り組み、内容を小冊子にまとめた。金足農高でこのほど、協力した潟上市の高齢者9人に手渡した。

「聞き書きボランティア」は地域の魅力掘り起こしと人材育成を目的に、昨年始まった。秋田大学の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の一環。同大と潟上市の呼び掛けで集まった60～80代の11人が語り手となり、今年7月に金足農高で生徒が聞き書きした。高齢者は約1時間、半生を語り、生徒は方言や語り口を生かして文章にした。

冊子の贈呈会では、生徒が聞き書きの内容と感想を発表し、一人一人に冊子を手渡した。長門幸矢さん（79）の話を聞き書きした菊地琉耀さん（16）＝金足農高1年＝は「長門さんは終戦後の食べ物の少ない時、学校の帰り道でアユを捕り、空の弁当箱に入れて持ち帰った。少しでも家の助けになればという思いからの行動に、優しさを感じた」と発表。長門さんは「うまくまとめてくれて、うれしい。大切な財産として家族にも読んでもらう」と話した。（佐藤桃子）

生徒から冊子を受け取る高齢者

贈呈会の秋田魁新報記事

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

平成 30 年度において、10 月 10 日から 3 月 6 日まで潟上市の高齢者 22 人を対象に計 21 回の「コグニサイズ教室」を開催した。また、同教室の開催については、日本経済新聞及び地元紙の紙面に取り上げられ、コグニサイズに関して広く情報発信することができた。

コグニサイズ運動の全県への普及拡大を目的としたシンポジウムを、10 月 17 日に潟上市において「コグニサイズ事業中間報告会」として開催した。自治体、医療福祉関係者及び一般県民等 73 人出席のもと、コグニサイズの概要紹介、東成瀬村と男鹿市での実践事例を大学・自治体・参加者の立場から報告および地域包括支援センター等の県内自治体関係者や病院・介護事業所関係者などの出席者による意見交換を行い、新聞記事としても取り上げられ、コグニサイズ運動について情報発信し普及拡大に寄与することができた。また、以下のとおり、当初計画になかった潟上市以外の自治体等からのコグニサイズ講師の派遣要請に対応し、コグニサイズ運動の普及活動に努めた。

（自治体等への講師派遣対応）
・5/24 秋田市新屋田尻沢地区体験会・5/27 三種町希望苑実演会
・5/30 秋田市生涯学習奨励員研修会・6/30 NSCAジャパン東北地域ディレクターセミナー
・9/11 秋田市菊谷小路いきいき町づくりの会・9/22トレイク潟上プレオープン
・12/15 秋田県「めざせ健康寿命日本一応援フェア」・12/20 秋田市西部市民ＳＣ市民講座

11 月 8 日・9 日に国立長寿医療研究センターにおけるコグニサイズ指導者研修へ医学系研究科教員 1 人が参加し、コグニサイズ指導者としての認定を受け、事業推進体制の強化を図った。

3 月 22 日にこれまでのコグニサイズ運動の取組に関する資料集「コグニサイズ運動の展開に関する中間報告書」を作成し基礎資料を取りまとめた。

令和元年度はこれまで「コグニサイズ教室」を実施した 3 地区について、次のとおりフォローアップ指導を展開した。東成瀬村（6 月 6 日参加者 5 人）、潟上市（6 月 12 日参加者 15 人、8 月 28 日参加者 14 人）、男鹿市（6 月 28 日参加者 16 人）

・「コグニサイズ」

「コグニサイズ教室」の様子

県央 秋田市

コグニサイズ

認知、身体機能が向上

秋田大 潟上市で事例報告会

「コグニサイズ事業中間報告会」の秋田魁新報記事

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

「合宿誘致活動」：全日本バレーボール大学女子選手権大会に出場した大学（平成 30 年 11 月 26 日　筑波大学他 4 大学、令和元年 11 月 28 日　順天堂大学他　大学）に秋田県内での合宿を働きかけた。

「教育実習誘致活動」:平成 29 年度に誘致した共栄大学（埼玉県）の教育実習を東成瀬村（平成 30 年度 2 人、令和元年度 2 人）、大館市（平成 30 年度 2 人、令和元年度 5 人）で継続して実施した。

・「合宿誘致活動」

・「教育実習誘致活動」

大館

共栄大生が教育実習

受け入れ協定締結

27日から桂城小に2人

分野４　事業運営・情報発信等

【平成30年度・令和元年度】

⑫「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催

秋田創生ＣＯＣ＋協議会を構成する参加大学、行政、経済団体、金融機関等の主要メンバー参集のもと、ＣＯＣ＋事業の取組実績・事業計画について協議する会議（平成 30 年 7 月 17 日、令和元年 7 月 25 日）を開催した。

・秋田創生ＣＯＣ＋協議会

令和元年 7 月 25 日開催

⑬ＣＯＣ＋外部評価委員会の開催

秋田創生ＣＯＣ＋協議会に設置する外部評価委員会（平成30年10月5日、令和元年10月31日）を開催した。令和元年度の外部評価委員会においては平成 30 年度事業実績について「計画を上回る実績である」との評価を受けるとともに、「3 大学連携による県内就職支援事業を補助期間終了後も継続していくことが望ましい。」との提言を受けた。

・秋田創生ＣＯＣ＋協議会

令和元年 7 月 25 日開催

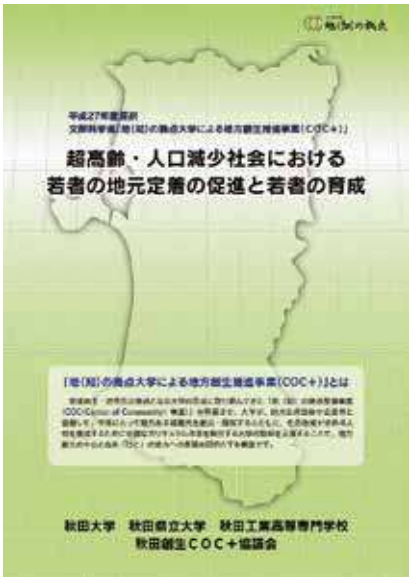
⑭情報発信

平成 30 年度は本年度ＣＯＣ＋事業の取組を紹介した「秋田創生ＣＯＣ＋通信」をＣＯＣ＋事業参加大学及び事業協働機関の他、県内企業 177 社に配付するとともに、個々の事業において、積極的な情報発信に努め、マスコミ等を通じて、広く県民にＣＯＣ＋事業の取組について周知した。

令和元年度においては、新たに作成したＣＯＣ＋事業の概要、体制、これまでの取組等をまとめたパンフレット及び秋田おらほ学認証制度を対外的に紹介するパンフレットを県内の経済団体及び業界団体の総会・セミナーを活用して配布し、ＣＯＣ＋事業と秋田おらほ学認証制度についての情報発信を行い、県内就職率向上に向けた採用側の意識付けを行った。

（配布した経済・業界団体：11 団体、配布部数：840 部）

・ＣＯＣ＋パンフレット等



Ⅲ. 資　料
平成 30 年度・令和元年度

分野1資料【平成 30 年度・令和元年度】

第1の柱
6大学連携による「秋田おらほ学」の展開

①6大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築
（事業協働機関全体）

②「COCキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

③「あきた地域学課程」の拡充（秋田県立大学）

④「COC+授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

平成 30 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
６大学「秋田おらほ学」検討委員会を開催しました

12 月７日（金）秋田大学地方創生センター２階２０６号室において、６大学「秋田おらほ学」検討委員会を開催しました。
まず、本委員会委員長である本学の後藤猛教育推進主管から挨拶があり、続いて、各大学から地域を志向したカリキュラム等の現状や現在検討している事項について説明がありました。
次に、事務局から６大学連携による「秋田おらほ学認証」に関する要項の素案について説明があり、認証要件や申請・審査方法等について協議を行いました。
今後開催される教育プログラム開発委員会において、認証制度に関してさらに審議を深め、秋田創生ＣＯＣ＋協議会で決裁を受けた後、パンフレット等で学生や自治体、企業に向けて周知や個別説明を行い、認証希望者の申請受付を開始することを確認しました。

※６大学「秋田おらほ学」認証とは
ＣＯＣ＋事業責任大学である秋田大学、事業参加大学である秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、及び事業の一部を協力する国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学の６大学が共通の認証制度のもとで、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して「秋田おらほ学認証書」を交付するものであり、地域志向科目の学修等を促進することにより、学生の地元就職率の向上に寄与することを目的としています。

６大学「秋田おらほ学」検討委員会の様子

平成 30 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
教育プログラム開発委員会を開催しました

12 月 14 日（金）秋田大学百周年記念館２階会議室において、第１回教育プログラム開発委員会を開催しました。

本委員会では、先に行われた６大学「秋田おらほ学」検討委員会での協議事項を踏まえて、６大学共通の認証制度構築に向け、さらに審議を行いました。

まず、委員長である本学の志立理事から挨拶があり、続いて、各大学から地域を志向したカリキュラム等の現状や現在検討している事項について説明がありました。
次に、事務局より６大学連携による『秋田おらほ学認証』について説明があり、申請手続、審査方法及び認証書記載事項等について、実務的な議論が行われました。
今後、関係規程等を整備し、学生や企業・自治体への PR 活動を行うなど、認証制度の実施に向けた準備を進めていきます。

6大学連携による『秋田おらほ学認証』に関する要項

（趣旨）
第1条　この要項は、平成 27 年度大学改革推進補助金（大学改革推進事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された「超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」事業において、第1の柱「6大学連携による『秋田おらほ学』の展開」により実施する「秋田おらほ学認証」に関し、必要な事項を定める。

（定義及び目的）
第2条　「秋田おらほ学認証」とは、次条に定める地域志向科目の学修や秋田県内事業所におけるインターンシップ等（以下「地域志向科目の学修等」という。）を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して「秋田おらほ学認証書」を交付する認証制度であり、地域志向科目の学修等を促進することにより、学生の地元就職率の向上に寄与することを目的とする。

（認証要件等）
第3条　「秋田おらほ学認証」を受けるためには、次の各号に定める要件を満たす必要がある。
（1）地域志向科目3科目6単位以上を修得すること。但し、各大学において独自に3科目6単位を超える科目数及び単位数の修得、並びに特定の地域志向科目の修得を認証要件として別に定める場合は、当該認証要件を満たすこと。
（2）秋田県内事業所におけるインターンシップ又はこれに類する活動（以下「インターンシップ等」という。）の実績があること。
2　前項の地域志向科目及びインターンシップ等については、各大学において別に定める。

（認証の申請）
第4条　「秋田おらほ学認証」を受けようとする者は、秋田おらほ学認証申請書（別紙様式1）により、所属する各大学に申請する。

（認証候補者の推薦）
第5条　各大学は、提出された申請書等に基づき、認証候補者を選出し、推薦書（別紙様式2）により教育プログラム開発委員会に推薦する。
2　認証候補者の選出方法は、各大学が別に定める。

（認証の審査）
第6条　教育プログラム開発委員会は、各大学から推薦のあった認証候補者について認証の可否を審査し、審査結果を秋田創生 COC+協議会長に報告する。

（認証書の交付）
第7条　秋田創生 COC+協議会長は、前条の報告に基づき「秋田おらほ学認証」を受ける者を決定し、その者に「秋田おらほ学認証書」（別紙様式3）を交付する。

（その他）
第8条　この要項に定めるもののほか、秋田おらほ学認証に関して必要な事項は、教育プログラム開発委員会が別に定める。

附則1
この要項は平成 31 年1月 25 日から施行する。
附則2
秋田工業高等専門学校が定めた地域志向科目である「地域史」、「地域産業Ⅰ」、「地域産業Ⅱ」、「地域計画」については、それぞれ2単位として取り扱うこととする。

別紙様式１（第４関係）

平成　　年　　月　　日

秋田おらほ学認証申請書

（所属大学の長）　　殿

所　属
（学部・学科等）＿＿＿＿＿＿＿＿

学籍番号＿＿＿＿＿＿＿＿
ﾌﾘｶﾞﾅ
氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿印

秋田おらほ学認証を受けたいので，下記のとおり申請します。

記

（１）修得（修得見込）の地域志向科目（３科目６単位以上）

授業科目名	単位	修得時期	確認欄
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
		年：前期・後期	
計			

（２）秋田県内事業所におけるインターンシップ又はこれに類する活動		確認欄
期間	年　月　日 ～　年　月　日	
企業・団体名等		
概要		

（３）地域志向科目の学修等により修得した主な成果等
①地域志向科目の学修やインターンシップ等により修得した主な成果の概要及び，②地域課題解決のためにどのような活動を行ったか，又は，これから（卒業後）どのような活動をしたいのかを1,200 字程度で書いてください。

①6大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築（事業協働機関全体）

別紙様式２（第５関係）

平成　　年　　月　　日

推　　薦　　書

秋田創生ＣＯＣ＋協議会長　　殿

推薦者
大学名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

代表者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

下記の者は，秋田おらほ学認証を受けるに相応しい者と認められることから，それぞれの申請書を添付し推薦します。

記

整理番号	学部	学科等	氏名	学籍番号	備考

計　　名

別紙様式３（第７関係）

No.＿＿＿＿

秋田おらほ学認証書

大学名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所属
（学部・学科等）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ﾌﾘｶﾞﾅ
氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記の者は、地域志向科目の学修等を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有する人材であることを認証します。

平成　　年　　月　　日

秋田創生 COC+協議会
会長　　〇〇　　〇〇　印

「秋田おらほ学認証」は、地方創生の中心となる人材の地方への集積を目指す「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋事業）」の一環として、県内６大学（秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学）が、秋田県や県内経済団体等と協働して実施する認証制度であり、地域アイデンティティを持つ学生を育成することにより、学生の県内就職率向上に寄与することを目的としています。

各大学から推薦のあった学生を「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」において審査し、秋田に関する様々な科目の学修や、県内事業所でのインターンシップ等を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して「秋田おらほ学認証書」を交付します。

※「秋田創生ＣＯＣ＋協議会（会長　秋田大学長）」の構成団体
- 秋田大学
- 秋田県立大学
- 秋田工業高等専門学校
- 秋田県
- 秋田商工会議所
- 秋田県商工会連合会
- 秋田県中小企業団体中央会
- 秋田県ふるさと定住機構
- 秋田銀行
- 北都銀行
- 秋田高専産学協力会
- 国際教養大学
- 秋田公立美術大学
- 日本赤十字秋田看護大学

①６大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築（事業協働機関全体）

「６大学連携による『秋田おらほ学認証』に関する要項」
に係る秋田大学における取扱い細則

平成 31 年１月 25 日地（知）の拠点推進本部長裁定

（趣旨）
第１条　この細則は、６大学連携による『秋田おらほ学認証』に関する要項（平成 31 年１月 25 日秋田創生 COC+協議会決定）（以下「本要項」という。）第３条第１項第１号但書、同条第２項及び第５条第２項の規定に基づき、各大学において独自に定める認証要件等、秋田大学における本要項の取扱いに関し、必要な事項を定める。

（秋田大学が独自に定める認証要件）
第２条　本要項第３条第１項第１号に規定する認証要件について、同号但書の規定に基づき、秋田大学においては、秋田大学 COC キャリア認証プログラム実施要項第４条の規定に準じて、独自の認証要件として次のとおり定める。
（１）認証に必要な地域志向科目の単位数は、10 単位以上とする。
（２）前号の地域志向科目のうち、４単位以上は教養教育科目又は秋田学基礎及び地域学基礎から修得することとする。

（地域志向科目）
第３条　本要項第３条第２項前段に規定する地域志向科目について、秋田大学においては、秋田大学 COC キャリア認証プログラム実施要項第３条に規定する地域志向科目とし、同要項の取扱い第２条に規定する別表１及び別表２のとおりと定める。

（インターンシップ等）
第４条　本要項第３条第２項に規定するインターンシップ又は「これに類する活動」について、秋田大学においては、次のとおり定める。
（１）インターンシップについては、正課、正課外を問わず、実習等の参加時間が 30 時間以上の場合を対象とする。
（２）「これに類する活動」については、県内事業所や地域でのフィールドワーク、地方公共団体や企業等からの課題、問題点に対する演習等の参加時間が 30 時間以上の科目を対象とし、各学部の専門科目から、地（知）の拠点推進本部長が別に定めることとする。

（認証の申請部局）
第５条　秋田大学において秋田おらほ学認証を受けようとする者は、本要項第４条に定める秋田おらほ学認証申請書（以下「申請書」という。）を地（知）の拠点推進本部（地方創生・研究推進課）に提出することとする。

（認証候補者の選出）
第６条　本要項第５条第２項に規定する認証候補者の選出について、秋田大学においては、申請書等に基づき、本要項第３条に規定する認証要件を満たしていることが確認された者のうち、申請書の（３）の記載等により、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生を選出することとし、地（知）の拠点推進本部長が決定することとする。

（その他）
第７条　この細則に定めるもののほか、本要項に関する秋田大学における取扱いに関して必要な事項は、地（知）の拠点推進本部長が別に定める。

附則　この細則は平成 31 年１月 25 日から施行する。

地（知）の拠点

地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ＋事業）

６大学連携『秋田おらほ学認証』制度がスタートします。

秋田県内や出身地での就職を目指している学生の皆さん。
是非、「秋田おらほ学認証」にチャレンジしてください。

（別添申請書を３１年２月２２日までに提出願います。）

○「秋田おらほ学認証」制度とは？

「秋田おらほ学認証」とは、秋田県内の６大学（秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学）が、秋田県や県内経済団体等と連携して実施する新しい認証制度です。
各大学が定める地域志向科目の学修や、秋田県内におけるインターンシップ等を通じて、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して、「秋田おらほ学認証書」（別添参考資料）を交付します。（31年4月上旬交付予定）

○「秋田おらほ学認証」を受けると、どんなメリットがあるの？

「秋田おらほ学認証」を受けたことを就職活動のエントリーシートに記入し、面接において地元秋田や地域に強い愛着を持つとともに、地域課題を理解し、その解決に取り組んだ実績等をアピールするなど、県内企業や地方自治体等への就職活動において、有効に活用することができます。

○「秋田おらほ学認証」を受けるための要件は、どうなっていますか？

次の２つの要件をいずれもクリアしたうえで大学に申請し、審査を受ける必要があります。
（１）ＣＯＣキャリア認証プログラムの地域志向科目から１０単位以上を修得すること。
　　但し、その１０単位のうち、４単位以上は教養基礎教育科目の地域志向科目又は専門科目の「秋田学基礎」、「地域学基礎」から修得すること。
（２）秋田県内事業所におけるインターンシップ又はこれに類する活動の実績があること。

※　地域志向科目の修得状況を確認したい場合は、地（知）の拠点推進本部（地方創生センター１号館２階２０７号室ＣＯＣ＋事務局）に照会してください。

○インターンシップについて、条件がありますか？

秋田県内事業所におけるインターンシップであり、実習等の参加時間が３０時間以上であれば、単位として認められたインターンシップに限らず、個人が申し込んで実施したインターンシップ も対象となります。
（ジョブシャドウイングのような短期のインターンシップは対象外）

○「これ（インターンシップ）に類する活動」とは、どのようなものですか？

「これに類する活動」については、県内事業所や地域でのフィールドワーク、地方公共団体や企業等からの課題に対する演習などの参加時間が３０時間以上の専門科目を対象としており、具体的には次の専門科目が該当します。
・教育実習（教育文化学部学校教育課程）
・地域連携プロジェクトゼミ（教育文化学部地域文化学科）
・地域医療実習（医学部医学科）
・在宅看護実習・公衆衛生看護実習・統合看護実習Ⅰ（医学部保健学科看護学専攻）
・基礎臨床実習Ⅱ・同Ⅲ・総合臨床実習Ⅰ・同Ⅱ（医学部保健学科理学療法学専攻）
・臨床評価法実習Ⅰ・総合臨床実習Ⅰ・同Ⅱ・同Ⅲ（医学部保健学科作業療法学専攻）
・プロジェクト実践研究Ⅱ（理工学部創造生産工学コース）

※　上記以外の科目で「これに類する活動」に該当すると考えられる科目を履修・修得している場合は地（知）の拠点推進本部（地方創生センター１号館２階２０７号室ＣＯＣ＋事務局）に相談して下さい。

○「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム（あきた創生推進士）」との関係は、どうなっていますか？

秋田大学には、学位授与の際に、一定の地域志向科目を修得した学生に対し「あきた創生推進士」の称号を授与する「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム」という独自の認証制度があります。
これに対し、「秋田おらほ学認証」は、３年次の１月～２月に申請を受理し、４年次の４月に認証書の交付を予定していますので、就職活動に活用しやすい認証制度となっています。
（※　別途、８月の申請、１０月の交付も予定しています。）
また、「秋田おらほ学認証」は、秋田大学だけではなく、県内６大学と秋田県、県内の主要経済団体や企業等で構成する「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」が実施する認証制度であり、「あきた創生推進士」の認証要件に加えて、県内でのインターンシップや小論文による審査もあることから、県内企業や自治体への就職活動において、よりアピールすることができます。

○「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」は、どのような団体で構成されていますか？

６大学（秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学）のほか、秋田県、秋田商工会議所、秋田県商工会連合会、秋田県中小企業団体中央会、秋田県ふるさと定住機構、秋田銀行、北都銀行、秋田高専産学協力会で構成されており、各経済団体には多くの県内企業が会員となっています。

○「秋田おらほ学認証」の申請は、どうすればいいの？

別添の「秋田おらほ学認証申請書」に必要事項を記入し、３１年２月２２日までに、地（知）の拠点推進本部（地方創生センター１号館２階２０７号室ＣＯＣ＋事務局）に提出してください。

○問い合わせ及び連絡先

窓口：地（知）の拠点推進本部（地方創生センター１号館２階２０７号室ＣＯＣ＋事務局）
Mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp　　TEL ：018-889-3246（担当　高橋、川村、斎藤）

平成 31 年度　COC＋事業
秋田おらほ学認証書交付式を行いました

4 月 25 日（木）秋田大学地方創生センター2 号館 2 階大セミナー室において、秋田おらほ学認証書交付式を行いました。

「秋田おらほ学認証」とは、ＣＯＣ＋事業の一環として、人口減少が進む秋田県を活性化させるため、秋田県内 6 大学（秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学）と秋田県や県内経済団体等と連携し、地域アイデンティティを持つ学生の育成により、地元就職率の向上に寄与することを目的として構築された認証制度であり、地域志向科目の学修等を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して、「秋田おらほ学認証書」が交付されるものです。

この日は、制度スタートから初の認証となる 32 名（秋田大学 24 名、秋田県立大学 8 名）のうち 21 名の学生が出席し、ＣＯＣ＋事業協働機関の関係者が見守るなか、秋田創生 COC+協議会長である山本文雄秋田大学長から認証書を受け取りました。

その後、山本学長、小林淳一秋田県立大学長、堀井啓一秋田県副知事のほか、秋田大学・秋田県立大学の認証学生代表から挨拶がありました。秋田大学・学生代表の池田さんからは、「生まれ育った秋田で働きたい。秋田おらほ学認証を受けるきっかけとなった地域での活動の経験を活かし、さらに秋田の魅力を発見・発信していきたい。」との決意が示されました。

今後、この「秋田おらほ学認証」については、各大学において、学生への一層の周知を図り、より多くの認証者輩出を目指すとともに、県内自治体・企業等への制度周知を図りながら、認証学生の積極的な採用を呼び掛け、地元就職率アップに繋がる取組を進めて参ります。

認証書を受取学生

秋田大学　山本学長

秋田県立大学　小林学長

秋田県　堀井副知事

令和元年 5 月 4 日（土）
秋田魁新聞 19 面

本県の魅力や課題学ぶ「おらほ学」

履修学生に認証書交付

秋大と県立大の32人に

認証書を受け取る学生（右）

本県の魅力や課題について「おらほ学」の認証書交付式が学んだ学生を認証する「秋田おらほ学」の認証書交付式がこのほど、秋田市の秋田大手形キャンバスで行われた。学生の地元定着につなげようと今年新設された制度で、秋田大と県立大の学生32人が交付を受けた。県内の大学と経済団体などでつくる「秋田創生COC+協議会」の主催。

「秋田おらほ学」は2015年に始まり、大学ごとに「秋田の歴史」「地域発展論」「秋田の地域資源と観光」などの科目が設けられている。原則3科目6単位以上取得し、県内企業でインターンシップを行うことが認証の条件。認証を受けたことを就職活動などに役立ててもらうのが狙い。

交付式には学生21人が出席。同協議会会長の山本文雄秋田大学長が「科目の履修を通して、地域をよくしたいという思いが強まったはず。社会人になってもその思いを持ち続け、地域の活性化につなげてほしい」とあいさつ。秋田大、県立大の代表者にそれぞれ認証書を手渡した。

秋田大教育文化学部4年の池田圭佑さんは「学んだ知識で秋田の魅力を再発見し、県外に発信したい」、県立大生物資源科学部3年の成田絢音さんは「地域の人たちが元気に暮らせるよう、知識を生かしたい」と話した。（石塚佳治）

大学コンソーシアムあきた　学生交流フォーラム　開催要項

１．趣旨

地域交流活動やボランティア活動を行っている学生団体は各大学等にあり、それぞれ活動していますが、団体同士の繋がりは薄く、また、学生団体の活動を知らない県民が多いことが現状です。

そこで、地域交流活動やボランティア活動を行っている県内の学生団体が集まり、活動内容をポスターや発表などでアピールし、また大学等の枠を越えた学生同士の交流の場を作ることで、多くの県民が学生の活動内容を知ることのほか、団体同士の繋がりの強化、さらなる活発な活動を目指します。

２．開催日時

令和２年１月２５日（土）１２時３０分～１６時００分

３．会場

明徳館ビル２階　カレッジプラザ　講堂・大講義室

４．内容

大学コンソーシアムあきたの構成機関に所属する学生団体が、活動内容についてポスターセッション（大講義室）とスライド発表（講堂）を行う。

５．プログラム（進行状況によって多少前後します）

【大講義室】

１２時３０分～１６時００分　ポスターセッション

【講堂】

１３時００分～１５時４５分　参加団体による地域活動の発表

６．主催

大学コンソーシアムあきた学生交流フォーラム実行委員会

７．後援

秋田創生 COC＋協議会

文部科学省 平成27年度採択「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

文部科学省 地（知）の拠点

［学生］×［地域創生を志す者たち］

はばたけ 地域創生士！サミット

FUKUI COC+

福井市街地を望む

開催日 2018
11.13 Tue・**11.14** Wed

会場 福井県県民ホール
（AOSSA 8階）
〒910-0858 福井市手寄1-4-1

このサミットでは、地域を学んだ知識やプロセスを通して、いずれの地域においても課題を探索、解決するポテンシャルを有し、地域創生を志向する人材として資格認定を受けた学生が、「ふくい」に集結し、学生が県域を越え全国規模で交流します。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

入場 **無料**
定員150名（要事前申込）

基調講演［講師プロフィール］
福岡女子大学
国際文理学部 准教授
和栗 百恵氏

石川県小松市生まれ、東京都町田市育ち。中央大学総合政策学部卒業（第1期生）。米国スタンフォード大学大学院教育研究科修了後、スリランカや日本の国際協力NGOで経験し、中央大学、早稲田大学、大阪大学、甲南大学において「大学教育における体験的な学習」に取組む。2009年福岡女子大学に着任し、現在に至る。
平成29年度 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会委員

1日目 11.13 Tue／13:30～17:30

13:30～ 開会挨拶 福井大学長 眞弓 光文
13:35～ 来賓挨拶 文部科学省
挨　　拶 福井県（ふくいCOC+事業協働機関代表）
13:45～ はじめに「はばたけ地域創生士! サミット開催に向けて」
福井大学 理事・副学長 岩井 善郎
14:00～ 基調講演「なぜ『地域創生』か?～来る社会と、大学教育で身につけるべき力から考える～」
福岡女子大学 国際文理学部 准教授 和栗 百恵氏
15:10～ 事例発表
- 秋田COC+「あきた創生推進士」
- 岐阜COC+「ぎふ次世代地域リーダー」
- 佐賀COC+「子ども発達支援士」
- 富山COC+「未来の地域リーダー」
- 福井COC+「ふくい地域創生士」

16:30～ 鼎談・クロストーク「未来に向けたCOC+」
和栗 百恵氏（福岡女子大学 国際文理学部 准教授）
峠岡 伸行氏（福井県経営者協会 専務理事）
益川 浩一　（岐阜大学 地域協学センター長 シニア教授）
17:25～ まとめ
福井大学 理事・副学長 中田 隆二
17:40～ 情報交換会

2日目 11.14 Wed／9:00～11:00

9:00～ ワークショップ
10:50～ 閉会挨拶 岐阜大学 理事・副学長 野々村 修一

共催 ふくいCOC+事業推進協議会、ぎふCOC+事業推進コンソーシアム　幹事大学 福井大学

地（知）の拠点

文部科学省平成 27 年度採択
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）

平成31年度（2019）
秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム
履　修　案　内

秋田大学 地（知）の拠点推進本部

地域課題解決に主体的に行動できる人材

秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラムとは

秋田大学では、平成２９年度から「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム」をスタートさせました。このプログラムは、本学が文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」の採択を受け、「超高齢・人口減少社会における若者の地元定着と若者の育成」をテーマとして実施する取組の一環です。

「地域志向科目」の学修により、秋田県の現状や課題について理解するとともに、修得した専門的な知識や技能を活用し、地域の経済や文化の活性化、コミュニティーの創生・再生、防災、地域医療の充実など、様々な方面で地域課題解決のために主体的に行動できる人材の育成を目的としています。

地域志向科目について

地域志向科目とは、文部科学省により、連携する地域（秋田県）の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる人材を育成するための科目と定義づけられた科目です。

本学では、地域（秋田県）に関する自然、歴史、芸術文化、地域社会・生活、産業、技術・雇用等、防災、教育、地域医療及びその他の現状・課題等を理解するための科目並びに地域課題を解決するために必要な専門的な知識や技能を修得するための科目として、別表１（教養基礎教育科目）及び別表２（専門教育科目）に掲げる科目を地域志向科目として定めています。

プログラムの修了要件

本プログラムを修了するためには、次の２つの要件をいずれも満たす必要があります。

（１）別表１（教養基礎教育科目）及び別表２（専門教育科目）に掲げる地域志向科目から合計１０単位以上を修得すること。
（２）（１）で修得する１０単位のうち、４単位以上は別表１（教養基礎教育科目）に掲げる 地域志向科目又は別表２（専門教育科目）に掲げる地域志向科目の「秋田学基礎」、「地域学基礎」から修得すること。

「あきた創生推進士」を育成します。

称号の授与

本プログラムを修了した学生に対しては、学位授与の際にプログラム修了証を交付し、「あきた創生推進士」の称号を授与します。また、就職活動等のために、学位授与に先立ち、本プログラムの修了（修了見込み）の証明が必要な場合は、学生の申し出により証明書を発行します。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」は、秋田県や県内経済団体等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するなど、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業であり、本プログラムを修了したことは、県内の就職先に対して様々な場面でアピールすることができますので、「あきた創生推進士」の称号を目指して、積極的に地域志向科目を修得してください。

プログラムの登録手続について

本プログラムの対象となる学生は、平成２９年度以降に入学する全学生及び平成２９年度時点で在学する全学生であり、登録手続は必要ありません。

また、前記プログラムの修了要件の確認についても、卒業時に大学が実施しますので特に手続は必要ありません。

なお、地域志向科目についても通常の科目と同様の履修登録が必要ですので、各学部で定める履修手続を行ってください。

～～～～～～～～～「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（略称　COC＋事業）」とは～～～～～～～～～

地域のための大学として地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業です。

平成 27 年度の文部科学省の新規重点補助事業で、秋田大学を COC＋大学（事業責任大学）とし、秋田県立大学と秋田工業高等専門学校を参加校とする事業計画で申請し採択されたもので、この事業のテーマは「超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」です。

【問合せ先】秋田大学 地（知）の拠点推進本部　COC＋事務局（地方創生センター１号館２階）
〒010-8502　秋田市手形学園町１番１号
TEL：018-889-3246 FAX：018-889-3168 E-mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

別表１　教養基礎教育科目（平成31年度開講科目）

番号	科目群・分類	授業科目コード	授業科目名－サブタイトル－	単位数
1	初年次ゼミ（医学部保健学科）	50941012	初年次ゼミ「保健と医療」	2
2	主題別科目（人間と文化）	51152002	教養ゼミナール１ －日本史を読み直し秋田を考える－	1
3	主題別科目（人間と文化）	51222006	人権と共生 －ボランティア活動論－	1
4	主題別科目（人間と文化）	51142011	日本社会入門Ⅰ	2
5	主題別科目（人間と文化）	51142012	日本社会入門Ⅱ	2
6	主題別科目（科学の探究）	51452001	教養ゼミナール１ －自然エネルギーを考える－	1
7	主題別科目（科学の探究）	51722001	教養ゼミナール１ －自然環境・社会環境と共生社会－	1
8	主題別科目（科学の探究）	51452002	地球の環境と資源Ⅱ －資源問題と地球環境－	1
9	主題別科目（科学の探究）	51452004	地球の環境と資源Ⅱ －資源問題と地球環境－	1
10	主題別科目（科学の探究）	51742004	自然環境と住まいⅠ －建築環境学入門－	1
11	主題別科目（生活と保健）	51232007	教養ゼミナール１ －聞き書きによる人間関係の構築－	1
12	主題別科目（生活と保健）	51562003	医学と健康ⅡＡ －私たちの地域と公衆衛生－	1
13	主題別科目（生活と保健）	51562004	医学と健康ⅡＢ －私たちの地域と公衆衛生－	1
14	主題別科目（生活と保健）	51812007	がん治療 －秋田県の現状について－	2
15	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51582001	教養ゼミナール１Ａ －地域医療の問題点－	1
16	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51582002	教養ゼミナール１Ｂ －地域医療の問題点－	1
17	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51792003	教養ゼミナール１ －防災教育について考える－	1
18	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51792004	教養ゼミナール１ －国国防災学入門－	1
19	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252005	秋田の歴史 －城下町を歩く－	1
20	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252007	秋田の自然と文化Ａ －秋田の自然・資源・社会・文化－	1
21	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252008	秋田の自然と文化Ｂ －秋田の自然・資源・社会・文化－	1
22	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51792005	防災学基礎Ⅰ －防災のための地球科学入門－	1
23	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51792006	防災学基礎Ⅱ －地域防災学入門－	1
24	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51792007	津波防災基礎 －広い低平地における津波対策を考える－	1
25	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51932006	「起業力」養成ゼミナールⅠ	2
26	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51932007	「起業力」養成ゼミナールⅡ	1
27	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51932008	地域キャリアデザイン	1
28	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252009	秋田のくらし	1
29	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252010	超高齢社会と健康寿命 －秋田県の保健医療の包括的な取り組み－	1
30	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252011	秋田の産業	1
31	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252012	秋田の再生可能エネルギー	1
32	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252013	秋田の産業史と経済の成り立ち	1
33	主題別科目 （地域志向・キャリア形成）	51252014	秋田の地域資源と観光	1
34	主題別科目（技能の活用）	51931001	秋田大学論 －がんばれ！秋大生－	1
35	主題別科目（技能の活用）	51932002	キャリアデザインⅡ －仕事理解－	1
36	主題別科目（技能の活用）	51932004	「起業力」養成ゼミナール	2
37	主題別科目（技能の活用）	51762001	鉱業博物館業務体験	1

②「COCキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

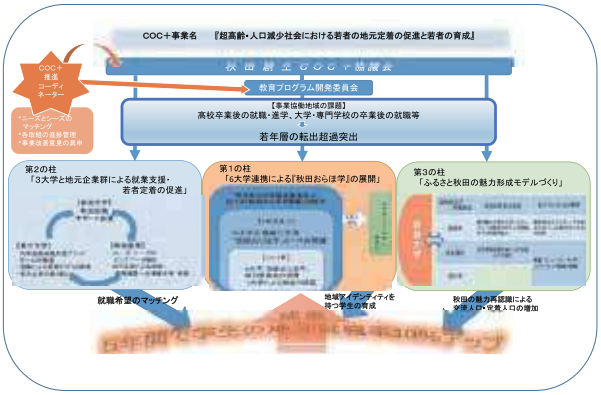
別表２　専門教育科目（平成31年度開講科目）

番号	開講学部・学科等	講義コード	授業科目名	単位数
国際資源学部				
1	国際資源学部	10452010	資源学実習	1
教育文化学部　学校教育課程				
1	学校教育課程	65962110	教職入門Ⅰ	2
2	学校教育課程	65962120	教職入門Ⅱ	2
3	学校教育課程	65962710	幼児の理解と指導	2
4	学校教育課程	66963340	数学科教育学演習Ⅲ	2
5	学校教育課程	66963350	数学科教育学演習Ⅳ	2
6	学校教育課程	68152110	環境歴史学概論	2
7	学校教育課程	68782100	地誌学概論	2
8	学校教育課程	68222030	地域社会学概論	2
9	学校教育課程	68222035	地域社会学	2
10	学校教育課程	68523510	生物学フィールド実習	2
11	学校教育課程	68742310	地域食品健康論	2
12	学校教育課程	68743410	食生活実験・演習Ⅰ（地域食材の調理実習）	2
13	学校教育課程	68743510	住居学概論	2
14	学校教育課程	67243110	発達教育演習	2
15	学校教育課程	67243120	教育学演習Ⅰ	2
16	学校教育課程	67243130	教育学演習Ⅱ	2
17	学校教育課程	67243140	教育学演習Ⅲ	2
18	学校教育課程	67233210	教育心理学実習Ⅰ	2
19	学校教育課程	68233610	心理実習Ⅰ（教育Ⅰ）	2
20	学校教育課程	67233220	教育心理学実習Ⅱ	2
21	学校教育課程	68233620	心理実習Ⅱ（教育Ⅱ）	2
22	学校教育課程	67233230	教育心理学実習Ⅲ	2
23	学校教育課程	67233240	教育心理学実習Ⅳ	1
24	学校教育課程	67243250	社会教育課題研究	2
教育文化学部　地域文化学科				
1	地域文化学科	68252110	秋田学基礎	2
2	地域文化学科	68252120	地域学基礎	2
3	地域文化学科	68252210	地域資源活用論	2
4	地域文化学科	68252220	地域振興論基礎	2
5	地域文化学科	68252310	地域統計学基礎Ａ	2
6	地域文化学科	68252315	地域統計学基礎Ｂ	2
7	地域文化学科	68252320	地域統計技法	2
8	地域文化学科	68742020	地域生活学概論	2
9	地域文化学科	68222030	地域社会学概論	2
10	地域文化学科	68222035	地域社会学	2
11	地域文化学科	68992000	地域社会基礎ゼミ	1
12	地域文化学科	68992030	地域社会基礎ゼミ	2
13	地域文化学科	68742520	住環境科学Ⅱ（住環境と健康）	2
14	地域文化学科	68742525	住環境科学Ⅰ（住環境と健康）	2
15	地域文化学科	68742310	地域食品健康論	2
16	地域文化学科	68742720	地域マーケティング論	2
17	地域文化学科	68782100	地誌学概論	2

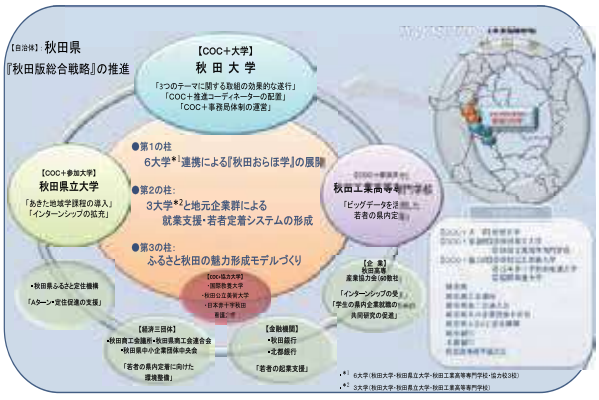
番号	開講学部・学科等	講義コード	授業科目名	単位数
18	地域文化学科	68712220	地域情報処理	2
19	地域文化学科	68152110	環境歴史学概論	2
20	地域文化学科	68252130	地域文化概論	2
21	地域文化学科	68743510	住居学概論	2
22	地域文化学科	68742530	住居学	2
23	地域文化学科	68743410	食生活実験・演習Ⅰ（地域食材の調理実習）	2
24	地域文化学科	68743620	住生活調査・演習Ⅱ（夏季・地域環境）	2
25	地域文化学科	68743430	地域食資源活用実験・演習	2
26	地域文化学科	68253010	観光地域論	2
27	地域文化学科	68253110	地域環境基礎実験実習Ⅰ	2
28	地域文化学科	68253120	地域環境基礎実験実習Ⅱ	2
29	地域文化学科	68253200	地域統計分析演習	2
30	地域文化学科	68253310	地域環境野外実験Ⅰ	2
31	地域文化学科	68253320	地域環境野外実験Ⅱ	2
32	地域文化学科	68253325	社会調査実習	2
33	地域文化学科	68253330	地域環境野外実験Ⅲ	2
34	地域文化学科	68253430	生態学野外実習	2
35	地域文化学科	68253340	地域環境野外実験Ⅳ	2
36	地域文化学科	68253420	地理学フィールドワーク実習Ⅱ（自然）	2
37	地域文化学科	68253360	地域環境野外実験Ⅵ	2
38	地域文化学科	68523510	生物学フィールド実習	2
39	地域文化学科	68223200	地域社会学演習	2
40	地域文化学科	68713300	地域データベース論	1
41	地域文化学科	67233210	教育心理学実習Ⅰ	2
42	地域文化学科	68233610	心理実習Ⅰ（教育Ⅰ）	2
43	地域文化学科	67233220	教育心理学実習Ⅱ	2
44	地域文化学科	68233620	心理実習Ⅱ（教育Ⅱ）	2
45	地域文化学科	67233230	教育心理学実習Ⅲ	2
46	地域文化学科	68254000	地域連携プロジェクトゼミ	2
47	地域文化学科	68254500	特定地域研究ゼミ	2
医学部　医学科				
1	医学科	71564010	医療行動科学	3
2	医学科	71574003	地域医療・コミュニケーションとチーム医療	1
3	医学科	71604006	社会医学実習	1
4	医学科	71644007	臨床実習Ⅲ	26
医学部　保健学科　看護学専攻				
1	保健学科看護学専攻	75582001	公衆衛生学	1
2	保健学科看護学専攻	75582003	保健情報学	1
3	保健学科看護学専攻	75582005	社会福祉学	2
4	保健学科看護学専攻	75622003	生活支援原論	1
5	保健学科看護学専攻	75622002	保健福祉行政論Ⅰ	1
6	保健学科看護学専攻	75623001	保健福祉行政論Ⅱ	1
7	保健学科看護学専攻	75623075	多職種連携論	1
8	保健学科看護学専攻	75623067	在宅看護実習	1
9	保健学科看護学専攻	75623084	地域看護学概論	1

番号	開講学部・学科等	講義コード	授業科目名	単位数
10	保健学科看護学専攻	75623085	地域看護方法論	2
11	保健学科看護学専攻	75623086	地域看護活動論	1
12	保健学科看護学専攻	75623087	地域看護管理論	1
13	保健学科看護学専攻	75623089	地域看護学実習	2
14	保健学科看護学専攻	75623079	セルフヘルプの実際	1
15	保健学科看護学専攻	75624002	統合看護実習Ⅰ	1
医学部　保健学科　理学療法学専攻				
1	保健学科理学療法学専攻	76582001	公衆衛生学	1
2	保健学科理学療法学専攻	76582003	保健情報学	1
3	保健学科理学療法学専攻	76582005	社会福祉学	2
4	保健学科理学療法学専攻	76622004	生活支援原論	1
5	保健学科理学療法学専攻	76622002	保健福祉行政論	1
6	保健学科理学療法学専攻	76623005	多職種連携論	1
7	保健学科理学療法学専攻	76803033	地域理学療法学	1
医学部　保健学科　作業療法学専攻				
1	保健学科作業療法学専攻	77582001	公衆衛生学	1
2	保健学科作業療法学専攻	77582003	保健情報学	1
3	保健学科作業療法学専攻	77582005	社会福祉学	2
4	保健学科作業療法学専攻	77622004	生活支援原論	1
5	保健学科作業療法学専攻	77622002	保健福祉行政論	1
6	保健学科作業療法学専攻	77622005	多職種連携論	1
7	保健学科作業療法学専攻	77803037	地域作業療法学	1
理工学部				
1	理工学部	30721001 30721002	秋田の環境と資源	1
2	理工学部	30993001	プロジェクト実践Ⅰ	1
3	理工学部	30993002	プロジェクト実践Ⅱ	1
4	理工学部	35253053	地域産業論	1
5	理工学部	39753086 40393076	プロジェクト活動Ⅰ	1
6	理工学部	39753087 40393077	プロジェクト活動Ⅱ	2
7	理工学部	40393067	プロジェクト実践研究Ⅱ	3
8	理工学部	41413042	高齢者・障害者の交通計画	2
9	理工学部	41413043	福祉のまちづくり	2
10	理工学部	41413044	福祉のまちづくり演習	1
11	理工学部	30934001 ～ 30934009	インターンシップⅠ（県内企業等での実施の場合）	1
12	理工学部	30934010 ～ 30934018	インターンシップⅡ（県内企業等での実施の場合）	2
13	理工学部	30934019 ～ 30934027	ボランティア参加（県内での実施の場合）	1

◆COC＋の概要



◆COC＋の連携図



秋田県立大学「あきた地域学課程」実施状況

１　「あきた地域学」について

○概要

・秋田県の地域特性と地元の人々を理解し、地域課題を考えるベースとなる知識と情報収集力を身につけた上で、地域活性化のために必要な方策を構築できる能力を養うことを目標とした地域志向科目である。

・外部講師による講義や、県内自治体と連携した地域研修も取り入れながら地域の情報を収集し、最終的に、地域振興策づくりのワークショップを行う。

・あきた地域学課程（標準コース）の必修科目として平成 29 年４月に開講し、全学１年生（1 セメスター）の必修科目（２単位）となっている。

・修了者は、「地域創生推進士（標準）」として認定される。

○修了者数等の状況

年度	履修登録者数（人）			修了者数（人） ※地域創生推進士（標準）認定者数		
	システム	生物	合計	システム	生物	合計
H29	242	164	406	238	159	397
H30	247	167	414	246	167	413
R1	266	163	429	263	160	423
合計	755	494	1,249	747	486	1,233

※「システム」…システム科学技術学部、「生物」…生物資源科学部

○外部講師の講義内容（学部ごと、実施順に記載）

平成２９年度

【システム科学技術学部】

氏　名	役　職	講義内容
松渕　秀和	(一財)秋田経済研究所 所長	秋田の経済
三浦　廣巳	秋田商工会議所 会頭	秋田の将来像
小野　一彦	由利本荘市 副市長	秋田県の集落支援：由利本荘市の取組
渡辺　歩	(株)秋田魁新報社 政経部長	秋田の社会
近藤　肇	小坂町 前観光産業課長	小坂町におけるまちづくり実践
水野　千夏	(株)せん 代表取締役社長	「秋田舞妓」起業への挑戦

【生物資源科学部】

氏　名	役　職	講義内容
三浦　廣巳	秋田商工会議所 会頭	秋田の将来像
渡辺　歩	(株)秋田魁新報社 政経部長	秋田の社会
松渕　秀和	(一財)秋田経済研究所 所長	秋田の経済
松田　知己	美郷町長	美郷町の地域状況
三浦　正隆	三種町長	三種町の地域状況
水野　千夏	(株)せん 代表取締役社長	「秋田舞妓」起業への挑戦

平成３０年度

【システム科学技術学部】

氏　名	役　職	講義内容
松渕　秀和	(一財)秋田経済研究所 所長	秋田地域の問題提起
岩瀬　浩介	㈱ブラウブリッツ秋田 社長	秋田地域活性化の取組
水畑　恭平	㈱ジェイテクト 人材開発室長	県外から見た秋田
香取　薫	青森公立大学 学長	地域の問題解決の事例

【生物資源科学部】

氏　名	役　職	講義内容
三浦　廣巳	秋田商工会議所 会頭	これからは秋田の時代
松岡　叡美	㈱せん	秋田美人の産業化
（横手市役所の担当者）		横手市の地域状況
松田　知己	美郷町長	美郷町の地域状況
（三種町役場の担当者）		三種町の地域状況
渡辺　伸也	㈱秋田魁新報社 局長代理	秋田の課題とどう向き合うか

令和元年度

【システム科学技術学部】

氏　名	役　職	講義内容
相原　学	(一財)秋田経済研究所 所長	秋田地域の問題提起
岩瀬　浩介	㈱ブラウブリッツ秋田 社長	地域活性化の取組
赤上　陽一	秋田県産業技術センター 所長	秋田地域の産業
香取　薫	青森公立大学 学長	地域の問題解決の事例

【生物資源科学部】

氏　名	役　職	講義内容
（横手市役所の担当者）		横手市の地域状況
三浦　廣巳	秋田商工会議所 会頭	秋田の将来像
松田　知己	美郷町長	美郷町の地域状況
田川　政幸	三種町長	三種町の地域状況
新堀　道生	秋田県立博物館 歴史部門 副主幹	秋田の歴史と文化
松岡　叡美	㈱せん	秋田の地域起業

○地域研修の実施内容

平成２９年度

【システム科学技術学部】

連携自治体	研修内容
由利本荘市	「鳥海高原菜の花まつり」におけるボランティア実習（飲料等の販売、菜の花摘み体験の運営、協力金の依頼、BDF トラクター運行、着ぐるみによる PR、ふわふわ遊具の運営、案内、介助、場内管理、アンケート配付回収など）
	由利本荘市主催「町内点検」
	若者会議主催「まち歩き」
	NPO 主催「ケア・カフェ」におけるボランティア実習

【生物資源科学部】

連携自治体	研修内容
美郷町	街並み散策を通じた町の情報収集や地域資源探し、ラベンダー摘み体験
三種町	町の特産品（じゅんさい、メロン）を栽培する農家における実習、農家や役場職員との意見交換

平成３０年度

【システム科学技術学部】

連携自治体	研修内容
由利本荘市	「菜の花まつり」へのボランティア参加
	「鳥海眺望みちのくツーデーマーチ」へのボランティア参加
	由利本荘地区のまちあるき
横手市	「横手市地域活躍人」との交流
	金沢地区のまちあるき、地元住民との座談会

【生物資源科学部】

連携自治体	研修内容
美郷町	六郷地区のまちあるき、ラベンダー園を活用した地域活性化策の体験
三種町	クアオルト（健康保養地）や地元食材を使った巻きずしづくりの体験
横手市	山内地区におけるわらび採り、あく抜き体験
	増田地区における観光資源「内蔵」を活用した地域活性化策の体験

令和元年度

【システム科学技術学部】

連携自治体	研修内容
由利本荘市	「菜の花まつり」へのボランティア参加
	由利本荘地区のまちあるき
	「由利高原鉄道の活性化活動」への参加
	あきた・ものづくり企業探検
	本荘フォークチャンポリー（町おこし）
横手市	「横手市地域活躍人」との交流
	金沢地区のまちあるき、地元住民との座談会

【生物資源科学部】

連携自治体	研修内容
美郷町	六郷地区のまちあるき、ラベンダー園を活用した地域活性化策の体験
三種町	クアオルト（健康保養地）体験、あるいは三種食の調理体験
横手市	山内地区におけるわらび採り、あく抜き体験・住民交流
	増田地区における観光資源「内蔵」を活用した地域活性化策の体験

○受講した学生の声

・外部講師の方々による座学講義や菜の花まつりでの実習で、今まで知らなかった秋田の一面に触れ、秋田を再認識した。自分の知識を増やし、考え方、能力を向上させることができた。

・外部講師による講義でも、町の歴史や名所、特産品などをある程度知ることができたが、現地研修を経験し、実際に訪れてみなければ分からないことがあると感じた。

・様々な魅力を持った地域が秋田県内にもたくさんあるのに、ただ自分たちが知らないだけなのではないかと思った。今回訪れた地域はもちろん、他の地域についてももっと深く知りたい。

・秋田に来てから、自分の出身地にも、地域の人たち（特に若者）が気づいていない資源、特産があることに気づいた。ゆるキャラやＳＮＳなどを活用し、一度現地に足を運んでもらえるような工夫が必要ではないか。
・地域の活性化のためには、イベントの企画なども大切だが、その地域に昔からあるものに目を向け、どんなにありふれたものであってもＰＲの材料になる可能性があるという視点が重要だと感じた。

２　「あきた地域学アドバンスト」について

○概要

・１年次の「あきた地域学」を踏まえ、対象となる地域の社会経済活動等に関する情報収集を図るとともに、対象における課題を抽出し、その解決に向けた企画立案を行うことで企画立案力と実行力を身につけることを目標とした地域志向科目である。
・講義のほか、フィールドワークによる現地探索、調査協力者等へのプレゼンテーションなどにより、企画・マネジメント・プレゼンテーション能力の向上を図るとともに、情報発信のあり方を身につける。
・あきた地域学課程（上級コース）の必修科目として平成 30 年４月に開講し、２年生以上（3･5･7 セメスター）の選択科目（２単位）となっている。
・「あきた地域学」、「あきた地域学アドバンスト」のほか、地域関連科目を１科目（２単位）修了（合計３科目・６単位を修了）することで、「地域創生推進士（上級）」として認定される。

○「あきた地域学アドバンスト」修了者数等の状況

年度	履修登録者数（人）			修了者数（人）		
	システム	生物	合計	システム	生物	合計
H30	19 【8】	15 【10】	34 【18】	19 【8】	15 【10】	34 【18】
R1	23 【11】	12 【8】	35 【19】	22 【10】	12 【8】	34 【18】
合計	42 【19】	27 【18】	69 【37】	41 【18】	27 【18】	68 【36】

※下段【　】内は、うち県内出身者の数。

○地域創生推進士（上級）認定について

・上級認定を受けるためには、「あきた地域学」及び「あきた地域学アドバンスト」のほか、次の地域関連科目から１科目（２単位）を選択し修了する必要がある。

【地域関連科目（令和元年度）】

システム科学技術学部

ベンチャービジネス論
システム科学応用（情報）
エネルギシステム工学
建築計画と風土
経営システム工学演習Ⅲ
秋田の情報産業
再生可能エネルギー入門

生物資源科学部

地域と農業の統計学
地域ビジネス起業論
地域計画学

【地域創生推進士（上級）認定状況】

年度	地域創生推進士（上級）認定者数（人）		
	システム	生物	合計
H30	17 【7】	6 【4】	23 【11】
R1	10 【6】	12 【9】	22 【15】
合計	27 【13】	18 【13】	45 【26】

※下段【　】内は、うち県内出身者の数。
※令和元年度の数値は、認定見込みの者を含む。

○フィールドワークの実施内容

平成３０年度、令和元年度

【システム科学技術学部】　※いずれか一つに参加

・「鳥海高原菜の花まつり」の運営・出展
・「あきた地域学」で実施した地域活動における改善提案とその実践
・由利本荘市の関係部局と共同で開催する見学会や住民との意見交換会の補助
・本学 COC+事業に賛同した企業の社長による「社長の講話」ならびに「社長を交えたディスカッション」

【生物資源科学部】

・現地（H30：美郷町、R1：三種町）に滞在し、役場・ＪＡ・商工会議所など公的機関や、住民グループ・小売業者・加工業者などへのヒアリング調査を実施する。（２泊３日の宿泊研修）

○受講した学生の声

・自分たちのプレゼンテーションに対して多くの意見を頂けたことで、地域のことを深く掘り下げて知ることができ、自分の考え方にもよい影響を与えてくれた有意義な経験だった。
・地域との交流を経験し、地域というものに向き合うことができるようになった。その地域に住んでいなくても、地域について考え、できる限りの行動を起こすことで、地域の活性化に寄与できるのではないかと考えるに至った。
・地域づくりのためには、地域に関する情報を積極的に収集することが最も大切だと気づいた。
・現地住民との話し合いやヒアリングを経験し、地域にはそれぞれ個性があり、地域活性化について計画する際は、地域の実情に即して考えなければならないことに気づいた。
・２泊３日の現地研修を通じ、地域を深く理解することができ、また訪れてみたいという気持ちが生まれた。今後は、他の市町村についても継続的に学修したい。

３　あきた地域学課程（エキスパートコース）について

○令和２年度以降の実施概要（予定）

・上級認定に加え、地域に関連する卒業研究（卒業研究、卒業論文、プロジェクト卒業研究のいずれか）に取り組み、審査を受けることで、「地域創生推進士（エキスパート）」として認定される予定となっている。

「あきた地域学」実習を行いました（横手市）

横手市で地域活躍人との交流実習を行いました

本学の地域志向科目「あきた地域学」における実習の一環として、６月２日（土）に、システム科学技術学部の学生１４名がバスで横手市に行き、地域食材を使ったレストラン経営者や、IT 関連の起業者、宿泊施設経営者、そしてそれらの会社の従業員などの計６名の方に人生観や職業観等に関するインタビューを行いました。午後には、学生間でその内容を持ち寄って、活躍している人の動機、喜び、生き甲斐や地域の課題について議論しました。

本科目の実習は、この他に「由利本荘まちあるき」「横手市金沢探訪」「菜の花まつりボランティア参加」「鳥海眺望ツーデーマーチのボランティア参加」「由利高原鉄道活性化の調査」等があり、学生達は希望するコースで実習を行います。

レストランの経営者、従業員へインタビュー

IT 企業の経営者、従業員へインタビュー

ホテルの経営者、従業員へインタビュー

午後のワークショップ

ワークショップ会場

あきた地域学で鳥海高原菜の花まつりの実習をしました

「あきた地域学」の実習プログラムの一つとして「鳥海高原菜の花まつり」のボランティア実習に参加しました。今年で最後となる菜の花まつりでしたが、天候にも恵まれ、秋田の魅力に気づき将来を考えるきっかけとなる充実した実習になりました。

５月 25 日(土)、26 日(日)に鳥海高原菜の花まつりで合計 122 名の学生が会場整備、協力金やアンケートの収集、飲料販売、遊具運営などのボランティア業務の実習を行いました。実習前にそれぞれが役割を理解して目標や方法を決めて準備を行い、主体的に活動を行っていきました。屋外に出て自然環境を肌で感じながらの活動で、地域の方々との交流やチームで協働しながら学ぶことに意義を感じた学生も多くいました。

実習後の振り返りでは、自然を相手にすることの難しさなど様々な気づきが共有されていました。菜の花と残雪の鳥海山の美しい光景など、地域の良さを実感する一方、公共交通機関もない場所に人が継続して訪れるような観光地を作ることの難しさなど、地域活性化の課題や方策について考えるきっかけになりました。

学生の若さと活気は鳥海高原菜の花まつりの特徴として定着し、イベント運営を支えてきました。一方で、鳥海高原菜の花まつりは学生自身の学びの場として役立てられてきました。地域の大学だからこそ可能な特長ある取り組みであり、これを通して秋田の力になる人材が一人でも増えることを期待しています。

協力金依頼

着ぐるみ

賑わいの様子

事前準備の様子

④「COC+授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

秋田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度（2018年度）	授業科目	特別講義Ⅰ（地域史）
科目基礎情報				
科目番号	0031	科目区分	一般／選択	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教科（人文科学系）	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	自製プリント			
担当教員	渡辺 英夫			

到達目標

1．東北地方という概念が日本近代の形成過程でつくられたものであることを理解する。
2．日本封建制下の産業・経済が資本主義生産への可能性を持ちつつも限界を抱えていた点を理解する。
3．封建制下の秋田の特性について理解する。
4．近代日本における秋田の産業経済が担った可能性と限界性を政治史の問題と擦めながら理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	東北地方概念が日本近代の産物であることを説明できる	東北地方概念が日本近代の産物であることがわかる	東北地方概念が日本近代の産物であることがわからない
評価項目2	封建制下における秋田の産業経済の位置付けを説明できる	封建制下における秋田の産業経済の位置付けがわかる	封建制下における秋田の産業経済の位置付けが曖昧である
評価項目3	秋田藩の強力な統制と民間資本の脆弱性について説明できる	秋田藩の強力な統制と民間資本の脆弱性がわかる	秋田藩の強力な統制と民間資本の脆弱性がわからない
評価項目4	鉱山業を中心とした秋田の産業が近代化する過程をせつめいできる	鉱山業を中心とした秋田の産業が近代化する過程がわかる	鉱山業を中心とした秋田の産業が近代化する過程が分からない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	封建制から近代資本主義社会への展開過程について秋田地域史の視点から理解する。
授業の進め方と授業内容・方法	基本的に講義形式であるが、適宜発言を求め、レポートの提出を求めることもある。
注意点	事前に日本の各時代の概略を予習し、講義の後には課題などをとおして理解度をチェックしておくこと

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	授業ガイダンス	授業の進め方と評価の仕方が分かる。
	2週	1．東北概念の形成(1) 前近代社会にける時間感覚	資本主義生産以前の日本人の時間感覚が分かる。
	3週	1．東北概念の形成(2) 前近代社会におけるる異さ	様々な規格の存在とその意味が分かる。
	4週	1．東北概念の形成(3) 道の奥から東北地方へ	東北地方概念が日本近代の産物であることが分かる。
	5週	2．封建制下の産業経済(1) 米経済と水運の時代	江戸時代の経済の基本が分かる。
	6週	2．封建制下の産業経済(2) 幕藩制市場構造と鎖国制	幕府の経済統制と貿易独占について理解する。
	7週	2．封建制下の産業経済(3) 日本海海運と秋田	全国経済の中で秋田の産業経済の位置付けが分かる。
	8週	到達度試験（前期中間）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	9週	3．近世の秋田(1) 秋田藩と田利・蠣角	到達度試験の解説と解答。 秋田県域の政治史が分かる。
	10週	3．近世の秋田(2) 情報・通信から見た秋田	江戸の情報と上方の情報にどのように接続したかが分かる。
	11週	3．近世の秋田(3) 藩営殖産事業の限界	秋田藩の強力な統制と民間資本の脆弱性が分かる。
	12週	4．近代の秋田(1) 明治政府の東北開発策	開発の対象としての東北地方の位置付けが分かる。
	13週	4．近代の秋田(2) 逆転する北の世界	北海道を支えた存在から、北海道に支えられる存在に逆転したことが分かる。
	14週	4．近代の秋田(3) 秋田の近代産業	鉱山業を中心とした秋田の産業が近代化する過程が分かる。
	15週	到達度試験（前期末）	上記項目について学習した内容の理解度を確認する。
	16週	試験の解説と解答，授業アンケート	到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ、および授業アンケート

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	10	70
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10	20

2018 年前期　COC＋授業

地域産業Ⅰ　講義概要と講師から学生への一言

（掲載順不同）

開講予定日	講義No.	講師名	講義概要	学生への一言
① 4/11	ガイダンス			
② 4/18	秋田の産業政策	秋田県産業技術センター 素形材プロセス開発部部長 遠田　幸生	秋田県には、木材資源、風力資源、水力資源などの再生可能エネルギーをつくりだすための資源が豊富に存在しています。これら再生可能エネルギーに関する秋田県の取り組みとカーボンニュートラルと言われる木質バイオマスのさまざまな利用法について紹介したいと思います。	この世の中には万能なエネルギーはなく、必ずメリットとデメリットがあります。それらを理解した上で、再生可能エネルギーをどのように利用したら良いのかということを自ら考える場にしてほしいと思います。
4/25	休講			
③ 5/02 ⑬ 7/11 (2)	特色ある技術	㈱マツザワ技術課長 境屋　博司 本校ＯＢ (1993.3 機械工学科卒)	1 日目 硬さ試験機及び硬さ試験方法 硬さ試験機の紹介や、工業界で主に用いられているビッカースやロックウェル硬さ試験方法や機械構造から、工業量としての「硬さ」が示す意味やその使われ方について紹介します。また JIS、ISO などの工業規格や計量法校正事業者登録制度(JCSS)から「硬さ」の不確かさについて説明します。 2 日目 硬さ試験の現状と新製品の開発 試験機業界の最新の現状と弊社の取り組みについて紹介します。新製品として販売開始した電動型硬さ試験機を開発したエピソードや開発過程を交え、従来にない構造の新製品を「硬さ試験機」として販売するための取り組みについて紹介します。	県内企業として工業の最終製品を製造販売している弊社の取り組みや、普段何気なく使っている「硬さ」とはどういったものなのかを学んでほしいと思います。
④ 5/09 ⑤ 5/16	特色ある技術	大森建設㈱ 取締役 技術営業部長 石井　昭浩 本校ＯＢ (1981.3 土木工学科卒)	講義１：風力発電の構想から稼動まで、および関連技術 能代市で実施されている「風の松原風力発電所」を題材に、風力発電事業の構想から稼働までの流れと関連する技術を説明する。風力発電事業は、色々な技術の集合体であるので、本校で学んでいる技術がどのように利用され地域に関わるのかを理解してもらう。また、県内での将来的な構想について概要を紹介する。 講義２：ドローンの利活用と情報通信技術 「空の産業革命」ともいわれているドローンについて、実際に飛ばして体験型の講義を行う。ドローンに搭載されている現在の技術と、将来的に期待されていることに関して説明や討議する。また、活用の場と利用することで仕事はどのように変わるのか。既に進められている事例や、国内外の動向や、県内での関連事業の取組を紹介する。	風力発電事業に限らずに技術がどのように関連付けられて、人々に貢献するのかを理解してもらいたい。また、地域に貢献し活躍できる技術者として何が自分に必要かなど目標をもってもらえる講義にしたい。 日本は、少子高齢化の時代へ突入していく、ドローンはこれの手助けをすることも可能である。現在、日本はドローンに関して国際的に大幅に遅れているが、人々への貢献を目的とした技術開発などについて、考える機会を提供する。

⑥ 5/23	秋田の産業政策	秋田県産業技術センター 上級主席研究員 素先進プロセス開発部長 沓沢　圭一	秋田県には、地域を牽引する元気なものづくり企業が数多くあるが、それぞれの企業の強みを活かし、産学官が連携しながら付加価値の高い製品開発を推進するための産業技術センターにおけるものづくり支援、具体的には３Ｄプリンター活用支援、医工連携技術開発支援、ＣＦＲＰの成形・加工技術支援等に関する取組みについて紹介します。	秋田県には、他ではまねのできない技術を有する企業や地域を牽引する元気なものづくり企業が数多くあることを理解するとともに、秋田県において今後、力を入れて推進すべき産業分野について考えてほしいと思います。
⑦ 6/06	特色ある技術	三共光学工業㈱ 取締役 技術開発部長 高橋　猛	当社は，1929 年に創業し現在は映像用・産業用光学レンズの設計，製造，販売事業を展開している企業です．一般消費者向け製品群から，産業機器向け光学製品群へと体制を拡充しており，特に「検査装置」「レーザー加工機」「医療機器」「セキュリティー機器」分野への参入を図っております． その実現のためには設計技術，加工技術，測定・評価技術を更に高め完成させて行く必要があります．講義では それぞれの基礎技術について紹介したいと思います．	映像用・産業用光学レンズの業界では，形状の大・小／波長の長・短を問わず求められる精度が年々高まっております．その要求に応える拠点がここ「秋田県」なのです．当社をご理解いただくとともに，光を操る光学製品・光学技術について理解を深めていただこうと思います．
⑧ 6/13	特色ある技術	㈱シビル設計 取締役会長 金内　剛	弊社は国土交通省が所管する河川、ダム、道路等の社会資本整備と維持管理に関する技術的な行政支援を主な業務としている。これらの社会資本は、老朽化、担い手不足、生産性向上など、現在多くの課題を抱えており、大きな転換点にある。 国民の安全、暮し、産業等を支える社会資本の役割と整備について、国土交通省や公益法人に勤務した経験と実体験を交えて概説する。	貴重な国民の税金を使って整備・管理される社会資本であるが、事故や災害時を除き、普段はあまり意識することがないと思う。その役割や整備のプロセス、そして課題、今後の方向等について考える機会としたい。
⑨ 6/20	特色ある技術	㈱五洋電子 NC ビジネス本部 電気設計部 主任技師 原田　由継 本校ＯＢ (1987.3 電気工学科卒)	1964 年 11 月に秋田県南秋田郡天王町の農園跡地に創立した㈱五洋電子は、メカニカルフィルタ、ポケットベル、携帯電話等の量産製品の生産を担う一方、輸出用業務用無線端末機器等のOEM ビジネスを加え、50 年以上に渡り秋田の地で社業発展に努めてきました。本講義では、㈱五洋電子の沿革・概要について基本的知識を習得して頂くと共に、特に半導体・液晶露光装置事業にフォーカスし、現状と課題等について理解を深めて頂きます。	文化豊かな秋田の地に根をおろしている企業として今後も発展を続けていくためには、高度な技術を支える人材が不可欠であり、皆さんの様な前途洋々の若い方々には、是非関心を持って頂きたいと思っています。 地方産業の深耕・伸長を共に考え、行動していきましょう。
⑩ 6/27 ⑪ 7/4 ⑫ 7/11	特色ある技術	公益財団法人 あきた企業活性化センター 知財支援総合窓口担当 石川　直人	秋田県は工業出荷額に占めるエレクトロニクス関連産業の比率が高い。近年は減少傾向にあるものの、電気機械器具製造業が雇用を含めて地域経済に大きな影響を与えてきた。 **第一講**では、それを支えてきた委託加工の形態の変遷と小集団活動によるコスト削減。 **第二講**では労働集約型から装置型への移行と国際競争について事例を交え解説。 **第三講**は再生可能エネルギー関連産業における秋田県のポテンシャルと関連技術についても紹介する。	農業県といわれる秋田県に、なぜ東北随一といわれるほどのエレクトロニクス産業が集積したのか、その背景を理解してもらうことと、秋田県が培ってきたポテンシャル（人材、資源、環境）に自分自身の可能性を見いだして、将来の進路選択に役立てて欲しい。
⑭ 7/18	秋田の産業政策	秋田県産業技術センター 技術イノベーション部 専門員 山川　清志	薄膜を微細な形状に加工して作製した電子・光学素子は IoT 用センサを始めとして様々な装置に搭載され、高度情報化社会を支えています。 秋田県の産業振興を目的として産業技術センターが取り組んできた薄膜形成技術や微細加工技術について述べると共に、このような分野の技術を用いて県内企業が製造する優れた製品の事例を紹介します。	秋田県に集積している電子産業や光学産業で用いられる基盤技術の一つである薄膜形成技術や微細加工技術について学び、秋田の地域企業のものづくりに対する理解を深めてもらいたい。
⑮ 8/01	まとめ			

2018 年後期　COC＋授業

地域産業Ⅱ　講義概要

講義日：毎週水曜日 1-2 時限（8:50-10:20）

開講予定日	講義名	講　師　名	講 義 概 要
① 10/3	ガ イ ダ ン ス		
② 10/10	特色ある技術	アキモク鉄工株式会社 代表取締役 花下　智之	テーマ:新規事業の取組み 明治時代の秋田杉製品開発産業をルーツとし、昭和 55 年にそれまでの製材機械技術を活かした産業機械及び鋼構造物の製造工場を併設して発足しました。 近年の様々な経済環境の変化を受けて、今後の企業継続のヒントを地域産業のイノベーションの歴史に学び、引き継がれているはずのチャレンジ精神に気付かされ、そこからインスパイアされた新規事業展開の経緯について紹介します
③ 10/17 ⑤ 10/31 ⑧ 12/12	特色ある技術	DOWA エコシステムズ株式会社 環境ソリューション室 室長 川上　智	1884 年に秋田県小坂鉱山で創業しました。鉱山・製錬で培った技術や経験をもとに、現在では金属の生産から高付加価値製品の製造、廃棄物処理・リサイクルに至る、独自の循環型事業を展開しています。本講ではDOWA が秋田県内で展開している環境関連事業、資源関連事業、電子材料関連事業について、それぞれの事業の内容と私たちの生活とのつながり、具体的な技術内容、社員のやりがいについて紹介します。
④ 10/24	特色ある技術	TDK株式会社 秋田総務部企画課 課長 青木　和夫	
⑥ 11/21	特色ある技術	東光鉄工株式会社 専務取締役 菅原　訪順	東光グループ（4 社）の事業と今後の展開 講義については概ね以下の内容に沿って、お話したいと考えております。 また、講義の中では、できるだけ写真や動画を使い、聴講者の理解を深める内容にしたいと考えております。 ①弊社グループの沿革 、②経営理念・社訓・行動指針 ③各社事業の特長（製品・技術・技能）について、 ④今後の事業展開について ⑤当社の人材データ、⑥当社の福利厚生、 ⑦当社が求める人材とは？
⑦ 12/5	特色ある技術	東光鉄工株式会社 UAV事業部 シニアマネージャー 鳥潟　奥明	テーマ:ドローン開発の現状と将来展望 ドローン(正式にはマルチローター機)は、近年急速に技術革新を経て「空の産業革命」とも言われるほどに成長を遂げている。その殆どが、無人航空機として人間が行けない危険箇所や災害現場等での情報収集や救助支援などに活用されている。一方で農林水産分野においても従来の無人ヘリコプターの補間機能として山間地域での航空防除に活用されだした。このように拡大を続ける反面、悪用や不慮の事故等により社会に甚大な被害を与えるなどの懸念もうまれており、機体の信頼性の向上や様々な規制強化も拡充しつつある。 本講義においては、20 台以上の産業用ドローンの製造・販売実績を通してのドローンの開発状況と将来展望について講義する。また、小型ドローンを用いてのプログラム制御と飛行形態の変化等の実演も交える予定である。
⑨ 12/19 ⑩ 1/9	特色ある技術	インスペック株式会社 代表取締役社長 菅原　雅史 本校OB (1974.3 土木工学科卒)	1回目 ①今という時代（チャンス・チャンス・チャンス） ②インスペックの会社紹介 ③インスペックの事業の紹介 ④インスペックの技術について ⑤インスペックの主力製品 （インテルと当社の検査装置の関係、スマートフォンと当社の検査装置の関係、液晶テレビと当社の検査装置の関係） 2回目 ①今という時代・おさらい ②成長戦略・ポスト検査装置　AIへの取り組み （AIへの取り組み、病理診断支援システム） ③頭の柔軟体操 ④私の学生時代 ⑤皆さんへのメッセージ
⑪ 1/16	特色ある技術	東電化工業株式会社 品質技術部技術課 課長 和合谷　繁満	当社は主に電子部品や回路基板にめっきを行う会社です。一般的に思われている「めっき」とは異なる部分があるため、、会社紹介含め当社の特色や取り組んでいる「機能めっき」について以下の題目で紹介していきたいと思います。 ①東電化工業の会社紹介 ②「めっき」について ③新しい取り組みについて ④当社で活躍している高専卒業生について
⑫ 1/23 ⑬ 1/30 ⑭ 2/6	特色ある技術	株式会社秋田今野商店 製造部長 佐藤　勉	株式会社秋田今野商店は、種麹・酵母・乳酸菌の製造販売を行う大仙市にある会社。 講義概要 ・発酵食品に携わる微生物一般と発酵食品について ・秋田県内における微生物関連の研究開発状況について ・微生物製造における現状と課題について ・今後の微生物ビジネスの展望について 等について講義予定
⑮ 2/20	ま　と　め		

2018 年後期　COC＋授業

地域計画　講義概要

講義日：毎週水曜日 1-2 時限（8:50-10:20）

開講予定日	講義名	講　師　名	講 義 概 要
① 10/3	ガ イ ダ ン ス		
② 10/10 ③ 10/17 ④ 10/24	農業・農工連携・社会政策	秋田県立大学 地域連携・研究推進センター 教授 谷口　吉光	第 1 回 「地域」をイメージする 生活の場としての地域とは何か。具体的な生活場面（引っ越し、買い物、遊び、移動、ごみ、選挙、防災、町内会など）で、個人と地域がどう接しているかを知り、受講生に地域のイメージを持ってもらう。 第 2 回　自分が「地域」に何ができるかを考える ワークショップ「自分資源の棚卸し」と「地域の宝物探し」を通じて、自分が地域に何ができるかを考える。 第 3 回 「地域」としての秋田を見直す 働いて生活する場所として、秋田はどう見えるのか。東京との比較を通じて、地域としての秋田のメリットとデメリットを明らかにする。 【学生へのメッセージ】 「地域」とは「人々が継続的に生活している地理的なまとまり」のことです。地域のなかで人は住み、働き、学び、遊び、助け合い、友だちを作り、家族を持ち、子どもを生み育て、年寄りの世話をし、最後には死んでいきます。 工学系の学生にとって、「地域」はつかみにくいものかもしれませんが、これから就職し、社会人として生きていくために、一度は「地域」について学び考えることは大切なことです。この授業では、講義とグループディスカッションを交えた対話型授業によって、みんなで一緒に学び考えていきます。
⑤ 10/31 ⑦ 11/21	新エネルギー関連	秋田大学国際資源学部 国際資源学科 資源開発環境コース 教授 藤井　光	現在の日本では新エネルギーとして太陽光，風力，バイオマス，地熱などが利用されている。講義ではこれらについて概説するとともに，本県で利用が進んでいる地熱・地中熱に関してその原理・利用状況さらに最新技術を紹介する。
⑥ 11/14	産業政策と地域イノベーションの推進	秋田県産業労働部 デジタルイノベーション戦略室 室長 羽川彦禄	秋田県の「成長産業推進戦略」についてお話します。 グローバルな環境変化や本県の経済・産業の現状、地域課題を振り返りながら、地域産業振興や諸課題の解決に向けた、行政施策の方向性と具体的に取り組む重点事業等について紹介いたします。 【学生へのメッセージ】 秋田県にも、地域貢献と自己実現を両立できる場所とチャンスが多々あります。故郷の活性化と新たな秋田創りに一緒に取り組みましょう。
⑧ 12/5 ⑨ 12/12	産学官連携全般	秋田県産業技術センター 上級主席研究員 高橋　慎吾	秋田県は、カメラ用レンズ・プリズムの生産量が全国一位です。産業技術センターが企業と共同で開発や支援を行っている反射防止膜などの薄膜関連、液晶レンズや反射型対物鏡などの光学部品等を中心とした秋田県の産学官連携による部品開発、技術開発の流れについて紹介します。
⑩ 12/19 ⑪ 1/9 ⑫ 1/16	資源関連	秋田大学国際資源学部 国際資源学科 資源地球科学コース 教授 渡辺　寧	「秋田の鉱物資源：過去，現在，未来」 秋田県には銀，銅，亜鉛などの金属を生産する鉱山が多々存在し，日本でも有数の鉱山県であった．これらの鉱山は閉山したが，リサイクル等により以前にも増して多くの種類の金属が秋田県で生産されている．本講義では，1)金属資源はどうしてできるのか，2)秋田の金属資源，3)秋田の鉱業の将来，について講義を行う．
⑬ 1/23 ⑭ 1/30	観光振興	秋田県 観光文化スポーツ部 観光戦略課 政策監 橋本秀樹	秋田県の観光振興について 「観光」と聞いてどのようなことを想像するでしょうか。「観光」が地域の生活や振興にどのように役立つのでしょうか。秋田県が進めている「人やものの交流拡大」というテーマについて一緒に考えてみましょう。
⑮ 1/24	ま　と　め		

④「COC+授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

COC+講演会

	対象者	開催日	場所	題目	講演者
第18回COC+講演会	本科3年生	H30.5.14	秋田高専大講義室	「『期待作り』～期待をつくり，未来をカタチにしていく～	YURIホールディングス株式会社　代表取締役　須田哲夫氏
平成30年度最先端技術講演会・第19回COC+講演会	本科5年生 専攻科	H30.6.6	秋田高専大講義室	「技（わざ）」と「術（すべ）」を考える～知識を知恵に変えるとは～	三菱重工業株式会社バリューチェーン本部　バリューチェーン技術部 技術支援センター技監・ME　大坂弘美氏
第20回COC+講演会	本科4年生	H30.8.3	秋田高専大講義室	「インターンシップにおけるリスクマネジメントとは」	日本大学　工学部情報工学科　教授　上田　清志　氏
第21回COC+講演会	本科2年生	H30.11.9	秋田高専大講義室	「未来の技術者のための心構え」	株式会社　アクトラス　代表取締役　眞田　慎　氏
第22回COC+講演会	専攻科生	H30.11.22	秋田高専A会議室	「私が秋田で起業した理由」	株式会社アスター　代表取締役　本郷　武延　氏
平成30年度知的財産権セミナー・第23回COC+講演会	本科5年生	H30.12.5	秋田高専大講義室	「企業で研究開発したら特許をとりましょう！」	佐々・藤盛特許事務所　代表弁理士　佐々健太郎　氏
講師体調不良により延期 →R1.6.21に開催予定	本科3年生	H31.1.23	秋田高専大講義室	①アルフレッサファインケミカル(株)におけるインターンシップの取り組み ②アルフレッサファインケミカル(株)の秋田高専卒業生によるインターンシップ体験談	①アルフレッサファインケミカル(株)　取締役 秋田工場長 佐藤謙治　氏 ②秋田高専卒業生（H29年3月物質工学科卒業）　竹谷 佳菜衣　氏
平成31年度技術講演会・第24回COC+講演会	本科5年生 専攻科	R1.5.29	秋田高専大講義室	中小建設業社が取り組むICT（情報通信技術）最先端と若者へのメッセージ	株式会社小原建設　代表取締役専務　小原　学　氏
第25回COC+講演会	本科4年生	R1.6.21	秋田高専大講義室	①アルフレッサファインケミカル(株)におけるインターンシップの取り組み ②アルフレッサファインケミカル(株)の秋田高専卒業生によるインターンシップ体験談 ③インターンシップの活用とリスクマネジメント	①アルフレッサファインケミカル(株)　取締役 秋田工場長 佐藤謙治　氏 ②秋田高専卒業生（H29年3月物質工学科卒業）　竹谷 佳菜衣　氏 ③(株)マイスターエンジニアリング　総務人事部　副部長 中園　睦寛　氏
第79回秋田工業高等専門学校産学協力会 第10回秋田高専COC+研修会 第26回秋田高専COC+講演会	専攻科生 1年生ー必 2年生ー希望者	R1.11.26	カレッジプラザ	①（株）三井光機製作所の会社紹介 ②高速・高精度精密位置決め制御技術の応用展開 ③ー1スイッチトリラクタンスジェネレータを用いたマイクロ水力発電に関する研究 ③ー2酸化亜鉛微粒子の粒成長挙動と光学特性について	①（株）三井光機製作所 ②秋田高専　機械系　准教授　櫻田陽氏 ③ー1秋田高専　生産システム工学専攻1年　安杖　海人 ③ー2秋田高専　環境システム工学専攻2年　五十嵐千夏
第27回COC+講演会	本科4年生	R1.12.4	秋田高専大講義室	特許入門	佐々・藤盛特許事務所　代表弁理士　佐々健太郎　氏
第28回COC+講演会	本科3年生	R2.1.15	秋田高専大講義室	秋田県の今・未来	秋田県あきた未来創造部　次長　真壁　善男　氏

平成３０年度COC＋講演会一覧

講演会名	日時	場所	演題	講師	対象
第１８回	５月１４日（月） 14:45～16:00	秋田高専 大講義室	『期待づくり』 ―期待をつくり、未来をカタチにしていく―	YURIホールディングス株式会社 代表取締役　須田　哲生氏	３年生 その他学生 教職員
第１９回 （最先端技術講演会）	６月６日（水） 14:30～16:00	秋田高専 大講義室	『「技（わざ）」と「術（すべ）」を考える』 ―知識を知恵に変えるとは―	三菱重工業株式会社 ﾊﾞﾘｭｰﾁｪｰﾝ本部 ﾊﾞﾘｭｰﾁｪｰﾝ技術部技術支援ｾﾝﾀｰ 技監・ＭＥ　大坂　弘美氏	５年生 専攻科１,２年生 その他学生 教職員
第２０回	８月３日（金） 14:40～16:10	秋田高専 大講義室	『インターンシップにおけるリスクマネジメントとは』	日本大学工学部情報工学科 教授　上田　清氏	4年生 その他学生 教職員
第２１回	１１月９日（金） 14:45～16:00	秋田高専 大講義室	『未来の技術者のための心構え』	株式会社アクトラス 代表取締役　眞田　慎氏	２年生 その他学生 教職員
第２２回	１１月２２日（金） 14:45～16:00	秋田高専 大講義室	『私が秋田で起業した理由』	（株）アスター 代表取締役　本郷　武延氏	専攻科１,２年生 その他学生 教職員
第２３回 （知的財産権セミナー）	１２月５日（水） 14:45～16:00	秋田高専 大講義室	『企業で研究開発をしたら特許をとりましょう！』	佐々・藤盛特許事務所 代表弁理士　佐々　健太郎氏	５年生 その他学生 教職員

第１８回秋田高専 COC+講演会
実施要項

1．目　　的　県内企業経営者や技術者，秋田県庁などの産業振興や雇用促進を担当する行政官等の講演を通じて，本校学生が地域を理解し，地域の課題の発見・解決しようとする気付きを与え，地域に定着する若者人口を増大させることを目的とする。

2．日　　時　平成３０年５月１４日（月）１４時４５分～１６時００分

3．会　　場　本校　大講義室

4．講　　師　ＹＵＲＩホールディングス株式会社
代表取締役　須　田　哲　生（スダ　テツオ）　氏

5．演　　題　『期待づくり』～期待をつくり，未来をカタチにしていく～

6．対　　象　本校本科３年生（全学生），その他希望学生，教職員等

第２０回秋田高専 COC+講演会
実施要項

1．目　　的　県内企業経営者や技術者，秋田県庁などの産業振興や雇用促進を担当する行政官等の講演を通じて，本校学生が地域を理解し，地域の課題の発見・解決しようとする気付きを与え，地域に定着する若者人口を増大させることを目的とする。

2．日　　時　平成３０年８月３日（金）１４時４０分～１６時１０分

3．会　　場　本校　大講義室

4．講　　師　日本大学　工学部情報工学科
教授　上田清志（ウエダ　キヨシ）氏

5．演　　題　「インターンシップにおけるリスクマネジメントとは」

6．対　　象　本校　本科４年生（全学科）、その他学生、教職員等

④「COC+授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

第２１回秋田高専 COC+講演会
実施要項

1．目　　的　　県内企業経営者や技術者，秋田県庁などの産業振興や雇用促進を担当する行政官等の講演を通じて，本校学生が地域を理解し，地域の課題の発見・解決しようとする気付きを与え，地域に定着する若者人口を増大させることを目的とする。

2．日　　時　　平成３０年１１月９日（金）１４時４５分～１６時００分

3．会　　場　　本校　大講義室

4．講　　師　　株式会社アクトラス
代表取締役　眞田　慎（サナダ　シン）氏

5．演　　題　　「未来の技術者のための心構え」

6．対　　象　　本校　本科２年生（全学科）、その他学生、教職員等

7．日　　程
１４：４５～１４：５０　挨拶・講師紹介
１４：５０～１５：５０　講演
１５：５０～１６：００　質疑・応答
１６：００　閉会

第２２回秋田高専 COC+講演会
実施要項

1．目　　的　　県内企業経営者や技術者，秋田県庁などの産業振興や雇用促進を担当する行政官等の講演を通じて，本校学生が地域を理解し，地域の課題の発見・解決しようとする気付きを与え，地域に定着する若者人口を増大させることを目的とする。

2．日　　時　　平成３０年１１月２２日（木）１４時４５分～１６時００分

3．会　　場　　本校　A会議室

4．講　　師　　株式会社アスター
代表取締役　本郷　武延（ホンゴウ　タケノブ）氏

5．演　　題　　「私が秋田で起業した理由」

6．対　　象　　本校　専攻科１，２年生（全学科）、その他学生、教職員等

7．日　　程
１４：４５～１４：５０　挨拶・講師紹介
１４：５０～１５：５０　講演
１５：５０～１６：００　質疑・応答
１６：００　閉会

分野２資料【平成 30 年度・令和元年度】

第2の柱
3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

⑤「秋田就職サポート会議」及び「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催（事業協働機関全体）

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の実施（秋田大学）

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

平成 30 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
第１回秋田就職サポート会議を開催しました。

８月８日（水），秋田商工会議所ホール 80 において，平成 30 年度第１回秋田就職サポート会議を開催しました。

この会議では COC+事業における学生の地元定着の促進に向けた県内就職率向上の取組の一環として，COC+事業に関係する大学，秋田県をはじめとした事業協働機関および関係団体の就職担当者が一堂に会して，雇用・就職に関する情報の共有化や今後の対策強化についての意見交換を行いました。

はじめに，平成 29 年度卒業予定者の県内就職状況及び平成 30 年度卒業予定者の動向について，各大学から説明があり，平成 29 年度はほとんどの大学で前年を下回ったことが報告されました。また，平成 30 年度は前年並みに推移しているとの報告があるなか，まだ内定率や内定届の提出率が低い大学もありました。

これを受けて、事業協働機関や関係団体から，次のような意見が出されました。

○地域連携ゼミ等で，企業と大学・学生の相互理解をより深めていく必要がある。

○建前的なインターンシップではなく、しっかり採用に結びつくよう企業側も工夫が必要だ。

○インターンシップの受入学生数を増やして，学生との接点を増やしたい。

○福利厚生の充実も県内就職促進に有効である。

次に、今後の取組として，秋田大学からは「大学と県内企業による情報交換会」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」が開催予定であることが報告されました。また、県立大学と秋田高専からはジョブシャドウイングやインターンシップの取組強化等についての説明がありました。そのほか、国際教養大学の新たな取組として，学生主体のワーキンググループやアルバイト説明会、公立美術大学からはＯＢ・ＯＧの訪問強化等について，紹介がありました。

最後に，秋田県から県内定着に向けた取組として「あきた回帰キャンペーン」の展開や県内就職者奨学金返還助成制度，学生と保護者に向けた就職情報誌の作成・配布，就活情報サイトの展開，今後開催予定のセミナー・説明会等について説明がありました。

特に奨学金返還助成制度は平成 29 年度からスタートした取組であり，こうした制度を含めた新たな取組について，大学としては出来るだけ早い機会に学生に対して周知していくことが確認されました。

今後も学生とフェイストウフェイスで地道に接触を重ねつつ，事業協働機関の連携を密に，県内就職率アップに向けてオール秋田一体となって取組を進めていきます。

平成 30 年度　秋田大学 COC＋事業
第２回秋田就職サポート会議を開催しました

１月 31 日（木）、秋田商工会議所ホール 80 において、平成 30 年度第２回秋田就職サポート会議を開催しました。

昨年８月に開催した第１回会議に引き続き、COC+事業関係６大学と秋田県をはじめとした事業協働機関及び関係団体の就職担当者が一堂に会し、大学生の県内就職率向上のための取組について、情報共有や今後の取組に対する協議を行いました。

はじめに、平成 30 年度の事業実績及び平成 30 年度卒業予定者の就職動向について、各大学から説明があり、前年度に比べて理工系の学生について増加していることが報告されました。

続いて、平成 31 年度卒業予定者に対する今後の対応等について、各大学や事業協働機関から次のとおり説明と報告があり、展開予定のイベント・事業の情報共有や現状の課題についての協議を行いました。

秋田大学からは、平成 31 年度新規開講地域志向科目、平成 31 年度卒業予定者から回答を得た進路アンケートの結果等及び「秋田おらほ学認証」制度について説明がありました。

続いて、秋田県立大学からは、ガイダンスの開催やマッチングの具体策等について説明のほか、「竿灯会」の学生は県内就職率が非常に高いという報告がありました。

秋田高専からは、企業説明会の早期開催や COC+科目の対応について、秋田公立美術大学からは教職員により企業訪問・新規開拓や企業を招聘したイベントの開催等について、日赤秋田看護大学からは個別の働きかけなどについて、説明がありました。

また、事業協働機関からも以下の通り報告や意見がありました。

○「秋田回帰キャンペーン」を実施し、それに併せて奨学金返還助成制度、交流会、企業説明会等を展開している。（秋田県）

○Ａターンマッチングシステムを作り直し、県内学生も企業情報・求人情報を見られるようにしている。企業説明会等で学生の様子をみていると積極性に欠けるので、大学からも後押しをしてもらいたい。（ふるさと定住機構）

○インターンシップの回数を増やし、学生目線の内容で実施している。（北都銀行）

○インターンシップの会場を増やし、夏・冬と実施している。「おらほ学認証」は認証書がもらえるだけでなく、何か特典があるとよいのではないか。（秋田銀行）

○会員企業は人材不足の状況である。企業が採らないと言うより、学生の応募が少ない。秋田の住みよさの PR を進めたい。（商工会議所）

○規模が大きい企業に学生が流れていってしまう。説明会を開催するなど、認知度を高めて学生確保に努めたい。（商工会連合会）

○会員の行ったアンケートでは県内就職率は若干上昇しているが、依然として人材不足の状況である。企業側もアプローチを工夫したい。（中小企業団体中央会）

COC+事業は来年度に５年目となる最終年度を迎えますが、今後も県内就職率アップの目標に向けて、事業関係機関が一丸となって、さらに取組を進めていきます。

秋田の活躍する企業を知りたい！

秋田県内の企業を知らないなぁ…

秋田のものづくりどんな製品作っているの？

将来どんな分野で活躍できるのだろう？

参加無料

第3回 秋田ものづくりオープンカレッジ

in 秋田県立大学
2018年10月17日（水）

in 秋田大学
2018年10月23日（火）

第1部 あきたの元気なものづくり企業展 | 10:00-15:00

会場 秋田県立大学 本荘キャンパス
メディア交流棟ラーニングコモンズ特設会場

会場 秋田大学 手形キャンパス
大学会館特設会場

秋田のオンリーワン技術を持った企業が集結し、学生向け企業展を開催します。

- 自動車や航空機産業、医療福祉機器関連、情報関連の企業 **38社** が出展予定。
- 大学のOB・OG社員も学生の皆さんに対し、自社技術を丁寧に説明いたします。

第2部 世界にはばたくものづくり講演会

医工連携の最先端で活躍する企業のリーダーによる講演会を秋田県立大学10/17(水)、秋田大学10/23(火)の2会場で開催します。

秋田県立大学 会場 AVホール 16:10-17:40
秋田大学 会場 60周年記念ホール 16:00-17:30

①『医療業界の将来展望について』（60分）

株式会社セントラルユニ(東京都)
(県立大学) プロジェクト推進部PJ推進チーム 岡崎 友史郎 氏
(秋田大学) 経営管理部 部長 濱川 徹也 氏

手術室や集中治療室等の治療環境づくりのリーディングカンパニーとして、病院設備の設計や施工管理、関連する機器やシステムの開発等、幅広い事業展開を行っている。

②『遺伝子検査が拓く未来（体外診断システムのオートメーション化）』（30分）

エヌピーエス株式会社（大館市）
代表取締役社長 池田 秀雄 氏

遺伝子検査用、バイオ研究用の試薬及び機器の開発・設計・製造を行っている。主にＤＮＡ抽出装置の組立やそれに係わるプラスチック消耗品及び試薬などの製造を行っている。

秋田県立大学お問い合わせは、地域連携・研究推進ｾﾝﾀｰへ

秋田大学お問い合わせは、学生支援・就職課へ

主催 秋田県・秋田大学・秋田県立大学
共催 あきた企業活性化センター

地(知)の拠点

Ver.20180910

第1部 あきたの元気なものづくり企業展 出展予定企業一覧

No	企業名	所在地	No	企業名	所在地	No	企業名	所在地
1	(有)アイハラ	横手市	14	大橋鉄工秋田(株)	横手市	27	タルイシ機工(株)	秋田市
2	秋田温美工業(株)	横手市	15	(株)小滝電機製作所	大館市	28	(株)トラパンツ	秋田市
3	秋田エプソン(株)	湯沢市	16	(株)カミテ	小坂町	29	ナガイ白衣工業(株)	大仙市
4	秋田化学工業(株)	にかほ市	17	北日本コンピューターサービス(株)	秋田市	30	(株)日情秋田システムズ	秋田市
5	秋田上日工業(株)	大仙市	18	(株)協和工業	にかほ市	31	ニプロ(株)大館工場	大館市
6	(株)秋田新電元	由利本荘市	19	協和精工(株)	羽後町	32	日立オートモティブシステムズ(株)秋田事業所	横手市
7	秋田住友ベーク(株)	秋田市	20	小林工業(株)	由利本荘市	33	(株)日立超LSIシステムズ秋田事業所	秋田市
8	(株)アスター	横手市	21	(株)三栄機械	由利本荘市	34	丸大機工(株)	にかほ市
9	アネスト岩田(株)秋田工場	大仙市	22	三共光学工業(株)	美郷町	35	ミツミ電機(株)秋田事業所	潟上市
10	(株)五十鈴製作所秋田工場	秋田市	23	(株)ジェイテクトIT開発センター秋田	秋田市	36	山本精機(株)潟上事業所	潟上市
11	インスペック(株)	仙北市	24	(株)シグマソリューションズ	秋田市	37	ユーティーケー工業(株)	秋田市
12	エイデイケイ富士システム(株)	秋田市	25	千秋技研(株)秋田事業所	秋田市	38	リコーITソリューションズ(株)秋田事業所	秋田市
13	エヌピーエス(株)	大館市	26	(株)タニタ秋田	大仙市		（五十音順）	

会場のご案内

in 秋田県立大学 本荘キャンパス 2018年10月17日(水) 由利本荘市土谷字海老ノ口84-1
（第1部企業展） メディア交流棟ラーニングコモンズ特設会場
（第2部講演会） 共通施設棟 ＡＶホール

in 秋田大学 手形キャンパス 2018年10月23日(火) 秋田市手形学園町1番1号
（第1部企業展） 大学会館特設会場
（第2部講演会） ６０周年記念ホール

本イベントに関するお問い合わせ先
秋田県 産業労働部
地域産業振興課 技術振興班（西村、熊谷）
ＴＥＬ018-860-2246
ＦＡＸ018-860-3887

秋田大学で「第 3 回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学」を開催

秋田大学は、10 月 23 日に「第 3 回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学」を開催しました。本イベントは、県内にはどのような企業があり、将来どのような分野の仕事に携わるかなどを学生に考えてもらうための場となるようCOC+事業の一環として、秋田大学と秋田県が主催し、公益財団法人あきた企業活性化センターが共催しました。

第 1 部の「あきたの元気なものづくり企業展」では、本学手形キャンパス内の大学会館特設会場に、県内の自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の 4 分野に携わる 38 社がブースを出展し、企業紹介や自社で開発・製造した製品の紹介などを行いました。来場者は約 260 名を数え、ものづくりに興味や関心のある多くの学生のほか、一般市民の来場もあり、学生らは実際の製品に触れながら企業担当者の説明を熱心に聞き入っていました。

また、第 2 部の「世界にはばたくものづくり講演会」には、学生や県内の企業者ら約 100 人が出席して講演が行われました。はじめに、株式会社セントラルユニ・経営管理部部長の濱川徹也氏が「医療業界の将来展望について」と題し、現在の医療業界の現状を学生たちへの質問を交えながら説明し、今後の展望を紹介しました。つぎに、エヌピーエス株式会社・代表取締役社長の池田秀雄氏が「遺伝子検査が拓く未来（体外診断システムのオートメーション化）」と題し、自社で製造している全自動遺伝子診断システムについて動画を用いて紹介しました。参加者は医工連携の最先端で活躍する企業のリーダーの講演に熱心に耳を傾けていました。

来場者でにぎわう各企業のブース

講演する株式会社セントラルユニの濱川徹也経営管理部部長

講演するエヌピーエス株式会社の池田秀雄代表取締役社長

平成 30 年 10 月 24 日（水）
秋田魁新聞　3 面

県内企業に興味持って
学生らへ製品、技術紹介
秋田大

県内企業が地元の高校生や大学生、教職員らに自社の取り組みを紹介する「秋田ものづくりオープンカレッジ」が23日、秋田市の秋田大手形キャンパスで開かれた。自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の4分野に携わる38社が参加し、事業内容や製品の特徴をアピールした。

企業側はブースを設置し、自動車部品や医療機器の実物や、会社の概要を記したパネルなどを展示し、学生らに製品技術などを紹介した。

医療機器製造のニプロ（本社大阪市）は大館工場（大館市）で製造する人工腎臓（ダイアライザー）や補助人工心臓などを展示。大館工場品質管理一課の伊藤清彦課長は「この仕事は生物、化学、機械やシステム設計などさまざまな分野の知識を持つ人たちが関わっている。いろいろな学科の学生に関心を持ってもらいたい」と話した。

三栄機械（由利本荘市）の担当者は航空機や自動車、風力発電関連など幅広く事業展開している点をアピール。「4、5年前から毎年、Aターン者を採用している。若い人たちに秋田にはさまざまな取り組みをする会社があることを知ってもらえればうれしい」と語った。

秋田大理工学部4年の湯本真広さん(22)は「企業の技術力や研究について知ることができた。働くことへの意識や勉強の意欲が高まった」と感想を口にした。

オープンカレッジは県、秋田大、県立大の主催。学生らに地元就職を考えてもらうきっかけにしようと、2016年度から開催している。17日には県立大本荘キャンパスでも開かれた。（木村織音）

企業が大学生らに製品技術などを紹介した秋田ものづくりオープンカレッジ

令和元年度　秋田大学 COC+事業
第１回秋田就職サポート会議を開催しました。

８月６日（火）、秋田商工会議所ホール 80 において、令和元年度第１回秋田就職サポート会議を開催しました。

はじめに、本学の志立正知理事が「COC+事業は今年度が最終年度であり、秋田県にとっても学生の県内就職は大事なテーマである。COC+関係大学として、今後も県内就職を高めていくために皆様から知恵を拝借したい。」と挨拶し、開会しました。

続いて、平成 30 年度卒業者の県内就職状況及び令和元年度卒業予定者の就職動向について、各大学から説明があり、県内就職率は全体として上昇傾向ながら、最終目標に対しては依然厳しい状況であることや、今年度の内定率は例年並みに推移していることが報告されました。

また、事業協働機関や関係団体から、次のような報告や質問が出されました。

○新卒採用しても離職が多く、人材不足対策として定年延長をする企業もある。

○応募者減少の影響もあり、新卒採用者数は以前より減っている。

○理系の学生は県外に出て行く傾向にあり、採用に難儀している。

○何故学生は県外へ出て行くのか。企業として何が出来るのか。

次に、各大学の取組紹介として、秋田大学からは「大学と県内企業による情報交換会」や「秋田おらほ学認証制度」等の説明がありました。

また、県立大学からはジョブシャドウイング、秋田高専からはインターンシップの強化等について説明があったほか、国際教養大学からはインターンシップ活動費助成について、公立美術大学から県内企業説明会＆インターンシップ交渉会について、紹介がありました。

最後に、秋田県から県内定着に向けた取組として、就活情報サイトの展開、学生と保護者に向けた就職情報誌の作成・配布、女子活交流会、奨学金返還助成制度等について説明がありました。

今年度は COC+事業最終年度となりますが、事業終了後も引き続き県内就職率向上を共通課題として、事業協働機関一体となって取組を更に強化することを確認しました。

秋田で活躍する企業を知りたい！

秋田県内の企業を知らないなぁ…

秋田のものづくりどんな製品作っているの？

将来どんな分野で活躍できるのだろう？

参加無料

第4回 秋田ものづくりオープンカレッジ

in 秋田県立大学
2019年10月18日（金）

in 秋田大学
2019年11月6日（水）

第1部 あきたの元気なものづくり企業展
10:00～16:00
申込不要

本荘キャンパス（由利本荘市土谷海老ノ口84－4）
ラーニングコモンズ特設会場

手形キャンパス（秋田市手形学園町1－1）
大学会館1階特設会場

◎秋田のオンリーワン技術で活躍している企業が集結し、学生向け企業展を開催します
秋田の自動車や航空機産業、医療福祉機器関連、情報関連等の企業約38社が出展！
先輩社員が学生の皆さんに自社技術をやさしく説明いたします。

◎ミニ技術セミナー同時開催！
出展企業による業界トレンドや開発事例を企業6社から学生へ紹介します（先着順）

第2部 世界にはばたくものづくり講演会
16:10～17:20
10/18(金)秋田県立大学　AVホール
11/6(水)秋田大学 60周年記念ホール

医工連携の最先端で活躍する企業リーダーによる講演会を
10/18 秋田県立大学、11/6 秋田大学の2会場で開催します！

演題『Innovation!』

CELLSPECT
セルスペクト株式会社（盛岡市）
代表取締役兼CEO
岩渕拓也 氏

医療分析装置や診断薬開発を行うベンチャー企業。2018年秋田に研究開発拠点「秋田パソロジーリサーチセンター」を開設。医工連携で疾患治療に役立つ研究開発を秋田の地で進めている。

秋田県立大学 お問い合わせは、
地域連携・研究推進センターへ

秋田大学 お問い合わせは、
学生支援・就職課へ

主催：秋田県／秋田大学／秋田県立大学　共催:あきた企業活性化センター

地(知)の拠点

お問い合わせ　秋田県 産業労働部 地域産業振興課　TEL018-860-2246

Ver.20190903

第1部 あきたの元気なものづくり企業展 出展企業一覧

No	企業名	所在地	No	企業名	所在地	No	企業名	所在地
1	(有)アイハラ	横手市	14	(株)小滝電機製作所	大館市	27	タルイシ機工(株)	秋田市
2	秋田渥美工業(株)	横手市	15	(株)カミテ	小坂町	28	ナガイ白衣工業(株)	大仙市
3	秋田エプソン(株)	湯沢市	16	(株)共進	にかほ市	29	(株)日情秋田システムズ	秋田市
4	秋田化学工業(株)	にかほ市	17	(株)協和工業	にかほ市	30	日発精密工業(株) 横手工場	横手市
5	秋田上日工業(株)	大仙市	18	協和精工(株)	羽後町	31	ニプロ(株) 大館工場	大館市
6	(株)秋田新電元	由利本荘市	19	小林工業(株)	由利本荘市	32	日立オートモティブシステムズ(株) 秋田事業所	横手市
7	秋田住友ベーク(株)	秋田市	20	(株)三栄機械	由利本荘市	33	(株)日立ソリューションズ・テクノロジー 秋田事業所	秋田市
8	秋田電装(株)	羽後町	21	三共光学工業(株)	由利本荘市	34	(株)フィデア情報システムズ	秋田市
9	(株)アスター	横手市	22	(株)ジェイテクトIT開発センター秋田	秋田市	35	丸大機工(株)	にかほ市
10	インスペック(株)	仙北市	23	(株)シグマソリューションズ	秋田市	36	ミネベアミツミ(株) 秋田事業所	潟上市
11	エイデイケイ富士システム(株)	秋田市	24	JUKI産機テクノロジー(株)	横手市	37	ユーティーケー工業(株)	秋田市
12	エドモンド・オプティクス・ジャパン(株) 秋田工場	湯沢市	25	セルスペクト(株) 秋田パソロジーリサーチセンター	秋田市	38	リコーITソリューションズ(株) 秋田事業所	秋田市
13	エヌピーエス(株)	大館市	26	(株)タニタ秋田	大仙市			

（五十音順）

第1部 あきたの元気なものづくり企業展 ミニ技術セミナー スケジュール

in 秋田県立大学 本荘キャンパス ラーニングコモンズ内
2019年10月18日（金）

1	12:10～12:30	(株)フィデア情報システムズ Creative ICT ～新たな価値を創造し続けるFisys～
2	12:35～12:55	日立オートモティブシステムズ(株) クルマ社会をけん引する技術力と未来を切り開く創造力で世界に貢献！
3	13:00～13:20	三共光学工業(株) 世界に冠たるレンズを秋田で創ろう！

in 秋田大学 手形キャンパス 学生会館1階特設会場内
2019年11月6日（水）

1	12:10～12:30	秋田住友ベーク(株) 日本で初めてプラスチックを製造したメーカーです！
2	12:35～12:55	(株)日立ソリューションズ・テクノロジー 今はまだ存在しない新たなテクノロジーを生み出すイノベーター集団
3	13:00～13:20	タルイシ機工(株) 販売力と製造力の大きな両輪で製造業をリードします！

●当日時間前に受付にお越しいただき、お申し込みください　●聴講は約10名限定、先着順となります
●質疑を含め1社20分のミニセミナーとなります
※参加者は後日、職場／工場見学会等の案内が受けられます（希望者のみ）

開催に関するお問い合わせ先
秋田県 産業労働部 地域産業振興課 技術振興班（熊谷、齋藤）
TEL018-860-2246
FAX018-860-3887

Ver.20190903

令和元年度　秋田大学 COC+事業
第４回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学を開催しました。

秋田大学は、11 月 6 日（水）に「第 4 回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学」を開催しました。

本イベントは、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の一環として、学生に県内にはどのような企業があり、将来どのような分野の仕事に携わるかなどを考えてもらうための場として、秋田大学と秋田県が主催し、公益財団法人あきた企業活性化センターが共催しました。

第 1 部の「あきたの元気なものづくり企業展」では、同大手形キャンパス内の大学会館特設会場に、県内の自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の 4 分野に携わる 38 社がブースを出展し、企業紹介や自社で開発・製造した製品の紹介などを行いました。

また、ミニ技術セミナーも同時開催し、業界トレンドや開発事例を出展企業 6 社が紹介しました。

当日はものづくりに興味関心のある多くの学生のほか、秋田工業高校と男鹿工業高校の生徒も参加し、約 370 名の来場者があり、各ブースは大変賑わいました。

また、第 2 部の「世界にはばたくものづくり講演会」では、医療分析装置や診断薬開発を行うベンチャー企業である、セルスペクト株式会社の代表取締役兼 CEO・岩渕拓也氏が「Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ！」と題して、高齢化による社会問題について、自社の取組の紹介を交えながら講演を行いました。出席した学生や高校生、企業関係者ら約 60 名が熱心に耳を傾け、講演終了後も活発な質疑が交わされ、有意義なものとなりました。

来場者でにぎわう各企業のブース

ミニ技術セミナーの様子

講演するセルスペクト株式会社の岩渕拓也代表取締役兼 CEO

令和元年 10 月 23 日（水）
秋田魁新聞　18 面

県内企業の技術知って

県立大本荘キャンパス

38社、学生らに業務紹介

県内企業が大学生や高校生に自社を紹介する「秋田ものづくりオープンカレッジ」が18日、由利本荘市の県立大本荘キャンパスで開かれた。県立大の学生と、由利工業高、大曲工業高の生徒が訪れた。出展した企業は製造業、システム開発業、加工業などの38社。学生らは各社のブースを回り、担当者から業務内容の説明を受けた。

金型と粉末成形プレス機の製造を手掛ける小林工業（由利本荘市）は、設計から製造まで担い、海外輸出も行っていると紹介。「ドイツに代理店を置いている。秋田の片田舎の会社だが、世界をお客さんにしている」と話した。

金属加工のカミテン（小坂町）は、米粒に載せた高さ250分の1、直径380分の1のナットの写真を見せ、医療機器に使う繊細な部品を製作していると説明。「主に内視鏡やカテーテルなどの機器に使われている」と紹介した。

由利工高機械科2年の伊藤柚葵さんは「独自の技術を持っている企業もあり驚いた。進路を考える上で参考になった」と話した。

オープンカレッジは県、県立大、秋田大の主催。地元就職を考えるきっかけにしてもらおうと、2016年から開いている。来月6日、秋田大手形キャンパスでも行う。（佐藤優祐）

企業の担当者の説明に耳を傾ける高校生

インターンシップセミナー

【開催日】平成３０年５月２３日（水）
１６：２０～１９：２０
【会　場】大学会館１階　新食堂ホール
【内　容】夏期インターンシップが始まる前に，優れた技術を有する秋田県内企業１２社から，「インターンシップ内容，仕事でのやりがい，就活を迎える学生へのメッセージ等」について直接話を伺う
【申　込】５／１８（金）まで就職推進担当へ申込

★当日の流れ★
第１部　各企業からのプレゼン
１６：２０～１６：５０
第２部　各企業ブースでの個別説明
※説明２０分＋質疑５分
１６：５５～１７：２０　第１ターム
１７：２５～１７：５０　第２ターム
１７：５５～１８：２０　第３ターム
１８：２５～１８：５０　第４ターム
１８：５５～１９：２０　第５ターム

参加するメリットは？

こんな方々にお勧め！

- 県内で就職したい！
- 県外（地元・首都圏）で就職したい！
- まだ全然考えてない！

インターンシップセミナーに参加すると・・

- 県内の企業情報が得られる！インターンシップ情報をゲットできる！
- 企業の方とお話しすることに慣れる！どんなところに意識して話を聞けば良いのか分かる！（→これからのインターンシップに役立てられる！）
- 将来の事を考えるチャンス！やりたい事ってなんだろう？？

■問い合わせ先・申込先■　学生支援・就職課　就職推進担当（TEL：018-889-2262）

文部科学省 地(知)の拠点

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ **参加者募集！**

ジョブシャドウイング

募集期間 7/9（月）～20（金）

実施企業

8/7	エイデイケイ富士システム㈱
8/9	秋田エプソン㈱
8/28	日本製紙㈱秋田工場
8/28	ニプロファーマ㈱大館工場
9/12	㈱ウェンティ・ジャパン
9/13	秋田渥美工業㈱
9/14	日立オートモティブシステムズ㈱
9/19	㈱池田
9/20	秋田指月㈱

（詳細は裏面へ）

参加費用 無料（手形キャンパスから送迎）

予定時間 集合 8:00～9:00の指定時刻
解散 17:00前後
（手形キャンパス発着）

受付方法 先着順
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません

地（知）の拠点推進本部　川村
TEL 018-889-3246
場所：地方創生センター1号館
2階207室

実習内容
- ○経営者からの講話
- ○職場観察
- ○企業の方との意見交換
- ○ランチミーティング
- ○観察のまとめ記入

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。申込前に生命共済・学生賠償責任保険の加入状況を確認してください。
※ 本プログラムは理工学部１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/26、7/27**のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　秋田大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングで　皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索からでも分かりますが、働き方は実際に見聞きしてみなければ分かりません。**お客さん側からと働く側からでは、見える企業イメージは全く違う**ことが、参加してみれば分かるはずです。 ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

エイデイケイ富士システム㈱ [秋田市]
8月7日（火）・ 定員2名
富士通（株）・富士電機（株）と協業関係にある企業。プラントシステムの監視・制御技術やネットワーク・Ｗｅｂ開発技術に強みを持つ。地域企業の強みを活かし、全国の土地改良区や自治体向けシテムを開発するなど、自社開発商材も多数保有。自社開発商材の開発現場を観察する。従業員131名。

秋田エプソン㈱ [湯沢市]
8月9日（木）・ 定員2名
セイコーエプソングループの国内製造拠点として、インクジェットプリントヘッドの製造、ウエアラブル機器の製造・組立と、セイコーエプソンの中核事業を担い、お客様価値の創出に取り組んでいる。また、それらモノづくりを支える精密金型・治工具製作、更には生産技術部門における、省人化・自動化ライン(装置)の設計、製作も行う。製造ラインや従業員や先輩社員が働く様子を観察する。従業員982名。

日本製紙㈱秋田工場 [秋田市]
8月28日（火）・ 定員2名
日本トップクラスの製紙会社。紙製品や木を原料としたケミカル製品などを製造する総合バイオマス企業。秋田工場では、主に段ボール原紙と洋紙を生産。エネルギー事業として、バイオマス混焼発電・風力発電など再生可能エネルギーの利用にも取り組んでいる。工場見学後、若手社員からの業務内容説明・座談会を中心に行う。グループ連結13,507名、秋田工場201名、東証一部上場。

ニプロファーマ㈱大館工場 [大館市]
8月28日（火）・ 定員2名
ニプログループの医薬品製造会社。ニプロブランドのジェネリック医薬品の製造及び医薬品の受託製造を行う。国内外90社以上からの受託製造実績は国内No.1の実績を築いている。大館工場はニプロファーマ最大の生産拠点として、主に注射剤のキット製剤全般を製造。最先端設備を備えた医薬品の製造工程や厳格な品質管理体制などを観察する。従業員865名。

㈱ウェンティ・ジャパン [秋田市]
9月12日（水）・ 定員2名
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事(株)などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田県立大学に隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設の建設に着手、2020年運転開始予定。風車の運転状況、発電施設の現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察する。2012年９月設立、従業員７名。

秋田渥美工業㈱ [横手市]
9月13日（木）・ 定員2名
高次元の切削加工を得意とする渥美グループ（本社：静岡県浜松市）の一員として、「難物に挑戦」を掲げ、常に新分野にチャレンジしている。現在は直噴エンジン向けの部品を手掛け始め、月産25万個生産しているが、更に受注拡大に取り組んでいる。その製造ラインの見学やTPS（トヨタ生産方式）改善活動状況を観察する。従業員154名（すべて秋田県出身）。

日立オートモティブシステムズ㈱ 秋田事業所 [横手市]
9月14日（金）・ 定員2名
「走る・曲がる・止まる」といった自動車の核となる最先端の技術を開発し続ける自動車機器・システムメーカー。秋田事業所(横手市)の主要製品の電動式パワーステアリングは、自動運転システムに不可欠な製品で、業界トップクラスの技術と品質を誇る。製造ラインのほか、実験・品質確認の様子なども観察する。従業員750名。

㈱池田 [由利本荘市]
9月19日（水）・ 定員2名
由利本荘市を拠点に、池田グループとして、農業資材・農薬販売、無人ヘリコプターによる防除など農業関連の他、調剤薬局、介護施設の運営などの事業を展開している。関連会社には、(株)池田薬局、池田ライフサポート＆システム(株)、秋田スカイテックや農業法人の(株)重兵衛など。農薬・肥料部門、資材部門、無人ヘリ、防除・環境・緑化部門のほか、直売所や農業法人の運営について観察する。創業明治38年、従業員350名（関連会社含む）。

秋田指月㈱ [羽後町]
9月20日（木）・ 定員2名
国内コンデンサメーカーの草分け、株式会社指月電機製作所（兵庫県）の秋田県における生産並びに研究・開発拠点。EV・HEVなどの自動車用コンデンサや自然エネルギーなどの電力変換用コンデンサ、環境との調和を目指す省エネ用コンデンサなどを生産。設計担当の技術部や欧州向け自動車用コンデンサの製造ラインを観察する。従業員355名。

平成 30 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
ジョブシャドウイングを実施しました。

８月７日（火）および８月９日（木）、本学ＣＯＣ＋事業での初めての試みとして、秋田県立大学と連携し、ジョブシャドウイングを実施しました。

ジョブシャドウイングとは、学生が事業所で働く人に「影」のように寄り添い、その仕事内容や職場での様子を観察するインターンシップの一形態であり、秋田県立大学では平成 28 年３月から実施しています。

７日は秋田市のＡＤＫ富士システム(株)で、９日は湯沢市の秋田エプソン(株)で実施し、両日とも学生８名（うち本学学生１名）が参加しました。

両社においては、いずれも、①社長からの講話、②社員からの業務内容紹介、③若手社員とのランチミーティング、④職場見学、⑤社員との意見交換、⑥まとめのレポート作成　といったプログラムを実施しました。

参加者は、皆、真剣な眼差しで説明を聞きながら、しっかりとメモを取り、時折、鋭い質問を投げかけていました。

参加した学生からは「働いている社員の方々が、強い責任感をもって仕事に臨んでいることが分かり、大いに刺激を受けた。」、「上司と部下の方の実際のミーティングを見させてもらった。自分も適切な報告が出来るよう、大学での教員とのやり取りにおいて意識付けしていきたい。」、「他の企業のジョブシャドウイングにも参加してみたい。」といった肯定的な意見が寄せられました。

なお、今後の本学学生参加によるジョブシャドウイング実施は次のとおりです。

８月 28 日(火) 日本製紙㈱秋田工場　　（秋田市）参加者６名（うち本学２名）
９月 12 日(水) ㈱ウエンティ・ジャパン　　（秋田市）参加者９名（うち本学２名）
９月 14 日(金) 日立オートモティブシステムズ㈱秋田事業所（横手市）参加者５名（うち本学２名）

【８月７日（火）ＡＤＫ富士システム(株)】
業務内容の説明を受ける様子

【８月９日（木）秋田エプソン(株)】
職場見学の様子

平成 30 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
夏期ジョブシャドウイングを終了しました。

本学ＣＯＣ＋事業において、初めての試みとして実施した、秋田県立大学との連携による夏期ジョブシャドウイングの全日程を終了しました。

【実施日程・参加者数】
８月 ７日（火）ADK 富士システム㈱ （掲載済み）(秋田市)参加者８名（うち本学１名）
８月 ９日（木）秋田エプソン㈱　（掲載済み）(湯沢市)参加者８名（うち本学１名）
８月 28 日（火）日本製紙㈱ 秋田工場（秋田市)参加者５名（うち本学１名）
９月 12 日（水）㈱ウエンティ・ジャパン（秋田市）参加者９名（うち本学２名）
９月 14 日（金）日立オートモティブシステムズ㈱秋田事業所(横手市)参加者４名(うち本学１名)

全ての日程において、以下のプログラムで実施しました。

① 代表者からの講話　　④ 職場見学
② 社員からの業務内容紹介　　⑤ 社員との意見交換
③ 若手社員とのランチミーティング　　⑥ まとめのレポート作成

参加した学生からは「業界の現状について話しを聞くことが出来て、とても有意義であった。」、「代表者の話を聞いて、自分が世の中をどう変えたいか、どう良くしていきたいかを考えるようになった。」といった意見があり、今後の職業選択において、ヒントを伝えることができました。

なお、このジョブシャドウイングについては、引き続き、秋田県立大学と連携し事業を実施していきます。

【８月 28 日(火) 日本製紙(株)秋田工場】
業務内容の説明を受ける様子

【９月 12 日(水) (株)ウエンティ・ジャパン】
風車見学の様子

【９月 14 日(金) 日立オートモティブシステムズ(株)秋田事業所】
職場見学の様子

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の開催（秋田大学）

平成30年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
春季ジョブシャドウイングを実施しました。

本学ＣＯＣ＋事業において、秋田県立大学との連携により、夏季休業に引き続き、春季ジョブシャドウイングを実施しました。

【実施日程・実施企業・参加者数】
2月21日（水）リコーＩＴソリューションズ（株）秋田事業所（秋田市）参加者６名（うち本学１名）
当日は以下のプログラムを実施しました。
①社員からの業務内容紹介　②フロア見学　③代表者からの講話　④若手社員とのランチミーティング
⑤職場観察（アイデアソン）　⑥社員との意見交換　⑦まとめのレポート作成

プログラムのメインである職場観察においては、当社で日常的に行っているアイデアソンを学生が体験しました。

今回は「理想の職場とは？」「その職場に求められる人材は？」といったテーマについて、限られた時間の中で、当社社員と参加学生が、可能な限り多くのアイデアを次々と書き出し、全員から絞り出された全てのアイデアをカテゴリーで分類し、重要なことが何であるかを浮き彫りにする作業を行いました。

今回のジョブシャドウイングに参加した学生からは、全体を通じて、「情報システムを扱う業務であるにも関わらず、教育文化学部出身の人が入ることには驚きました。」「今後、印刷機器やＳＥに関心を持つようになると思います。」「インターンシップとは違った和やかな雰囲気でお話しを聞くことができました。」といった意見が多く、今後の職業選択において、ヒントを伝えることができたとともに、ジョブシャドウイングの良さを感じてもらうことができました。

このジョブシャドウイングは、平成31年度も、引き続き、秋田県立大学と連携し事業を実施していきます。

職場観察（アイデアソン）の様子

若手社員とのランチミーティングの様子

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ　参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間　1/7（月）～18（金）

実施企業
2/15　（株）五洋電子
2/20　（株）タニタ秋田
2/21　リコーITソリューションズ（株）秋田事業所
2/28　エイブリック（株）秋田事業所
3/7　ＤＯＷＡセミコンダクター秋田（株）
（詳細は裏面へ）

予定時間　集合　8:00～9:00の指定時刻
解散　17:00前後
（手形キャンパス発着）

参加費用　無料（手形キャンパスから送迎）

受付方法　先着順
下記窓口へ持参またはメールでの申込みとなります。
＊電話による申込は出来ません

地（知）の拠点推進本部　川村
TEL　：018-889-3246
場所：地方創生センター1号館2階207室
Mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。申込前に生命共済・学生賠償責任保険の加入状況を確認してください。
※ 本プログラムは国際資源学部、教育文化学部、理工学部の１、２、３年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（2/7、2/8のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　秋田大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングで　皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索からでも分かりますが、働き方は実際に見聞きしてみなければ分かりません。お客さん側からと働く側からでは、見える企業イメージは全く違うことが、参加してみれば分かるはずです。 ジョブシャドウイングでは、どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。「やりたいこと」「いまするべきこと」を少しずつ明確にすること、そしてそれを今後に生かすことが大切です。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの先輩が活躍している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

(株)五洋電子　[潟上市]
2月15日（金）・ 定員２名
日立国際電気グループの一員として、秋田県と宮城県に製造拠点を持つ電子機器設計・製造会社。海外向け業務用無線通信機器、半導体・FPD用制御ユニット、放送・映像機器等の製品を開発・製造している。生産技術力に実績があり、LCA(ローコストオートメーション)やIoTを駆使した高効率な生産システムを構築し、部品自動挿入ロボット等の生産自動化設備を自社開発している。生産・検査ラインに投入している産業用ロボットを設計する職場などを観察する。従業員415名。

(株)タニタ秋田　[湯沢市]
2月20日（水）・ 定員２名
「タニタ食堂」等で知られるタニタグループ国内唯一の生産工場。脂肪計や体組成計をはじめ各種計量器、医療機器等の設計・開発から部品加工、製品組立、アフターサービスまでを一貫して行っている。製造工程や各部門を観察するほか、CADを使用した計量器の模擬設計体験などを行う。若者の雇用管理が優良な「ユースエール」認定企業。従業員183名。

リコーITソリューションズ(株)秋田事業所　[秋田市]
2月21日（木）・ 定員２名
リコーグループの一員で、信頼と魅力のある先進のITをもとに、お客様のワークスタイル・イノベーションの実現を目指す。秋田・北見・札幌・横浜・新横浜・金沢・鳥取・鹿児島に事業所があり、海外を含めた拠点とICT機器で接続し、組込みソフトウエアなど最先端な開発を行っている。従業員70名。

エイブリック(株)秋田事業所　[大仙市]
2月28日（木）・ 定員２名
世界初となるCMOS IC搭載のクオーツウオッチを実用化したアナログ半導体専業メーカー。低消費電流・低電圧動作・超小型パッケージ技術に強みを持ち、リチウムイオン電池用ICや車載用メモリなど、世界トップレベルのシェアを持つ製品群も数多い。製造工程・機械設計工程を観察する。従業員グループ連結950名。秋田事業所190名。

ＤＯＷＡセミコンダクター秋田(株)　[秋田市]
3月7日（木）・ 定員2名
私たちの生活に欠かすことのできない身近な家電製品（スマートフォン、ロボット掃除機等）や最先端医療機器の血液センサなどに搭載される化合物半導体材料（高純度ガリウム、ガリウム砒素基板、LEDチップ等）を国内外の電機メーカーなどに提供している。製造ラインや新商品開発の業務、QC活動取り組みの様子を観察するほか、クリーンルーム内での実習も行う。従業員300名。

地(知)の拠点

「大学と県内企業による情報交換会」開催概要

■実施内容■

県内企業様の採用活動や学生の就職活動状況について情報交換を行い，今後の秋田県を担う人材を定着させるための課題や将来展望について考える。

大学と企業様のみ参加のスタイルだからこそ出来る「本音」での情報交換会を開催します。

※秋田大学，秋田県立大学，秋田高専の３校が参加します！

■開催日及び会場■

以下のいずれかの日程で企業様の参加しやすい日程をお選びください。

※会場は変更になる場合がございます

９月５日（水）・・・県北会場

【北秋田市民ふれあいプラザ　コムコム２階研修室Ｃ・Ｄ】

＜所在地＞018-3312　北秋田市花園町１０－５

９月６日（木）・・・中央会場

秋田大学手形キャンパス　総合研究棟２階講義室】

＜所在地＞　010-8502　秋田市手形学園町１－１

９月７日（金）・・・県南会場

【横手市交流センターわいわいプラザ３階研修室１】

＜所在地＞ 010-8502　横手市駅前町１－２１

■当日のスケジュール■　※第２部からの参加も可能です。

イントロダクション：開催にあたっての挨拶，情報交換会の主旨説明

・１３：００～１３：０５（５分）

第１部：採用活動を進めるためには（現在の就活スケジュールの確認，学生の就職状況）

・１３：０５～１３：４５（４０分）

第２部：企業の魅力を伝えるためには（具体的方法の検討）

・１３：５５～１４：３５（４０分）

秋田大学，県立大学，秋田高専から COC+事業（県内就職支援）の紹介

・１４：４５～１５：０５

第３部：個別相談会

・１５：０５～（最大１６時まで）※個別相談会のため終了時間は企業様毎に異なります。

■お申込方法■

「秋田大学学生支援・就職課就職推進担当」までメールにてお申込ください。

メールには次の内容を御記載ください。

記載内容　＜件名＞　【企業名】大学と県内企業による情報交換会　申込

＜本文＞　①企業名　②第１部参加の有無　③参加希望日程　④参加者名

⑤採用活動に関する疑問等

お申込締切：８月９日（木）１７時まで

メールアドレス：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

■ご注意頂きたい事項■

この情報交換会は，大学の就職支援を行う職員と県内企業様との情報交換会です。

学生が参加する情報交換会ではありませんので御注意ください。

■お問い合わせ・申込先■

秋田大学　学生支援・就職課　就職推進担当

Tel：018-889-2262

E-mail：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

以　上

地(知)の拠点

大学と県内企業による 情報交換会

※秋田大学，秋田県立大学，秋田高専が参加します。

企業様の採用活動や学生の就活状況について，
大学と企業様で「本音」で語る情報交換にしましょう

■開催日時・会場　※いずれかの中で参加しやすい日程をお選び下さい
9月5日（水）北秋田市民ふれあいプラザ コムコム2階　研修室C・D
9月6日（木）秋田大学内　手形キャンパス　総合研究棟2階講義室
9月7日（金）横手市交流センター　わいわいプラザ3階　研修室1
※会場が変更になる場合もございます。

■実施内容　13：00～最大16：00まで
第1部　（40分）「採用活動を進めるためには（現在の就活スケジュールの確認，学生の就活状況）」
第2部　（40分）「企業の魅力を伝えるためには」 ※第2部からの参加も可能です。
第3部　個別相談会（最大16時まで）

■お申込方法　申込期限：8月9日（木）17時まで
以下の内容を記載しメールにてお申込ください
＜件名＞【企業名】大学と県内企業による情報交換会　申込
＜本文＞ ①企業名 ②第1部の参加の有無 ③参加希望日程
④参加者名 ⑤採用活動に関する疑問等

大卒を採用予定の企業様はぜひ御参加ください！

≪お問い合わせ先・申込先≫
秋田大学学生支援・就職課　就職推進担当
TEL：018-889-2262
E-mail：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

大学と県内企業による情報交換会

9月5日【県北会場】

	企業名
1	エヌピーエス(株)
2	秋田土建(株)
3	秋木製鋼(株)
4	(株)伊藤羽州建設
5	戸田鉄工(株)
6	(株)タクト
7	住鉱テック(株)能代工場
8	アキモク鉄工(株)
9	(株)タカヤ
10	株式会社小滝電機製作所

9月6日【中央会場】

	企業名		
1	秋田プリマ食品(株)	29	(株)NTT東日本－東北
2	(株)五洋電子	30	生活協同組合コープあきた
3	(株)菅与組	31	秋田基準寝具(株)
4	アイ・エム・サービス(株)	32	庄内鉄工(株)
5	リコーITソリューションズ(株)	33	(株)ウヌマ地域総研
6	インスペック(株)	34	大橋鉄工(株)
7	ユナイテッド計画(株)	35	(株)住建トレーディング
8	秋田東和電材(株)	36	むつみ造園土木(株)
9	(株)秋田新電元	37	(株)エスツー
10	マックスバリュ東北(株)	38	(株)ナイス
11	(株)ソユー	39	リコージャパン(株)
12	羽後設備(株)	40	ADK富士システム(株)
13	(株)プライムアシスタンス	41	秋印(株)
14	秋田日産自動車(株)	42	ユナテッドリニューアブルエナジー(株)
15	(株)むつみワールド	43	(株)東北フジクラ
16	(株)イヤタカ	44	(株)秋田県分析化学センター
17	(株)アイネックス	45	猿田興業(株)
18	(株)コア	46	秋田活版印刷(株)
19	(株)三栄機械	47	東部液化石油(株)秋田支店
20	菱明三菱電機機器販売(株)	48	東部ガス(株)
21	ALSOK秋田(株)	49	羽後信用金庫
22	(株)トクミツ建築企画	50	秋田トヨタ自動車(株)
23	秋田信用金庫	51	(株)アキタシステムマネジメント
24	(株)日情秋田システムズ	52	(株)アチカ
25	パワーテックテクノロジー秋田(株)	53	秋田東北商事(株)
26	(株)フィデア情報システムズ	54	株式会社マルエーうちや（店名：ジェイマルエー）
27	(株)東北芝浦電子	55	オリジナル設計株式会社東日本支店
28	長田建設(株)		

9月7日【県南会場】

	企業名
1	JUKI産機テクノロジー(株)
2	(株)ヤマダフーズ
3	横手建設(株)
4	瞳特殊金属工業(株)
5	(株)アキタ・アダマンド
6	エイブリック(株)
7	(株)タカヤナギ
8	(株)タニタ秋田
9	大橋鉄工秋田(株)
10	中村進学塾
11	(株)秋田スズキ
12	伊藤建設工業(株)
13	(株)自然科学調査事務所
14	出羽青岩アグロ(株)

「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました。

９月５日（水）から９月７日（金）にかけて、大学の就職推進担当と県内企業の採用担当が一堂に会し、学生と県内企業とのマッチング推進を目的に、「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました。

今回の情報交換会には、ＣＯＣ＋事業で学生の県内就職率向上に取り組んでいる秋田大学・秋田県立大学・秋田高専の３校が参加しました。

また、各会場の参加企業数はつぎのとおりです。

９月５日（水）県北会場　北秋田市民ふれあいプラザコムコム　10 社参加
９月６日（木）中央会場　秋田大学手形キャンパス総合研究棟　55 社参加
９月７日（金）県南会場　横手市交流センターわいわいプラザ　14 社参加

【実施内容】
第１部　セミナー「採用活動を進めるためには」
・現在の就活スケジュールの確認、学生の就職状況の説明・・・秋田大学
第２部　セミナー「企業の魅力を伝えるためには」
・採用活動の具体的方法について説明・・・秋田大学、秋田ダイハツ販売(株)、(有)熊谷機械設計
・ＣＯＣ＋事業について説明・・・秋田大学
・教育および県内就職支援について説明・・・秋田大学、秋田県立大学、秋田高専
第３部　相談会

第１部、第２部のセミナーにおいて、大学から、学生の就職に関する意識、学生の就活状況、採用スケジュール等について具体的に説明し、講師役の企業２社からは、学生への情報発信の仕方や学生との接点の持ち方等について説明がありました。

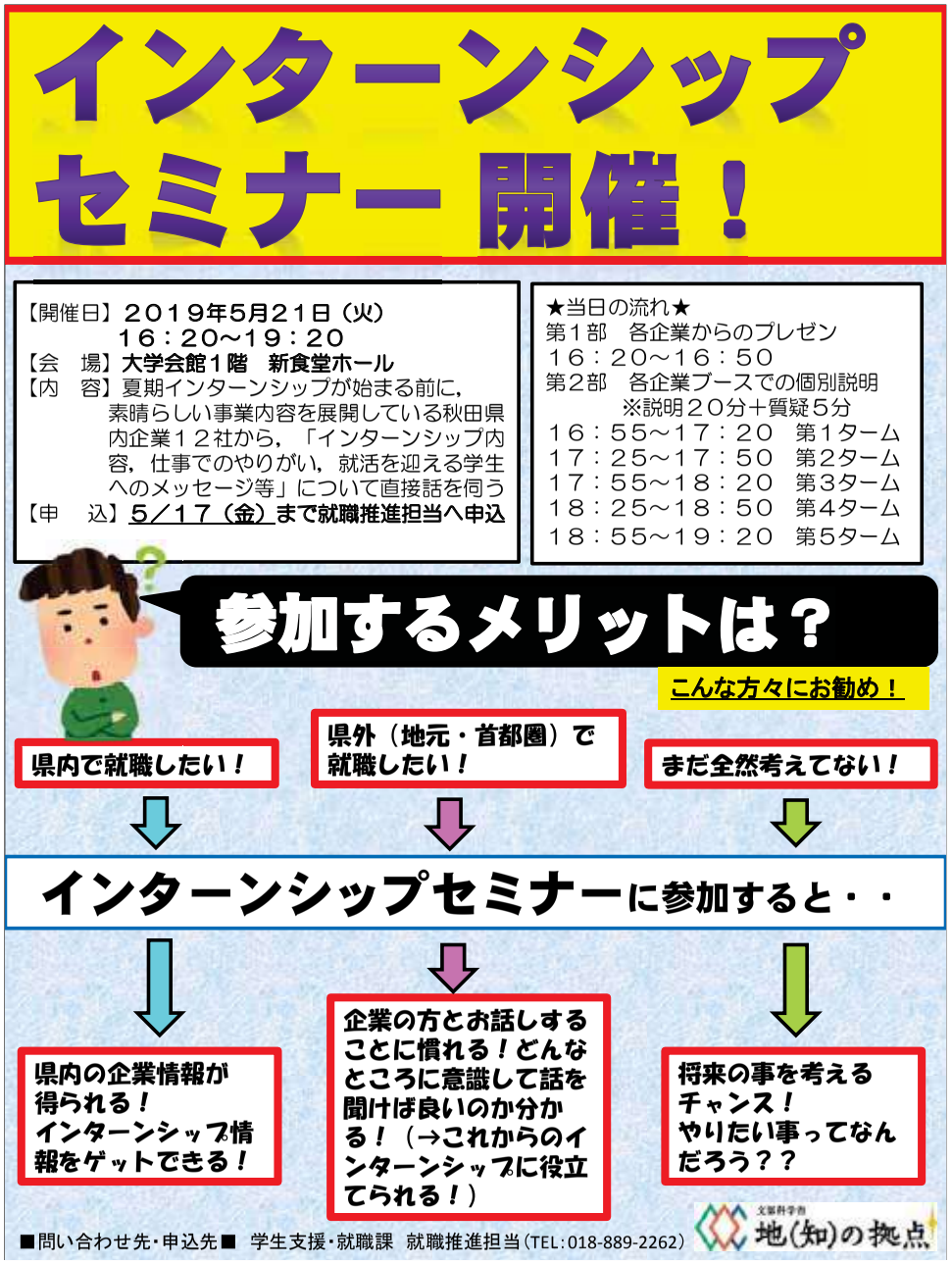
第３部の相談会では、３校のブースに分かれて、現在の採用状況や疑問・相談等について、参加者と各大学の就職推進担当とで情報交換を行い、参加者からは、「有益な情報が得られた。」、「学生採用について背中を押されたように感じた。」などの前向きな意見がありました。

昨今の県外企業の旺盛な採用攻勢もあり、学生の県内就職率は伸び悩んでおりますが、今後も、学生の地元定着の促進に向け、様々な取組を進めて参ります。

県北会場

中央会場

県南会場



⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の開催（秋田大学）

令和元年度　秋田大学 COC+事業
夏期ジョブシャドウイングを実施しました。

本学COC+事業において、昨年度に引き続き、秋田県立大学との連携による夏期ジョブシャドウイングを実施しました。

【実施日程・実施企業・参加者数】
９月９日(月)　(株)ウエンティ・ジャパン（秋田市）　参加者７名　（うち本学３名）

【当日のジョブシャドウイングプログラム】
①社員からの業務内容説明　②職場見学（屋内）　③代表者からの講話
④社員とのランチミーティング　⑤職場見学（屋外）　⑥まとめのレポート作成

参加した学生からは、「再生可能エネルギーで環境負担の低減と地域活性化を目指すという、自分が仕事をする上で軸に捉えていることについて、同じ考えを持つ方の話をきくことができ、本当に貴重な体験となった。また大学での研究に対するモチベーションも上げることができた。」、「秋田のこと、エネルギー問題、地域の経済などについて、考えるための良いきっかけになった。」、「興味があるエネルギー分野の業界の方とダイレクトに接して話をすることができ、実践的に現代のエネルギー問題について考えることができた。」といった前向きな意見が出され、参加者に対して、今後の自分の学修及び職業について考える契機を与えることができました。

このジョブシャドウイングについては、今後も引き続き、秋田県立大学と連携し事業を実施していきます。

職場見学(屋外)の様子

代表者講話の様子

業務内容の説明を受ける様子

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ **参加者募集！**

ジョブシャドウイング

募集期間　**7/8**（月）～**12**（金）

参加費用　**無料**（手形キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
8/9　秋田エプソン㈱
8/22　伊藤建設工業㈱
8/28　㈱フィデア情報システムズ
8/29　JUKI産機テクノロジー㈱
9/9　㈱ウエンティ・ジャパン
9/10　秋田渥美工業㈱
9/12　日立オートモティブシステムズ㈱秋田工場
9/20　㈱ヤマダフーズ

受付方法　**先着順**
下記窓口へ持参またはメールでの申込みとなります。
＊電話による申込は出来ません

地（知）の拠点推進本部　川村
TEL　：018-889-3246
場所：地方創生センター1号館2階207室
Mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

予定時間　集合　8:00～9:00の指定時刻
解散　17:00前後
（手形キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。申込前に生命共済・学生賠償責任保険の加入状況を確認してください。
※ 本プログラムは国際資源学部、教育文化学部、理工学部の１、２、３年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/31、8/1** のいずれかの希望日に申込み）

地(知)の拠点　秋田大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングで　皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索からでも分かりますが、働き方は実際に見聞きしてみなければ分かりません。お客さん側から働く側からでは、見える企業イメージは全く違うことが、参加してみれば分かるはずです。 ジョブシャドウイングでは、どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。「やりたいこと」「いまやるべきこと」を少しずつ明確にすること、そしてそれを今後に生かすことが大切です。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの先輩が活躍している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

秋田エプソン㈱
[湯沢市]
8月9日（金）・定員２名
セイコーエプソングループの国内製造拠点として、インクジェットプリントヘッドの製造、ウエアラブル機器の製造・組立と、セイコーエプソンの中核事業を担い、お客様価値の創出に取り組んでいる。また、それらモノづくりを支える精密金型・治工具製作、更には生産技術部門における、省人化・自動化ライン(装置)の設計、製作も行う。製造ラインや従業員・先輩社員が働く様子を観察する。従業員972名。

伊藤建設工業㈱
[横手市]
8月22日（木）・定員２名
横手市に本社を置き、創立70周年を迎えた県内でも有数の総合建設会社。県内での公共工事を中心とした土木工事や、公共施設・民間施設の設計施工を行っており、優良工事表彰を数多く受賞。社員の資格取得にも力を入れている。社内各部所の観察のほか、建設現場での測量実習も行う。従業員88名。

㈱フィデア情報システムズ
[秋田市]
8月28日（水）・定員２名
秋田市に本社を置く情報システム企業で、北都銀行グループ。地方公共団体取引を中心に、民間企業・医療福祉部門と多岐にわたる業務を行っている。ＩＴコーディネータは有資格者数県内ＮＯ.１。若者の育成等に積極的で、社員の福利厚生にも力を入れている。会社見学のほか、新人社員とのミーティング等を行う。従業員140名。

JUKI産機テクノロジー㈱
[横手市]
8月29日（木）・定員２名
工業用ミシン世界トップシェアを占めるＪＵＫＩ（株）の子会社。産業装置部門の開発・生産の拠点として、産業用ロボットの一貫生産を担う。スマートフォン等の電子回路基板を作る際に使用されるチップマウンタが主力製品。エンジニアの『アイディア』が『形』になり『製品』となっていく過程を、開発段階の３ＤＣＡＤや回路図、プログラミングなどと、完成品の両面から適宜観察する。従業員588名。

㈱ウエンティ・ジャパン
[秋田市]
9月9日（月）・定員２名
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事(株)などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田キャンパスに隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設の建設に着手、2020年運転開始予定。
風車の運転状況、発電施設の現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察する。2012年9月設立、従業員7名。

秋田渥美工業㈱
[横手市]
9月10日（火）・定員２名
高次元の切削加工を得意とする渥美グループ（本社：静岡県浜松市）の一員として、「難物に挑戦」を掲げ、常に新分野にチャレンジしている。昨年は直噴エンジン向けの部品、今年度は電動可変バルブ、電動パワーステアリング部品などを手掛け始め、その製造ラインの見学やTPS（トヨタ生産方式）改善活動状況を観察する。従業員154名（すべて秋田県出身）。

日立オートモティブシステムズ㈱秋田工場
[横手市]
9月12日（木）・定員２名
「走る・曲がる・止まる」といった自動車の核となる最先端の技術を開発し続ける自動車機器・システムメーカー。秋田工場（横手市）の主要製品の電動式パワーステアリングは、自動運転システムに不可欠な製品で、業界トップクラスの技術と品質を誇る。製造ラインのほか、実験・品質確認の様子なども観察する。全社従業員３万名のうち、秋田工場従業員750名。

㈱ヤマダフーズ
[美郷町]
9月20日（金）・定員２名
納豆発祥伝説のある地で納豆を製造する、県内屈指の食品製造メーカー。特に業務用納豆の国内シェアはナンバーワン。豆腐、豆乳、乳酸菌飲料も製造。
本社工場を訪問し、原料処理から出荷まで、一連の製造工程や品質管理、商品開発について観察します。従業員は550名超。

1 年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 1/7（火）～ 1/17（金）

参加費用 無料（手形キャンパスから送迎）

実施企業
2/6 ㈱タニタ秋田
2/7 マックスバリュ東北㈱
2/14 ＴＤＫ㈱ 稲倉工場・にかほ工場
2/19 リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所
2/20 サンコーホーム㈱
2/27 ㈱アキタシステムマネジメント
（詳細は裏面へ）

受付方法 先着順
下記窓口またはメールでの申込みとなります。
※電話による申込みはできません。

地（知）の拠点推進本部　川村
TEL ：018-889-3246
場所：地方創生センター1号館2階207室
Mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

予定時間 集合 8:00～9:00の指定時刻
解散 17:00前後
（手形キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。申込前に生命共済・学生賠償責任保険の加入状況を確認してください。
※ 本プログラムは国際資源学部、教育文化学部、理工学部の１、２、３年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（ 1/27、1/28 のいずれかの希望日に申込み）

文部科学省 地(知)の拠点　秋田大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングで　皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索からでも分かりますが、働き方は実際に見聞きしてみなければ分かりません。お客さん側からと働く側からでは、見える企業イメージは全く違うことが、参加してみれば分かるはずです。 ジョブシャドウイングでは、どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にすること、そしてそれを今後に生かすことが大切です。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの先輩が活躍している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

㈱タニタ秋田 [大仙市]
2月6日（木）・ 定員２名
「タニタ食堂」等で知られるタニタグループ国内唯一の生産工場。脂肪計や体組成計をはじめ各種計量器、医療機器等の設計・開発から部品加工、製品組立、アフターサービスまでを一貫して行っている。製造工程や各部門を観察するほか、模擬設計体験または商品化過程の説明を予定。若者の雇用管理が優良な「ユースエール」認定企業。従業員194名。

マックスバリュ東北㈱ [秋田市]
2月7日（金）・ 定員２名
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の４県で、マックスバリュとザ・ビッグ、マックスバリュエクスプレスを合わせ９４店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。
店舗での商品管理業務や本社の各部署での仕事などを観察する。
従業員683名。

ＴＤＫ㈱ 稲倉工場・にかほ工場 [にかほ市]
2月14日（金）・ 定員２名
世界有数の電子部品メーカー。多種多様な電子部品の開発・製造を行っており、創業の地である秋田県の工場は国内で最も大きな拠点となっている。「稲倉工場東サイト（フェライト材料）」「にかほ工場南サイト（製造装置・機械設計）」２工場の製造ラインを見学する。先輩社員の仕事等を観察するほか、懇親を深める。
従業員6,275名。

リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所 [秋田市]
2月19日（水）・ 定員２名
リコーグループの一員で、信頼と魅力のある先進のITをもとに、お客様のワークスタイル・イノベーションの実現を目指す。秋田・北見・札幌・横浜・新横浜・金沢・鳥取・鹿児島に事業所があり、各拠点とICT機器で接続し、ソフトウエア開発を行っている。
職場の様子を観察するほか、先輩社員とのアイデアソン、相談会を実施予定。
秋田事業所従業員70名。

㈱サンコーホーム [横手市]
2月20日（木）・ 定員２名
横手市に本社を置く注文住宅の販売・設計、施工、住宅リフォーム等を行う企業。新築住宅年間着工棟数、秋田県NO.1。性能とデザイン、保証にこだわり、ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーでは３年連続、全国設計デザインコンテストでは11年連続受賞している。
「住まいの専門館」の見学や先輩社員が働く様子を観察する。
従業員７２名。

㈱アキタシステムマネジメント [秋田市]
2月27日（木）・ 定員２名
秋田市本社の創業３４年のＩＴ企業。秋田県内を中心にＩＴコンサルティング、システム開発・運用支援、ネットワーク構築、ＩＴ機器販売等を行っている。県内唯一のＩＢＭビジネスパートナーであり、Lenovoビジネスパートナーでもある。
先輩社員等の働く様子を観察するほか、県内ＩＴ業界及び同社の業務紹介を行う予定。従業員３７名。

地(知)の拠点

令和元年度　「大学と県内企業による情報交換会」開催概要

■実施内容■

県内企業様の採用活動や学生の就職活動状況について情報交換を行い，今後の秋田県を担う人材を定着させるための課題や将来展望について考える。

大学と企業様のみ参加のスタイルだからこそ出来る「本音」での情報交換会を開催します。

※秋田大学，秋田県立大学，秋田高専の３校が参加します！

■開催日及び会場■

以下のいずれかの日程で企業様の参加しやすい日程をお選びください。

※会場は変更になる場合がございます

９月２４日（火）・・・県北会場

【北秋田市民ふれあいプラザ
コムコム２階　研修室Ｃ・Ｄ】

＜所在地＞018-3312　北秋田市花園町１０－５

９月２６日（木）・・・中央会場

秋田大学手形キャンパス　総合研究棟２階講義室】

＜所在地＞　010-8502　秋田市手形学園町１－１

９月２７日（金）・・・県南会場

【横手市ふれあいセンターかまくら館５階　研修室１・２】

＜所在地＞ 013-0023　横手市中央町８番 12 号

■当日のスケジュール（予定）■　　※第２部からの参加も可能です。

１３：００～１３：０５（５分）

イントロダクション：開催にあたっての挨拶，情報交換会の主旨説明

１３：０５～１３：３５（３０分）

第１部：「採用活動を円滑に進めるためには～早期からの活動が重要～」

・・・学生の就活に関する現状について

・・・採用スケジュール（通年採用）について

・・・早期からの動き出しの重要性について

１３：４５～１４：４５（６０分）

第２部：「早期から企業の魅力を伝えるためには～具体的な方法を知る～」

・・・県内企業２社による具体的な動き方や方法についての講演

：「各大学による COC＋事業（県内就職支援）の紹介」

１４：５５～

第３部：個別相談会（最大１６：００まで）

■お申込方法■

「秋田大学学生支援・就職課就職推進担当」までメールにてお申込ください。

メールには次の内容を御記載ください。

記載内容　＜件名＞　【企業名】大学と県内企業による情報交換会　申込

＜本文＞　①企業名　②第１部参加の有無　③参加希望日程　④参加者名

⑤採用活動に関する疑問等

お申込締切：８月２３日（金）１７時まで

メールアドレス：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

■ご注意頂きたい事項■

この情報交換会は，大学の就職支援を行う職員と県内企業様との情報交換会です。

学生が参加する情報交換会ではありませんので御注意ください。

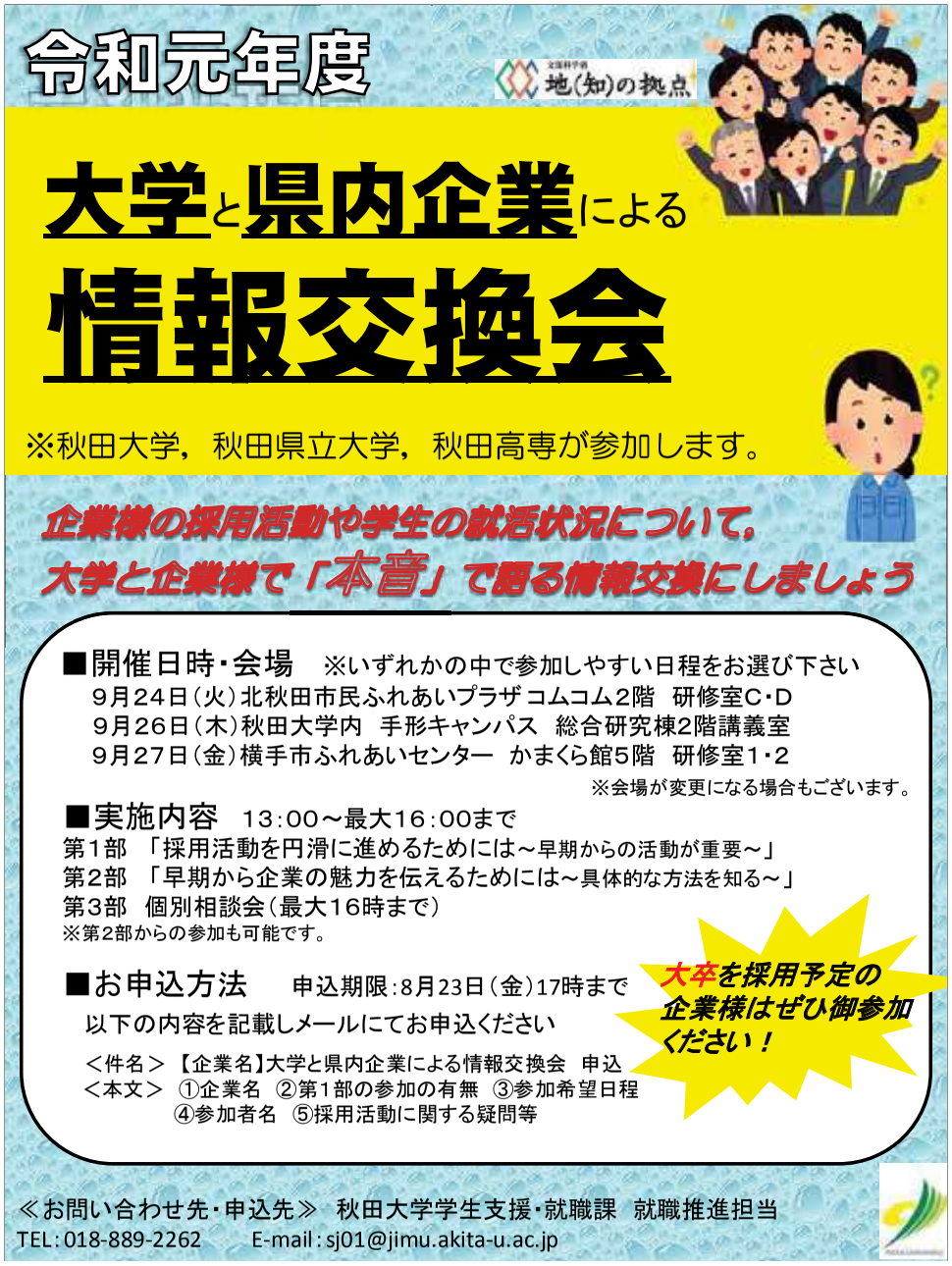
■お問い合わせ・申込先■

秋田大学　学生支援・就職課　就職推進担当

Tel：018-889-2262

E-mail：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

以　上



令和元年度　秋田大学 COC+事業「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました。

9月24日（火）から9月27日（金）にかけて、県内3会場において、大学の就職推進担当の教員及び職員と県内企業の採用担当者が一堂に会し、学生と県内企業とのマッチング推進を目的に、「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました。

今回の情報交換会には、昨年度と同様にCOC+事業で学生の県内就職率向上に取り組んでいる秋田大学・秋田県立大学・秋田高専の3校が参加しました。

また、各会場の参加企業数はつぎのとおりです。

9月24日（火）県北会場　北秋田市民ふれあいプラザコムコム　7社参加
9月26日（木）中央会場　秋田大学手形キャンパス総合研究棟　59社参加
9月27日（金）県南会場　横手市ふれあいセンターかまくら館　12社参加

【実施内容】第1部「採用活動を円滑に進めるためには～早期からの活動が重要～」
・講演者：秋田大学、株式会社ディスコ
第2部「早期からの企業の魅力を伝えるためには～具体的な方法を知る～」
・企業から取組に関する講演
県北会場：株式会社伊徳、株式会社ユニバース
中央会場：北良株式会社、リコーＩＴソリューションズ株式会社
県南会場：北良株式会社、株式会社アスター
・COC+事業について説明：秋田大学、秋田県立大学、秋田高専
第3部　個別相談会

第1部では、秋田大学から学生の就活に関する現状等について、株式会社ディスコからは企業の採用活動の傾向等について説明があり、活動が早期化していることが示されました。

第2部での企業による採用活動についての講演では、学生への情報発信の仕方や学生との接点の持ち方等、具体的取組について紹介されました。

第3部の参加企業との個別相談会では、3校及び講演企業のブースを設け、各校の学生の動向及び講演企業の活動について、より具体的な情報交換を行いました。

各会場の参加者からは、「早期活動の重要性を認識できた。」、「講演した企業の採用活動の取組が参考になった。」などの本会の有益性を示す感想が多く寄せられました。

本学では、今後も、学生の地元定着の促進に向け、様々な取組を進めて参ります。

県北会場

中央会場

県南会場

秋田県立大学「ジョブシャドウイング」実施状況

○ジョブシャドウイングの概要

・若者の県内定着を促進するため、学生がインターンシップに参加する機会の拡充を図る取組である。
・既存のインターンシップとは異なり、主に１・２年生を対象とした、職場観察型の一日インターンシップとなっている。
・学生に、早い段階で県内企業への関心を持ち、就職先の１つとして認識してもらうことを目的の一つとしているため、実習先となる企業については、県内の中小企業を中心に受け入れを依頼している。
・平成 27 年度からの５年間で、受け入れに御協力いただいた県内企業 40 社において、延べ 390 人を超える学生が実習に参加した。

○ジョブシャドウイングの実習内容

・企業トップが自ら経営理念等を伝える「経営者講話」、及び本学ＯＢ・ＯＧを中心とした若手先輩職員等との「ランチミーティング」の２つを実施することが最大の特徴である。
・一日という短い時間で、学生に効率よく理解してもらうため、本学と企業が協働でプログラムを策定している。（以下の標準モデルを参照。）

ジョブシャドウイングの一日の流れ（標準モデル）

時　間	内　容	
10:00～10:20	あいさつ・日程説明・諸注意	
10:20～11:00	企業概要説明	
11:00～12:00	経営者講話	経営理念等について、経営者から直接伝えてもらう
12:00～13:00	ランチミーティング	先輩職員（本学ＯＢ・ＯＧ等）との率直な質疑応答、意見交換
13:00～14:30	職場観察	職員の仕事ぶりを観察
14:30～15:30	質疑応答・意見交換	学生の疑問や不安を解消するとともに、企業側にも今の学生の考え方を知ってもらう
15:30～16:00	レポート作成	
16:00	終了	

○ジョブシャドウイング参加学生数の状況（平成２７年度～令和元年度）

	実施企業数（社）	延べ参加学生数（人）							
		総数	システム科学技術学部						
			機工	知能	情報	機知	電子	建築	経営	学部計
H27	2	12				3	0	0	5	8
H28	13	51				14	6	0	8	28
H29	20	107				18	23	8	11	60
H30	23	113	4	0	5	10	34	9	9	71
R1	21	110	10	16	23	0	1	10	9	69
合計	79	393	14	16	28	45	64	27	42	236

	延べ参加学生数（人）				
	生物資源科学部				
	応用	生産	環境	アグリ	学部計
H27	3	1	0	0	4
H28	14	2	2	5	23
H29	26	15	4	2	47
H30	16	7	10	9	42
R1	23	7	5	6	41
合計	82	32	21	22	157

「機工」…機械工学科
「知能」…知能メカトロニクス学科
「情報」…情報工学科
「機知」…機械知能システム学科
「電子」…電子情報システム学科
「建築」…建築環境システム学科
「経営」…経営システム工学科
※平成30年度、2学科（機械知能システム学科、電子情報システム学科）を、3学科（機械工学科、知能メカトロニクス学科、情報工学科）に再編した。

	延べ参加学生数（人）					
	学年				出身	
	1	2	3	4	県内	県外
H27	7	5	0	0	8	4
H28	17	31	3	0	17	34
H29	53	53	1	0	64	43
H30	51	61	1	0	58	55
R1	72	37	0	1	43	67
合計	200	187	5	1	190	203

「応用」…応用生物科学科
「生産」…生物生産科学科
「環境」…生物環境科学科
「アグリ」…アグリビジネス学科

ジョブシャドウイング実習受け入れ企業一覧（平成２７年度～令和元年度）

初回実施年度	企業名	所在地	対象学部
Ｈ２７	㈱ヤマダフーズ	美郷町	生物
	㈱三栄機械	由利本荘市	システム
Ｈ２８	㈱秋田今野商店	大仙市	生物
	北日本コンピューターサービス㈱	秋田市	両学部
	㈱秋田新電元	由利本荘市	システム
	秋田プリマ食品㈱	由利本荘市	両学部
	小玉醸造㈱	潟上市	生物
	マックスバリュ東北㈱	秋田市	生物
	㈱日立超LSIシステムズ秋田事業所	秋田市	システム
	インターフェイス㈱	秋田市	生物
	秋田精工㈱	由利本荘市	システム
	㈱斉藤光学製作所	美郷町	システム
	㈱東北フジクラ	秋田市	システム
Ｈ２９	アルフレッサファインケミカル㈱	秋田市	生物
	横手建設㈱	横手市	システム
	秋田指月㈱	羽後町	システム
	日本製紙㈱秋田工場	秋田市	両学部
	㈱たけや製パン	秋田市	生物
	山二建設資材㈱	秋田市	システム
	秋田酒類製造㈱	秋田市	生物
	㈱五洋電子	潟上市	システム
	㈱アチカ	秋田市	両学部
	エイブリック㈱秋田事業所	大仙市	システム
	DOWAセミコンダクター秋田㈱	秋田市	システム
Ｈ３０	エイデイケイ富士システム㈱	秋田市	両学部
	秋田エプソン㈱	湯沢市	システム
	ニプロファーマ㈱大館工場	大館市	生物
	㈱ウェンティ・ジャパン	秋田市	両学部
	秋田渥美工業㈱	横手市	システム
	日立オートモティブシステムズ㈱秋田事業所	横手市	システム
	㈱池田	由利本荘市	生物
	㈱タニタ秋田	大仙市	システム
	リコーＩＴソリューションズ㈱秋田事業所	秋田市	システム
	㈱サンコーホーム	横手市	システム
Ｒ１	伊藤建設工業㈱	横手市	システム
	㈱フィデア情報システムズ	秋田市	両学部
	ＪＵＫＩ産機テクノロジー㈱	横手市	システム
	ＴＤＫ㈱稲倉工場・にかほ工場	にかほ市	システム
	㈱ＵＭＮファーマ	秋田市	生物
	㈱アキタシステムマネジメント	秋田市	両学部
		合計	40社

※初回実施以後、複数年度において受け入れていただいている企業がある。
（5年間で、延べ79社において実施。）
※記載順は、実施日順としている。
※「システム」…システム科学技術学部、「生物」…生物資源科学部。

ジョブシャドウイング実施に係るアンケート結果（平成２９年度～令和元年度）

※アンケート結果は、本格実施となった平成29年度以降のものを記載している。
（令和元年度分は、集計済みの夏期実施分のみを記載。）
※端数処理のため合計が100%とならない場合がある。

【参加学生アンケート】 （n=回答人数）

①今回の企業への参加を決めた理由は何か（複数選択可）	H29 n=107	H30 n=112	R1 n=54
当該企業に興味があった	17.5%	17.6%	10.7%
業種に興味があった	31.7%	30.8%	35.7%
様々な企業に関する知見を広めるため	33.9%	27.5%	33.3%
先生からの勧め、友人の誘い、その他	16.9%	24.2%	20.2%

②ジョブシャドウイングは、自分にとって有効であると感じたか	H29 n=107	H30 n=112	R1 n=53
有効である	99.1%	100.0%	96.2%
どちらともいえない	0.9%	0.0%	3.8%
あまり有効とは思わない	0.0%	0.0%	0.0%

③今回参加した企業への関心が高まったか	H29 n=107	H30 n=112	R1 n=53
高まった	92.5%	89.3%	84.9%
どちらともいえない	3.7%	9.8%	13.2%
あまり高まらなかった	3.7%	0.9%	1.9%

④今回の参加によって、別の企業も見てみたいなど、他の県内企業への関心が高まったか	H29 n=106	H30 n=112	R1 n=53
高まった	96.2%	91.1%	83.0%
どちらともいえない	3.8%	8.9%	17.0%
あまり高まらなかった	0.0%	0.0%	0.0%

⑤今後、職業体験であるインターンシップに参加してみたいと思うか	H29 n=107	H30 n=112	R1 n=53
参加したい、実施企業次第で参加したい	99.1%	99.1%	98.1%
特に希望しない、その他	0.9%	0.9%	1.9%

【実施企業アンケート】 回答者：代表者、人事・総務担当者、メンターなど （n=回答人数）

①ジョブシャドウイングの取組は、学生に対して有効であると感じたか	H29 n=71	H30 n=83	R1 n=52
有効である	88.7%	79.5%	90.4%
どちらともいえない	11.3%	19.3%	7.7%
あまり有効とは思わない	0.0%	1.2%	1.9%

②ジョブシャドウイングによって、貴社（実施企業）への関心が高まると思うか	H29 n=71	H30 n=83	R1 n=52
高まる	70.4%	62.7%	75.0%
どちらともいえない	28.2%	34.9%	25.0%
あまり高まらない	1.4%	2.4%	0.0%

③ジョブシャドウイングによって、県内企業への関心が高まると思うか	H29 n=71	H30 n=83	R1 n=52
高まる	70.4%	54.2%	71.2%
どちらともいえない	29.6%	43.4%	28.8%
あまり高まらない	0.0%	2.4%	0.0%

④ジョブシャドウイングについて、機会があれば再度実施したいと思うか	H29 n=60	H30 n=76	R1 n=48
是非やりたい	56.7%	73.7%	81.3%
条件付きなら考えたい	40.0%	26.3%	18.8%
当面は遠慮したい	3.3%	0.0%	0.0%

⑤ジョブシャドウイングのほか、大学生向けのインターンシップにも取り組みたいと思うか（既に実施している企業は除く）	H29 n=26	H30 n=11	R1 n=24
具体的に検討中、検討したい	69.2%	90.9%	75.0%
特に考えていない	30.8%	9.1%	25.0%

○参加した学生の声

（職業観などについて）

・漠然と「就職は県外かな」と考えていた。しかし、ジョブシャドウイングで様々なお話を聞き、県外に出ることは悪いことではないが、中途半端な考えで闇雲に県外に就職しても期待どおりにならない場合もあることを知った。同時に、地元秋田で働くことのメリットを知ることができたので、今後進路を決める際の判断材料としたい。

・今回のジョブシャドウイングでは、規模の大きい大企業と地元の中小企業、それらに勤める際のメリット・デメリットを学び、実際にそれを経験した方に話を聞くことができた。その上で私は、将来、自分の納得いくような職業選択ができるよう一層大学で知識を吸収し、基礎を固めたいと思った。

・社員の方々の生の声を聞き、働く現場に実際に行って自分の目で見ることで、インターネットで調べたときに感じたイメージとは別の印象を受けることができた。

（経営者講話について）

・経営者講話を聴き、私も声を出して自らたくさんのことに挑戦していこうと思った。また、仕事をするようになったら、関わる人、お客様など、どんな人にも信頼されるコミュニケーション能力を高めたいと思った。

・経営者講話で聴いた「いろいろな世界を見る」という言葉を大切にして、学生のときにしかできないさまざまな経験ができるよう積極的な行動を心がけて、これからの学生生活に生かしていきたい。

（若手社員との意見交換について）

・新入社員との会話はとても良い刺激になったし、企業のことをよく知ることができ、とても勉強になった。希望する職種の会社に触れることができて、とても実りある体験だった。

・ランチミーティングや多くの場所を見学する事によって、一社員になった気分を味わうことができた。企業でどのようなことが行われているか詳しく知ることができた。

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ　参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間　**7/9**（月）～**13**（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用　**無料**（本荘キャンパスから送迎）

実施企業
8/7　**エイデイケイ富士システム㈱**
8/9　**秋田エプソン㈱**
8/28　**日本製紙㈱**秋田工場
9/10　**横手建設㈱**
9/12　**㈱ウェンティ・ジャパン**
9/13　**秋田渥美工業㈱**
9/14　**日立オートモティブシステムズ㈱**
秋田事業所
9/20　**秋田指月㈱**
（詳細は裏面へ）

受付方法　**先着順**
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません。

地域連携・研究推進センター　深井
（共通施設棟1階 事務室内）
TEL 0184-27-2109

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

予定時間　集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（本荘キャンパス発着）

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

注意事項

※ 本プログラムは学部1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/24、7/25**のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は4年目になります。
これまで延べ**170名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

エイデイケイ富士システム㈱ [秋田市]
8月7日（火）・ 定員**4**名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
富士通（株）・富士電機（株）と協業関係にある企業。プラントシステムの監視・制御技術やネットワーク・Ｗｅｂ開発技術に強みを持つ。地域企業の強みを活かし、全国の土地改良区や自治体向けシステムを開発するなど、自社開発商材も多数保有。自社開発商材の開発現場を観察する。従業員131名、卒業生10名在職。

秋田エプソン㈱ [湯沢市]
8月9日（木）・ 定員**4**名
セイコーエプソングループの国内製造拠点として、インクジェットプリントヘッドの製造、ウエアラブル機器の製造・組立と、セイコーエプソンの中核事業を担い、お客様価値の創出に取り組んでいる。また、それらモノづくりを支える精密金型・治工具製作、更には生産技術部門における、省人化・自動化ライン(装置)の設計、製作も行う。製造ラインや従業員や先輩社員が働く様子を観察する。従業員982名、卒業生7名在職。

日本製紙㈱秋田工場 [秋田市]
8月28日（火）・ 定員**4**名
日本トップクラスの製紙会社。紙製品や木を原料としたケミカル製品などを製造する総合バイオマス企業。秋田工場では、主に段ボール原紙と洋紙を生産。エネルギー事業として、バイオマス混焼発電・風力発電など再生可能エネルギーの利用にも取り組んでいる。
工場見学後、若手社員からの業務内容説明・座談会を中心に行う。
グループ連結13,507名、秋田工場201名、東証一部上場。

横手建設㈱ [横手市]
9月10日（月）・ 定員**4**名
※建築環境システム学科の学生対象
大正6年創業、昨年100周年を迎えた総合建設業（建築・土木工事）。県南を基盤に、国・地方公共団体発注工事のほか、商業施設から一般住宅まで手掛ける。完全週休二日制（土・日・祝）を導入し、ワークライフバランスにも積極的に取り組んでいる。社内各部署の観察のほか、建設現場での観察も行う。従業員41名、卒業生3名在職。

㈱ウェンティ・ジャパン [秋田市]
9月12日（水）・ 定員**2**名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事(株)などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田キャンパスに隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設の建設に着手、2020年運転開始予定。
風車の運転状況、発電施設の現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察する。2012年9月設立、従業員7名。

秋田渥美工業㈱ [横手市]
9月13日（木）・ 定員**4**名
高次元の切削加工を得意とする渥美グループ（本社：静岡県浜松市）の一員として、「難物に挑戦」を掲げ、常に新分野にチャレンジしている。現在は直噴エンジン向けの部品を手掛け始め、月産25万個生産しているが、更に受注拡大に取り組んでいる。その製造ラインの見学やTPS（トヨタ生産方式）改善活動状況を観察する。
従業員154名（すべて秋田県出身）、卒業生2名在職。

日立オートモティブシステムズ㈱ 秋田事業所 [横手市]
9月14日（金）・ 定員**4**名
「走る・曲がる・止まる」といった自動車の核となる最先端の技術を開発し続ける自動車機器・システムメーカー。秋田事業所(横手市)の主要製品の電動式パワーステアリングは、自動運転システムに不可欠な製品で、業界トップクラスの技術と品質を誇る。製造ラインのほか、実験・品質確認の様子などを観察する。従業員750名、卒業生2名在職。

秋田指月㈱ [羽後町]
9月20日（木）・ 定員**4**名
国内コンデンサメーカーの草分け、株式会社指月電機製作所（兵庫県）の秋田県における生産拠点に研究・開発拠点。EV・HEVなどの自動車用コンデンサや自然エネルギーなどの電力変換用コンデンサ、環境との調和を目指す省エネ用コンデンサなどを生産。
設計担当の技術部や欧州向け自動車用コンデンサの製造ラインを観察する。
従業員355名、卒業生3名在職。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ　参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間　**7/9**（月）～**13**（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用　**無料**（秋田キャンパスから送迎）

実施企業
8/7　**エイデイケイ富士システム㈱**
8/28　**ニプロファーマ㈱**大館工場
9/3　**㈱秋田今野商店**
9/12　**㈱ウェンティ・ジャパン**
9/14　**㈱ヤマダフーズ**
9/19　**㈱池田**
（詳細は裏面へ）

受付方法　**先着順**
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません。

地域連携・研究推進センター
（地研センター棟1階）
TEL 018-872-1682

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

予定時間　集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（秋田キャンパス発着）

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 本プログラムは主に1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/24、7/25**のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は4年目になります。
これまで延べ**170名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

エイデイケイ富士システム㈱ [秋田市]
8月7日（火）・ 定員**2**名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
富士通（株）・富士電機（株）と協業関係にある企業。プラントシステムの監視・制御技術やネットワーク・Ｗｅｂ開発技術に強みを持つ。地域企業の強みを活かし、全国の土地改良区や自治体向けシステムを開発するなど、自社開発商材も多数保有。自社開発商材の開発現場を観察します。
従業員131名、卒業生10名在職。

ニプロファーマ㈱大館工場 [大館市]
8月28日（火）・ 定員**4**名
ニプログループの医薬品製造会社。ニプロブランドのジェネリック医薬品の製造及び医薬品の受託製造を行う。国内外90社以上からの受託製造実績は国内No.1の実績を築いている。大館工場はニプロファーマ最大の生産拠点として、主に注射剤のキット製剤全般を製造。最先端設備を備えた医薬品の製造工程や厳格な品質管理体制などを観察します。従業員865名、卒業生8名在職。

㈱秋田今野商店 [大仙市]
9月3日（月）・ 定員**4**名
酒、味噌、醤油などの醸造に用いられる種麹を生産する全国有数の専門メーカー。同社と本学が共同開発した種麹「吟味」は、県大発ブランドの日本酒「究（きわむ）」に使用。
本社、研究所と、昨年完成した新工場を訪問し、種麹の製造工程や麹菌、酵母菌の培養などを観察します。創業明治43年、従業員30名。

㈱ウェンティ・ジャパン [秋田市]
9月12日（水）・ 定員**2**名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事(株)などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田キャンパスに隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設の建設に着手、2020年運転開始予定。
風車の運転状況、発電施設の現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察します。2012年9月設立、従業員7名。

㈱ヤマダフーズ [美郷町]
9月14日（金）・ 定員**6**名
納豆発祥伝説のある地で納豆を製造する、県内屈指の食品製造メーカー。特に業務用納豆の国内シェアはナンバーワン。豆腐、豆乳、乳酸菌飲料も製造。
本社工場を訪問し、原料処理から出荷まで、一連の製造工程や品質管理、商品開発について観察します。
従業員は550名超、卒業生11名在職。

㈱池田 [由利本荘市]
9月19日（水）・ 定員**4**名
由利本荘市を拠点に、池田グループとして、農業資材・農業販売、無人ヘリコプターによる防除など農業関連の他、調剤薬局、介護施設の運営などの事業を展開している。関連会社には、(株)池田薬局、池田ライフサポート＆システム(株)、秋田スカイテックや農業法人の(株)重兵衛など。農業・肥料部門、資材部門、無人ヘリ、防除・環境・緑化部門のほか、直売所や農業法人の運営について観察します。創業明治38年、従業員350名（関連会社含む）、卒業生6名在職。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 1/8（火）～11（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 無料（本荘キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
2/8 秋田プリマ食品㈱
2/15 ㈱五洋電子
2/20 ㈱タニタ秋田
2/21 リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所
2/28 エイブリック㈱秋田事業所
3/7 DOWAセミコンダクター秋田㈱
3/8 ㈱サンコーホーム

受付方法 先着順
下記窓口またはメールでの申込みとなります。
※電話による申込みはできません。
地域連携・研究推進センター 深井（共通施設棟1階 事務室内）
TEL 0184-27-2109
sfukai@akita-pu.ac.jp

予定時間 集合 8:30～9:30の指定時刻
解散 17:00前後
（本荘キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

注意事項

※ 本プログラムは学部1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（1/24・28・29のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は4年目になります。
これまで延べ**228名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

秋田プリマ食品㈱ [由利本荘市]
2月8日（金）・ 定員2名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
国内ハム・ソーセージ大手4社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のサラダチキン生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインを観察する。従業員180名。卒業生3名在職。

㈱五洋電子 [潟上市]
2月15日（金）・ 定員4名
日立国際電気グループの一員として、秋田県と宮城県に製造拠点を持つ電子機器設計・製造会社。海外向け業務用無線通信機器、半導体・FPD用制御ユニット、放送・映像機器等の製品を開発・製造している。生産技術力に実績があり、LCA（ﾛｰｺｽﾄｵｰﾄﾒｰｼｮﾝ）やIoTを駆使した高効率な生産システムを構築し、部品自動挿入ロボット等の生産自動化設備を自社開発している。
生産・検査ラインに投入している産業用ロボットを設計する職場などを観察する。従業員415名。卒業生4名在職。

㈱タニタ秋田 [大仙市]
2月20日（水）・ 定員4名
「タニタ食堂」等で知られるタニタグループ国内唯一の生産工場。脂肪計や体組成計をはじめ各種計量器、医療機器等の設計・開発から部品加工、製品組立、アフターサービスまでを一貫して行っている。製造工程や各部門を観察するほか、CADを使用した計量器の模擬設計体験などを行う。
若者の雇用管理が優良な「ユースエール」認定企業。従業員183名。

リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所 [秋田市]
2月21日（木）・ 定員4名
リコーグループの一員で、信頼と魅力のある先進のITをもとに、お客様のワークスタイル・イノベーションの実現を目指す。秋田・北見・札幌・横浜・新横浜・金沢・鳥取・鹿児島に事業所があり、海外を含めた拠点とICT機器で接続し、組込みソフトウエアなど最先端な開発を行っている。先輩社員が働く様子を観察する。
従業員70名。卒業生4名在職。

エイブリック㈱秋田事業所 [大仙市]
2月28日（木）・ 定員4名
世界初となるCMOS IC搭載のクオーツウオッチを実用化したアナログ半導体専業メーカー。低消費電流・低電圧動作・超小型パッケージ技術に強みを持ち、リチウムイオン電池用ICや車載用メモリなど、世界トップレベルのシェアを持つ製品群も数多い。製造工程・機械設計工程を観察する。
従業員グループ連結950名。秋田事業所190名。卒業予定者1名内定。

DOWAセミコンダクター秋田㈱ [秋田市]
3月7日（木）・ 定員4名
私たちの生活に欠かすことのできない身近な家電製品（スマートフォン、ロボット掃除機等）や最先端医療機器の血液センサなどに搭載される化合物半導体材料（高純度ガリウム、ガリウム砒素基板、LEDチップ等）を国内外の電機メーカーなどに提供している。製造ラインや新商品開発の業務、QC活動取り組みの様子を観察するほか、クリーンルーム内での実習も行う。
従業員300名。卒業生2名在職。

㈱サンコーホーム [横手市]
3月8日（金）・ 定員4名
※建築環境システム学科の学生対象
横手市に本社を置く注文住宅の販売・設計、施工、住宅リフォーム等を行う企業。新築住宅年間着工棟数、秋田県NO.1。性能とデザイン、保証にこだわり、ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーでは3年連続、全国設計デザインコンテストでは11年連続受賞している。「住まいの専門館」の見学や先輩社員が働く様子を観察する。従業員72名。卒業予定者1名内定。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 1/8（火）～11（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 無料（秋田キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
2/8 秋田プリマ食品㈱
2/13 マックスバリュ東北㈱
2/20 秋田酒類製造㈱
2/21 ㈱たけや製パン
2/22 インターフェイス㈱

受付方法 先着順
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません。
地域連携・研究推進センター
（地研センター棟1階）
TEL 018-872-1682

予定時間 集合 8:30～9:30の指定時刻
解散 17:00前後
（秋田キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 本プログラムは主に1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（1/24・28・29・30のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は4年目になります。
これまで延べ228名の学生が体験しており、複数企業に参加している学生もいます。ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多いことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの先輩が活躍している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

秋田プリマ食品㈱ [由利本荘市]
2月8日（金）・ 定員4名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
国内ハム・ソーセージ大手4社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のサラダチキン生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインを観察します。従業員180名、卒業生は3名在職。

マックスバリュ東北㈱ [秋田市]
2月13日（水）・ 定員4名
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の4県で、マックスバリュとザ・ビッグ、マックスバリュエクスプレスを合わせ94店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。
店舗での商品管理業務や本社の各部署での仕事などを観察します。従業員683名、卒業生は4名在職。

秋田酒類製造㈱ [秋田市]
2月20日（水）・ 定員4名
秋田を代表する酒蔵の一つ、昭和19年、12の造り酒屋が集まり発足。県内トップの出荷量を誇り、『高清水』は同社の代表銘柄。
日本酒、焼酎、梅酒のほか、純米酒を配合した化粧水などの化粧品「酒屋のスキル」も開発・販売している。
仕込みから出荷までの酒造りの一連の工程や分析などを観察します。従業員112名、卒業生は2名在職。

㈱たけや製パン [秋田市]
2月21日（木）・ 定員4名
昭和26年創業。本県の製パン業界をリードし、県内シェアは6割を誇る。昭和43年にパン業界全国一位のヤマザキ製パンと業務提携。製パン事業を核に、和洋菓子事業、コンビニの店舗開発事業も展開。弁当の製造・販売、宅配事業を行う秋田米飯給食協同組合は関連会社。
パン、和洋菓子などの製造工程や商品開発、食品衛生管理などを観察します。従業員675名、卒業生は5名在職。

インターフェイス㈱ [秋田市]
2月22日（金）・ 定員4名
化粧品や日用品、サプリメントなどの安全性や有用性を研究・調査する臨床試験受託機関。
"秋田美人"をモニターに、新製品の開発のため国内外の大手メーカーから依頼された化粧品などの臨床試験を行っている。
平成18年設立のベンチャー企業。
モニター試験、画像処理、データ整理など臨床試験の現場を観察します。従業員20名、卒業生は3名在職。

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 **7/8**（月）～**12**（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 **無料**（本荘キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
8/9 **秋田エプソン㈱**
8/20 **エイデイケイ富士システム㈱**
8/22 **伊藤建設工業㈱**
8/28 **㈱フィデア情報システムズ**
8/29 **ＪＵＫＩ産機テクノロジー㈱**
9/9 **㈱ウェンティ・ジャパン**
9/10 **秋田渥美工業㈱**
9/12 **日立オートモティブシステムズ㈱** 秋田工場

受付方法 **先着順**
下記窓口またはメールでの申込みとなります。
※電話による申込みはできません。
地域連携・研究推進センター　深井
（共通施設棟１階 事務室内）
TEL 0184-27-2109
sfukai@akita-pu.ac.jp

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

予定時間 集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（本荘キャンパス発着）

これまでの詳しい実施内容はこちら▼

注意事項
※ 本プログラムは学部１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/23、7/24、7/25**のいずれかの希望日に申込み）

地(知)の拠点　文部科学省平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？
ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は5年目になります。
これまで延べ**283名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業
※一部企業に秋田大学が参加することがあります。

秋田エプソン㈱ [湯沢市]
8月9日（金）・ 定員**4**名
セイコーエプソングループの国内製造拠点として、インクジェットプリントヘッドの製造、ウエアラブル機器の製造・組立て、セイコーエプソンの中核事業を担い、お客様価値の創出に取り組んでいる。また、それらモノづくりを支える精密金型・治工具製作、更には生産技術部門における、省人化・自動化ライン(装置)の設計、製作を行う。製造ラインや従業員・先輩社員が働く様子を観察する。従業員972名、卒業生8名在職。

エイデイケイ富士システム㈱ [秋田市]
8月20日（火）・ 定員**4**名
富士電機(株)・富士通(株)と協業関係にある企業。プラントシステムの監視・制御技術やネットワーク・Ｗｅｂ開発技術に強みを持つ。全国の土地改良区向けシステム等自社開発商材も保有し、最新のＡＩ／ＩｏＴの分野も手掛ける。Ｗｅｂシステム等の開発現場を観察する。従業員135名、卒業生10名在職。

伊藤建設工業㈱ [横手市]
8月22日（木）・ 定員**4**名
※建築環境システム学科の学生対象
横手市に本社を置き、創立70周年を迎えた県内でも有数の総合建設会社。県内での公共工事を中心とした土木工事や、公共施設・民間施設の設計施工を行っており、優良工事表彰を数多く受賞。社員の資格取得にも力を入れている。社内各部所の観察のほか、建設現場での測量実習も行う。従業員88名、卒業生1名在職。

㈱フィデア情報システムズ [秋田市]
8月28日（水）・ 定員**4**名
※生物資源科学部との合同開催、掲載定員はシステム科学技術学部の定員
秋田市に本社を置く情報システム企業で、北都銀行グループ。地方公共団体取引を中心に、民間企業・医療福祉部門と多岐にわたる業務を行っている。ＩＴコーディネータは有資格者数県内ＮＯ.１。若者の育成等に積極的で、社員の福利厚生にも力を入れている。会社見学のほか、新人社員とのミーティング等を行う。従業員140名、卒業生3名在職。

ＪＵＫＩ産機テクノロジー㈱ [横手市]
8月29日（木）・ 定員**4**名
工業用ミシン世界トップシェアを占めるＪＵＫＩ(株)の子会社。産業装置部門の開発・生産の拠点として、産業用ロボットの一貫生産を担う。スマートフォン等の電子回路基板を作る際に使用されるチップマウンタが主力製品。エンジニアの『アイディア』が『形』になり『製品』となっていく過程を、開発段階の３D CADや回路図、プログラミングなど、完成品の両面から適宜観察する。従業員588名、卒業生12名在職。

㈱ウェンティ・ジャパン [秋田市]
9月9日（月）・ 定員**2**名
※生物資源科学部との合同開催、掲載定員はシステム科学技術学部の定員
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事(株)などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田キャンパスに隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設の建設に着手、2020年運転開始予定。
風車の運転状況、発電施設の現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察する。2012年9月設立、従業員7名。

秋田渥美工業㈱ [横手市]
9月10日（火）・ 定員**4**名
高次元の切削加工を得意とする渥美グループ(本社:静岡県浜松市)の一員として、「難物に挑戦」を掲げ、常に新分野にチャレンジしている。昨年は直噴エンジン向けの部品、今年度は電動可変バルブ、電動パワーステアリング部品などを手掛け始め、その製造ラインの見学やTPS(トヨタ生産方式)改善活動状況を観察する。従業員154名(すべて秋田県出身)、卒業生2名在職。

日立オートモティブシステムズ㈱ 秋田工場 [横手市]
9月12日（木）・ 定員**4**名
「走る・曲がる・止まる」といった自動車の核となる最先端の技術を開発し続ける自動車機器・システムメーカー。秋田工場(横手市)の主要製品の電動式パワーステアリングは、自動運転システムに不可欠な製品で、業界トップクラスの技術と品質を誇る。製造ラインのほか、実験・品質確認の様子なども観察する。全社従業員３万名のうち、秋田工場従業員750名、卒業生2名在職。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 **7/9**（火）～**12**（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 **無料**（秋田キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
8/27 **インターフェイス㈱**
8/28 **㈱フィデア情報システムズ**
9/2 **㈱秋田今野商店**
9/9 **㈱ウェンティ・ジャパン**
9/18 **㈱池田**
9/20 **㈱ヤマダフーズ**

受付方法 **先着順**
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません。
地域連携・研究推進センター
（地研センター棟１階）
TEL 018-872-1682

（受付場所）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

予定時間 集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（秋田キャンパス発着）

これまでの実施内容はこちら▼

注意事項
※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**7/30、7/31**のいずれかの希望日に申込み）

地(知)の拠点　文部科学省平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？
ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は5年目になります。
これまで延べ**283名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。
皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。
ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

インターフェイス㈱ [秋田市]
8月27日（火）・ 定員**4**名
化粧品やサプリメントなどの安全性や有用性を研究・調査する臨床試験受託機関。“秋田美人”をモニターに、新製品の開発のための国内外の大手メーカーから依頼された化粧品などの臨床試験を行っている。平成１８年設立のベンチャー企業。モニター試験、画像処理、データ整理など臨床試験の現場を観察します。
従業員２５名、卒業生は３名在職。

㈱フィデア情報システムズ [秋田市]
8月28日（水）・ 定員**2**名
※システム科学技術学部との合同開催、掲載定員は生物資源科学部の定員
秋田市に本社を置く北都銀行グループの情報システム企業。地方公共団体取引を中心に、民間企業・医療福祉部門と多岐にわたる業務を行っている。ＩＴコーディネータは有資格者数県内ＮＯ.１。若者の育成等に積極的で、社員の福利厚生にも力を入れている。会社見学のほか、新人社員とのミーティング等を行う。
従業員１４０名、卒業生は３名在職。

㈱秋田今野商店 [大仙市]
9月2日（月）・ 定員**4**名
酒、味噌、醤油などの醸造に用いられる種麹を生産する全国有数の専門メーカー。同社と本学が共同開発した種麹「吟味」は、県大発ブランドの日本酒「究（きわむ）」に使用。
本社、研究所と一昨年完成した新工場を訪問し、種麹の製造工程や麹菌、酵母菌の培養などを観察します。創業明治４３年、従業員３０名。

㈱ウェンティ・ジャパン [秋田市]
9月9日（月）・ 定員**2**名
※システム科学技術学部との合同開催、掲載定員は生物資源科学部の定員
秋田市に本社を置く風力発電の専門会社。秋田を初め東北の日本海側地域で風力発電施設の開発や、施設の運営、保守・管理など関連付随事業も展開する。三菱商事㈱などとともに秋田潟上ウインドファーム合同会社を設立、秋田キャンパスに隣接する保安林で、国内最大級の風力発電施設を建設中、2020年運転開始予定。
風車の運転状況や建設現場、風力発電事業の開発の企画部門などを観察します。２０１２年９月設立、従業員８名。

㈱池田 [由利本荘市]
9月18日（水）・ 定員**4**名
由利本荘市を拠点に池田グループとして、農業資材・農業販売、無人ヘリコプターによる防除など農業関連の他、調剤薬局、介護施設の運営などの事業を展開している。関連会社には、㈱池田薬局、池田ライフサポート＆システム㈱、秋田スカイテックや、農業法人の㈱重兵衛など。
農薬・肥料部門、資材部門、無人ヘリ、防除・環境・緑化部門のほか、直売所や農業法人の運営について観察します。
創業明治３８年、従業員３５０名（関連会社含む）、卒業生は６名在職。

㈱ヤマダフーズ [美郷町]
9月20日（金）・ 定員**6**名
納豆発祥伝説のある地で納豆を製造する、県内屈指の食品製造メーカー。特に業務用納豆の国内シェアはナンバーワン。豆腐、豆乳、乳酸菌飲料も製造。
本社工場を訪問し、原料処理から出荷まで、一連の製造工程や品質管理、商品開発について観察します。
従業員は５５０名超、卒業生は１１名在職。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 1/7（火）～17（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 無料（本荘キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
2/6 秋田プリマ食品㈱
2/6 ㈱タニタ秋田
2/7 マックスバリュ東北㈱
2/14 ＴＤＫ㈱ 稲倉工場・にかほ工場
2/19 リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所
2/20 ㈱サンコーホーム
2/27 ㈱アキタシステムマネジメント

受付方法 先着順
下記窓口またはメールでの申込みとなります。
※第3希望まで申込可

地域連携・研究推進センター（深井）
（共通施設棟1階 事務室内）
TEL 0184-27-2109
e-mail：sfukai@akita-pu.ac.jp

予定時間 集合 8:30～9:30の指定時刻
解散 17:00前後
（本荘キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

これまでの詳しい実施内容はこちら▼

注意事項

※ 本プログラムは学部1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（1/23、1/27、1/28のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点 文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

参加者の感想等

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は5年目になります。これまで**延べ337名が体験**しており、複数企業に参加している方もいます。ジョブシャドウイングは就職活動ではありませんが、自分が**「やりたいこと」「いますべきこと」**を少しずつ明確にして、今後の学生生活に活かしましょう!!

- ✓ 実際に工場を見学して、設計から出荷まで一貫して行っており、すごいと思った。設計などの体験をさせてもらったが、実際の仕事がイメージできて良かった。
- ✓ IT系の企業ということで、重い空気なのでは・・・？ と心配したが、アットホームな環境で、協力し合いながらつくり上げていく会社であると感じた。アイデアの出し方などで工夫が多く、面白かった。
- ✓ 建築学科にいるものの、建築関連の仕事に直に触れたことがなかったので、この機会に自分の目で見て、確かめるという充実した体験ができた。

募集企業

※一部企業に秋田大学が参加することがあります。

秋田プリマ食品㈱ [由利本荘市]
2月6日（木）・ 定員2名
※生物資源科学部との合同開催、掲載定員はシステム科学技術学部の定員
国内ハム・ソーセージ大手4社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のサラダチキン生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインを観察する。
従業員180名、卒業生4名在職。

㈱タニタ秋田 [大仙市]
2月6日（木）・ 定員4名
「タニタ食堂」等で知られるタニタグループ国内唯一の生産工場。脂肪計や体組成計をはじめ各種計量器、医療機器等の設計・開発から部品加工、製品組立、アフターサービスまでを一貫して行っている。製造工程や各部門を観察するほか、模擬設計体験または商品化過程の説明を予定。若者の雇用管理が優良な「ユースエール」認定企業。
従業員194名、卒業生2名在職。

マックスバリュ東北㈱ [秋田市]
2月7日（金）・ 定員2名
※生物資源科学部との合同開催、掲載定員はシステム科学技術学部の定員
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の4県で、マックスバリュとザ・ビッグ、マックスバリュエクスプレスを合わせ94店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。店舗での商品管理業務や本社の各部署での仕事などを観察する。従業員683名、卒業生4名在職。

ＴＤＫ㈱ 稲倉工場・にかほ工場 [にかほ市]
2月14日（金）・ 定員6名
世界有数の電子部品メーカー。多種多様な電子部品の開発・製造を行っており、創業の地である秋田県の工場は、国内で最も大きな拠点となっている。「稲倉工場東サイト（フェライト材料）」「にかほ工場南サイト（製造装置・機械設計）」2工場の製造ラインを見学する。先輩社員の仕事等を観察するほか、懇親を深める。従業員6,275名、卒業生24名在職。

リコーITソリューションズ㈱ 秋田事業所 [秋田市]
2月19日（水）・ 定員4名
リコーグループの一員で、信頼と魅力のある先進のITをもとに、お客様のワークスタイル・イノベーションの実現を目指す。秋田・北見・札幌・横浜・新横浜・金沢・鳥取・鹿児島に事業所があり、各拠点とICT機器で接続し、ソフトウエア開発を行っている。職場の様子を観察するほか、先輩社員とのアイデアソン、相談会を実施予定。秋田事業所従業員70名、卒業生8名在職。

㈱サンコーホーム [横手市]
2月20日（木）・ 定員4名
※建築環境システム学科の学生対象
横手市に本社を置く注文住宅の販売・設計、施工、住宅リフォーム等を行う企業。新築住宅年間着工棟数、秋田県NO.1。性能とデザイン、保証にこだわり、これまでハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーでは3年連続、全国設計デザインコンテストでは13年連続受賞している。秋田店の展示スペース（スタジオピア）やモデルハウスを見学し、先輩社員の働く様子を観察する。従業員77名、卒業生5名在職。

㈱アキタシステムマネジメント [秋田市]
2月27日（木）・ 定員4名
※生物資源科学部との合同開催、掲載定員はシステム科学技術学部の定員
秋田市本社の創業34年のＩＴ企業。秋田県内を中心にＩＴコンサルティング、システム開発・運用支援、ネットワーク構築、ＩＴ機器販売等を行っている。県内唯一のＩＢＭビジネスパートナーであり、Lenovoビジネスパートナーでもある。先輩社員等の働く様子を観察するほか、県内ＩＴ業界及び同社の業務紹介を行う予定。従業員37名、卒業生3名在職。

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間 1/7（火）～10（金）
（受付時間）8：30～17：30

参加費用 無料（秋田キャンパスから送迎）

実施企業（詳細は裏面へ）
2/6 秋田プリマ食品㈱
2/7 マックスバリュ東北㈱
2/18 ㈱ＵＭＮファーマ
2/20 ㈱たけや製パン
2/21 小玉醸造㈱
2/27 ㈱アキタシステムマネジメント

受付方法 先着順
下記窓口での申込みとなります。
※電話・メールによる受付はできません。

地域連携・研究推進センター
（地研センター棟1階）
TEL 018-872-1682

予定時間 集合 8:30～9:30の指定時刻
解散 17:00前後
（秋田キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

（受付場所）

これまでの実施内容はこちら▼

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。なお、後援会加入者は、保険（学研災・学研賠）に加入しています。
※ 本プログラムは主に1・2年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（1/22、23、27、28のいずれかの希望日に申込み）

地（知）の拠点 文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、平成27年度から実施しており、今年度は5年目になります。

これまで延べ**337名の学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**ほぼ全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。

皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でも分かるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければ分かりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果から分かっています。

ジョブシャドウイングは就職活動ではありませんが、自分が**「やりたいこと」「いますべきこと」**が少しでも明確になることで、今後の学生生活がよりいっそう有意義なものになるでしょう。

また、今回訪問する事業所には、あなたたちの**先輩が活躍**している事業所もあります。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿を見つけてみましょう。

募集企業

秋田プリマ食品㈱ [由利本荘市]
2月6日（木）・ 定員6名
※システム科学技術学部との合同開催、掲載定員は生物資源科学部の定員
国内ハム・ソーセージ大手4社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。
工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のサラダチキン生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインを観察します。
従業員１８０名、卒業生は４名在職。

マックスバリュ東北㈱ [秋田市]
2月7日（金）・ 定員4名
※システム科学技術学部との合同開催、掲載定員は生物資源科学部の定員
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の４県で、マックスバリュとザ・ビッグ、マックスバリュエクスプレスを合わせ９４店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。
店舗での商品管理業務や本社の各部署での仕事などを観察します。
従業員６８３名、卒業生は４名在職。

㈱ＵＭＮファーマ [秋田市]
2月18日（火）・ 定員2名
2004年設立のバイオ創薬企業。
2019年12月より塩野義製薬株式会社の子会社に。
最先端のバイオ技術で、赤ちゃんから妊婦、高齢者にも直接接種可能な“人にやさしい”新世代ワクチンの研究開発を行っている。
医薬品の製造や品質管理の現場を観察します。
従業員４１名、卒業生は８名在職。

㈱たけや製パン [秋田市]
2月20日（木）・ 定員4名
昭和２６年創業。本県の製パン業界をリードし、県内シェアは６割を誇る。昭和４３年にパン業界全国一位のヤマザキ製パンと業務提携。製パン事業を核に、和洋菓子事業、コンビニの店舗開発事業も展開。
弁当の製造・販売、宅配事業を行う秋田米飯給食協同組合は関連会社。
パン、和洋菓子などの製造工程や商品開発、食品衛生管理などを観察します。
従業員６７５名、卒業生は５名在職。

小玉醸造㈱ [潟上市]
2月21日（金）・ 定員6名
秋田を代表する味噌・醤油と清酒の醸造元。明治１２年、味噌、醤油の醸造業として創業。
「ヤマキウ」の秋田味噌は県内一の生産量を誇る。大正２年には酒造業も始め、「太平山」は全国新酒鑑評会などで数多くの金賞を受賞している。
味噌・醤油、清酒の仕込みから出荷まで、一連の工程などを観察します。

㈱アキタシステムマネジメント [秋田市]
2月27日（木）・ 定員2名
※システム科学技術学部との合同開催、掲載定員は生物資源科学部の定員
秋田市本社の創業３４年のＩＴ企業。秋田県内を中心にＩＴコンサルティング、システム開発・運用支援、ネットワーク構築、ＩＴ機器販売等を行う。県内唯一のＩＢＭビジネスパートナーであり、Lenovoビジネスパートナーでもある。
先輩社員等の働く様子を観察するほか、県内ＩＴ業界及び同社の業務紹介を行う予定です。従業員３７名、卒業生は３名在職。

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

COC＋研修会

	開催日	場所	題目	講演者
第75回秋田工業高等専門学校産学協力会・ 第7回秋田高専COC＋研修会	H30.9.11	【工場見学】アキモク鉄工(株) 【交流会】プラザ都	①液相法を用いた酸化亜鉛微粒子の調製と光学特性 ②泥炭地盤の長期沈下挙動と予測について	秋田高専　物質・生物系　准教授　　西野　智路　氏 秋田高専　土木・建築系　准教授　　山添　誠隆　氏
第76回秋田工業高等専門学校産学協力会・ 第8回秋田高専COC＋研修会	H30.11.28	【工場見学】インスペック(株) 【交流会】フォーシーズン	①大規模データの規則性をあぶり出す・関連を測る ②スマートフォンを用いた木造住宅用地震計の開発およびその普及について	秋田高専　電気・電子・情報系　教　授　武井　由智　氏 秋田高専　土木・建築系　准教授 寺本　尚史　氏
第78回秋田工業高等専門学校産学協力会・ 第9回秋田高専COC＋研修会	R1.9.6	【工場見学】(株)五洋電子 【交流会】天王温泉くらら	①ウェアラブルモーションセンサを用いた歩行計測 ②状態オブザーバを用いたスイッチトリラクタンスモータの位置センサレス制御	秋田高専　機械系　齊藤　亜由子　氏 秋田高専　電気・電子・情報系　助教　中沢　吉博　氏
第79回秋田工業高等専門学校産学協力会 第10回秋田高専COC+研修会 第26回秋田高専COC+講演会	R1.11.26	【工場見学】(株)三井光機製作所 【講演会】カレッジプラザ 【交流会】アンサナ	1．高速・高精度精密位置決め制御技術の応用展開 1−1スイッチトリラクタンスジェネレータを用いたマイクロ水力発電に関する研究 1−2酸化亜鉛微粒子の粒成長挙動と光学特性について	秋田高専　機械系　櫻田　陽　氏 （学生の研究発表）秋田高専　生産システム工学専攻1年　安杖　海人 （学生の研究発表）秋田高専　環境システム工学専攻2年　五十嵐千夏

平成30年度　秋田高専の県内企業実習者数

企業名	M	E	C	B	S	K	合計（人）
秋田県庁	2			7			9
秋田市役所						1	1
秋田住友ベーク(株)			1				1
アルフレッサファインケミカル(株)			1				1
(株)エフエム秋田		1					1
(株)遠藤設計事務所				1			1
大橋鉄工(株)	1						1
大森建設				3			3
男鹿市役所				1			1
小滝電機製作所	1						1
(株)さくら技研				2			2
(株)チバ・テクノ湯沢工場	1						1
DOWAセミコンダクター秋田(株)	1						1
ニプロファーマ(株)大館工場		1	2				3
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北				1			1
㈱ブルーフあいアーキテクツ				1			1
㈱三井光機製作所					1		1
由利工業		1					1
合計	6	3	4	16	1	1	31
学生数（休学者・昨年実施者を除く）	33	31	38	37	13	6	158
割合	0.182	0.097	0.105	0.432	0.077	0.167	0.20

注：）　M：機械工学科、E：電気情報工学科、C：物質工学科、B：環境都市工学科
S：生産システム工学専攻、K：環境システム工学専攻

秋田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	校外実習A

科目基礎情報

科目番号	0040	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	機械工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	実習先の企業で準備されたもの。		
担当教員	小林 義和		

到達目標

1. 実習先で行われた研修，および指示された作業等を，実習先担当者の定める目標水準まで達成できる。
2. 実習報告書がわかりやすくかつ論理的に作成できる。
3. 報告会において、実習内容を論理的かつ明確に説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実習先担当者の定める目標水準を超える達成度である。	実習先担当者の定める目標水準程度の達成度である。	実習先担当者の定める目標水準以下の達成度である。
評価項目2	実習報告書がわかりやすくかつ論理的に作成できる。	実習報告書がわかりやすく作成できる。	実習報告書の内容が乏しい
評価項目3	実習内容を論理的かつ明確に説明できる。	実習内容をわかりやすく説明できる。	実習内容を明確に説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	生産現場における産業の技術を総合的に修得し，技術者としての在り方や自発的な研究態度を身に付け，かつ，卒業後の進路選択に役立てることが出来る.
授業の進め方と授業内容・方法	実習先の企業の指導担当員の指示による。
注意点	(講義を受ける前)　実習先の事前課題や指示に従って、準備を行う。 (講義を受けた後)　インターンシップ報告会で発表する。 ［評価方法］以下の3種の評価を行う。各評価における評点は、S（非常に満足：100点）、A（満足：90点）、B（やや満足：80点）、C（普通：70点）、D（やや不満：60点）、E（不満50点）とする。 1. 実習先での評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習への取り組み姿勢　②実習内容の理解度および成果など　③報告書の内容、出来映えなど 2. 学級担任による実習報告書の評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習の目的、内容が理解できているか。②簡潔で正しい日本語で記述されているか。③図表が適切で見やすいか。④実習内容・成果の水準など。 3. 学級担任および学系長または副学系長による報告会の評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか。②図や表が適切で見やすいか。③データの分析や考察が適切になされているか。④話し方、質疑応答がわかりやすく、説得力があるか。 総合評価＝実習先担当者による評価：50%、実習報告書の評価：25%、報告会での評価：25%で、合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 総合評価＝(実習先担当者による評価) x 0.50 + (実習報告書の評価) x 0.25 + (報告会での評価) x 0.25

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	企業、公的研究所での実習 （インターンシップ）	企業や研究所などにおいて，その受け入れ機関の指導の下に，現場の実際の業務，技術を体験する。 実習の日数は5日以上，もしくは実習時間を30時間以上とする。 終了時には，受け入れ機関の証明を記入した実習修了書（本校指定様式）を受領し，学校に提出する。
	2週		※なお，学校へ提出する「実習報告書」及び「報告会」において，下記到達目標の内容を記載すること。 （到達目標） ・企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 ・企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を挙げることができる。 ・企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 ・企業には社会的責任があることを認識している。 ・企業が国内外で他社(他者）とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 ・調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 ・企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 ・社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 ・技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 ・技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。 ・高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
後期	1週		
	2週		
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

評価割合

	レポート	発表	実習先評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	25	50	0	0	0	100
基礎的能力	10	10	25	0	0	0	45
専門的能力	15	15	25	0	0	0	55
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

秋田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	校外実習B

科目基礎情報

科目番号	0041	科目区分	専門 / 選択
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	実習先の企業で準備されたもの。		
担当教員	小林 義和		

到達目標

1. 実習先で行われた研修，および指示された作業等を，実習先担当者の定める目標水準まで達成できる。
2. 実習報告書がわかりやすくかつ論理的に作成できる。
3. 報告会において、実習内容を論理的かつ明確に説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実習先担当者の定める目標水準を超える達成度である。	実習先担当者の定める目標水準程度の達成度である。	実習先担当者の定める目標水準以下の達成度である。
評価項目2	実習報告書がわかりやすくかつ論理的に作成できる。	実習報告書がわかりやすく作成できる。	実習報告書の内容が乏しい
評価項目3	実習内容を論理的かつ明確に説明できる。	実習内容をわかりやすく説明できる。	実習内容を明確に説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	生産現場における産業の技術を総合的に修得し，技術者としての在り方や自発的な研究態度を身に付け，かつ，卒業後の進路選択に役立てることが出来る.
授業の進め方と授業内容・方法	実習先の企業の指導担当員の指示による。
注意点	(講義を受ける前)　実習先の事前課題や指示に従って、準備を行う。 (講義を受けた後)　インターンシップ報告会で発表する。 ［評価方法］以下の3種の評価を行う。各評価における評点は、 S（非常に満足：100点）、A（満足：90点）、B（やや満足：80点）、C（普通：70点）、D（やや不満：60点）、E（不満50点）とする。 1. 実習先での評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習への取り組み姿勢　②実習内容の理解度および成果など ③報告書の内容、出来映えなど 2. 学級担任による実習報告書の評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習の目的、内容が理解できているか。②簡潔で正しい日本語で記述されているか。③図表が適切で見やすいか。④実習内容・成果の水準など。 3. 学級担任および学系長または副学系長による報告会の評価：以下の観点で評点付けを行う。①実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか。②図や表が適切で見やすいか。③データの分析や考察が適切になされているか。④話し方、質疑応答がわかりやすく、説得力があるか。 総合評価＝実習先担当者による評価：50%、実習報告書の評価：25%、報告会での評価：25%で、合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。 総合評価＝(実習先担当者による評価) x 0.50 + (実習報告書の評価) x 0.25 + (報告会での評価) x 0.25

授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	企業、公的研究所での実習 （インターンシップ）	企業や研究所などにおいて，その受け入れ機関の指導の下に，現場の実際の業務，技術を体験する。 実習の日数は10日以上，もしくは実習時間を60時間以上とする。 終了時には，受け入れ機関の証明を記入した実習修了書（本校指定様式）を受領し，学校に提出する。
	2週		※なお，学校へ提出する「実習報告書」及び「報告会」において，下記到達目標の内容を記載すること。 （到達目標） ・企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 ・企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を挙げることができる。 ・企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 ・企業には社会的責任があることを認識している。 ・企業が国内外で他社(他者）とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 ・調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 ・企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 ・社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 ・技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 ・技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。 ・高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		
後期	1週		
	2週		
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週		
	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

評価割合

	レポート	発表	実習先評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	25	25	50	0	0	0	100
基礎的能力	10	10	25	0	0	0	45
専門的能力	15	15	25	0	0	0	55
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

あきた産学官連携フォーラム 2018

秋田大学合同フォーラム・あきたイノベーションフォーラム・第２回産学官交流プラザ

◆ ブース展示（２階多目的ホールＡ区画）

13:00～16:50　研究・シーズ・連携事例・技術ニーズ展示

◆ フォーラム（２階多目的ホールＢ区画）

13:30～13:40　**開会挨拶**
秋田工業高等専門学校 校長 …… 米本　年邦
秋田産学官ネットワーク会長（秋田商工会議所 専務理事） …… 相場　哲也

13:40～14:10　**「学」から講演**
演題：「秋田高専のヒトづくり，モノづくり」
講師：秋田工業高等専門学校 副校長（研究担当）…… 宮脇　和人

14:10～14:40　**「産」から講演**
演題：『期待づくり』　～期待をつくり，未来をカタチにしていく～ 」
講師：YURI ホールディングス株式会社 代表取締役 …… 須田　哲生 氏

14:40～15:20　**ブース出展研究者・企業プレゼン**

15:20～15:50　休憩（30 分）

15:50～16:20　**「官」から講演**
演題：「秋田県の製造業と産業技術センターの企業支援」
講師：秋田県産業技術センター 上級主席研究員 …… 高橋　慎吾 氏

16:20～16:50　**「産」から講演**
演題：「創造と挑戦」
講師：東光鉄工株式会社 代表取締役会長兼社長 …… 虻川　東雄 氏

16:50～**閉会挨拶**　秋田大学理事（研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当）・副学長　小川　信明

◆ 交流会（会費制 4, 000 円／人）

17:30～19:00　アンサナ（ANGSANA）　秋田市中通２丁目 4-8

会場マップ

※有料駐車場は近くにございますが，できる限り公共交通機関等をご利用願います。

■参加申込書　**回答期限：11 月 16 日（金）**　FAX:018-857-3191　E-mail:kikaku-dv@akita-nct.ac.jp

団体（企業）名等			
ご連絡先住所	〒　　TEL　　（　　） E-mail　又は FAX		
参加者氏名	所属部署・役職	交流会参加	
		有・無	
		有・無	
		有・無	

■申込方法
左記申込書に必要事項を明記の上，11 月 16 日（金）までに，FAX 又は E-mail でお申し込み下さい。

●交流会の参加費は，4,000 円／人です。当日，２階受付にてお支払いください。

※ご意見，ご要望，ご質問等ございましたら E-mail 等にてお知らせ下さい。
※上記申込書に記載された情報は，受付整理や本フォーラムに関する諸連絡，次回からのイベント等の案内のみに使用し，それ以外の目的には使用しません。
※交流会のキャンセルは，**11 月 30 日（金）**までにお願いします。前日・当日のキャンセルの場合，参加費をお支払いいただきます。

申 込 先 ・ お 問 い 合 わ せ

秋田工業高等専門学校 企画室（あきた産学官連携フォーラム 2018 実行委員会事務局）
〒011-8511 秋田市飯島文京町１番１号　TEL:018-847-6107　FAX:018-857-3191　E-mail:kikaku-dv@akita-nct.ac.jp

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

第７５回秋田高専産学協力会研修会

第７回秋田高専ＣＯＣ＋研修会　開催案内

今回の開催は、アキモク鉄工(株)のご好意により、工場見学と講演の2部構成とさせて頂きます。

1. 主　催:　秋田高専産学協力会・秋田高専COC＋事務局　共催

2. 開催日時:平成30年9月11日(火)
　　工場見学(於:アキモク鉄工(株))　14:00～14:40
　　講　　演(於:プラザ都)　　15:00～17:00
　　終了後、交流会(於:プラザ都)
3. 開催場所　:
　◎工場見学:アキモク鉄工(株)
　（〒016-0122　秋田県能代市扇田字柑子畑1番地29　TEL:0185-58-3691　）
　◎講演会:プラザ都
　（〒016-0825　秋田県能代市柳町9-23　TEL:0185-54-2244　）
4. 聴講対象　:秋田高専産学協力会会員を主体とした県内企業
　　県市町村関係者、秋田高専教職員等
5. 講演次第
　　司　会:秋田工業高等専門学校　機械系　教授
　　秋田高専産学協力会　学内幹事
　　池田　洋　氏
　15:00－15:10
　(1)挨拶　　秋田工業高等専門学校　校長　米本　年邦　氏
　15:10－15:40
　(2)アキモク鉄工(株)の会社概要
　15:40－16:20
　(3)「液相法を用いた酸化亜鉛微粒子の調製と光学特性」
　　秋田工業高等専門学校　物質・生物系　准教授　西野　智路　氏
　16:20－17:00
　(4)「泥炭地盤の長期沈下挙動と予測について」
　　秋田工業高等専門学校　土木・建築系　准教授　山添　誠隆　氏
　(5)閉会の挨拶

以上

（17:20－19:00　交流会を予定）
【講演概要並びに講師紹介は裏面】

第75回秋田工業高等専門学校産学協力会研修会・第7回秋田高専COC＋研修会講演概要と講師紹介

講演題目　「液相法を用いた酸化亜鉛微粒子の調製と光学特性」

【講演概要】

酸化亜鉛微粒子のサイズをナノメートルオーダーの大きさに制御することで，様々な機能を持つ機能材料にすることができます。本研究では，安価なアルコールを溶媒とした液相法を用いて酸化亜鉛微粒子を調製しました。とくに酸化亜鉛微粒子調製の反応条件およびキャッピング材として用いたオルトケイ酸テトラエチルの添加が吸光度スペクトルと光学特性に及ぼす影響について検討した内容について，ご紹介させていただきます。

【講師紹介】

秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　物質・生物系　准教授　　西野　智路　氏

1994年(平成 6 年) 3 月　秋田大学鉱山学部資源・素材工学科 卒業
1999年(平成 11 年) 3 月　秋田大学大学院鉱山学研究科博士課程 修了　博士（工学）取得
1999年(平成 11 年) 4 月　東北大学反応化学研究所　研究機関研究員
2001年(平成 13 年) 4 月　秋田工業高等専門学校　物質工学科　助手
2014年(平成 26 年) 3 月　ベトナムＩＵＨ大学にて国際協力機構（JICA）の長期専門家として従事（H27.3まで）
○専門分野　… 化学工学，反応工学
○現在の研究テーマ　… ①機能性酸化物セラミックスの液相合成とプロセス解析
②炭素繊維複合材の素材機能改質処理技術の開発
○技術相談キーワード … ①酸化物セラミックス
②反応速度解析
③光触媒

講演題目　「泥炭地盤の長期沈下挙動と予測について」

【講演概要】

関東以北には未分解の植物繊維で構成された泥炭地盤が広範囲に分布しています。この泥炭地盤は超軟弱で、構造物建設時に非常に大きな沈下が発生しますが、建設後も二次圧密と呼ばれる沈下が長期間に渡り継続的に生じ、維持管理費の増大を招くことが知られております。本講演では、近年の研究により明らかになりつつある泥炭の長期沈下のメカニズムとその予測方法について紹介します。

【講師紹介】

秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　土木・建築系　准教授　　山添　誠隆　氏

1994年（平成 6 年）3 月　苫小牧工業高等専門学校 土木工学科 卒業
1997年（平成 9 年）3 月　北海道大学 工学部 土木工学科 卒業
1999年（平成 11 年）3 月　株式会社　シーウェイエンジニアリング　入社（平成 27 年 3 月まで）
2004年（平成 16 年）4 月　北海道大学大学院 工学研究科 環境循環システム専攻博士後期課程 入学
2007年（平成 19 年）3 月　同上　単位取得満期退学
2007年（平成 19 年）6 月　博士（工学）　北海道大学
2008年（平成 20 年）4 月　技術士（建設部門：土質及び基礎）
2015年（平成 27 年）4 月　秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授（平成 29 年 3 月まで）
2017年（平成 29 年）4 月　同上 改組に伴い創造システム工学科 土木・建築系 准教授に所属変更（現在に至る）
○専門分野　… 地盤工学
○現在の研究テーマ　… ①泥炭地盤の周辺変形予測
②泥炭地盤の長期圧密沈下挙動
③河川堤防の浸透流解析
○技術相談キーワード … ①泥炭地盤の圧密、せん断
②軟弱地盤対策工
③堤防浸透照査

第７６回秋田高専産学協力会研修会

第８回秋田高専ＣＯＣ＋研修会　開催案内

今回の開催は、インスペック(株)のご好意により、工場見学と講演の2部構成とさせて頂きます。

1. 主　催:　秋田高専産学協力会・秋田高専COC＋事務局　共催

2. 開催日時:平成30年11月28日(水)
　　工場見学(於:インスペック(株))　14:00～14:40
　　講　　演(於:フォーシーズン)　　15:20～17:00
　　終了後、交流会(於:フォーシーズン)
3. 開催場所　:
　◎工場見学:インスペック(株)
　（〒014－0341　秋田県仙北市角館町雲然荒屋敷79－1　TEL:0187-54-1888　）
　但し，同業他社の見学はご遠慮いただく場合がございますこと御了承ください。
　◎講演会:フォーシーズン
　（〒014－0017　秋田県大仙市佐野町2-4　TEL:0187-62-6000　）
4. 聴講対象　:秋田高専産学協力会会員を主体とした県内企業、秋田高専教職員等
5. 講演次第
　　司　会:秋田工業高等専門学校　機械系　教授
　　秋田高専産学協力会　学内幹事
　　池田　洋　氏
　15:20－15:25
　(1)挨拶　　秋田工業高等専門学校　校長　米本　年邦　氏
　15:25－15:50
　(2)インスペック(株)の会社概要
　15:50－16:25
　(3)「大規模データの規則性をあぶり出す・関連を測る」
　　秋田工業高等専門学校　電気・電子・情報系　教　授　武井　由智　氏
　16:25－17:00
　(4)「スマートフォンを用いた木造住宅用地震計の開発およびその普及について」
　　秋田工業高等専門学校　土木・建築系　　准教授　寺本　尚史　氏
　(5)閉会の挨拶

以上

（17:20－19:00　交流会を予定）
【講演概要並びに講師紹介は裏面】

第76回秋田工業高等専門学校産学協力会研修会・第8回秋田高専COC＋研修会講演概要と講師紹介

講演題目　「大規模データの規則性をあぶり出す・関連を測る」

【講演概要】

インターネットには膨大なデータがあります。それらのデータを個別に詳しく見るのではなく、ある程度遠くから集団として同時に眺めることで初めて理解できる規則性や関連があります。その発見のために、個別の大きいデータから目的に合った特徴をだけを取り出して小さいデータに要約する処理が必要です。ここでは、大規模データから上手い要約データを作り、そこから規則性をあぶり出す、あるいは、関連を測るための算法を紹介します。

【講師紹介】

秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　電気・電子・情報系　教授　武井　由智　氏

1990年(平成 2 年) 3 月　東京工業大学 理学部 数学科 卒業
1992年(平成 4 年) 3 月　東京工業大学 大学院理工学研究科数学専攻 修士課程修了，修士(理学)
1992年(平成 4 年) 4 月　現在の JFE システムズ株式会社に入社(1995 年 5 月まで在籍)
1999年(平成 11 年) 5 月　東京工業大学 工学部 助手 電気電子工学科 採用(2000 年 3 月まで在籍)
2000年(平成 12 年) 3 月　東京工業大学 大学院総合理工学研究科 物理情報工学専攻博士課程修了，博士(工学)
2000年(平成 12 年) 4 月　長岡技術大学 工学部 助手 電気系（その後 助教授・准教授を経て 2017 年 3 月まで在籍）
2017年(平成 29 年) 4 月　秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 電気・電子・情報系 准教授(2018 年 4 月から教授、現在に至る)
○専門分野　… 情報工学・情報学基礎理論
○現在の研究テーマ　… ①順列の上の関数のフーリエ変換のデータマイニングへの応用
②3 次元回転データ相互の高速マッチング
③ドキュメント間の関係を再生できるような要約データの構成法
○技術相談キーワード … ①データマイニング
②ランダムアルゴリズム
③公開鍵暗号関連技術
④乱数
⑤学習アルゴリズム

講演題目　「スマートフォンを用いた木造住宅用地震計の開発およびその普及について」

【講演概要】

近年日本では大きな地震が頻発しており、構造物にも被害が出ています。こうした構造物の揺れを地震計によって計測し、構造物の損傷分析に活用する事例が増えてきていますが、設置費用の問題から大規模構造物に限定されているのが現状です。

そこで木造住宅への地震計普及を目的に、近年性能が向上しているスマートフォンを地震計として活用する方法を検討しております。本公演ではその概要についてご紹介させて頂きます。

【講師紹介】

秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　土木・建築系　准教授　寺本　尚史　氏

1994年（平成 6 年）3 月　東北大学工学部建築学科卒業
1999年（平成 11 年）3 月　東北大学大学院工学研究科博士課程修了　博士（工学）取得
1999年（平成 11 年）4 月　秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科　助手（H14.3まで）
2012年（平成 24 年）4 月　秋田工業高等専門学校環境都市工学科　准教授(H29.3まで)
2017年（平成 29 年）4 月　同上 改組に伴い創造システム工学科 土木・建築系 准教授に所属変更（現在に至る）
○専門分野　… 建築構造学
○現在の研究テーマ　… ①ピロティ建物の耐震性能向上に関する研究
②解析的手法と実験的手法を複合させたオンライン実験手法(サブストラクチャーオンライン実験)の開発
③スマートフォンを活用した地震計の開発およびその普及に関する研究
○技術相談キーワード … ①構造解析
②構造実験手法
③耐震工学

平成３１年 １ 月 ４ 日

専 攻 長
学級担任　　各位

秋田工業高等専門学校長
米　本　年　邦

「県内企業を知る会」～県内の業界や企業はどうなっているんだろう～ 開催のご案内について

１．開催目的

本校では，進路指導の一環として，「県内企業を知る会」を開催することとしました。県内企業を対象として，本校学生と県内企業が対話を通じて，業界や仕事内容を理解し，今後のインターンシップや就職の際の一助とすると共に早い段階から学生が職業について意識する場を提供することを目的とします。

２．開催概要

１）日　　時　　**平成３１年１月２１日(月) １４時３０分から１６時３０分**

２）会　　場　　秋田工業高等専門学校
図書館１階　中会議室　及び
図書館２階　第一ゼミナール室・第二ゼミナール室
※企業ごとに机・椅子を配置し，個別ブースを設置予定。

３）参加企業　　別紙一覧のとおり

４）そ の 他　　事前申込は不要です。当日，直接会場へおいでください。

３．主 催 等　　主　催　　秋田工業高等専門学校，秋田高専 COC+事務局
協　賛　　秋田工業高等専門学校産学協力会

担　当：　秋田工業高等専門学校　企画室企画係
〒011-8511　秋田市飯島文京町１番１号
Tel：018-847-6107,6106　Fax：018-857-3191
E-mail：kikaku-dv@akita-nct.ac.jp

分野3資料【平成 30 年度・令和元年度】

第3の柱
ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学）

⑨「聞き書きボランティア養成講座」の開催

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

平成３０年度聞き書きボランティア養成講座　開催要項

１．趣旨・目的

「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

本講座は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋事業）の取組の一環として開催するものであり、受講者が「聞き書き」を理解し、その技法を身につけるとともに、ボランティア活動で実践することにより、地域住民との共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティーの創生モデルづくりを目指します。

２．主催等

主催：秋田大学地（知）の拠点推進本部
共催：秋田西高等学校　金足農業高等学校　秋田県総合教育センター
後援：潟上市

３．日　時

平成３０年７月６日（金）１５：００～１６：３０

４．会　場

秋田県総合教育センター（３階中研修室）

５．参加者

受講定員：３０名
対象者　：秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒等

６．受講料

無料

７．プログラム

１５：００～開会あいさつ（秋田大学）
１５：０５～講義（講師　日本聞き書き学会講師　編集者・作家　小田豊二先生）
「聞き書き」とは何か
「聞き書き」の意義・目的
「聞き書き」の具体的な手法（冊子の作り方も含む）
「練習問題」（会話文を一人語りにしてみる）
「質疑」
１６：２５～閉会あいさつ（共催者代表）

８．実践活動等

本講座受講後に、別途受講者による「聞き書きボランティア実践活動」及び「聞き書き冊子贈呈式」を実施します。

９．問い合わせ先

秋田大学　地（知）の拠点推進本部　ＣＯＣ＋事務局
〒010 － 8502　秋田市手形学園町１－１
ＴＥＬ：018 － 889 － 3246　ＦＡＸ018 － 889 － 3168
ｍａｉｌ：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア養成講座を開催しました。

７月６日（金）秋田県総合教育センターにおいて、聞き書きボランティア養成講座を開催しました。「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

今年度は小田豊二先生（日本聞き書き学校講師／作家）を講師にお迎えし、秋田西高等学校と金足農業高等学校の生徒を対象に、両校併せて 25 名の生徒と１２名の教職員が受講しました。最初に、「聞き書き」の意義や目的について学びました。参加した生徒たちは熱心に耳を傾け、小田先生の軽妙なお話に引き込まれていました。

続いて、具体的な手法を学んだ後、練習問題にも取り組み、「聞き書き」への理解をさらに深めました。

今後は、７月 24 日（火）に実際に高齢者の「語り手」からお話を伺う実践活動を実施します。また、完成した冊子を語り手に差し上げる贈呈式を行うことも予定しています。

平成３０年度聞き書きボランティア実践活動　開催要項

１．趣旨・目的

「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

本実践活動は、先に開催した「聞き書きボランティア養成講座」の受講者が実践活動を行うことにより、「聞き書き」に対する理解を深め、その技法を確かなものとして身につけることを目的として実施するものであり、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋事業）の取組の一環として、高校生と地域住民との共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティーの創生モデルづくりを目指します。

２．主催等

主催：秋田大学地（知）の拠点推進本部
共催：秋田西高等学校　金足農業高等学校　秋田県総合教育センター
後援：潟上市

３．日　時

平成３０年７月２４日（金）
１３：１５～１４：４５

４．会　場

秋田西高図書館

５．参加者

聞き手：秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒等（7 月 6 日開催の聞き書きボランティア養成講座受講者 25 名）
語り手：15 名（別添名簿参照）

６．プログラム

１３：１５　参加者集合（秋田西高図書館）
１３：２０～開会あいさつ（秋田大学）
１３：２５～事前説明（秋田大学）
１３：３０～聞き書き開始
１４：３０～聞き書き終了
１４：３５～事務連絡（秋田大学）
１４：４５～終わりのあいさつ（共催者代表）
解散

７．問い合わせ先

秋田大学　地（知）の拠点推進本部　ＣＯＣ＋事務局
〒 010 － 8502　秋田市手形学園町１－１
ＴＥＬ：018 － 889 － 3246　ＦＡＸ 018 － 889 － 3168
ｍａｉｌ：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア実践活動を実施しました。

７月 24 日（火）秋田西高等学校において、聞き書きボランティア実践活動を実施しました。本実践活動は、７月６日開催の「聞き書きボランティア養成講座」を受講した高校生が実践活動を行うことにより、「聞き書き」に対する理解を深め、その技法を確かなものとして身につけることを目的としています。

当日は潟上市在住の高齢者に「語り手」になっていただき、「聞き手」である高校生が１対１でお話を伺いました。語り手の中には、地域やその人にゆかりのある写真や実物を持ってきてくださった方もおり、和やかな雰囲気の中で聞き書きが進められました。聞き手のひとりは「あっという間でした。本当に楽しい時間をありがとうございました。」と、笑顔で語り手にお礼を言っていました。

今後は、夏休み中に今回お聞きした内容をまとめ、聞き手が自ら製本した冊子を語り手に差し上げる「贈呈式」も実施する予定です。

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア冊子贈呈会を実施しました。

１０月２５日（木）秋田西高等学校において、聞き書きボランティア冊子贈呈会を実施しました。

この冊子贈呈会は、秋田西高等学校の生徒が７月に実践した「聞き書き」の成果として、生徒自らが書き起こし、製本した「聞き書き冊子」を、直接、語り手となった高齢者の皆様にお渡しする会として開催しました。

「聞き書き」とは、高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

この日は、先の実践活動で聞き手となった秋田西高等学校の生徒９名と、語り手の皆さん 15 名及び潟上市、秋田大学の関係者が参加し、聞き手が作品の一部と感想を読み上げ、その後語り手に手渡しする形で進められました。

高校生が緊張しながらも慎重に読み上げる声を、語り手の皆さんは目を閉じ、時折うなずき、微笑みながら真剣に聞き入っていました。そして、作品が手渡されると、丁寧にお礼を述べながら、皆笑顔で受け取っていました。

最後に、語り手代表の長門幸矢さんと秋田西高等学校の高久富紀子教頭が閉会の挨拶を行い、会を閉じました。

秋田大学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」の一環として、「聞き書きボランティア養成」に取り組んでおり、今後もこうした活動を通して、地域住民の共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティの創生モデルを目指していきます。

開会の挨拶をする中村教授

作品贈呈の様子

挨拶する語り手代表の長門さん

平成 30 年 10 月 30 日（火）
秋田魁新聞　22 面

県央 秋田市

高齢者の思い出話 聞き書き

西高生 成果を冊子に

平成 30 年 11 月 8 日（木）
朝日新聞　21 面

お年寄りの人生 聞き書き

秋田西高生、冊子贈る

聞き書きをまとめた冊子をお年寄りに渡す生徒＝県立秋田西高校

令和元年度聞き書きボランティア養成講座開催要項

１．趣旨・目的

「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

本講座は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）の取組の一環として開催するものであり、受講者が「聞き書き」を理解し、その技法を身につけるとともに、ボランティア活動で実践することにより、地域住民との共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティーの創生モデルづくりを目指します。

２．主催等

主催：秋田大学地（知）の拠点推進本部
共催：秋田西高等学校　金足農業高等学校　秋田県総合教育センター
後援：潟上市

３．日　時

令和元年７月５日（金）１４：００～１７：００

４．会　場

秋田県自治研修所（２階第１教室）

５．参加者

受講定員：３０名
対 象 者：秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒等

６．受講料

無料

７．プログラム

１４：００～事前準備
１５：００～開会あいさつ（秋田大学）
１５：０５～講義（講師　日本聞き書き学会講師　編集者・作家　小田豊二先生）
「聞き書き」とは何か
「聞き書き」の意義・目的
「聞き書き」の具体的な手法（冊子の作り方も含む）
「練習問題」（会話文を一人語りにしてみる）
「質疑」
１６：２５～閉会あいさつ（共催者代表）
１６：３０～添削

８．実践活動等

今後、本講座受講者による「聞き書きボランティア実践活動」及び「聞き書き冊子贈呈会」を別途実施します。

９．問い合わせ先

秋田大学　地（知）の拠点推進本部　ＣＯＣ＋事務局
〒010－8502　秋田市手形学園町１－１
TEL：018－889－3246　　FAX：018－889－3168
Mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

令和元年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア養成講座を開催しました。

７月５日（金）秋田県自治研修所において、聞き書きボランティア養成講座を開催しました。昨年度に引き続き、聞き書き作家の小田豊二先生を講師にお迎えし、秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒、併せて 23 名と教職員及び秋田大学生等、約 40 名が受講しました。

約１時間半の講座では、聞き書きの目的・手法や、これまで小田先生が聞き書きをした際のエピソードをお話しいただき、受講者は興味深く聞き入っていました。

講座の後半では、会話文を一人語りの文体に直す練習問題に取り組んだほか、製本の方法も学び、次回に行われる実践活動に向けて準備を整えました。

また、当日生徒が練習で作成した一人一人の文章に、小田先生からお褒めの言葉やアドバイスを赤ペンで記入していただき、生徒にとってやる気と自身の向上に繋がりました。

今後は７月 30 日（火）に金足農業高等学校を会場に、実際に地域のお年寄りからお話を聞く「聞き書きボランティア実践活動」を実施します。また、その後は完成した冊子を差し上げる「聞き書き冊子贈呈会」も予定しています。

※「聞き書き」とは・・・
高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

令和元年度聞き書きボランティア実践活動開催要項

１．趣旨・目的
「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。
本実践活動は、先に開催した「聞き書きボランティア養成講座」の受講者が実践活動を行うことにより、「聞き書き」に対する理解を深め、その技法を確かなものとして身につけることを目的として実施するものであり、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）の取組の一環として、高校生と地域住民との共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティーの創生モデルづくりを目指します。

２．主催等
主催：秋田大学地（知）の拠点推進本部
共催：秋田西高等学校　金足農業高等学校　秋田県総合教育センター
後援：潟上市

３．日　時
令和元年７月３０日（火）１０：００～１１：３０

４．会　場
金足農業高等学校　あぐり交流館

５．参加者
聞き手：秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒等
（７月５日開催の聞き書きボランティア養成講座受講者２３名）
語り手：１１名

６．プログラム
１０：００～参加者集合（金足農業高等学校　あぐり交流館）
１０：０５～開会あいさつ（秋田大学）
１０：１０～事前説明（秋田大学）
１０：１５～聞き書き開始
１１：１５～聞き書き終了
１１：２０～事務連絡（秋田大学）
１１：２５～終わりのあいさつ（共催者代表）
解散

７．問い合わせ先
秋田大学　地（知）の拠点推進本部　ＣＯＣ＋事務局
〒010－8502　秋田市手形学園町１－１
ＴＥＬ：018－889－3246　ＦＡＸ018－889－3168
ｍａｉｌ：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

令和元年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア実践活動を実施しました。

７月 30 日（火）金足農業高等学校あぐり交流館において、聞き書きボランティア実践活動を実施しました。

この日は、７月５日に開催した聞き書きボランティア養成講座に参加した秋田西高校及び金足農業高校の生徒 16 名（秋田西８名、金農８名）が「聞き手」となり、「語り手」である潟上市在住の高齢者の方々から、昔のことや地域のことなど、様々なお話を伺いました。

最初は緊張した面持ちだった生徒らも、高齢者の皆様の優しい語り口に引き込まれるように、徐々に真剣な眼差しに変わり、終了時間いっぱいまで対話は盛り上がりました。

今後は、学校の夏休み期間を利用して、生徒らが今回のお話しを文字に書き起こし、自ら製本して冊子を作成します。できあがった冊子は、「贈呈会」で直接生徒たちの手から高齢者にお渡しする予定となっています。

令和元年度聞き書きボランティア冊子贈呈会　開催要項

１．趣旨・目的

「聞き書き」とは高齢者から話を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本にまとめる活動であり、「聞き書き」を通じて地域や住民の歴史を後世に伝えるとともに、語り手の高齢者は生きがいを感じ、聞き手は高齢者から昔の生活など様々なことを学ぶことができます。

本贈呈会は、７月に実践した「聞き書き」の成果として、生徒自らが作成した「聞き書き冊子」を、直接語り手となった高齢者の皆様にお渡しする会であり、こうした「聞き書きボランティア」活動により、高校生の地域住民との共助・共生意識を醸成し、高齢社会でも住みよい・安心感のあるコミュニティーの創生モデルづくりを目指します。

２．主催等

主催：秋田大学地（知）の拠点推進本部
共催：秋田西高等学校　金足農業高等学校　秋田県総合教育センター
後援：潟上市

３．日　時

令和元年１０月２３日（水）１５：１０～１６：３０

４．会　場

金足農業高等学校会議室

５．参加者

聞き手：秋田西高等学校及び金足農業高等学校の生徒等
（７月３０日開催の聞き書きボランティア実践活動参加者１６名）
語り手：１１名

６．プログラム

１５：１０～参加者集合（金足農業高等学校会議室）
１５：２０～開会あいさつ（秋田大学）
１５：２５～作品贈呈
※作品の一部と生徒の感想（あとがき）を、生徒から読み上げてから手交する。（１人３分以内）
１６：１５～語り手代表あいさつ
１６：２０～閉会あいさつ
１６：２５～記念写真（集合）
１６：３０～解散

７．問い合わせ先

秋田大学　地（知）の拠点推進本部　ＣＯＣ＋事務局
〒010－8502　秋田市手形学園町 1-1
ＴＥＬ：018－889－3246　ＦＡＸ018－889－3168
ｍａｉｌ：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

令和元年度　秋田大学 COC+事業
聞き書きボランティア冊子贈呈会を行いました。

10 月 23 日（火）金足農業高校会議室において、聞き書きボランティア冊子贈呈会を行いました。

本贈呈会は、7 月 30 日に実施した聞き書きボランティア実践活動において「聞き手」として参加した秋田西高校 8 人及び金足農業高校 8 人の生徒が、「語り手」である高齢者から伺ったお話を、夏休み期間を利用し、一人語りの文章になるよう文字に書き起こし、冊子になるよう製本作業したものを、感謝の気持ちを込めて直接語り手にお渡しする会として開催しました。

はじめに秋田大学の中村順子教授より開会の挨拶があり、その後生徒が文章の一部を読み上げてから手渡しする形で、1 組ずつ贈呈が進められました。

一人一人が一生懸命に読み上げる姿を語り手の皆さんは優しく見守りながら、穏やかに耳を傾けていました。語り手の中には涙ぐむ方もおられ、冊子が手渡されるたびに、周りから温かい拍手が送られました。 語り手を代表して、三浦幹也さんからは「多くが仕事を退職し家に閉じこもる生活の中、若者に話した体験談がこうして立派にまとめられ、本当に素晴らしい会であった。」という感想を述べられました。 最後に、金足農業高校の佐々木孝之教頭が「高校生がまだ生まれていない時代の話を聞くことは、残りの高校生活や社会人になっても役に立つことである。地域の皆様はこうした地（知）の財産を残すべく、どうか長生きしていただきたい。」と挨拶し、閉会しました。

秋田大学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、聞き書きボランティア養成に取り組んでおり、この活動を通して、高齢社会でも住みよい安心感のあるコミュニティづくりを目指しています。

冊子贈呈の様子

挨拶をする語り手代表の三浦さん

挨拶をする佐々木教頭

令和元年 11 月 3 日（日）
秋田魁新報　20 面

金足農、秋田西高の16人
高齢者の半生一冊に
聞き書きの成果まとめる

金足農業高校（秋田市）と秋田西高校（潟上市）の生徒16人が、高齢者の思い出話を記録する「聞き書きボランティア」に取り組み、内容を小冊子にまとめた。金足農高でこのほど、協力した潟上市の高齢者9人に手渡した。

「聞き書きボランティア」は地域の魅力掘り起こしと人材育成を目的に、昨年始まった。秋田大学の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環。同大と潟上市の呼び掛けで集まった60～80代の11人が語り手となり、今年7月に金足農高で生徒が聞き書きした。高齢者は約1時間、半生を語り、生徒は方言や語り口を生かして文章にした。

生徒から冊子を受け取る高齢者

冊子の贈呈会では、生徒が聞き書きの内容と感想を発表し、一人一人に冊子を手渡した。長門幸矢さん(79)の話を聞き書きした菊地瑞羅さん(16)＝金足農高1年＝は「長門さんは終戦後の食べ物の少ない時、学校の帰り道でアユを捕り、空の弁当箱に入れて持ち帰った。少しでも家の助けになればという思いからの行動に、優しさを感じた」と発表。長門さんは「うまくまとめてくれて、うれしい。大切な財産として家族にも読んでもらう」と話した。（佐藤桃子）

⑨「聞き書きボランティア養成講座」の開催

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
潟上市コグニサイズ教室がスタートしました。

10 月 10 日（水）、潟上市防災健康拠点施設「トレイクかたがみ」において、潟上市コグニサイズ教室がスタートしました。
秋田大学では、ＣＯＣ＋事業の一環として、平成 28 年度に東成瀬村、平成 29 年度に男鹿市において認知症予防プログラム「コグイサイズ」の普及活動を実施しており、平成 30 年度は潟上市と「トレイクかたがみ」の指定管理者「医療法人正和会」との共催により、来年 3 月 6 日までの毎週水曜日（計 21 回）にコグニサイズ教室を開催し、高齢社会でも住みよい、安心感のある「健康コミュニティづくり」を目指します。
この日は、コグニサイズ教室に参加する潟上市民１８名が出席して開講式を行い、秋田大学医学系研究科・中村順子教授の開会のあいさつに続き、地元潟上市の藤原一成市長から参加者の皆様への励ましの言葉をいただきました。
その後、コグニサイズの概要説明やマンツーマンによる参加者の体力測定、認知機能測定を実施した後、次回から始まるコグニサイズ初級編の導入部分を体験していただいきました。参加者の皆さんは、ゲーム感覚で楽しみながらも真剣に取り組まれ、和やかな雰囲気の中、笑顔で第１回目の教室を終了することができました。
次回は、10 月 17 日（水）に開催し、コグニサイズ教室終了後に「秋田大学コグニサイズ事業中間報告会」を開催します。

秋田大学・中村順子教授

潟上市・藤原一成市長

体力測定の様子

認知機能調査の様子

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
潟上市コグニサイズ教室、元気に進行中！

11 月 14 日（水）、潟上市防災健康拠点施設「トレイクかたがみ」において、第 6 回潟上市コグニサイズ教室が開催されました。
秋田大学ＣＯＣ＋事業の一環として、10 月 10 日から全 21 回シリーズでスタートしたコグニサイズ教室は、本学と潟上市及び医療法人正和会の共催により実施しており、潟上市民 18 名が全員元気に参加し、順調に進行しております。
初級編後半となるこの日のコグニサイズ教室では、参加者の皆さんが、健康チェックや血圧測定を行った後、入念にストレッチを行い、十分に体がほぐれたところで、まずは、ステップ台を使った有酸素運動に取り組みました。
初回の頃は、この時点で息が上がる参加者の方もいましたが、6 回目となると、皆さん軽やかにステップを踏んでおり、見間違える程です。
その後、小グループに分かれて円形になり、踏み台昇降をしながら、与えられた課題（順番に 50 から 3 ずつ引いた数字を答えていく、野菜の名前を答える等）に挑戦です。
グループの誰かが間違えるたび、明るい笑い声がホールに響き、皆さんがコグニサイズに楽しみながら参加している様子がみてとれました。
また、この日は日本赤十字秋田看護大学の学生や、「トレイクかたがみ」にリハビリで通われている方々が見学・体験に訪れたほか、日本経済新聞社の取材も入るなど、コグニサイズに対する注目も高くなっているようです。
引き続き、潟上市コグニサイズ教室を実施するとともに、様々な機会を通じて、コグニサイズの普及に取り組んでまいります。

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
潟上市コグニサイズ教室、中級編後半リポート

１月 16 日（水）、潟上市防災健康拠点施設「トレイクかたがみ」において、第 14 回潟上市コグニサイズ教室が開催されました。

中級編後半となるこの日は、秋田大学男鹿なまはげ分校の越後谷真悦分校長が激励に訪れ、教室参加者に混じってコグニサイズを体験しました。通常どおり健康チェックや血圧測定を行い、入念なストレッチで体を十分にほぐした後、コグニサイズ効果を高めるため、通常とは少し趣向を変えたメニューを実施しました。

まず、潟上市にちなんだ絵柄が描かれたくじを１人１枚ずつ引き、ヒントだけを頼りに同じ絵柄の仲間を集め、出来上がったグループごとに絵柄を当てる対決をしました。また、スタッフが出すじゃんけんに対して後出しで勝つゲームや、似たような言葉を聞き分け反射神経を競うゲームなども行いました。

会場はいつにも増して大きな笑い声に包まれ、参加者たちは体も心もすっかり暖まった様子でした。

潟上市コグニサイズ教室は今後上級編へと進み、２月 27 日（水）まで全 20 回を実施する予定です。

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
潟上市コグニサイズ教室の閉講式を行いました。

２月 27 日（水）、潟上市防災健康拠点施設「トレイクかたがみ」において、潟上市コグニサイズ教室の閉講式を行いました。

10 月からスタートし、20 回目の開催となるこの日は、閉講式に先立ち、初回に実施した体力測定や認知機能テストの再評価を行いました。半年間継続したコグニサイズの効果が数値として表れるとあって、参加者の中にはやや緊張した面持ちの方もいましたが、皆さん順調に計測を終えました。

再評価結果については、３月６日（水）に参加者ひとりひとりにフィードバックします。

その後閉講式が執り行われ、秋田大学地方創生センター　臼木智昭副センター長と潟上市　藤原一成市長からの挨拶の後、教室を指導したチームコグニサイズ　久米裕助教から、参加者に修了証が手渡されました。

参加者の皆さんからは「（課題を）間違うたびに笑って、とにかく楽しかった。」、「また開催してもらいたい。」という声が寄せられるなど、ご好評を得て、無事事業を終了することが出来ました。

秋田大学
コグニサイズ事業中間報告会

秋田大学では地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）の一環として、平成28年度から認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」の普及啓発活動を展開しています。
このたび、潟上市におけるコグニサイズ教室の実施に合わせ、コグニサイズ事業中間報告会を開催し、コグニサイズの概要について紹介するとともに、これまでの実践例を発表することにより、より多くの自治体や福祉関係者など認知症予防に取り組まれている関係者や県民の皆様に理解を深めていただき、コグニサイズが全県的に広く普及することを目指します。

日時 平成30年 **10月17日（水）15:15～17:30**

場所 潟上市防災健康拠点施設**トレイクかたがみ**多目的ホール
潟上市飯田川下虻川字井戸沢41番地（旧八郎潟ハイツ跡地）

プログラム

15:15　開会挨拶　秋田大学　理事　志立正知

15:20　コグニサイズ運動の概要説明
秋田大学医学系研究科　助教　藤田　智恵

15:50　①東成瀬村における実践事例報告
秋田大学：医学系研究科　助教　猪股　祥子
自治体：東成瀬村民生課　保健師　佐々木 文子
参加者：東成瀬村　岡 光

平成28年度　東成瀬村

16:30　②男鹿市における実践事例報告
秋田大学：医学系研究科　助教　久米 裕
自治体：男鹿市地域包括支援ｾﾝﾀｰ　保健師　一ノ関 満寿美
参加者：男鹿市　安田　幸子

平成29年度　男鹿市

17:10　質疑応答

17:25　閉会挨拶　秋田大学医学系研究科　教授　中村 順子

◆入場無料
事前にお申込ください。
〈裏面〉

●コグニサイズとは？
国立長寿医療研究センターが開発した認知症予防プログラムです。体を使う運動課題と頭を働かせる認知課題の２つを同時に行うことで、記憶力の向上、脳内の記憶と学習能力に関係する海馬の委縮を食い止め、改善へと導く可能性をもたらします。

お問い合わせ先
秋田大学地（知）の拠点推進本部ＣＯＣ＋事務局
電話：０１８－８８９－３２４６
E-mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

主催：国立大学法人秋田大学
共催：潟上市
後援：秋田県　男鹿市　東成瀬村

秋田大学コグニサイズ事業中間報告会開催要項

1．目的
秋田大学では地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業）の一環として，平成 28 年度から東成瀬村と男鹿市において、両自治体との協働により認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」の普及啓発活動を展開するとともに、その他の自治体や団体等からの要請に応え、様々な機会を通じてコグニサイズの普及啓発活動を実施し、多くの参加者や関係者から肯定的な評価をいただいている。
こうした実績を踏まえ、潟上市におけるコグニサイズ教室の実施に合わせ、コグニサイズ事業中間報告会を開催し、コグニサイズの概要について紹介するとともに、これまでの実践例を発表することにより、より多くの自治体や福祉関係者など認知症予防に取り組まれている関係者や県民の皆様にコグニサイズについての理解を深めていただき、コグニサイズが全県的に広く普及することを目指す。

2．主催
秋田大学地（知）の拠点推進本部

3．共催
潟上市

4．後援
秋田県　男鹿市　東成瀬村

5．開催日程
平成 30 年 10 月 17 日（水）15：15～17：30

6．会場
潟上市健康・防災拠点施設（愛称：トレイクかたがみ）多目的ホール

7．対象
認知症予防に関係する自治体、医療福祉関係者及び一般県民

8．申込方法
秋田大学 COC プラス事務局に FAX，Mail により申し込む

9．参加費
無料

１０．プログラム
・15：15～　開会あいさつ：秋田大学　理事　志立　正知
・15：20～　コグニサイズの概要説明：秋田大学医学系研究科　助教　藤田　智恵
・15：50～　東成瀬村における実践事例報告
　15：50～　秋田大学からの報告：秋田大学医学系研究科　助教　猪股　祥子
　16：10～　自治体からの報告：東成瀬村民生課　保健師　佐々木　文子
　16：20～　参加者からの報告：東成瀬村　岡　光　様
・16：30～　男鹿市における実践事例報告
　16：30～　秋田大学からの報告：秋田大学医学系研究科　助教　久米　裕
　16：50～　自治体からの報告：男鹿市地域包括支援センター　保健師　一ノ関　満寿美
　17：00～　参加者からの報告：男鹿市　安田　幸子　様
・17：10～　質疑応答
・17：25～　閉会あいさつ　秋田大学医学系研究科　教授　中村　順子
・17：30～　閉会

平成 30 年度　秋田大学 COC+事業
秋田大学コグニサイズ中間報告会を開催しました。

10 月 17 日（水）潟上市防災健康拠点施設トレイクかたがみにおいて、秋田大学コグニサイズ事業中間報告会を開催しました。

「コグニサイズ」とは国立長寿医療研究センターが開発した認知症予防運動プログラムで、コグニッション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語です。例えば、「歩きながら計算する」といった「有酸素運動」と「頭を使う作業」の組み合わせにより能を刺激し、認知機能の維持向上を目指すプログラムです。

秋田大学は、大学としては全国で初めての「コグニサイズ促進協力施設」の認定を受けており、「指導者資格」を持った医学系研究科の教員により「チームコグニサイズ」を結成し、コグニサイズの実践活動に取り組んでいます。

本報告会は、コグニサイズを全県的に広く普及させることを目的とし、潟上市におけるコグニサイズ教室の実施に合わせて開催したもので、秋田大学 志立正知理事の開会挨拶、医学系研究科 藤田智恵助教よるコグニサイズ運動の概要説明に続いて、同 猪股祥子助教及び久米裕助教から平成 28 年度の東成瀬村と平成 29 年度の男鹿市における実践事例の概要とその効果についての発表を行いました。

また、自治体担当者と参加者代表から、コグニサイズ教室に参加しての感想や運動を継続していくための課題等について、それぞれ発表があり、会場の参加者との熱心な質疑応答が行われ、最後に医学系研究科 中村順子教授による挨拶で閉会となりました。

本報告会には、県内の認知症予防に携わる医療、自治体関係者及び教室参加者など、70 名を超える参加者あり、また、テレビや新聞の取材も行われるなど、秋田県内における注目の高さがうかがえました。

この取組は平成３０年度秋田大学ＣＯＣ＋事業の取組の一環として実施したものであり、引き続き、様々な機会を通してコグニサイズ運動の普及に取り組み、「健康コミュニティづくり」による若者の地元定着を目指してまいります。

コグニサイズ教室第 2 回目の様子

テレビ取材を受ける藤田助教

中間報告会の様子

東成瀬村・事例発表の様子

男鹿市・事例発表の様子

質疑応答の様子

平成 30 年 10 月 21 日（日）
秋田魁新聞　20 面

県央 秋田市

コグニサイズ
認知、身体機能が向上
秋田大 潟上市で事例報告会

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

平成 30 年 5 月 28 日（水）
秋田魁新聞 6 面

認知症予防に「コグニサイズ」

頭と体、同時に使って

面白がってトライしよう

すーやかQ&Aゼミ 秋田大 2

やってみよう！コグニサイズ

例 大股で少し早歩きしながら、100から7を順に引いていく。

100－7＝93

93－7＝？

平成 30 年 11 月 30 日（金）
日本経済新聞

秋田大が普及啓発活動

運動と認知症予防 両立

秋田で「コグニサイズ」

この現場 3つの見どころ

①国立長寿医療研究センターが開発した「コグニサイズ」を活用

②秋田大学が県内自治体と共同で運動不足になりがちな秋冬に展開

③地域住民、大学の研究者、地域のリーダーなどの人材養成などを狙う

健康寿命 気になる県民

東北

平成 31 年 2 月 28 日（木）
秋田魁新聞 24 面

コグニサイズ

体と頭使い認知症予防

潟上 受講生17人に修了証

秋田大が昨年10月から潟上市で実施してきた認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」講座の最終回が27日、防災・健康拠点施設「トレイクかたがみ」で開かれた。体力測定と認知機能検査の後、受講生17人に修了証が手渡された。

コグニサイズは、頭を使う作業と有酸素運動を同時に行って脳を刺激し、認知機能の維持向上を目指すプログラムで、国立長寿医療研究センター（愛知県）が開発した。秋田大は指導者資格を持つ教員らでチームを結成、2016年度の東成瀬村、17年度の男鹿市に続き、18年度は潟上市で講座を開いた。

昨年10月からトレイクかたがみを会場に、週1回のペースで全20回実施。60～80歳の受講生はストレッチや筋肉トレーニングのほか、「踏み台を昇降しながらしりとりする」「ステップを踏みながら数を数え、3の倍数のときに手をたたく」といった課題に取り組んだ。最終回ではタッチパネルを使い、記憶力や認知、反応のスピードなども検査した。

佐々木優子さん（80）＝天王＝は「みんなで集まって運動するのはとても楽しかった。半年間で膝の筋力が向上し、体重も少し減った」と笑顔を見せた。

指導した藤田智恵助教＝同大大学院医学系研究科保健学専攻＝は「コグニサイズは自宅でもできるので、ぜひ続けてほしい。コグニサイズを実践する場を市内に広める役割も期待したい」と話した。

（三戸中洋）

閉講式で修了証を受け取る受講生

認定証

指導者第 S201800042 号

津軽谷　恵　殿

あなたを国立長寿医療研究センターが定めるコグニサイズ指導者として認定する

2018 年 11 月 26 日
認定期間：2018 年 11 月 9 日から 2021 年 11 月 8 日まで

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター　理事長　鳥羽　研二

令和元年度　COC プラス事業　コグニサイズ・フォローアップ実施報告書

記載者：久米

実施日時	令和１年６月６日（木）　　９：30～11：00
参加人数	５名（１名欠席）
担当者（大学）	久米 裕
担当者（東成瀬）	佐々木 文子 氏
使用教材・器具	ステップ台、CD ラジカセ（東成瀬村保有備品）
実施内容	・ストレッチ ・筋トレ８種目 ・有酸素運動（ステップ台昇降） ・コグニサイズ 　コグニステップ、東成瀬オリジナル・コグニサイズ（ひらがなの並び替え課題を解きながらステップ台運動）
大学担当者所感	対象者５名が参加し、コグニサイズの実施手続きを確認しながら一通り実践した。ストレッチや筋トレの実施方法など随時質問する参加者の様子が観察された。東成瀬村のサークル参加者は現在６名であるが、佐々木文子保健師より今年度事業で別の地区にも展開する計画であるとのこと。 また、本日は男鹿市の自主サークル活動「セルフケア」で代表を務めている安田幸子さんと LINE テレビ電話で東成瀬村の実践風景を中継する予定であったが、安田さんのスケジュールが合わず実現しなかった。東成瀬村の対象者より了承を得た上で、実践風景の動画や写真を安田さんに提供した。本日午後、安田さんより東成瀬村オリジナルのコグニサイズを男鹿市でも活用したいとの連絡があった。今後も各コミュニティ間の連携を考慮してフォローアップしていく。
次回担当者への申し送り事項等	東成瀬村の佐々木保健師および参加者には、３ヶ月に１回ペースでフォローアップする今年度スケジュールを伝えて了承を得た。次回は９月頃を予定している。

添付
写真・資料など

令和元年度　　潟上市コグニサイズ自主サークルフォローアップ報告書

記載者：藤田

実施日時・場所	令和元年６月 12 日（水）　　13：30～15：00 レイクプラザ昭和
参加人数	15 名（うち，男性１名）
担当者（大学）	藤田智恵
担当者（潟上市）	小野保健師
実施内容	・ストレッチ，筋トレ（各５種目くらいずつ） ・ステップ台昇降 ・ラダー ・脳トレ応用編 →参加者が４グループに分かれ，輪番制で担当を決めて進行していた．コグニサイズの課題も担当グループが考えて実施していた．
大学担当者所感	大学担当者の来訪を心待ちにしてくだっており，新メンバー３名を加え，ますます活気づいて活動を継続されていた．トレイクかたがみでの教室当時よりも，参加者同士が活発にコミュニケーションをとっていたのがとても印象的であった．ラダーも３名の参加者による手作りのものを使用しており，ステップ台は各自で購入したとのこと（保管用の袋を手作りされている方もいた）． 活動当初は戸惑いもあったが，徐々に参加者同士で試行錯誤しながら自分たちに合ったやり方を探り，現在のスタイルに至っているとお話されていた．月に２回ほど，潟上市担当者もフォローに来て下さっているが，ほとんど参加者が自主的に活動しているので見守りだけの関わりとなっているとのこと． 秋田大学オリジナル版の開発を検討していると伝えると，是非自分達もできることを協力したいとお話くださっていた．
次回担当者への申し送り事項等	・すでに参加者主体の流れが確立されており，フォローアップと言いつつもほぼ見学者に近い関わりとなった． ・次回は学生など若い世代も是非連れてきてほしいとお話されていた．

↑参加者の手作りのラダー３種類を使用

↑輪番制で当番を決めて進行

令和元年度　COC プラス事業　コグニサイズ・フォローアップ実施報告書

記載者：久米

実施日時	令和 1 年 6 月 28 日（金）　　13：30～15：00
参加人数	16 名（4 名欠席）すべて女性
担当者（大学）	久米 裕
担当者	安田 幸子（自主グループ セルフケア代表者）
使用教材・器具	テレビ、CD ラジカセ（船川港公民館 所有備品）
実施内容	・ストレッチ 6 種目 ・筋トレ 6 種目 ・有酸素運動 10 分間 ・コグニサイズ コグニステップ、歌を歌いながらコグニサイズ
大学担当者所感	対象者 16 名が参加し、コグニサイズの実施手続きを確認しながら一通り実践した。特に、柔軟体操や筋力トレーニングに関して、参加者は改めて確認できてよかったとのこと。 先日東成瀬村の自主グループより情報提供頂いた実践方法は早速男鹿市の実践へ活かしているとサークル代表の安田さんが話されていた。引き続き、各コミュニティ間の情報共有を図りながら、フォローアップしていく。
次回担当者への申し送り事項等	男鹿市の自主サークル代表の安田さんには 3 ヶ月に 1 回ペースでフォローアップする今年度スケジュールを伝えて了承を得た。次回は 9 月頃を予定している。 当自主サークルに対して、男鹿市担当課は時々見学に来ることはある様子である（安田さんの情報より）。

令和元年度　　潟上市コグニサイズ自主サークルフォローアップ報告書

記載者：藤田，猪股

実施日時・場所	令和元年 8 月 28 日（水） レイクプラザ昭和　　13：30～15：00
参加人数	14 名（うち，男性 1 名）
担当者（大学）	藤田智恵，猪股祥子，看護学専攻 4 年次男子学生 2 名
担当者（潟上市）	小野保健師
実施内容	・ストレッチ，筋トレ（各 5 種目くらいずつ） ・ステップ台昇降 ・ラダー ・脳トレ応用編 →参加者が 4 グループに分かれ，輪番制で担当を決めて進行していた．コグニサイズの課題も担当グループが考えて実施していた．
大学担当者所感	今回はお盆休み等を挟んで，約半月ぶりの教室だったようであった．今回も大学担当者の来訪を心待ちにしてくだっており，さらに活気づいて活動を継続されていた．４年次学生の参加も大変喜ばれ，学生も地域における住民を主体とした健康増進活動について勉強になったと話していた． 手作りのラダーについて，布製とゴム製の 2 種類（計 3 つ）あり，ゴム製のラダーについては，保管や設置のしやすさを考慮し，参加者の手作りの巻き取り用具を使用していた（写真参照）． 各地域で参加者が互いに工夫しながら活動を継続されているため，今後 3 地域の情報交換を兼ねた交流会的な企画も面白いのではないかと感じている． 自主グループが活動を続けられる要因として，①会場の利便性（立地，予約が取りやすい，無料）②グループでの輪番制を用いており，個人の負担が少ない③行政の断続的な関与，等を聞き取ることが出来た．他地域での取り組みに活かしたい．
次回担当者への申し送り事項等	・学生の参加は大変喜ばれるため，状況をみながら継続していきたい． ・学習意欲が高いため，地域高齢者の健康に関わる「情報のお土産」持参があっても良いかと思われる．

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

秋田大学 COC＋事業
コグニサイズの研究論文及び短報が国際学術誌に掲載されました！

秋田大学では COC＋事業の取組の一環として、国立長寿医療センターが考案した認知症予防の効果が期待できる運動法として「コグニサイズ運動」を展開しており、指導者資格を有する本学教員で結成した「チームコグニサイズ」を中心に、これまで県内各地で活動してきました。

平成 28 年度は東成瀬村、平成 29 年度は男鹿市、平成 30 年度は潟上市において開催したコグニサイズ教室には多くの市民が参加し、秋田県内での注目度も非常に高まってきています。

その成果として、このたび、チームコグニサイズメンバーによる男鹿市におけるコグニサイズに関する研究論文が、国際学術誌「International Journal of Gerontology(台湾)」のウェブサイトに掲載されました。

※詳細についてはこちらから御覧いただけます。（全文英文）

また、同じくチームコグニサイズメンバーによる東成瀬村・男鹿市・潟上市におけるコグニサイズに関するデータを集約させて報告した短報が、国際学術誌「International Psychogeriatrics(英国)」のホームページに掲載されました。

※詳細についてはこちらからご覧いただけます。（全文英文）

このように、コグニサイズの研究成果が国際的に認められることにより、コグニサイズ運動の普及がさらに進むことが期待されます。

東成瀬村におけるコグニサイズの様子

男鹿市におけるコグニサイズの様子

潟上市におけるコグニサイズの様子

認 定 証

指導者第 S201900049 号

上村佐知子 殿

あなたは国立長寿医療研究センターが定めるコグニサイズ指導者として認定する

2019 年 11 月 26 日

認定期間：2019 年 11 月 15 日から 2022 年 11 月 14 日まで

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター　理事長　荒井秀典

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

全日本大学女子バレーボール選手権大会会場に訪れ、試合の視察および秋田県への合宿練習誘致などの業務を行った。

上記の３日間の出張業務において、金城大学・東北公益文科大学・新潟医療福祉大学（新潟県）・筑波大学（茨城県）・江戸川大学（千葉県）の５大学と合宿誘練習致の交渉機会を得た。

〔面会者〕

金城大学（石川県）	―	角越　睦　監督	坂口　憲政　コーチ
東北公益文科大学（山形県）	―	川越　立裕　監督	
新潟医療福祉大学（新潟県）	―	森　光雄　部長	
筑波大学（茨城県）	―	中西　康己　監督	
江戸川大学（千葉県）	―	伊藤　博義　監督	丸山　哲平　コーチ

金城大学と東北公益文科大学の２校は今年度来県の実績があるが、他の大学等においても加えられるように伝えたところである。実際には、本県に隣接していることや将来性に優れた学生獲得の可能性が高いなどの条件が、大きな来県理由となることを話している。関東の大学は消極的な状況であった。今後も、実現に向け対応していきたい。

第65回　秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 行動日程

11月26日（月）

自宅	こまち14号 →	東京駅	中央線 →	日野市市民の森体育館	京王バス等 →	宿泊所
出発9:30	角館10:00発	到着13:04　出発13:30		到着14:00　出発16:00		到着17:00

11月27日（火）

宿泊所	京王バス等 →	日野市市民の森体育館	京王バス等 →	宿泊所
出発9:00		到着9:30　出発17:00		到着17:30

11月28日（水）

宿泊所	京王バス等 →	日野市市民の森体育館	中央線 等 →	東京駅	こまち27号 →	自宅
出発9:00		到着9:30　出発14:00		到着15:00　出発15:20	角館18:20着	到着18:40

宿泊所　　立川アーバンホテル
東京都立川市錦町１－２－16
TEL 042-540-1200

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

全日本大学女子バレーボール選手権大会会場に訪れ、試合の視察および秋田県への合宿練習誘致などの業務を行った。

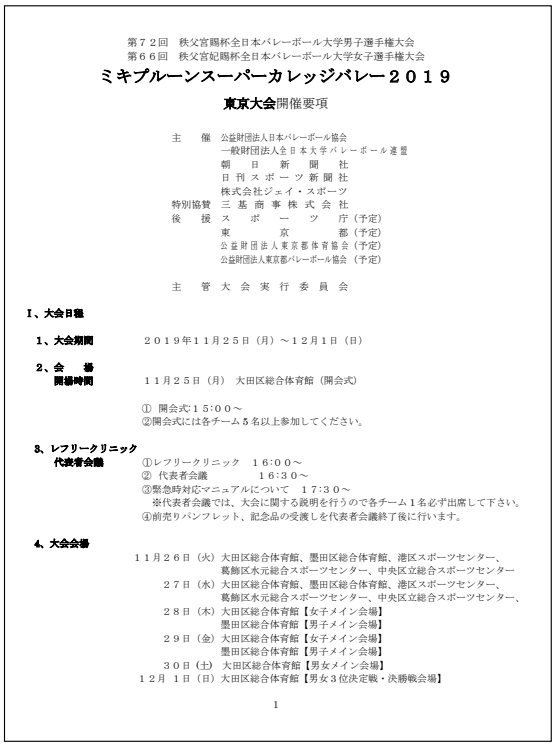
上記の出張業務において、金城大学（石川県）・東北公益文科大学（山形県）・筑波大学（茨城県）・順天堂大学（千葉県）・江戸川大学（千葉県）の５大学と合宿誘練習致の説明機会を得た。

〔面会者〕

金城大学（石川県）	―	角越　睦　監督	坂口　憲政　コーチ
東北公益文科大学（山形県）	―	川越　立裕　監督	
筑波大学（茨城県）	―	中西　康己　監督	
順天堂大学（千葉県）	―	濱野　光之　監督	
江戸川大学（千葉県）	―	伊藤　博義　監督	

全日本大学バレーボール連盟	評議員	並木　清三	氏
全日本大学バレーボール連盟	理　事	嶋貫　　勝	氏
学校法人　二階堂学園	理　事	永島　惇正	氏

東北公益文科大学のみが今年度来県の実績があるが、他の大学等においても加えられるように伝えたところである。加えて、全日本大学バレーボール連盟役員とも面会の場面があり、説明をすることができた。実際には、機会があれば行いたいが本県に隣接していることや将来性に優れた学生獲得の可能性が高いなどの条件が、大きな来県理由となることを話している。また、旅費や宿泊費の補助を期待しているため、特に遠隔の大学は消極的な状況であった。今後も実現には難しい材料もあるが対応していきたい。



第７２回　秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会
第６６回　秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会

ミキプルーンスーパーカレッジバレー２０１９

東京大会開催要項

主　　催　公益財団法人日本バレーボール協会
　　一般財団法人全日本大学バレーボール連盟
　　朝　日　新　聞　社
　　日刊スポーツ新聞社
　　株式会社ジェイ・スポーツ
特別協賛　三基商事株式会社
後　　援　スポーツ庁（予定）
　　東　　京　　都（予定）
　　公益財団法人東京都体育協会（予定）
　　公益財団法人東京都バレーボール協会（予定）

主　管大会実行委員会

Ⅰ、大会日程

1、大会期間　２０１９年１１月２５日（月）～１２月１日（日）

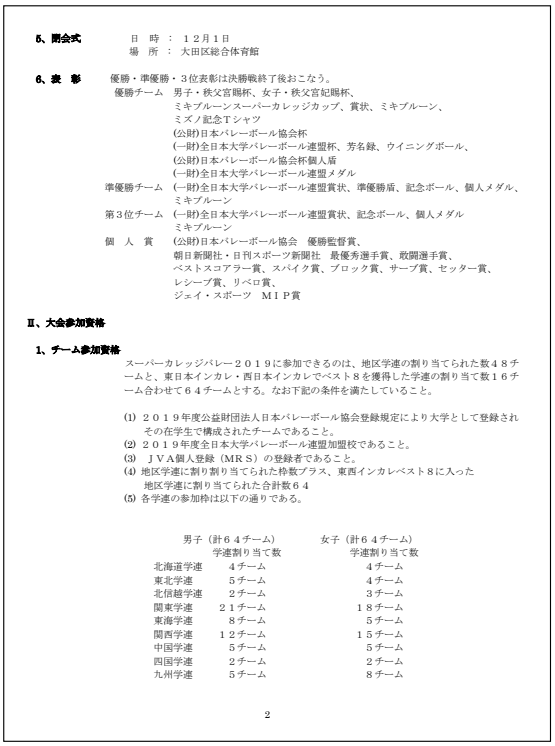
2、会　場
開場時間　１１月２５日（月）大田区総合体育館（開会式）

① 開会式：１５:００～
②開会式には各チーム５名以上参加してください。

3、レフリークリニック
代表者会議　①レフリークリニック　１６:００～
②代表者会議　　１６:３０～
③緊急時対応マニュアルについて　１７:３０～
※代表者会議では、大会に関する説明を行うので各チーム１名必ず出席して下さい。
④前売りパンフレット、記念品の受渡しを代表者会議終了後に行います。

4、大会会場
１１月２６日（火）大田区総合体育館、墨田区総合体育館、港区スポーツセンター、
　葛飾区水元総合スポーツセンター、中央区立総合スポーツセンター
２７日（水）大田区総合体育館、墨田区総合体育館、港区スポーツセンター、
　葛飾区水元総合スポーツセンター、中央区立総合スポーツセンター、
２８日（木）大田区総合体育館【女子メイン会場】
　墨田区総合体育館【男子メイン会場】
２９日（金）大田区総合体育館【女子メイン会場】
　墨田区総合体育館【男子メイン会場】
３０日（土）大田区総合体育館【男女メイン会場】
１２月１日（日）大田区総合体育館【男女３位決定戦・決勝戦会場】

1



5、閉会式　日　時：１２月１日
　場　所：大田区総合体育館

6、表　彰　優勝・準優勝・３位表彰は決勝戦終了後おこなう。
優勝チーム　男子・秩父宮賜杯、女子・秩父宮妃賜杯、
　ミキプルーンスーパーカレッジカップ、賞状、ミキプルーン、
　ミズノ記念Ｔシャツ
　(公財)日本バレーボール協会杯
　(一財)全日本大学バレーボール連盟杯、芳名録、ウイニングボール、
　(公財)日本バレーボール協会杯個人盾
　(一財)全日本大学バレーボール連盟メダル
準優勝チーム　(一財)全日本大学バレーボール連盟賞状、準優勝盾、記念ボール、個人メダル、
　ミキプルーン
第３位チーム　(一財)全日本大学バレーボール連盟賞状、記念ボール、個人メダル
　ミキプルーン
個　人　賞　(公財)日本バレーボール協会　優勝監督賞、
　朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社　最優秀選手賞、敢闘選手賞、
　ベストスコアラー賞、スパイク賞、ブロック賞、サーブ賞、セッター賞、
　レシーブ賞、リベロ賞、
　ジェイ・スポーツ　ＭＩＰ賞

Ⅱ、大会参加資格

1、チーム参加資格
スーパーカレッジバレー２０１９に参加できるのは、地区学連の割り当てられた数４８チームと、東日本インカレ・西日本インカレでベスト８を獲得した学連の割り当て数１６チーム合わせて６４チームとする。なお下記の条件を満たしていること。

(1) ２０１９年度公益財団法人日本バレーボール協会登録規定により大学として登録されその在学生で構成されたチームであること。
(2) ２０１９年度全日本大学バレーボール連盟加盟校であること。
(3) ＪＶＡ個人登録（ＭＲＳ）の登録者であること。
(4) 地区学連に割り当てられた枠数プラス、東西インカレベスト８に入った地区学連に割り当てられた合計数６４
(5) 各学連の参加枠は以下の通りである。

	男子（計６４チーム）学連割り当て数	女子（計６４チーム）学連割り当て数
北海道学連	４チーム	４チーム
東北学連	５チーム	４チーム
北信越学連	２チーム	３チーム
関東学連	２１チーム	１８チーム
東海学連	８チーム	５チーム
関西学連	１２チーム	１５チーム
中国学連	５チーム	５チーム
四国学連	２チーム	２チーム
九州学連	５チーム	８チーム

2

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

平成 30 年 8 月 25 日（土）
北鹿新聞　11 面

大館
共栄大生が教育実習
協定締結 受け入れ
27日から桂城小に2人

平成 30 年 4 月 24 日（火）
秋田魁新報

大館市教委
共栄大（埼玉）から教育実習生
協定締結 8月下旬に
教育の産業化構想に「合致」

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

平成 30 年 8 月 28 日（火）
北鹿新聞　9 面

北鹿での学びどう生きる

平方小・小松教諭

「わかった」「できた」経験を

平成 30 年 8 月 28 日（火）
北鹿新聞　9 面

大館市教委と協定の共栄大

「全国トップから学びたい」

桂城小に実習生

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

平成 30 年 9 月 23 日（日）
北鹿新聞　10 面

「大館の学び」忘れない

実習終え児童と涙の別れ

平成 30 年 8 月 29 日（水）
北鹿新聞　9 面

笑顔で真剣に向き合う

弥栄小・遠藤教諭

教育実習生 北鹿で学び どう生きる

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

出　張　報　告　書

出張目的	平成31年度共栄大学との教育実習誘致に関する打合せ
出張者・応対者	出張者 北秋田市　教育長　佐藤　昭洋 秋田大学　北秋田分校長　濱田　純 〃　地方創生・研究推進課(地域協働・COC担当)　主査　今野　悟 応対者 共栄大学　学長　加藤　彰 〃　教育学部長(兼教育実習担当)　若手　三喜雄
出張日・場所	日　程：平成31年2月7日(木)～8日(金)，1泊2日 会　場：共栄大学(春日部市内牧　4158)
概　要	●打合せ日時：平成31年2月7日(木)，15:00～17:30 ◆濱田分校長から別添「大館市教育委員会作成，H30共栄大学教育実習生の受入について」及び「東成瀬村立東成瀬小学校長作成，共栄大学教育実習(概要)について」により大館市と東成瀬村での今年度の教育実習における成果・課題について説明の後，実習状況に関する意見交換を行った。 ◆北秋田市　佐藤教育長から別添資料により，今年度北秋田市における各学校での実習状況について詳細な説明の後，意見交換を行った。 共栄大学　若手学部長から，北秋田市で実習を行ったこれまでの学生の進路について次の報告があった。 ・H26　実習生数　2名⇒就職先等　2名民間 ・H27　7名　5名教員，2名民間 ・H28　5名　5名全員教員 ・H29　6名　4名教員，1名臨時講師，1名民間 ・H30　5名　5名とも教員志望 ◆共栄大学　若手学部長から別添資料により来年度の教育実習予定者数，割り振り学校等の大館市，北秋田市，東成瀬村との摺り合わせ結果について報告があり，来年度の実習についても協力願いたい旨の依頼があった。 ・H31年度 実習期間：8/26(月)～9/20(金) 実習先・実習生数：北秋田市　13名，東成瀬村　2名，大館市　5名 ◆最後に，北秋田市　佐藤教育長から，ABS秋田放送でシリーズ企画として紹介された共栄大学生の北秋田市での実習状況について，DVDにより詳細な報告がなされた。 ◇感想 COC+事業の第3の柱のひとつとして実施している事業であるが，定着してきた様に見受けられる。本学が仲立ちしなくとも，地元と共栄大学が直接やりとりして，スムーズに事業が推進している。

報告者　地方創生・研究推進課　今野　悟　(H31.2.12)

平成30年9月27日（木）
北鹿新聞　8面

「大館愛伝わった」
桂城小5、6年生　教育実習生に地元の魅力

大館の魅力を発表し合った児童たち（桂城小）

首都圏大学教育実習誘致事業　聞き取り調査から（秋田大学北秋田分校長　濱田　純）

【東成瀬村】東成瀬村小学校２名（加藤校長からの聞き取り）10 月２日午前
担当教諭から）※大学での事前指導がとてもよく行き届いていると感じた。
・池上実習生は子供の反応に応じた柔軟な展開を試みる。
指導案等を作成すると助言を求める姿勢がよい。その助言に対して鵜呑みにするのではなく必要なもの選択して取り入れている。
遅くまで頑張る。熱心な態度。
・阿久津実習生は毎日教室環境を整理する。教材研究は子供の姿に照らし合わせておこなっている。教員になりたいという熱意の高まりを感じる。
成　果）・教師にとっては、実習生を育てる視点の指導が行き届き、ほどよい緊張感が生まれている。
・子供にとっては自分たちに一番近い年代として（普段は地域の高齢者、保護者より年上の教師集団、）接することができ、生活に張りが生まれている。とてもよい刺激になり、憧れが生まれている。
課　題）・少人数教育なので、首都圏で就職した場合、35 人学級に対応できるか心配であるとのことだが、その点は心配ないと思う。
・村の活性化に繋がっている。単なる交流人口だけではなく関係人口にまでなってきている。過去の実習生が村を訪問に来るなど
・関係人口を生かす事業を展開したい。（校報を送ったらどうか）

【大館市】桂城小学校２名（根本校長、岡部教頭からの聞き取り）10 月７日午後

担当教諭から）※大学での事前指導がとてもよく行き届いている。
・平野実習生（4 年生）、小豆澤実習生（6 年生）共に探求学習に関心を示し指導案作成にも熱心で誠実によく頑張っていた。6 年生にお別れに手作りの缶バッチを作成し手渡していた。
成　果）・教師にとってはそれほどの負担感はない。実習生にとっては探求学習の経験が新鮮に映ったようだ。
課　題）・実際の授業において指導案と子供の反応の乖離が大きいことに気づき戸惑う場面が見られたが、これは当たり前のことではある。強いてあげるとすれば、実際の現場では子供の反応を予想しながら指導案を作成するということが日常なので、模擬授業等では子供理解に重点を置いた事前指導が必要と考えるが高度な課題ではある。首都圏での実習とどこが違うかといえば、同規模の学校であれば、教師の質と探求型学習であろう。（小学校：平均年齢４１～４４歳、３０代２５％、３０代２７％）

【大館市】有浦小学校３名（永井校長からの聞き取り）１０月１０日午前

担当教諭から）※大学での事前指導がとてもよく行き届いている。
・桂城小学校同様に探求学習に関心を示し指導案作成にも熱心。教育専門官の授業に感銘していた。
成　果）・教師にとってはそれほどの負担感はない。子供を授業で鍛えるという姿勢を学んだようだ。
課　題）・強いてあげるならば、実習生を受け入れる前に大学で活用した「実習の手引き」あるいはシラバスみたいな事前指導の資料があれば、提供していただけるとより効果的に行うことができる。

※市教委が自転車を貸与。補助金あり。

【大館市教委】教育長との懇談　１０月１５日午後１時～
・実習校を視察したが、とてもよく頑張っている姿が好印象。
・校内授業研究会にも参加してもらったのでいい経験になったろう。
・できれば今後も継続したい。
・今年から宿泊の半額補助をしている。

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

秋田県教育実習での学び

実習校：東成瀬村立東成瀬小学校
共栄大学教育学部　阿久津　駿

8 月 26 日～9 月 20 日の約 4 週間、秋田県の東成瀬村立東成瀬小学校にて、教育実習を行いました。東成瀬小学校での実習で体験を通して、多くのことを学ぶことができました。

一つ目は、授業についてです。秋田県では探究型の授業を行っていると伺い、具体的にはどのような授業を行っているのか、授業を参観して構成を知り、実践していきたいと感じました。実際の授業では、必ず毎時間に自分で考え意見をもち、ペアやグループ、全体などで共有をして、より自分の考えを広めたり深めたりできるような授業構成となっていました。また、「ねらい―めあて（課題）―まとめ―評価」で一貫性をもたせ、それらを達成できるような学習活動が設定されていました。これらのことから、授業を行うために、教材研究が最も重要であることを学びました。教材を基にどのような能力を子どもたちにつけさせたいのか、その方法はどうするのか等、練りに練ってよりよい授業を提供するための努力を怠ることなく教材研究をして、支援するための教具づくりを行うことが大切であると感じました。

二つ目は、生活習慣です。東成瀬小学校に行って印象深いことが、学習に対する意欲が高いことです。授業中はもちろんのこと、休み時間も学習している児童がいました。１年生で実習を行いましたが、１年生からこのような学習習慣がついていることに驚きました。校長先生からは、「このような学習習慣がつくように、生活習慣を見直させている」という主旨のお話を伺いました。実習期間中も「生活チェックシート」が配られ、起床や就寝の時間、朝ごはんの有無などの様々な項目でチェックし、健康状態を把握しながら、学習活動につなげていました。ほとんどの児童が睡眠と学習時間を確保できており、学力向上するために大切なことだと感じました。

三つ目は、環境です。まず、施設環境としては、児童館と小学校が隣り合っているため、下校後すぐに宿題に取り組んだり、様々な活動をしたりすることができていました。児童館に伺ったときに、集中して宿題に取り組む時間が設定してあり、１年生から６年生まで真剣に学習を行っていました。このような村の施設としての環境は、学力向上に向けて大きく影響していると感じました。次に、教室環境にも工夫がありました。授業で使った教具や児童の作品などの掲示物を、児童に分かりやすくきれいに整備されていました。掲示物の掲示方法にもひと手間加えるだけで、見る側の印象が全く違うことを学び、児童が喜ぶ姿に感銘を受けました。授業中でも学ぶ環境、発言しやすい環境などを教員が整備し、ルールや決まり事を設けて徹底することで、１年生をまとめていました。そして、様々なところから視察が来る環境も大きく影響していました。実習期間中も多くの視察の方々がお見えになりました。そんな中でも教員及び児童は変わらずに、普段通りの姿を見せていました。普段から見られているという意識を持つことで、教員としても児童としても緊張感をもって授業を行うことから、より質の高い学びができると考えられます。視察の方々からの学びを得る環境が、学力向上にもつながることが学べました。

以上のことの他にも、先生方や児童の皆さんから学んだことはたくさんありました。これらの学びを活かすためにも、実践して多くの経験を積むことで学びを深めていきたいと思っています。教材研究で悩んだ時や授業後のアドバイスなど、担任の先生をはじめ、多くの先生方が親身になって応援してくださいました。東成瀬小学校での学びは私にとっての財産であり、実践していきたいことが多々ありました。まだまだ実践するためには、多くの知識を得て、適切な方法を取捨選択できるような能力を身に付けていかなければなりませんが、より教員になろうという意志を高めることができる実習でした。自分が目指す教員になりたいと感じました。ありがとうございました。

秋田県教育実習で学んだこと

実習校：東成瀬村立東成瀬小学校
共栄大学教育学部　池上　雅人

私は、秋田県で教育実習を行うことを通して大きく分けて４つのことを学ばせて頂いた。

１つ目は「地域の方々や地域の中学校と連携していくことの大切さ」である。授業の中で、村の方をゲストティーチャーとして呼んだり、中学校と一緒にパークゴルフやキバナコスモスを植える活動を行っていた。この活動を通して児童が地域のことに、より興味をもったり、中学校へのあこがれや、中学校に対する不安を取り除くことができていた。それだけでなく、異年齢の人とともに活動を行っていくことを通して、地域等の様々な人と協働していく力を身に付けることができていた。

２つ目は「家庭との連携の大切さ」である。各学年で、必ず学級通信を毎週作成しており、翌週の時間割もすべて掲載していた。また、祖父母交流を学校全体で行っているなどの取り組みがあった。この取り組みにより、保護者が安心して子どもを通わせることができる環境が作られていたり、交流の場を学校が作ることにより、家庭状況の把握等にも役立てていると感じた。それだけでなく、東成瀬村は祖父母と一緒に住んでいる世帯の割合が高く、祖父母との交流の場を学校が設けることにより、学力向上につながる家庭ごとの教育力が保たれていると感じた。

３つ目は「学習習慣を身に付けさせることの大切さ」である。東成瀬小学校では、自主学習ノートを１年生を除いて行われていた。自分で学習の目標を立て、実行に移し、振り返るという一連の流れを学年に応じたページ数で毎日行っていた。また、ぐるぐるノートという友達間で回し合って行う自主学習ノートもあった。子ども自身が自らやりたい内容を考え、自分自身の行った活動を振り返ることにより、より質の高い自主学習を児童一人一人に身に付けさせることができると感じた。また、ぐるぐるノートも友達に見られるということにより、より丁寧に書こうという意識ができまとめ方やノートの見やすさにつながっているということがわかった。

４つ目は「探究型の授業の素晴らしさ」である。秋田は探究型の授業を行っており、埼玉県で見てきた授業とは大きく異なっていた。児童自身が課題に対して自ら考えていき、友達と深めていく姿や、ハンドサインを用いて全員が必ず授業に参加する姿は自身が教員となる際に大切にしていきたいと感じた。また、授業の中での教員の関わり方も、教師がしゃべりすぎるのではなく、子ども達の言葉から授業を進めていく姿は私自身の課題の解決につながってくると考えた。

以上に挙げた４つが、私が秋田実習を通して大きく学んだことである。そして、これから教員となっていく上で、埼玉県の取り組みをしっかりと把握した上で、秋田で学んできたことが行えるかどうかをしっかりと考え、可能な範囲で実践していきたいです。また、実践だけでなく子ども達を第一に考えて、日々授業を実践している先生方を手本に、これからも学び続けていきたい。

教育実習を通して学んだこと

実習校：大館市立桂城小学校
共栄大学教育学部　平野航大

私は桂城小学校での教育実習を通して、３つのことを学びました。

１つ目は、授業についてです。大学でも模擬授業は何度も行ってきましたが、大学生が児童役だったため、実際に児童に向けて授業を行うのは初めてでした。授業の流れをある程度知っている大学生とは違い、児童たちはそれぞれわかるところ、つまずくところが異なるため、あらゆる事態に備えて授業をつくっていくことが大切であると身をもって感じました。また、その準備に終わりはなく、常に考え続けていくことが大切であることも学びました。

２つ目は、教師としての児童への接し方についてです。これまで何度かボランティアの学生として児童たちと接する機会はありましたが、教師として接するのは今回が初めてでした。教師はあらゆる面で児童に指導することが仕事です。ボランティアの学生のように、楽しく仲良くというのも大切ではありますが、教師は児童に「道を示す」ということをしなければいけない立場です。時には叱らなければいけない場面もあります。その時に児童の心に言葉を響かせることができる教師でなければいけません。教師の言葉が響かなければ、児童自身が自分のしたことの何がいけなかったのか気づくことができず、児童のためになりません。そのためにも児童たちに、「優しい、楽しい、面白い」と思われるだけでなく、同時に「尊敬」される、良い距離感を保った教師ではいけないと学びました。

３つ目は、教育の取り組みについてです。まず、大館市全体の取り組みとして「大館ふるさとキャリア教育」というものがありました。これは、地域が一体となって学習を行い、大館の未来を支える子どもたちを育てていくというものです。実際に各学校ごとに様々な活動が行われていて、桂城小学校でも地域の伝統的な祭りに参加したりなど様々な形で「大館ふるさとキャリア教育」をみることができました。

また、桂城小学校では１学級を２チームに分けた少人数指導が導入されていて、質の高い授業が行われていました。例えば、Ａチームが社会、Ｂチームが理科をやり、次の時間にＡチームが理科、Ｂチームが社会をやることで、同じ時間割でも児童一人一人に指導の行き届いた質の高い授業を行うことができていました。この他にも、算数・音楽・図工の授業が２チームに分かれて行われていました。このような取り組みが徹底されることで、勉強が苦手な子の学力が向上し、勉強の得意な子との差が縮まって学力の底上げにつながっていくのだと学ぶことができました。

最後に、今回の桂城小学校での教育実習は、先生方・子どもたち・地域の人々などたくさんの支えがあって、楽しく学ぶことができました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

また、今回の教育実習を通して小学校の教員になりたいという思いがより強くなりました。学んだことはこれだけではなく、他にもたくさんあります。中には失敗から学んだこともありますが、これらの学びを生かし、日々学び続けるという姿勢を忘れず、教員になるため、気持ちを改めて一生懸命頑張っていこうと思います。

大館市立桂城小学校での教育実習を終えて

実習校：大館市立桂城小学校
共栄大学教育学部　小豆澤賢也

異郷の地で行う4週間の教育実習は，私にとって非常にあっという間の日々でした。一日一日が学ぶ事ばかりで，中身の濃い４週間を過ごさせていただきました。このような中で，私が今回の教育実習で学んだ事は３つあります。

１つ目は，先生の仕事についてです。私が小学校で過ごしてきた６年間やボランティアなどでは知ることのなかった，子どもたちが帰った後に何をしているのかというのを学べたことです。先生方は，授業準備の他にも，生徒指導や行事等の準備など様々な業務を行っていることを知ることができました。また，研究授業の協議会に参加できたことも大きな学びとなりました。

２つ目は，少人数指導の実践についてです。今までに少人数指導を経験したことがなく，桂城小学校で初めて少人数指導の実践について見ることができました。少人数指導は一人ひとりの進度を見ながら授業を進めることができ，児童全員が授業に参加できるようになっていました。実際に，授業を行った時も，少人数で行った方が，児童のノートの中身もしっかりとみることができ，より子どもの状況をみながら授業を進められることが出来る授業になると思いました。また，教科担当制のような形になることで，教材研究を深くすることができ，よりよい授業作りはもとより、先生方の負担軽減につながっていることなど，児童と先生どちらにもメリットを感じることができました。

３つ目は，子どもの主体性を高める授業への取り組みです。私は今までに，学生相手に模擬授業をやったことはあったものの，子どもたちを対象に授業を行うのは，今回の教育実習がはじめての経験でした。子どもから出てくる言葉を使い授業を行うことで，子どもがより意欲的に参加をする授業が行っていました。しかし，それは行き当たりばったりなわけではなく，先生は意図を持ち計画的に行われていました。これは，私が学べたことでもあり，今後どのようにしてこのような授業を達成していくのか，学ばなくてはいけないことだと思いました。

４つ目は，子どもの思考を高める授業への取り組みです。桂城小学校では，チャレンジタイムとチェンジタイムを今学期から取り組んでおり，私にとってはこのような事は初めての経験であったためとても勉強になりました。チャレンジタイムでは個人の考えを全体に，チェンジタイムではチャレンジタイムで考えたこと全体の考えを再び個人で考えるようにしていくことで子供の思考がより高まっているように感じました。しかし実際に授業行ってみて，チャレンジタイムとチェンジタイムをどの段階で設けたらいいのか悩みました。子供の思考を高める授業づくりをする上でどのような構成で行っていくのかを今後学んで行かなくてはいけないことだと感じました。また，研究授業の協議会でもチャレンジタイムとチェンジタイムが話題に上がり，どこでそれを設けるのかというのを先生たちも試行錯誤していることを知ることができました。先生方も日々試行錯誤しながら授業づくりを行っているということを知ることができたことも私にとって大きな学びとなりました。

私は今回の教育実習で以上の4つを学ぶことができました。この学びを無駄にせず，今後の学びに生かしていこうと思います。

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

秋田県教育実習で学んだこと

実習校：大館市立有浦小学校
共栄大学教育学部　大場茉穂

はじめに、今回の教育実習は一生の思い出となる貴重な機会となりました。教育実習で学んだことについて、教師としての立場と児童の視点からまとめていきたいと思います。秋田県で教育実習を行わせていただけたことに心より感謝しております。

（1）大館ふるさとキャリア教育

大館市の教育委員会では「大館ふるさとキャリア教育」という独自の教育理念を掲げており、各校の教師たちはこの理念をもとに未就学児から高等学校までの教育にあたっている。大館市は、少子高齢化による人口減少など大館市の存続の危機に関する諸問題を市長と教育長が本気で向き合い、解決していこうとしている。そこで解決策として考えられた「大館ふるさとキャリア教育」はふるさとである大館市に根差し、大館市の未来を切り開く人材を育成することを目的としている。この教育理念は新学習指導要領にも参考にされており、似ているところがある。今回の教育実習ではこのような日本の未来を担う人を育てる教育の先駆けとなった大館市の教育を学ぶことができた。

（2）児童主体の学校づくり授業づくり

有浦小学校は委員会活動やクラブ活動、部活動に力を入れている二足の草鞋を履いた児童がほとんどである。特に部活動で大会やコンクールが近づくと夜まで練習していることもある。夜まで個々の活動に専念していても昼に授業中にぼーっとしていたり昼休みに昼寝したりする児童の姿は見当たらなかった。私が秋田で一番感じたことは児童たちの集中力がすごいことである。授業中は児童の発言や思考時間で４５分があっという間に過ぎてしまう。児童たちの集中力の秘密は、先生が授業しているように見えて子どもたちが授業をつくっているところにある。子どもたちが授業をつくるというのは、課題設定を子どもたちとすることが当たり前であったり、友達の発表を助けたり、気づいたりするようなことである。その際にはハンドサインや反応カードなど教師は子どもたちが意欲的に活動できるような支援を行っていた。

（3）チームで子どもを見ているよさ

よい授業はよい学級づくりからと大学で学んだが、そのよい学級づくりはどのようにすればつくれるのか疑問であった。児童を見送り職員室に戻ってくると先生方は子どもたちのことを話したり、行事のことについて話し合ったり、常に子供たちのことを考えている。また、先生方は職員室で自分のクラス以外の児童のことまで把握し、担任の先生に報告している。担任の先生と児童の成長を共感したり、児童の行動の意味を考えたりするなど、報告だけでなく一緒に見守っているというスタンスであった。担任の目がないところでの児童の様子を知ることは児童理解へつながる。今回の実習を通し、子どもをよく見て、よく考えている先生方がいるから、よい学級が成り立つということを学んだ。

最後に、実りある実習となったことを教育委員会の皆様をはじめ学校の校長先生と教職員の方子どもたちそして、旅館の方々など関わったすべての方に感謝致します。

秋田県での教育実習を通して

実習校：大館市立有浦小学校
共栄大学教育学部　北郷雅子

私は秋田県の大館市立有浦小学校第 4 学年で教育実習を行わせて頂いた。教育実習を通して児童の様子や学習の行い方など学習面、生活面のそれぞれに気づくことがあった。

まず学習面である。有浦小学校では挙手をする際に答えを言うための発表だけでなく、発表に詰まった児童やわからない児童を助ける「助けます」、発表した児童の意見に対して感じた疑問を質問する「質問です」、同じ意見であっても自分なりの言葉で発表する「似ています」や「自分の言葉で言います」という発表の仕方があった。実際に私が授業をさせて頂いた算数の授業で「0～9 までの数字を一回ずつ使い一番小さな数を作る」という問題があり、「1234567890」「1023456789」「0123456789」の 3 つの答えが出されどれが正解なのか児童同士で質問や発表をしあい答えを考えた。このように児童がお互いの意見を聞き、助言や質問を行う発表の仕方が身についていることで発表が活発化し積極的に意見を発表しようとする児童や、自分の意見をより深く考える姿が見られた。他にもノートの取り方が学校指定のものであった。ノートは基本的には 1 回の授業で見開き 1 ページを使用し、自分の意見や友達の意見、分かったことや学んだことを書く部分が決められていた。児童の中にはノートをとる速さに差があったり、なかなかノートを書き出せなかったりする場合があり、ノートの取り方が決められていることで書きやすくなることや見返したときにわかりやすいノートを作ることができると考えた。また学習するうえでの基盤の一つであるノートの取り方が決められていることで、学年が変わったり単元が変わっても迷わず書いていくことができ学習の取り組みに対する苦手意識を減らすことにもつながると考えた。

次に生活面である。有浦小学校での児童の清掃活動は 1 年から 6 年までの各学年を縦割りにして班を作り行っていた。そのため、1 年生を 3、4 年生が手伝っていたり 6 年生が指示をしてスムーズに行ったりする姿を見ることができた。異年齢の交流が学級内では児童同士で遊んでいる児童も下級生の面倒を見ることや率先して助けることなどに繋がっており、自己中心的でなく周りを見て行動することができる人格形成につながっていると考えた。また清掃活動の班で遊ぶ時間も月に 1 度ほどのペースで作られていて、学級や学年だけでの繋がりではなく学校全体で繋がり活気のある雰囲気を感じた。

大館市教育長の方と話をさせて頂く機会があったときに、児童自身の世界ではなく周りの児童や先生方などとの繋がりを大切にしているという言葉があった。有浦小学校の児童は困っている人がいたときに率先して動ける児童という印象があり、お互いに助け合ったり協力して活動できる児童一人ひとりの人間性の高さを感じることができた。先生方も児童に指示をするだけでなく、場面や状況に応じてどのように動くべきなのかを考えさせる発問や声掛けを行っており、児童自身が考えて行動できる力を養っているように感じた。このような小学校で実習をさせて頂けて本当に貴重な経験となった。また、教員としての授業構成や児童への関わり方だけではなく、秋田県独自の教育への取り組みも学ぶことができた。今回の経験を忘れず、これからの大学での学習や教員採用試験に生かしたい。

秋田県での教育実習を終えて

実習校：大館市立有浦小学校
共栄大学教育学部　吉田莉奈

1 はじめに

私が実習をさせていただいた小学校である、秋田県大館市立有浦小学校は、学級数 21・児童数 510 人であり、部活動が盛んで活気のある学校であった。私が入らせていただいた学級は 5 年 1 組で、研究授業等の授業実習は全てこの学級でやらせていただいた。

2 成果

今回の実習での成果は、主に 2 つ挙げられる。1 つ目は注意や指示の仕方についてのこと、2 つ目に授業についてのことである。

1 つ目の注意や指示の仕方について、実習をする前までは小学生だから 1 から 10 まで細かく説明する必要があると思っていたが、学年や学級の子どもたちに応じて、指示の出し方は工夫する必要があることを学んだ。例えば私が入らせていただいた学級は、5 年生であり、自然教室といった宿泊学習のような大きな行事も経験しているため、学級の雰囲気にも慣れて、自分で考えて行動することができる状態であった。そのため担任の先生は、これをしましょうというのではなく、今何をしなければならないのかと子どもたち自身に考えさせるよう促していた。また注意については、ただやってはいけないことを注意して聞かせるのではなく、なぜやってはいけないのかという理由を説明し、納得させてから反省させるというようにされていた。今まで子どもに注意することが苦手だったため、とても勉強になった。

2 つ目に授業について、有浦小学校には教育専門官という算数のプロのような先生がいらっしゃったため、算数の授業は特に様々な学びがあった。有浦小学校の算数は、今まで自分が行ったことのある小学校の中で最も、子どもたちが多く活動する授業であった。毎時間の授業の流れは、はじめに例題を考え、学習問題を立て、見通しを立てたら自力解決し、共有、まとめを行い、練習・確認問題となっており、自分の考えを書いて表したり、友達に伝えたりする活動が多かった。そのためこの実習を通して、主体的な授業というものがどのようなものなのかを学ぶことができた。自分自身の行った授業については、初めのほうは 45 分間に収めることに精一杯であったが、次第に予想される児童の反応などを考えながら授業準備を行ったり、つまずきそうな個所を予想して教材を工夫したりすることの大切さを実感することができた。しかし課題も多く残った。

3 課題

今回の実習を通して出た課題は、まず授業について、自分が意図していない答えが返ってきてしまったときに上手くかわせず脱線しそうになってしまうことがあったこと。

授業以外では、子どもたちととても仲良くなれたのだが、仲良くと馴れ合いの境目が難しく、どこまで関わってよいのかについての疑問が残った。

出た課題については、大学での授業や、実際に小学校の先生方にお聞きするなどをして解決していきたい。そして秋田県での教育実習という貴重な経験をさせていただいたことを感謝し、精一杯勉学に励みたいと思う。

分野4資料【平成 30 年度・令和元年度】

事業運営・情報発信等

⑫　「秋田創生COC+協議会」の開催

⑬　COC+外部評価委員会の開催

⑭　情報発信

平成 30 年度　COC+事業
第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

７月１７日（火）、秋田大学本部管理棟３階第１会議室において、第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。同協議会は、秋田大学をＣＯＣ＋大学（事業責任大学）とするＣＯＣ＋事業について、事業協働地域（秋田県）が一体となって取り組むための「協議の場」として設置されており、発足から今年で３年目を迎えます。

はじめに、本学の山本文雄学長が「県内就職率について、高い数値目標を掲げて取り組んでいるが、大変厳しい状況にある。大学の取り組みを成果に結びつけるためには、行政・経済界の理解と協力が必須である。連携した取組に向け、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたい。」と挨拶しました。

引き続き、事務局から平成 29 年度 COC+事業実績の報告や平成 30 年度事業計画について説明がありました。また、秋田県からは県内高等教育機関卒業生の県内定着に向けた取組として、あきた回帰キャンペーンの展開や奨学金返還助成制度、就活情報サイト「こっちゃけ！」等について紹介がありました。

これらの報告や説明を受け、出席者からは次のような意見や質問がなされました。

○秋田に残ってどう貢献していけるのか、学生に対して企業側も働きかけなければならない。

○県の奨学金返還制度等を大学で周知する機会はあるのか。参考事例や若手経営者の情熱を伝える企画も併せれば学生のモチベーションになるのではないか。

○秋田に残りたいと希望する学生に絞り込んで、徹底的にヒアリングし、企業とマッチングしていく方が現実的ではないか。

○大学でどういった分野の学生を育成しているかについて情報提供するとともに、企業別にどういった学生を採用するのが的確かについて提案できる情報交換会であれば、マッチングが進めやすいと思う。

○ジョブシャドウイングには期待している。秋田への愛着を深める「地域学」や「秋田学」についても、今後、更に取組を強めてもらいたい。

最後に、山本学長が「いただいたご意見を参考に、モディファイできるものはしていきたい。」とまとめ、大学と事業協働機関が一体となって、今後も目標達成に向けて協力していくことを確認しました。

議会の様子

（秋田大学・山本学長）

（秋田県・堀井副知事）

（秋田商工会議所・三浦会頭）

平成30年度第1回秋田創生ＣＯＣ＋協議会

日時　平成30年7月17日（火）13：30～15：00
場所　秋田大学本部管理棟3階　第1会議室

次　　第

１．開　　会

２．協議事項等

（１）平成29年度ＣＯＣ＋事業実績について

（２）平成30年度ＣＯＣ＋事業計画について

（３）その他

３．閉会

資料１：平成29年度ＣＯＣ＋事業実績
資料２；ＣＯＣ＋事業秋田大学ホームページ掲載記事
資料３：秋田大学キャリア認証プログラム履修案内
資料４：秋田県立大学ジョブシャドウイング
資料５：県内高等教育機関卒業生の県内定着に向けた取組について（秋田県）
資料６：数値目標の達成状況
資料７：秋田大学学部毎の県内就職状況の推移
資料８：平成30年度ＣＯＣ＋事業計画

参考資料１：秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要項
参考資料２：教育プログラム開発委員会規程
参考資料３：6大学「秋田おらほ学」検討委員会設置規程

平成２９年度ＣＯＣ＋事業実績

１．第１の柱（６大学連携による『秋田おらほ学』の展開）関係
（１）「教育プログラム開発委員会」及び「6大学秋田おらほ学検討委員会」を開催
9月26日に「教育プログラム開発委員会」及び「6大学秋田おらほ学検討委員会」を開催し、各校の地域を志向した教育プログラムの進捗状況を確認するとともに、他県の大学の取組をベースに、平成30年度に構築する共通の認証制度（6大学「秋田おらほ学」認証）に関する論点整理や今後の取組のスケジュール等について協議検討を行った。（資料２－①・②参照）
（２）先進地視察の実施（秋田大学）
12月1日に福井大学と富山大学を訪問し、地域を志向した教育プログラムを中心に取組状況を視察し、意見交換・情報収集を行った。
また、その成果を踏まえ共通の認証制度について、秋田大学と秋田県立大学、秋田工業高等専門学校で個別に協議を行い、論点整理を進めた。
（３）秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラムのスタート
平成29年度から、地域課題解決に主体的に行動できる人材の育成を目的とした全学共通の「ＣＯＣキャリア認証プログラム」をスタートさせ、第1期修了者95名を輩出した。（資料２－③参照）
また、平成30年度の同プログラムにおいて地域志向科目を10科目増やすこととし、新たな履修案内を作成した。（資料３参照）
（４）秋田大学全学ＦＤ／ＳＤシンポジウムの開催
3月16日に「全学ＦＤ・ＳＤシンポジウム」を開催し、学内外の大学教職員に対してＣＯＣ＋事業の概要説明を行うとともに、「地域志向科目におけるアクティブラーニングの実践」をテーマに、事例報告とパネルディスカッションを実施した。（資料２－④参照）
（５）秋田県立大学「あきた地域学課程」のスタート
全学1年生必修科目の「あきた地域学」を開講し、様々な分野の外部講師による講義や、地域での実地研修等を実施し、397名が修了した。
（６）秋田工業高等専門学校「ＣＯＣ＋授業」等の実施
「ＣＯＣ＋授業」として、「地域産業Ⅰ」、「地域産業Ⅱ」及び「地域計画」の3科目を学外の実務家教員等により開講するとともに、「ＣＯＣ＋講演会」として、全学生を対象に外部の実務家による地域の企業や産業等に関する講演会を8回開催した。

２．第２の柱（３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進）関係
（１）「秋田就職サポート会議」の開催（秋田大学）
6大学の就職担当者と事業協働機関の実務者をメンバーとする「秋田就職サポート会議」を8月9日と1月31日に開催し、各大学の取組に関する情報共有、意見交換を行うとともに、採用側の各企業等の大学や学生への積極的な対応を促した。（資料２－⑤・⑥参照）
（２）「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催
秋田県との共催により、秋田大学と秋田県立大学を会場として県内製造業者等の企業展を開催した。（資料２－⑦参照）
（３）「秋田大学と県内企業の情報交換会」（企業向け採用活動セミナー）の開催
秋田大学と県内企業との情報交換会を開催し、学生への有効な情報発信やアプローチについての情報共有、研修を行った。（資料２－⑧参照）

（４）秋田県立大学「ジョブシャドウイング」の実施
1・2年次生を対象にした「ジョブシャドウイング」（観察型の1日インターンシップ）を県内20社で実施し、昨年度の約2倍の107名が参加した。また、実施企業との協働によるオーダーメイドのインターンシッププログラムを開発した。（資料４参照）
（５）秋田工業高等専門学校「地域密着型校外実習」等の実施
4年生の選択科目として「地域密着型校外実習」を実施し、39名が県内企業におけるインターンシップを実施した。また、「ＣＯＣ＋研修会」として、インターンシップをテーマとした研修会を開催するなどにより、受入企業の拡大を図った。

３．第３の柱（ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）関係（秋田大学）
（１）首都圏大学のスポーツサークル合宿等の誘致活動の実施
男鹿市に専修大学及び東京農業大学フェンシング部の合宿を誘致し、8月23日～30日にかけて実施された。
また、30年度の合宿実施に向けて、2月15～16日に国士舘大学、日本体育大学、専修大学及び神奈川大学を訪問し誘致活動を行った。
（２）首都圏大学の教育実習誘致活動の実施
共栄大学の東成瀬村での教育実習を誘致し、8月28日～9月22日の日程で教育実習が行われた。（資料２－⑨参照）
また2月24日に十文字学園女子大学を訪問し誘致活動を行うとともに、平成31年度の受入候補地となる大館市との協議を行った。
（３）聞き書きボランティア養成講座の開催
横手市において高校生による聞き書きボランティア活動を展開するとともに、11月11日と12月16日に市民・学生を対象とした養成講座を開講した。（資料２－⑩参照）
（４）コグニサイズ普及活動の展開
6月27日～2月22日まで18回にわたり男鹿市民20名を対象にコグニサイズ運動を実施した。（資料２－⑪参照）

４．事業協働地域共通の取組
（１）「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催
7月13日に「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」を開催し、平成28年度の事業実績及び平成29年度の事業計画等について協議した。（資料２－⑫参照）
（２）全国シンポジウム等への参加
11月19日・20日に岩手大学で開催された「北海道・東北ブロックＣＯＣ＋推進コーディネーター会議」に出席し情報交換・意見交換を行った。
また、3月3日に高知大学で開催された「ＣＯＣ/ＣＯＣ＋全国シンポジウム（第2部）」に参加し、他大学の地元就職促進の取組について情報共有・意見交換を行った。
（３）地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ＋）フォーラムの開催
3月6日に秋田大学において「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）フォーラム」を開催し、参加校も含めた各校の地域を志向した教育プログラム改革や学生の県内就職促進に関する3年間の取組の実施状況とその成果、今後の取組について発表し、今後の事業展開に反映させるための意見交換等を行った。（資料２－⑬参照）
（４）ＣＯＣ＋事業パンフレットの作成及び外部評価の実施
ＣＯＣ＋の事業概要や実績、今後の取組をまとめたパンフレットの作成や、過去3年間の事業実績に関する外部評価の実施ついて準備を進めたが､実施に至らなかったことから、平成30年度に実施を繰り越した。

平成３０年度ＣＯＣ＋事業計画

１．第１の柱（６大学連携による『秋田おらほ学』の展開）関係
（１）６大学共通の「秋田おらほ学認証制度」の構築
「教育プログラム開発委員会」及び「6 大学秋田おらほ学検討委員会」を開催し、各大学の独自の認証制度や他県の先進事例を参考に、６大学共通の秋田おらほ学認証制度を構築するとともに、ＰＲパンフレットを作成し、企業、団体への個別説明を実施するなど、３１年度からの認証制度実施に向けた準備を進める。
（２）秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラムにおける「地域志向科目」の拡充
① 教養基礎教育科目における地域志向科目の拡充
② 理工学部創造生産工学コースにおける「プロジェクト実践研究Ⅱ」の継続と他コースへの拡大の検討（「あきた未来カフェ事業」）
（３）秋田県立大学「あきた地域学課程」の拡充
「あきた地域学」の全学必修の継続実施と、その上級課程カリキュラム「あきた地域学アドバンスト」の開始
（４）秋田工業高等専門学校「ＣＯＣ＋授業」等の実施
「ＣＯＣ＋授業」として、「地域史」、「地域計画」、「地域産業Ⅰ」及び「地域産業Ⅱ」を開講する。また、「ＣＯＣ＋講演会」を継続実施し、実務家教員等による地域教育、キャリア教育、知財教育、起業教育等を実施する。

２．第２の柱（３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進）関係
（１）「秋田就職サポート会議」の開催（年２回）
ＣＯＣ＋事業協働機関等による「秋田就職サポート会議」を開催し、それぞれの取組についての情報共有を図ると共に、連携した取組実施に向けた協議を行う。
（２）「大学と県内企業の情報交換会」（企業向け採用活動セミナー）の開催
大学と県内企業との情報交換会を開催し、学生への有効な情報発信やアプローチについての情報共有、研修を行う。（９月）
（３）「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催
大学を会場として県内製造業者等の企業展を開催する。（１０月）
（４）県内企業によるインターンシップセミナーの開催
大学を会場として、県内のインターンシップ受入企業による事業内容やインターンシッププログラムを学生にプレゼンする会を開催する。（５月）
（５）ジョブシャドウイングの試行（秋田大学）
秋田県立大学と連携し、学生の夏季・春季休業を活用した短期間観察型のインターンシップを試行する。
（６）秋田県立大学「ジョブシャドウイング」等の継続実施
ジョブシャドウイングを継続実施するとともに、インターンシップコーディネーターの企業訪問による受入企業の拡大、受入先との協働による実習プログラムの開発を実施する。
（７）秋田工業高等専門学校「地域密着型校外実習」等の実施
① 地域密着型校外実習、地域課題解決型卒業研究の実施

② 職業訓練教育プログラムの導入（専攻科長期インターンシップ）
③ ＣＯＣ＋研究会等の実施（学内研究成果発表会）
④ ＣＯＣ研修会の実施

３．第３の柱（ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）関係
（１）首都圏大学のスポーツサークル合宿等の誘致活動の実施
連携自治体（男鹿市等）と連携し、首都圏大学等のスポーツサークル等の誘致活動を行う。
（２）首都圏大学の教育実習誘致活動の実施
連携自治体（大館市等）と連携し、首都圏大学等の教育実習の誘致活動を行う。
（３）聞き書きボランティア養成講座の開催
連携自治体（潟上市、横手市）と連携し、高校生を中心とした聞き書きボランティア養成講座を開催するとともに、聞き書き指導者のスキルアップのための研修会に参加する。
（４）コグニサイズ普及活動の展開
潟上市において、認知症予防を目的としたコグニサイズ運動を展開するとともに、これまでの成果を取りまとめた中間報告書を作成し、報告会を開催する。また、コグニサイズ指導者増員を図るため国立長寿医療研究センターでの研修を受講する。

４．事業協働地域共通の取組
（１）「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催
秋田創生ＣＯＣ＋協議会を開催し、前年度の取組実績や平成３０年度の事業計画等について協議、検討する。
（２）ＣＯＣ＋事業パンフレットの作成
ＣＯＣ＋の事業概要や実績、今後の取組をまとめたパンフレットを作成し、ＣＯＣ＋事業の情報発信を行う。
（３）外部評価等の実施
過去３年間の事業実績についての外部評価等を実施する。

令和元年度　COC+事業
第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

７月 25 日（木）、秋田大学本部管理棟３階第１会議室において、令和元年度第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

はじめに、本学の山本文雄学長が「県内就職率 10 ポイントアップを掲げて取り組んでいるが、大変厳しい状況にある。これまでの取組が効果を発揮し、成果に結びつけるためには皆さんのご理解とご協力が必要である。今一度ご助力賜りたい。」と挨拶し、開会しました。

続いて、事務局から平成 30 年度 COC+事業実績の報告や令和元年度事業計画について説明がありました。また、秋田県からは県内定着に向けた主な取組として、学生と保護者に向けた就職情報誌の配布・セミナー開催やあきた女子活応援サポーター、奨学金返還助成制度などを中心に紹介がありました。

これを受けて、出席者からは次のような意見や質問があり、協議がなされました。

○大都市圏と秋田県の生活コストの違いをもっと打ち出し、県内就職の魅力を学生に伝えるべきだ。
○県外を希望する学生に対し、県内の同業種の企業を逆マッチングしてはどうか。
○事業協働機関としても、企業と学生のマッチングや、大学教職員との情報交換会を検討したい。
○採用担当者だけでなく企業経営者へ直接アプローチをしてはどうか。
○看護系学生の地域枠や奨学金や補助金制度の拡充について検討が必要だ。

最後に、堀井啓一副知事が「秋田県にとっても、地域がこれから持続可能な社会を維持できるかという課題の根幹をなす対策の部分であり、今後も取組を進めていきたい。」とまとめ、大学と事業協働機関が一丸となって、今後も県内就職率アップに向けて相互に協力していくことを確認しました。

協議会の様子

秋田大学・山本学長

秋田県・堀井副知事

秋田県立大学・小林学長

令和元年度第１回秋田創生ＣＯＣ＋協議会

日時　令和元年７月２５日（木）　１５：００～
場所　秋田大学本部管理棟３階　第１会議室

次　　第

１．開　　会

２．会長あいさつ

３．協議事項等
（1）平成３０年度ＣＯＣ＋事業実績について
（2）令和元年度ＣＯＣ＋事業計画について
（3）その他

４．閉会

【添付資料】
資料１：平成３０年度ＣＯＣ＋事業実績
資料２：ＣＯＣ＋事業ホームページ掲載記事
資料３：秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム履修案内
資料４：ＣＯＣ＋事業パンフレット等
資料５：秋田おらほ学認証制度パンフレット
資料６：秋田県立大学資料
資料７：秋田工業高等専門学校資料
資料８：数値目標の達成状況
資料９：秋田大学県内就職状況関連資料
資料 10：令和元年度ＣＯＣ＋事業計画
資料 11：秋田県資料
別添資料１：秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要綱
別添資料２：教育プログラム開発委員会規程
別添資料３：6 大学「秋田おらほ学」検討委員会設置規程

平成 30 年度ＣＯＣ＋事業実績

１．第１の柱　６大学連携による「秋田おらほ学」の展開

（１）６大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築【資料 2－①】

地域を志向した教育プログラムに関する６大学共通の認証制度として、1 月 25 日付けで「６大学連携による『秋田おらほ学認証』に関する要項」を制定し、同認証制度を構築した。30 年度は秋田大学 24 人、秋田県立大学 8 人を第 1 期の秋田おらほ学認証者と認め、31 年 4 月に認証書を交付した。

（２）秋田大学「ＣＯＣキャリア認証プログラム」の実施【資料 3】

①地域課題解決に主体的に行動できる人材の育成を目的とし、一定数の地域志向科目を修得した学生に称号を授与する「ＣＯＣキャリア認証プログラム」をスタートさせ２年目となる今年度は修了者 108 人（前年度 95 人）を輩出した。

②地域志向科目の拡充を進め、平成 31 年度から教養基礎教育科目における主題別科目（地域志向・キャリア形成）において、「秋田のくらし」や「秋田の産業」など新たに８科目、理工学部においても県内企業と連携した課題解決型授業として、従来の「プロジェクト実践研究Ⅱ」に加え、「プロジェクト実践Ⅰ・Ⅱ」の２科目を新たに開講することとなった。

（３）秋田県立大学「あきた地域学課程」の実施

秋田県立大学は、あきた地域学課程（標準コース）の必修科目である「あきた地域学」を継続実施し、修了した 413 人（前年度 397 人）が標準コースの認定を受けた。また、平成 30 年度から、同課程（上級コース）の必修科目である「あきた地域学アドバンスト」を開講し、34 人が修了した。さらに、このうち 23 人が、上級コース認定に必要な選択科目を修了し、上級コース認定を受けた。

（４）秋田工業高等専門学校「ＣＯＣ+授業」等の実施【資料 7－①・②・参考資料 1】

「ＣＯＣ＋授業」として「地域産業Ⅰ」「地域産業Ⅱ」、「地域史」、「地域計画」を開講するとともに、総計 680 人の本科学生に対する、地域の実務家教員６人による６回の「ＣＯＣ＋講演会」を開催して、地域の技術の特色、課題についての講演を行った。

２．第２の柱　３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

（１）「秋田就職サポート会議」の開催【資料 2－②・③】

８月８日と１月 31 日にＣＯＣ＋事業に参画する６大学と秋田県や県内経済団体などの事業協働機関等で構成する「秋田就職サポート会議」を開催し、県内就職実績や就職動向および各大学の取組について情報共有、意見交換を行い、大学と事業協働機関の連携した県内就職支援の取組を実施していくことを確認した。

（２）「インターンシップセミナー」の開催

５月 23 日、平成 30 年度のインターンシップ受入予定企業による学生へのプレゼン大会として「インターンシップセミナー」を開催した。参加企業 13 社により学生約 100 人へ企業内容、インターンシップ内容等について説明を行い、学生のインターンシップ参加を促進した。

（３）「大学と県内企業による情報交換会」の開催【資料 2－④】

秋田大学で昨年度から取組を始めた、「大学と県内企業による情報交換会」（企業向け採用活動セミナー）について、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校との３大学連携事業として、９月５日に北秋田市、６日に本学、７日に横手市を会場として開催した。合計 79 社の参加があり、県内企業による採用活動の事例紹介や３大学と企業との個別相談会などにより、県内企業に対し学生への積極的なアプローチの実施を促した。参加者からは、「有益な情報が得られた。」、「学生採用について背中を押されたように感じた。」などの前向きな意見があった。

（４）「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催【資料 2－⑤】

秋田県との連携により、10 月 17 日秋田県立大学、10 月 23 日秋田大学において、「秋田ものづくりオープンカレッジ 」を開催し、高度な技術をもった県内の自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の４分野に携わる 38 社のブース出展と県内企業２社の講演会を実施した。企業展来場者は秋田大学、秋田県立大学の両会場とも約 250 人、講演会聴講者は両会場合わせて約 170 人あり、県内企業の事業内容や製品の紹介、企業の魅力を多くの学生に伝えることにより、学生と県内企業とのマッチングを促進した。

（５）秋田県立大学「ジョブシャドウイング」の実施【資料 2－⑥・⑦、資料 6】

秋田県立大学において短期間の職場観察型インターンシップであるジョブシャドウイングを実施し 23 社において 113 人の学生が参加した。前年度まで秋田県立大学が単独で実施していたが、平成 30 年度度より一部企業において秋田大学でも参加学生の募集を行い、秋田県立大学とともに秋田大学の学生７人が６社に参加した。

（６）秋田工業高等専門学校「地域密着型校外実習」等の実施

【資料 7－①・参考資料 2・参考資料 3・参考資料 4】

秋田工業高等専門学校においては、4 年生の選択科目として「地域密着型校外実習」を開講し、31 人が県内企業におけるインターンシップを実施した。また、「ＣＯＣ＋研修会」として県内企業２社を会場に工場見学と研修会を行い開催企業との連携強化を図った。秋田高専産学協力会会員 42 社参加による「県内企業を知る会」の開催にて、学生 98 人に向け企業内容およびインターンシップ内容の情報公開を実施した。

３．第３の柱　ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり

（１）「聞き書きボランティア養成講座」の開催【資料 2－⑧・⑨・⑩】

７月６日に秋田西高校 12 人、金足農業高校 13 人の生徒を対象とした「聞き書きボランティア養成講座」を開催した。７月 24 日には潟上市の高齢者 15 人に対して、秋田西高校の生徒によるボランティア実践活動を実施し、10 月 25 日に作成・製本した聞き書き小冊子の贈呈会を開催した。

（２）「コグニサイズ」普及活動を展開および「コグニサイズ」指導者の養成

【資料 2－⑪・⑫・⑬】

①10 月 10 日から３月６日まで潟上市の高齢者 22 人を対象に計 21 回の「コグニサイズ教室」を開催した。

②10 月 17 日、コグニサイズ運動の全県への普及拡大を図るため、当初 31 年度に計画して

いたコグニサイズ運動の実施状況についてのシンポジウムを、潟上市において「コグニサイズ事業中間報告会」として開催した。自治体、医療福祉関係者及び一般県民等 73 人出席のもと、コグニサイズの概要紹介、東成瀬村と男鹿市での実践事例を大学・自治体・参加者の立場から報告および地域包括支援センター等の県内自治体関係者や病院・介護事業所関係者などの出席者による意見交換を行い、コグニサイズ運動の普及拡大に向け、情報発信を行い、普及拡大に寄与することができた。

③自治体等の要請に基づき、以下のとおり講師の派遣等を行い、コグニサイズ運動の普及に努めた。・5/24 秋田市新屋出尻沢地区体験会・5/27 三種町希望苑実演会・5/30 秋田市生涯学習奨励員研修会・6/30NSCA ジャパン東北地域デレクターセミナー・9/11 秋田市菊谷小路いきいき町づくりの会・9/22 トレイク潟上プレオープン・12/15 秋田県「めざせ健康寿命日本一応援フェア」・12/20 日秋田市西部市民ＳＣ市民講座

④11 月 8 日・9 日に国立長寿医療研究センターにおけるコグニサイズ指導者研修への医学系研究科教員 1 人参加により、コグニサイズ指導認定者を 1 人追加となり、事業推進体制の強化を図った。

⑤3 月 22 日にこれまでのコグニサイズ運動の取組に関する資料集「コグニサイズ運動の展開に関する中間報告書」を作成し 31 年度に作成を計画しているコグニサイズ運動実績報告書の基礎資料を取りまとめることができた。

（３）首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動の実施

以下のとおり県外大学に秋田県内での合宿を働きかけた。

時　期：①8 月～9 月、②11 月

場　所：①由利高校バレーボール合宿会場

②全日本バレーボール大学女子選手権大会会場

交渉先：①金城大学他 1 大学、②筑波大学他 4 大学

（４）教育実習誘致活動の実施

共栄大学（埼玉県）の教育実習を誘致し、東成瀬村の 2 人に加え、今年度から新たに大館市で 5 人の教育実習が行われた。また、2 月 7 日に共栄大学を訪問し、31 年度以降の継続実施を働きかけた。

４．事業の運営・情報発信等

（１）「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催【資料 2－⑭】

7 月 17 日に会員 13 人の出席により秋田創生 COC+協議会を開催した。秋田創生ＣＯＣ＋協議会を構成する参加大学、行政、経済団体、金融機関等の主要メンバー参集のもと、ＣＯＣ＋事業の取組実績・事業計画について協議し、各大学や事業協働機関の取組促進を図った。

（２）ＣＯＣ＋外部評価委員会の開催【資料 2－⑮】

秋田創生ＣＯＣ＋協議会に設置する自己評価委員会を 9 月 21 日、外部評価委員会を 10 月 5 日に開催し、平成 29 年度事業実績について「概ね計画どおりの実績である」との評価を受けるとともに、今後の取組に対する提言を受けた。

（３）日本学術振興会による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）フォローアップ」（以下フォローアップ）について

平成 30 年 6 月 1 日：日本学術振興会よりフォローアップに係る実施状況報告書提出の指示

平成 30 年 6 月 29 日：日本学術振興会宛てフォローアップに係る実施状況報告書を提出

平成 30 年 10 月 17 日：日本学術振興会より平成 30 年度フォローアップ報告書の開示及び現地視察実施の通知

平成 31 年 2 月 18 日：フォローアップ現地視察

平成 31 年 3 月 22 日：フォローアップ結果の概要の公表

【現地視察時の担当委員からのコメント】

○すぐれている点

次の事項について、事業進捗状況が認められる。

・ジョブシャドウイングについて、秋田大学と秋田県立大学との連携による実施の開始。

・秋大、県大、高専の３校全体でのインターンシップ参加者数の順調な増加。

・秋田高専における秋田高専産学協力会会員からの会費徴収による財源確保の仕掛け作り。

○改善を要する点

・秋大、県大、高専の３校の教育プログラムに関する協働事業については、学生同士の交流といった形での連携の実体化が必要である。

（４）ＣＯＣ+パンフレット等およびＣＯＣ事業報告書の作成【資料 4、資料 5】

①12 月 26 日に今年度のＣＯＣ＋事業の取組を紹介した「秋田創生ＣＯＣ＋通信」を 500 部作成しＣＯＣ＋事業参加大学及び事業協働機関の他、県内企業 177 社に配付した。

②3 月 28 日にＣＯＣ＋事業の概要、体制、これまでの取組等をまとめたパンフレットを 10,500 部及び秋田おらほ学認証制度を対外的に紹介するパンフレット 1,000 部を作成し、ＣＯＣ＋事業関係先のほかに県内企業、学生等への配布により、ＣＯＣ＋の取組について広く情報発信に活用した。

③8 月 23 日に平成 29 年度で補助期間終了となったＣＯＣ事業の実績を取りまとめた「秋田大学ＣＯＣ事業報告書」を作成した。作成した事業報告書については秋田大学ＣＯＣ事業の３テーマ５課題の課題解決に参画した横手市、北秋田市、潟上市の各関係自治体及び秋田県に配付した。また、合わせて、本学ホームページにＰＤＦを掲載し、ＣＯＣ事業の取組について広く情報発信した。

令和元年度ＣＯＣ＋事業計画

１．第１の柱　６大学連携による「秋田おらほ学」の展開

（１）秋田おらほ学認証制度の定着

６大学連携による秋田おらほ学認証制度について、４月と１０月の認証に関する手続を着実に実施するとともに、認証制度の周知を進める。

（２）地域志向科目を拡充し、「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム」を継続

地域課題解決のために主体的に行動できる人材「あきた創生推進士」の育成に向け、今年度から更に地域志向科目を充実した秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラムの展開による「あきた創生推進士」の認証を引き続き行う。

（３）教育プログラムにおける他大学間の学生同士の交流

秋田大学において、教育文化学部地域文化学科での「あきた未来カフェ事業」活用による「地域リーダー養成プロジェクト」にて秋田県立大学、国際教養大学の学生と、医学部保健学科での同事業活用による「地域つながり隊カフェ」等にて日本赤十字秋田看護大学の学生と、理工学部では秋田材料工学懇談会研究発表会及びプロジェクト実践研究Ⅱ等のＰＢＬ授業の成果発表会にて秋田県立大学、秋田高専の学生との交流実施に向け準備を進めている。

（４）秋田県立大学「あきた地域学」の実施

「あきた地域学」（必修）及びその上級課程カリキュラム「あきた地域学アドバンスト」の継続実施。

（５）秋田工業高等専門学校「ＣＯＣ＋授業」等の実施

「ＣＯＣ＋授業」として「地域産業Ⅰ」、「地域産業Ⅱ」、「地域史」及び「地域計画」」を開講する。また、「ＣＯＣ＋講演会」を継続実施し、実務家教員等の講師による地域教育、キャリア教育、知財教育、起業教育を行う。

２．第２の柱　３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

（１）大学と事業協働機関等による「秋田就職サポート会議」を開催

ＣＯＣ＋事業協働機関等による「秋田就職サポート会議」を開催し、それぞれの取組についての情報共有を図るとともに、連携した取組実施に向けた協議を行う。

（２）県内企業による「インターンシップセミナー」の開催

大学を会場として、県内のインターンシップ受入企業による事業内容やインターンシッププログラムを学生にプレゼンする会を開催する。

（３）「大学と県内企業による情報交換会」（企業向け採用活動セミナー）の開催

大学と県内企業との情報交換会を開催し、学生への有効な情報発信やアプローチについての情報共有、研修を行う。

（４）「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催

本学及び秋田県立大学を会場として、県内製造業者等の企業展及び講演会を開催する。

（５）秋田県立大学「ジョブシャドウイング」の継続実施及び秋田大学との連携継続

コーディネーターの企業訪問による受入先開拓、受入先との協働による実習プログラムの開発をしてジョブシャドウイングの実施を継続する。また、秋田大学でも参加学生の募集を行い、両大学の学生がともに参加する連携事業として継続する。

（６）秋田工業高等専門学校「地域密着型校外実習」等の実施

①　地域密着型校外実習・地域課題解決型卒業研究の実施。
②　職業訓練教育プログラムの導入。（専攻科長期インターンシップ）
③　ＣＯＣ＋研究会の開催。（学内研究成果発表会）
④　ＣＯＣ＋研修会の開催。（県内企業の技術ニーズをテーマとした研修会）

３．第３の柱　ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり

（１）聞き書きボランティア養成講座の開催

自治体（潟上市、横手市）と連携し、高校生を中心とした聞き書きボランティア養成講座等を開催する。

（２）コグニサイズ普及活動の展開

これまでコグニサイズ運動を展開してきた実践グループ等への指導・サポートを継続する。合わせて、これまでのコグニサイズ運動の成果を取りまとめた実績報告書を作成する。また、コグニサイズ指導者増員を図るため国立長寿医療研究センターでの研修を受講する。

（３）首都圏大学のスポーツサークル合宿等の誘致活動の実施及び首都圏大学による教育実習実施継続の支援

首都圏大学等の訪問による秋田県でのスポーツサークル等の合宿の誘致活動の実施及び首都圏大学による教育実習実施継続の支援を行う。

４．事業協働地域共通の取組

（１）「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の開催

「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」を開催し、平成３０年度実績、令和元（平成３１）年度事業計画及び補助期間終了後の事業展開について協議する。

（２）ＣＯＣ＋事業実績報告書の作成

ＣＯＣ＋事業５カ年の実績を取りまとめた事業実績報告書を作成・製本する。

平成 30 年度　COC+事業
秋田創生 COC+事業外部評価委員会を開催しました。

１０月５日（金）秋田大学百周年記念館２階会議室において、秋田創生 COC+事業外部評価委員会を開催しました。

出席した外部評価委員は次の４名です。

○弘前大学　副理事人文社会学部教授　曽我　亨　氏
○秋田市　産業振興部長　本間　斗　氏
○一般財団法人秋田経済研究所　専務理事所長　相原　学　氏
○秋田県社会福祉協議会　事務局長　佐藤　寿美　氏

秋田大学志立正知理事による挨拶のあと、弘前大学副理事曽我氏を外部評価委員会委員長に選出し、議事が進行されました。

秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校のＣＯＣ＋関係者から平成 29 年度ＣＯＣ＋事業実績について概要説明をした後、外部評価委員と各校ＣＯＣ＋関係者との質疑応答を経て、外部評価結果の取りまとめに至りました。

会の最後に、曽我委員長より「本事業は概ね計画通りの実績を上げていると評価できる。本事業の事業期間は残すところ１年半となり、成果をあげる段階にはいっている。これまでの事業を検証し改善することで、最終目的である地域創生を実現できるよう、取り組みを進めていただきたい。また、事業期間終了後にも、必要な事業を継続するための方策を検討していただきたい。」との講評で締めくくられました。

志立理事の挨拶

４名の外部評価委員

質疑応答の様子

曽我委員長の講評

⑬COC+外部評価委員会の開催

秋田創生ＣＯＣ＋事業

超高齢・人口減少社会における
若者の地元定着の促進と若者の育成

外 部 評 価 書
（平成２９年度実績）

平成３０年１０月５日
秋田創生ＣＯＣ＋協議会
外部評価委員会

目　　次

Ⅰ.外部評価委員会実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ.外部評価結果一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅲ.外部評価委員会の評価結果及び講評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ.各外部評価委員の講評 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

Ⅴ.秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成 29 年度）に関する外部評価実施要領 ・・・ 8

Ⅵ.外部評価委員会資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別添

Ⅰ.外部評価委員会実施概要

１．日時：平成３０年１０月５日（金）１５：００～１７：３０

２．場所：秋田大学百周年記念館　２階会議室

３．出席者

（１）外部評価委員

委員長　曽我　亨　　弘前大学　副理事、人文社会学部教授
委　員　本間　斗　　秋田市　産業振興部長
委　員　相原　学　　一般財団法人秋田経済研究所　専務理事、所長
委　員　佐藤　寿美　秋田県社会福祉協議会　事務局長

（２）ＣＯＣ＋大学及び参加校関係者

秋田大学
理事　志立　正知
教育推進主管　後藤　猛
医学系研究科教授　中村　順子
地域創生推進役（兼）ＣＯＣ＋推進コーディネーター　高橋　訓之
地域コーディネーター　川村　宏
副理事兼総合学務課長　高橋　正樹
地方創生・研究推進課長　大山　弘
地方創生・研究推進課　総括主査　佐々木 繁男
地方創生・研究推進課　主査　今野　悟

秋田県立大学
生物資源科学部長　金田　吉弘
研究・地域貢献本部ＣＯＣ推進主監　伊藤　邦夫
地域連携チームシニアスタッフ　鈴木　孝豊

秋田工業高等専門学校
創造システム工学科教授　野坂　肇
創造システム工学科准教授　丸山　耕一
企画室長　工藤 奈緒美

４．次第

（１）開会
（２）あいさつ
（３）外部評価委員会委員の紹介
（４）外部評価委員会委員長の選出
（５）外部評価実施要領について
（６）事業概要・自己評価結果概要の説明及び質疑応答
（７）外部評価結果とりまとめ
（８）外部評価委員からの講評
（９）閉会

５．配付資料

（１）秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成２９年度実績）に関する外部評価実施要領
（２）外部評価委員会資料
　①　秋田創生ＣＯＣ＋事業自己評価書（平成２９年度実績）
　②　評価に関する資料
　③　別添参考資料
　　ア　平成２７年度計画調書
　　イ　ＣＯＣ＋事業パンフレット
　　ウ　中間評価結果
　　エ　中間評価調書
　　オ　平成２９年度補助事業実績報告書

Ⅱ. 外部評価結果一覧表

	外部評価委員会	委員1	委員2	委員3	委員4
分野１ 第１の柱: ６大学連携による「秋田おらほ学」の展開	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ
分野２ 第２の柱：３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野３ 第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
分野４ 事業の運営・情報発信等	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
全体評価	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

評価基準

評価の記号	実　施　状　況
Ⅴ	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	計画を下回る実績である。
Ⅰ	計画を大きく下回る実績である。

Ⅲ. 外部評価委員会の評価結果及び講評

1 分野評価

（１） ６大学連携による「秋田おらほ学」の展開（評価 Ⅲ）

地域志向教育プログラムによる共通の認証制度の構築に向けて、秋田県内の大学が連携して事業を着実に実施していることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

今後は、(i) 企業などと連携して、地域の産業を学ぶ科目の開発をすすめること、(ii) アンケートなどによって教育効果を測定し、授業の改善をはかること、(iii)大学間の単位互換制度などを整備することで、幅広い学習機会を提供することなどが望まれる。

（２） ３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進（評価 Ⅳ）

若者の県内定着を進めるために、インターンシップを増やしたことで、学生が企業を知る機会が大幅に増加しており、計画を上回る実績を上げている。さらに「秋田就職サポート会議」や、「県内企業との情報交換会」を開催することで、企業にインターンシップの重要性や、学生目線にたった有効な企業情報の提供方法などを伝えており、当初の計画調書に記された事業を検証し、足りない部分を改善していることから、計画を上回る実績であると認められる。

今後は、(i) コーディネーターなどの専門家を活用し、インターンシップをさらに充実させること、(ii) 地域の求人状況などを数量的に把握し、若者の県内定着を促進する有効な方法を見つけ実行すること、(iii) 産官学の連携を進め、若者を県内に定着させる取り組みを持続的に実施していくことが望まれる。

（３） ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（評価 Ⅲ）

教育実習誘致やコグニサイズ運動など、着実に実施していることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

本分野は、COC+事業の KPI の達成に直接結びつくものではないが、地域づくりに資するものであり、今後は産業界や行政との協議などを通じて、全県的な波及効果を生み出すための仕組みを作ることが望まれる。

（４）事業の運営・情報発信等（評価 Ⅲ）

外部評価委員会の開催については遅れが見られたものの、自己評価に基づいて平成

30 年度の事業計画を改善するなど、適切に運営されていることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

今後は、(i) PDCA サイクルを有効に回し、計画の見直しや改善をさらに進めること、(ii) 情報発信や評価の仕方について、他大学の取り組みなども参考にしながら改善を図ることが望まれる。

2　全体評価　Ⅲ

若者の地元定着を促進し、地域の活動の中心となる若者の育成を目的とする秋田創生 COC+事業は、人口減少が進む超高齢社会の秋田県にとって必須の事業であり、COC+事業を推進する秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校には、地域から大きな期待が寄せられている。

COC+事業の事業期間は５年であり、平成 29 年度は３年目の年にあたる。体制整備を完了し、事業を加速するべき年である。秋田創生 COC+事業は、事業目的を達成するために、３つの柱をたてて事業を推進した。

第１の柱である「秋田おらほ学の展開」では、「教育プログラム開発委員会」および「６大学秋田おらほ学検討委員会」を中心に、各校の地域を志向する教育プログラムの進捗状況を確認し、共通の認証制度にむけて論点整理することができた。第２の柱である「就業支援」については、「秋田就職サポート会議」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」などを通して企業と大学の連携を深めることができた。また、インターンシップ件数を大幅に増やすなど、学生と企業のマッチングを積極的に進めることができた。第３の柱である「ふるさと秋田魅力形成モデルづくり」は、秋田大学の取り組みであるが、首都圏の大学からスポーツクラブの合宿や教育実習生を誘致することができた。また認知症予防運動の「コグニサイズ」や「聞き書きボランティア養成講座」を開催し、高齢者の参加や高校生の力を引きだすことができた。さらに「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業フォーラム」を実施することで、秋田創生 COC+事業の３年間の成果を発信することができた。これらのことから、本事業は概ね計画通りの実績を上げていると評価できる。

本事業の事業期間は残すところ１年半となり、成果をあげる段階にはいっている。これまでの事業を検証し改善することで、最終目的である地域創生を実現できるよう、取り組みを進めていただきたい。また、事業期間終了後にも、必要な事業を継続するための方策を検討していただきたい。

Ⅳ. 各外部評価委員の講評

１．分野１（第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開）に関して

- 地域を志向する教育を、県内大学が連携して開発しておられるのは素晴らしいと思います。
- 科目に企業と連携し、産業を意識したものを入れていただくと、将来の就職に寄与すると思います。
- 共通の認証制度構築に向け、着実に事業実施がなされている。
- 自己評価は基本的に妥当であると思われる。
- 秋田高専が、アンケートによる講演会の教育効果判定を行っているが、こうした「やりっぱなし」にしない取組は非常に良いと思う。
- この第１の柱のコアの部分は、教育プログラムの展開（実施）であると思われるが、②～④のうち２つが評価「Ⅳ」であることからすれば、分野の評価は「Ⅳ」でも良いのではないか。
- 富山大学における５大学共同開講授業は、賑わい創出だけでなく大きな情報発信効果も見込めるものであり、費用もかかるが検討に値する取組であると思う。
- 出身地を問わず、学生に対して地域の歴史、文化等を知る機会を創り、さらに地域の課題に目を向けさせる取組は極めて有意義であると考える。
- 単位互換の対象とする計画があるとのことであり、早期の実現を期待する。

２．分野２（第２の柱：３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進　）に関して

- 県内企業との情報交換会はとてもすばらしい試みであると評価します。
- 県内就職率をあげるための原因を分析し（数字を押さえ）、次の事業につなげて欲しいと思います。
- インターンシップを増やす試みは、引き続き、実施していただければと思います。
- インターンシップの増などにより、企画を知る機会が大幅に増加している。
- 県立大学では、インターンシップコーディネーターが活発に動き、成果につなげている。こうした専門家や専門職を積極的に活用することは、非常に効果的であると思われる。
- 採用活動の開始時期が遅いという状況は解消の方向に向かいつつあるようだが現実的には全国的な競争の中にあることから、産学管連携のもと、さらにこの柱の取組を進めていただきたい。

３．分野３（第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり　）に関して

- 聞き書き、コグニサイズ等は、秋田の地域づくりに資するものであり、通常の大学事業に埋め込んでいただければと思います。
- 全県への波及効果が生じているとはいえない。参加者も限定的。
- 「コグニサイズ運動」は、今後、秋田県の高齢者に浸透し、ラジオ体操のような身近なもの

⑬COC+外部評価委員会の開催

となることを期待したい。
・実施事業の効果が直接的には現れにくい計画であるように感じられる。秋田の魅力形成のための取組、例えば産官がそれぞれ実施すべき事項について協議する場を大学が中心になって設定し、それを大学が支援する等の取組は検討できないだろうか。

４．分野４（事業の運営・情報発信等）に関して

・外部評価委員会の開催については遅れたものの、課題を把握し、改善に努めておられることから、しっかり運営されていると評価いたします。
・自己評価に基づき、３０年度事業を改善するなど、適切に運営をしている。
・情報発信や評価の仕方について、改善の余地がある。
・自己評価は基本的に妥当であると思われる。
・情報発信という点では、福井大学が実施しているマンスリーレターは非常によい事例であり、取組を検討すべきであると思う。
・分野の自己評価は「Ⅱ」と厳しくしているが、全体をみれば「Ⅲ」でも良いのではないか。
・本事業を運営するために、多大なエネルギーを費やしておられることに敬意を表する。
・他大学等の取組に関する情報収集、意見交換により、より効果的の高い事業が展開されることを期待する。

５．全体評価

・県内就職率については、地域のキャパシティを把握し、何をどこまでやれば、どこまで伸びるかを計画し実施して欲しいと考えます。やみくもにインターンシップをやっても上がるとは限らないと考えます。
・COC+大学においては、どの組織が、どのように PDCA サイクルをまわして、どのように改善したかを示明して欲しいと思います。
・各分野に意欲的に取り組んでいる。手段を適切に行っているものの、目標値が下がっている。
・受入する企業の魅力アップや情報発信力の強化の観点が必要かもしれない。
・分野評価では、評価「Ⅳ」が２分野、「Ⅲ」も２分野となった。数値目標、特に重要と思われる「事業協働地域就職率」は苦戦しており、数値目標全体を評価するならば「Ⅲ」が上限という印象である。以上から、全体評価は「Ⅲ」が妥当と考える。
・人口構造等の変化により、地方の企業、教育機関を取り巻く環境は大変に厳しくなっている。そうした中で次代を担う若者の地元定着を実現することは今後の秋田の地域社会を維持していくうえで重要な取組である。本事業により、関係教育機関が県内の関係機関・団体と連携しながら効果的な取組、大胆な挑戦を進めていくことを期待している。

Ⅴ．秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成２９年度実績）に関する外部評価実施要領

１　目　的

外部評価は、秋田創生ＣＯＣ＋事業の自主的な見直し、改善を促し、もって当該事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

２　評価の体制

（１）外部評価委員会は、外部評価委員会に関する細則第２条の規定に基づき次の委員により構成する。
国立大学法人弘前大学　副理事・人文学部教授　曽我　亨
秋田市　産業振興部長　本間　斗
一般財団法人秋田経済研究所　専務理事・所長　相原　学
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会　事務局長　佐藤　寿美
（２）外部評価委員会に関する細則第４条の規定に基づき、外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

３　外部評価の実施方法

（１）各外部評価委員は、自己評価委員会が作成した「自己評価書」、及び外部評価委員会におけるＣＯＣ＋大学（秋田大学）とＣＯＣ＋参加校（秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）の説明及び質疑応答に基づき、別添様式の外部評価シートにより、４つの分野及び事業全体について次の評価基準により評価を実施する。

ア　４つの分野

第１分野：「第１の柱：６大学による「秋田おらほ学」の展開」に関すること
第２分野：「第２の柱：３大学と地元企業群による就職支援」に関すること
第３分野：「第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」に関すること
第４分野：事業運営、情報発信に関すること

イ　評価基準

評価の記号		実　施　状　況
分野	全体	
Ⅴ	Ⅴ	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	Ⅱ	計画を下回る実績である。
Ⅰ	Ⅰ	計画を大きく下回る実績である。

（２）外部評価委員会は、各外部評価委員の評価結果に基づき協議し、外部評価委員会としての評価結果を決定する。
（３）外部評価委員会は、評価結果を取りまとめた「外部評価書」を作成し、秋田創生ＣＯＣ＋協議会長に報告する。

４　外部評価委員会

（１）日　時　　平成３０年１０月５日（金）　１５：００～１７：３０
（２）場　所　秋田大学百周年記念館　２階会議室
（３）次　第
① あいさつ
② 外部評価委員の紹介・外部評価要領等の説明・委員長選出
③ 自己評価書等に基づく説明及び質疑応答
ア 自己評価実施要領について
イ ＣＯＣ＋事業パンフレットによる全体事業概要について
ウ 平成２９年度事業の進捗状況の概要について
エ 数値目標の進捗状況について
オ 分野１及びその自己評価について
カ 分野２及びその自己評価について
キ 分野３及びその自己評価について
ク 分野４及びその自己評価について
ケ 全体評価について
④ 評価結果の取りまとめ
⑤ 評価結果と各委員からの講評
（４）出席者（予定）
① 外部評価委員
国立大学法人弘前大学　副理事・人文学部教授　曽我　亨
秋田市　産業振興部長　本間　斗
一般財団法人秋田経済研究所　専務理事・所長　相原　学
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会　事務局長　佐藤　寿美
② ＣＯＣ＋大学及び参加大学関係者
ア 自己評価委員会委員
秋田大学理事　志立　正知
秋田大学　教育推進主管　後藤　猛
秋田大学　地方創生センター地域協働・防災部門長　臼木　智昭
秋田大学　医学系研究科教授　中村　順子
秋田県立大学　生物資源学部長　金田　吉弘
秋田県立大学　地域連携・研究推進センターコーディネーター　永田　徹
秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　教授　野坂　肇
秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　准教授　丸山　耕一
イ その他各校事業担当者・事務担当者
秋田大学　ＣＯＣ＋推進コーディネーター　高橋訓之
秋田大学　地域コーディネーター　川村　宏
秋田大学　地方創生・研究推進課職員
秋田大学　総合学務課職員
秋田大学　学生支援・就職課職員
秋田県立大学職員
秋田工業高等専門学校職員

令和元年度　秋田大学 COC+事業
秋田創生 COC+事業（平成 30 年度実績）外部評価委員会を開催しました。

10 月 31 日（木）、秋田大学百周年記念館 2 階会議室において、秋田創生 COC+事業（平成 30 年度実績）に関する外部評価委員会を開催しました。

この日は、秋田大学の志立正知理事の挨拶のあと、弘前大学の曽我教授が外部評価委員長に選出され、その後委員長により議事が進行されました。

はじめに、事務局から、外部評価実施要領に基づいて、実施方法及びスケジュールの説明があった後、次に事業概要・自己評価結果に関する説明が事務局よりなされ、質疑応答が行われました。

全ての質疑応答を終えた後、外部評価委員により慎重に協議が行われ、外部評価結果がとりまとめられました。その後、委員長から外部評価結果が発表され、全体として計画を上回る実績であるとの評価が示されました。

続いて、各委員からは「事業期間終了後もこうした事業を継続できる仕組み作りをして欲しい」、「今後も地域の課題解決に積極的な行動ができる学生の育成に取り組んでいただきたい」といった講評があり、最後に志立理事が「いただいたご意見を真摯に受け止め、実現できるよう動きたい」と挨拶し、閉会となりました。

委員会の様子

挨拶する志立理事

質疑応答の様子

曽我委員長の講評

⑬COC+外部評価委員会の開催

秋田創生ＣＯＣ＋事業

超高齢・人口減少社会における
若者の地元定着の促進と若者の育成

外 部 評 価 書
（平成３０年度実績）

令和元年１０月３１日
秋田創生ＣＯＣ＋協議会
外部評価委員会

目　　次

［１］. 外部評価委員会実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
［２］. 外部評価結果一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
［３］. 外部評価委員会の評価結果及び講評　・・・・・・・・・・・・・・・・・３
［４］. 各外部評価委員の講評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
［５］. 秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成 30 年度実績）に関する外部評価実施要領　・９
［６］. 外部評価委員会資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・別添

［１］. 外部評価委員会実施概要

１．日時：令和元年１０月３１日（木）１４：００～１６：３０

２．場所：秋田大学百周年記念館　２階会議室

３．出席者
（１）外部評価委員
　委員長　曽我　亨　　弘前大学 副理事 人文社会科学部教授
　委　員　新出　康史　秋田市　産業振興部長
　委　員　佐藤　寿美　秋田県社会福祉協議会　事務局長
（２）ＣＯＣ＋大学及び参加校関係者
　秋田大学
　　理事　志立　正知
　　教育推進主管　後藤　猛
　　医学系研究科教授　中村　順子
　　学長補佐　臼木　智昭
　　地域コーディネーター　川村　宏
　　地方創生・研究推進課長　大山　弘
　　地方創生・研究推進課 総括主査　佐々木 繁男
　　地方創生・研究推進課　今野　悟
　　学生支援・就職課長　稲葉　倫子
　　総合学務課　大友　明久
　秋田県立大学
　　研究・地域貢献本部 主監　伊藤　邦夫
　　教務チーム チームリーダー　増山　裕
　　地域連携・研究推進センター コーディネーター　永田　徹
　　地域連携チーム シニアスタッフ　鈴木　孝豊
　秋田工業高等専門学校
　　創造システム工学科 嘱託教授　野坂　肇

４．次第
（１）開会
（２）あいさつ
（３）外部評価委員の紹介
（４）外部評価委員長の選出
（５）外部評価実施要領について
（６）事業概要・自己評価結果に関する説明及び質疑応答
（７）外部評価結果とりまとめ
（８）外部評価結果の発表と各委員からの講評
（９）閉会

５．配付資料
（１）秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成３０年度実績）に関する外部評価実施要領
（２）外部評価委員会資料
　①　秋田創生ＣＯＣ＋事業自己評価書（平成３０年度実績）
　②　評価に関する資料
　③　別添参考資料

［２］. 外部評価結果一覧表

	外部評価委員会	委員１	委員２	委員３	委員４
分野１ 第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野２ 第２の柱：３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野３ 第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野４ 事業運営・情報発信等	Ⅲ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
全体評価	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

評価基準

評価の記号	実　施　状　況
Ⅴ	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	計画を下回る実績である。
Ⅰ	計画を大きく下回る実績である。

［３］．外部評価委員会の評価結果及び講評

１　分野評価

（１）６大学連携による「秋田おらほ学」の展開（評価　Ⅳ）

６大学が連携して「秋田おらほ学」の共通認証制度を前倒しで構築し、認定者を出すことができたこと、また、この取組を広く地域に情報発信できたことは高く評価できる。さらに、「あきた創生推進士」や「あきた地域学」等、各大学が地域産業に関する授業を充実させ、学生の地域理解を深める取組を推進していることも高く評価できる。今後は関係科目の履修者や修了者の追跡調査等によって効果を検証しつつ、プログラムの向上に努めて欲しい。

（２）３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進（評価　Ⅳ）

６大学と秋田県、県内経済団体と共に「秋田就職サポート会議」を開催し、大学の就職状況や、県外の企業の動向等を情報共有できている。また、「秋田ものづくりオープンカレッジ」については参加企業や学生も増えてきており、高く評価したい。

秋田大学の事業である「大学と県内企業による情報交換会」への秋田県立大学と秋田工業高等専門学校の参加や、秋田県立大学が実施する「ジョブシャドウイング」への秋田大学の参加など、各校個別の事業についても連携が進んでいることは高く評価できる。

こうした事業については、補助期間終了後も継続していくことが望ましい。

（３）ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（評価　Ⅳ）

「聞き書きボランティア養成講座」は指導者のスキルアップに取り組み、実践活動を経て「聞き書き小冊子の贈呈」につながった。「コグニサイズ運動」は実践活動に加え、シンポジウム等を開催することができた。いずれも地域にとって重要な課題に取り組んでいると高く評価したい。

こうした活動を他の事業とも連動させることで、ＣＯＣ＋事業の成果につなげていって欲しい。例えば活動の成果を授業にフィードバックするなど、教育内容の充実につなげられないだろうか。授業の中からこうした事業に参加する学生が出てくることを期待したい。

（４）事業運営・情報発信等（評価　Ⅲ）

秋田創生ＣＯＣ＋協議会を中心に事業の取組を進めている他、事業をチェックし改善するための場として機能している。また、「秋田創生ＣＯＣ＋通信」やパンフレットを通じて事業の取組を積極的に発信していることも評価できる。

２　全体評価　Ⅳ

地域で活躍する若者の育成と地元定着を目的とする秋田創生ＣＯＣ＋事業は、人口減少が進む秋田県にとって必須の事業であり、ＣＯＣ＋事業を推進する秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校には、地域から大きな期待が寄せられている。

ＣＯＣ＋事業の事業期間は５年であり、平成 30 年度は４年目にあたる。これまでの事業の成果が期待される年である。秋田創生ＣＯＣ＋事業は、事業目的を達成するために、３つの柱をたてて事業を推進した。

第１の柱である「秋田おらほ学」の展開では、計画よりも１年早く共通の認証制度を実施することができた。第２の柱である「就業支援」については、「秋田就職サポート会議」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」などを通して企業と大学の連携を深めることができた。また、個別の大学が進める事業に他大学も参加するなど、大学間の連携を進めることができた。第３の柱である「ふるさと秋田魅力形成モデルづくり」は、聞き書きボランティアの養成を進めたり、コグニサイズ運動を広く展開したりすることができた。

これらの取組を進めたことで、事業協働地域就職率が３ポイント向上したほか、事業協働機関へのインターンシップ参加者数も高い水準を維持することができた。さらに、情報発信を積極的に進めており、大学以外の事業協働機関による事業への満足度も大きく向上した。具体的に、地域の企業がＣＯＣ＋事業を後押しする動きも出てきている。これらのことから、本事業は計画を上回る実績をあげていると評価できる。

ＣＯＣ＋事業は令和元年度で事業期間が終了するが、今後も継続が望まれる事業がある。今後は、必要な事業を継続するための方策を検討し、実現につなげて欲しい。

［４］．各外部評価委員の講評

１．分野１（第１の柱：６大学連携による「秋田おらほ学」の展開）に関して

・秋田おらほ学の展開は、各教育機関の協働無くして出来ないことであり、これが拡充していることは喜ばしい。また、各大学において「あきた創生推進士」、「あきた地域学課程」、「ＣＯＣ＋授業」など地域に関する授業を充実させており、事業期間終了後もこうした試みを是非続けてほしい。
・各大学において学生の地域理解を深める取組を熱心にしていることに敬意を表する。
・県内出身者はもちろんだが、県外出身者において、いかに秋田に愛着を持って、秋田を好きになってもらい、秋田に留まってもらうかといったことも重要な視点と考える。
・地元の理解を深めながら地元産業への関心を深化させる中で、学生達にも「創業」に注目してもらいたい。そのためにも創業支援施設等を有効活用してもらいたい。
・各大学における取組の結果、地域志向科目の履修者や修了者が増加したことは評価できる。
・関係大学の連携による「秋田おらほ学認証」に関する制度の構築や「あきた創生推進士」等の称号授与の仕組みにより、学生の関心を高める取組が進んでいることも評価できる。
・「秋田おらほ学認証書」や「あきた創生推進士」等の称号を受けた学生に対する地域や企業等の評価、学生自身の評価等を丁寧にフォローし、地域志向科目の内容の充実等の今後の取組に活用していただくことを希望する。
・学生の地域志向科目の履修や地域における実習を通じて県内各地域の課題に気づき、解決策を模索することは貴重な経験になる。そうした実践を通じて問題発見能力を高めるとともに、多様な課題の解決に意欲的に取り組む学生が輩出され、県内に定着することを期待している。
・秋田おらほ学認証制度を当初計画より前倒しで実現させ、32 名の認証者を出したことは評価できる。
・今後、認証制度を県内企業や自治体へ積極的にＰＲし、認証者のメリットが大きくなるよう期待したい。
・秋田大学、秋田県立大学では、地域志向科目の修了者の増加やプログラムの充実がみられ、両大学の熱意と学生の関心の高まりがうかがわれる。

２．分野２（第２の柱：３大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進）に関して

・秋田就職サポート会議において、大学の就職状況や県外の企業の動向などを県内企業に伝えており、県内企業が採用の戦略を考えていく上で非常に重要な試みである。
・今後、秋田就職サポート会議に参加した企業団体等が、どのように会員企業に情報を伝えているのかまで、フォローを出来ればよいのではないかと考える。
・秋田ものづくりオープンカレッジについては、参加企業や学生も増えてきており、高く評価したい。
・各校の取組おいても様々な工夫がなされており、特に秋田大学の「大学と県内企業による情報交換会」は、秋田就職サポート会議の各企業版のようなものであり、各企業の採用力を高める上で、重要であり、補助期間終了後も主催が大学かどうかは別にして、継続していくことが望ましい。
・県立大学が頑張っているジョブシャドウイングについては、その後のインターンシップや就職へ繋げる意識があり、エントリーポイントとしての重要性をよく理解でき、このような事業の組み合わせにより、大きな効果を生み出して欲しい。
・ジョブシャドウイングのコーディネーターについては実施企業開拓等で頑張っているが、事業終了後も企業等との連携を継続して欲しい。
・各大学での県内企業へのインターンシップ参加者数が順調に推移しており、効果が出ているものと評価し、今後の進展に期待する。
・秋田大学の事業である「大学と県内企業による情報交換会」への県立大学と秋田高専の参加や、県立大学が実施する「ジョブシャドウイング」への秋田大学の参加といった、大学間の連携が進んでいることについて好ましいと感じた。
・今後の要望としては、特定の学部に限らず、ＩＴ系に強い学生の育成に注力していただければ、進出が進んでいるＩＴ関連企業とのマッチングがより進展するものと考えられる。
・「秋田就職サポート会議」、「大学と県内企業による情報交換会」などを通じて大学と企業、産業界との間で情報が共有され、学生の県内企業への就職支援に向けた共通認識を形成していることは評価できる。
・「大学と県内企業による情報交換会」が３大学の連携事業に発展したことは、参加企業にとっては各校が養成している人材に関する情報を一度の機会で収集できる取組であると理解しており、この点も評価できるものと考える。
・様々な機会を通じて企業や産業界が求める人材像を把握するとともに、そうした情報を学生の教育に活用することにより県内就職率の上昇傾向を維持できるよう、多方面からの取組を継続することや新たな取組を検討することを期待する。
・県内企業等に関する情報を学生が積極的に収集することができる環境整備や、そうした環境を学生が有効に活用するための指導の強化のほか、行政や商工団体等と連携して関係大学の学生の採用に関する県内企業への働きかけを強化することをお願いしたい。
・「秋田ものづくりオープンカレッジ」では、参加企業、来場者が前年より大幅に増加し、講演会もほぼ前年並みの聴衆を集め、県内就職率上昇のカギの一つである「地元企業を知る」ことに大きく寄与したものと思われる。
・「大学と県内企業による情報交換会」が秋田大学単独から秋田県立大学、秋田工業高等専門学校との３大学連携となったほか、ジョブシャドウイングが秋田県立大学単独であったものが秋田大学も実施する等、連携強化が一段と進んでいる。
・地元企業を知ってもらうことは、県内就職の第一歩とも言えるものであり、インターンシップの充実とあわせ、今後とも取組を強化していただきたい。

３．分野３（第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）に関して

・この分野の事業は、地域にとって非常に重要な課題への取組であるものと評価する。合わせて、地域での活動を大学の授業にフィードバックするなど、教育内容の充実にも繋げていき、出来ればその授業を受けた学生の中から、こうした事業への参加を希望するものが現れることを期待する。
・大学単独で実施するには範囲の広いテーマではあるが、コグニサイズ等は地域と非常に密着した形で活動がなされており評価できる。
・大学と地域との交流は大学自体の魅力を高める上でも大事なことであり、継続して取り組んで欲しい。
・提案として秋田の「食」を活かした魅力づくりをしてみてはどうか。
・コグニサイズ運動の実践を通じ健康寿命の延伸に向けた取組を進めることは、個人のＱＯＬの維持、地域社会の活力の維持の両面から重要であり、積極的に展開していることは評価できる。

⑬COC+外部評価委員会の開催

・地域において自主的な取組が続いている例が出てきていることも評価できるものと考える。
・コグニサイズ運動について、地域で指導者として活動する人材の養成や全県域での展開につながる取組の実施について検討することを期待する。
・開き書きの対象となった高齢者にどのような効果が見られるか、開き書きを行うボランティアは地域の魅力をどのように捉えたのか等について把握した上で、若者の地元定着にどのように結び付けていくのか等、今後の地域における展開のあり方を検討していただきたい。
・開き書きについては、養成講座の開催や指導者のスキルアップに取組、実践活動を経て「開き書き小冊子の贈呈」につなげることにより、世代間のギャップを埋め、高齢者の生きがいを増やす意味で価値のある活動であり、今後の活動の広がりを期待したい。
・「コグニサイズ運動」は、潟上市での教室開催、中間報告会の開催、自治体等への講師派遣に加え、指導者の育成による事業推進体制の強化がなされるなど非常に積極的な取組が行われ、本運動の今後の発展が十分に期待できる状況にある。
・合宿と教育実習の誘致活動は、相応の成果が得られている。

4．分野４（事業運営・情報発信等）に関して

・秋田創生ＣＯＣ＋協議会が事業をチェックし、改善するための場になっていることが確認できた。また、事業協働機関との協議においてバスツアーを企画するなど、企業側が積極的に関与する動きが地域に広がりつつあることを知ることができた。
・今後の成果を地域に発信し、応援団を作っていってほしい。また、こうした地域の側の申し出を事業期間終了後も継続できるような仕組み作りを考えていただきたい。
・秋田創生ＣＯＣ＋協議会の開催により、本事業の取組の充実・強化を図っていることや、様々な機会にＣＯＣ＋事業の全体や個々の取組内容について情報発信に努めていることは評価できる。
・外部への情報発信を通じ本事業への理解、大学の活動に関する理解を得ることは重要であり、学生、企業や産業界、地方自治体、学生の保護者それぞれが求めている情報がどのようなものかといった点にも留意しながら、今後も、情報発信に努めていただきたいと考える。
・「ＣＯＣ＋パンフレット」等の作成により、広く県民にＣＯＣ＋事業の周知を図ることができた。

5．全体評価

・秋田県の人口減少が進む中、人口減少を抑えながら、いかに都市の縮小均衡を図るかが、今後の行政運営を進める上で重要であると考える。
・若者の地元定着は非常に重要で、地域にとって喫緊の課題であり、この秋田創生ＣＯＣ＋事業は有意義なものであると受け止めている。
・この事業におけるこれまでの取組が一定の成果を上げていることを前向きに評価するとともに、今後も地域の大学等が連携を深めながら、関連事業を推進していただきたい。
・行政としても秋田創生ＣＯＣ＋事業に連動して、若者の地域への定着について、効果のある活動をしていきたいと考えている。
・定量的目標６項目のなかで、県内就職率を除く５項目については目標達成がほぼ達成となった。
・県内就職率は大きく未達成となっているが「首都圏企業の一人勝ち」と言われるほど状況が一段と厳し

いなか、非常に善戦したものと判断する。
・各分野において計画に沿った事業が実施されているほか、一部においては計画以上の事業が実施されており、全体として「計画を上回る実績である。」と認められる。
・効果的な事業の実施に向け、関係大学や関係機関と連携した取組をさらに充実、発展させていただくことを期待する。
・事業の継続により、関係大学と県内の企業や自治体等が連携してそれぞれの魅力を高めるとともに、そうした魅力を学生が知る機会を増やし、各大学卒業者の県内就職、県内定着が促進され、本県の課題である社会減対策に大きな役割を果たすことを期待する。

［５］．秋田創生ＣＯＣ＋事業（平成３０年度実績）に関する外部評価実施要領

１　目　的

外部評価は、秋田創生ＣＯＣ＋事業の自主的な見直し、改善を促し、もって当該事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

２　評価の体制

（１）外部評価委員会は、外部評価委員会に関する細則第２条の規定に基づき次の委員により構成する。

国立大学法人弘前大学　副理事・人文社会科学部教授　曽我　亨
秋田市　産業振興部長　新出　康史
一般財団法人秋田経済研究所　専務理事・所長　相原　学
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会　事務局長　佐藤　寿美

（２）外部評価委員会に関する細則第４条の規定に基づき、外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

３　外部評価の実施方法

（１）各外部評価委員は、自己評価委員会が作成した「自己評価書」、及び外部評価委員会におけるＣＯＣ＋大学（秋田大学）とＣＯＣ＋参加校（秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）の説明及び質疑応答に基づき、別添様式の外部評価シートにより、４つの分野及び事業全体について、次の評価基準により評価を実施する。

ア　４つの分野
第１分野：「第１の柱：６大学による「秋田おらほ学」の展開」に関すること
第２分野：「第２の柱：３大学と地元企業群による就職支援」に関すること
第３分野：「第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」に関すること
第４分野：事業運営、情報発信に関すること

イ　評価基準

評価の記号		
分野	全体	実　施　状　況
Ⅴ	Ⅴ	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	Ⅱ	計画を下回る実績である。
Ⅰ	Ⅰ	計画を大きく下回る実績である。

（２）外部評価委員会は、各外部評価委員の評価結果に基づき協議し、外部評価委員会としての評価結果を決定する。

（３）外部評価委員会は、評価結果を取りまとめた「外部評価書」を作成し、秋田創生ＣＯＣ＋協議会長に報告する。

４　外部評価委員会

（１）日　時　令和元年１０月３１日（木）　１４：００～１６：３０

（２）場　所　秋田大学百周年記念館　２階会議室

（３）次　第
① 開会
② あいさつ
③ 外部評価委員の紹介
④ 外部評価委員長の選出
⑤ 外部評価実施要領について
⑥ 事業概要・自己評価結果に関する説明及び質疑応答
ア　全体事業概要について
イ　平成３０年度事業の進捗状況の概要について
ウ　数値目標の進捗状況について
エ　分野１及びその自己評価について
オ　分野２及びその自己評価について
カ　分野３及びその自己評価について
キ　分野４及びその自己評価について
ク　全体評価について
⑦ 外部評価結果とりまとめ
⑧ 外部評価結果の発表と各委員からの講評
⑨ 閉会

（４）出席者（予定）
① 外部評価委員
国立大学法人弘前大学　副理事・人文社会科学部教授　曽我　亨
秋田市　産業振興部長　新出　康史
一般財団法人秋田経済研究所　専務理事・所長　相原　学
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会　事務局長　佐藤　寿美
② ＣＯＣ＋大学及び参加大学関係者
ア　自己評価委員会委員
秋田大学理事　志立　正知
秋田大学　教育推進主管　後藤　猛
秋田大学　地方創生センター地域協働・防災部門長　臼木　智昭
秋田大学　医学系研究科教授　中村　順子
秋田県立大学　生物資源学部長　金田　吉弘
秋田県立大学　研究・地域貢献本部　主監　伊藤　邦夫
秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　教授　丸山　耕一
秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　嘱託教授　野坂　肇
イ　その他各校事業担当者・事務担当者
秋田大学　地域コーディネーター　川村　宏
秋田大学　地方創生・研究推進課職員
秋田大学　総合学務課職員
秋田大学　学生支援・就職課職員
秋田県立大学職員
秋田工業高等専門学校職員

平成27年度採択
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」とは

地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(COC〈Center of Community〉事業)」を発展させ、大学が、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要なカリキュラム改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業です。

秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
秋田創生ＣＯＣ＋協議会

ＣＯＣ＋事業の概要

事業名：超高齢・人口減少社会における若者の地元定着の促進と若者の育成

少子高齢化、人口減少が続く秋田県にあって、秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校の３校が、文部科学省の支援を受け、秋田県や県内経済団体等と連携して「３本の柱の取組」を推進することにより、学生の県内就職率を５年間で 10%アップすることを目指しています。

- **第１の柱：６大学連携「秋田おらほ学」の展開**
  → 地域アイデンティティを持つ学生の育成
- **第２の柱：大学と地元企業群による若者の県内就職・定着支援**
  → 学生と地元企業のマッチングの拡充
- **第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり**
  → 交流人口の拡大と助け合い社会の構築

秋田創生 COC ＋協議会

事業協働地域（秋田県）が一体となってＣＯＣ＋事業を推進するため、平成 28 年６月に「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」を設立しました。ＣＯＣ＋全体の事業計画等について協議するとともに、各組織が連携しながら若者の地元定着の取組を推進しています。また、下部組織として、第１の柱「秋田おらほ学」を展開するため、「教育プログラム開発委員会」と「６大学『秋田おらほ学』検討委員会」を設置しています。

<構成団体>

- ＣＯＣ+責任大学：秋田大学
- ＣＯＣ+参 加 校：秋田県立大学、秋田工業高等専門学校
- ＣＯＣ+協 力 校：国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学
- 参 加 自 治 体：秋田県
- 参 加 企 業 等：秋田商工会議所、秋田県商工会連合会、秋田県中小企業団体中央会、秋田県ふるさと定住機構、秋田銀行、北都銀行、秋田高専産学協力会

数 値 目 標

ＣＯＣ＋事業の主な数値目標は、３大学の学生の県内就職率を５年間で 10%アップすることです。高いハードルですが、一人でも多くの学生が秋田県内に就職できるよう取組を進めています。

	平成27年３月卒(基準)	平成32年３月卒(目標)
３大学合計の県内就職率	30.0%	39.9%
秋　田　大　学	37.9%	48.0%
秋 田 県 立 大 学	19.3%	29.4%
秋　田　高　専	9.5%	20.0%

2

取 組 概 要

第１の柱：６大学連携「秋田おらほ学」の展開

地域アイデンティティを持った学生を育成するため、第１段階として、３大学独自の認証制度により地域志向教育の充実を図り、その後、６大学連携「秋田おらほ学」認証制度を構築し、「大学コンソーシアム秋田」の単位互換制度等を活用して、他大学への拡大を目指します。

秋田大学：「COCキャリア認証プログラム」（あきた創生推進士の称号）

教育文化学部地域文化学科の教育プログラム（秋田学基礎、地域学基礎、地域連携プロジェクトゼミ等）をベースに、地域志向科目の拡充を図り、地域課題解決に主体的に行動できる人材を育成します。

認証要件（1）：地域志向科目を 10 単位以上修得
認証要件（2）：単位は教養基礎教育科目等から修得
Ｈ 29：ＣＯＣキャリア認証プログラムのスタート
（第１期 95 名が修了）
Ｈ 30：「秋田の環境と資源」（理工学部必修）の開講
Ｈ 31：「秋田のくらし」、「秋田の産業」、「秋田の産業史と経済の成り立ち」、「秋田の地域資源と観光」などの開講
（全学共通教養基礎教育科目）

あきた創生推進士の称号授与式

秋田県立大学：「あきた地域学課程」（地域創生推進士の称号）

地域と大学が協働し、秋田の地域課題などを自分のものとして捉え、考え、解決に乗り出せる人材を育成します。

Ｈ 29：「あきた地域学」の開講
（標準コース、全学1年生必修・2単位）
Ｈ 30：「あきた地域学アドバンスト」の開講
（上級コース、２年生以上選択・2 単位）

「あきた地域学」実習発表会

秋田高専：「地域教育プログラム」（地域教育プログラム修了証）

地域の産業や環境の課題を発見、解決するための知識と実践力を教員と地域の実務家教員の共同教育により育成します。

認証要件：「地域産業Ⅰ」、「地域産業Ⅱ」、「地域史」、「地域計画」（以上２単位相当）、「地域密着型校外実習」の修得、「ＣＯＣ+講演会」の履修
Ｈ 28：「ＣＯＣ＋講演会」、「地域産業Ⅰ」の開講
Ｈ 29：「地域産業Ⅱ」、「地域計画」の開講
Ｈ 30：「地域史」の開講

COC+講演会

3

６大学連携「秋田おらほ学認証」制度の構築

地域志向科目の学修を通じて、秋田の魅力や現状を理解し、地域課題解決の意欲を有すると認められる学生を「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」が認証する制度。秋田を愛し、秋田のために頑張ろうという学生が、県内企業や自治体への就職を目指します。

認証要件（1）：各大学が定める一定数の地域志向科目の修了（３科目６単位以上）
認証要件（2）：県内事業所におけるインターンシップ
認証要件（3）：地域課題解決に向けた取組、意欲に関する小論文の審査
Ｈ 31：第１期の認証を予定（４月、10 月）

第２の柱：大学と地元企業群による県内就職・定着支援

県内大学と地元経済団体や企業が連携し、インターンシップなど学生と県内企業のマッチングの機会を拡充することにより、県内就職率の拡大を目指します。

「秋田就職サポート会議」の開催（年２回）

学生の県内就職率アップを図るため、県内６大学と秋田県、経済３団体や金融機関などの事業協働機関の就職担当者が一堂に会し、各団体の取組に関する情報共有や、今後の対策強化についての意見交換を行うことを目的に毎年２回開催し、連携による効果的な事業実施を促進しています。

「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催

秋田大学、秋田県立大学と秋田県、あきた企業活性化センターが協力し、両大学を会場に県内企業の事業内容や製品の紹介、企業の魅力のＰＲを行っています。両大学とも約 250 名の学生が来場し、「県内企業の技術力や研究について知ることができ、働くことへの意欲が高まった。」といった感想が寄せられています。

「大学と県内企業による情報交換会」の開催

平成 30 年９月に県内３会場において、秋田大学、秋田県立大学、秋田高専の就職担当者と県内企業の採用担当者が一堂に会し、就活スケジュールや学生に企業の魅力を伝える研修や事例発表、個別相談会を開催しました。３会場で合計 79 社の参加があり、「学生の採用について背中を押された。」といった感想が寄せられています。

「ジョブシャドウイング」の実施

秋田県立大学では、主に１・２年生を中心に職場観察型１日インターンシップ「ジョブシャドウイング」を実施しています。この事業は学生に、早い段階で県内企業に関心を持ってもらうことを目的としており、企業との協働により効率的なプログラムを策定し、平成 29 年度は 20 社において 107 名の参加がありました。

4

参加者からは「業界の現状について話を聞くことが出来て有意義であった。」「将来の仕事について、具体的なイメージを持つことができた。」「社員の方々が強い責任感を持って仕事に臨んでおり、大いに刺激を受けた。」といった感想が寄せられています。
平成 30 年度からは同プログラムをオープン化し、秋田大学の学生も参加しています。

ジョブシャドウイングのプログラム

①代表者からの講話　②社員からの業務内容紹介　③若手社員とのランチミーティング
④職場見学　⑤社員との意見交換　⑥まとめのレポート作成

「地域密着型校外実習」と「COC+研修会」の実施

秋田高専では、「地域密着型校外実習」として県内企業でのインターンシップを単位認定しており、平成 29 年度は 39 名の学生が参加しています。また、秋田高専産学協力会と連携し、県内企業を対象とした「COC＋研修会」を開催し、インターンシップをテーマに、企業の人事担当者と高専ＯＢのペアによる講演などを行っています。

秋田県の県内就職支援策

・秋田県就活情報サイト「KocchAke ！」による企業・採用情報の発信
・「秋田ＧＯ！ＥＮアプリ」による就職支援情報の発信と優待サービスの提供
・学生と保護者に向けた県内就職情報誌の発行
・女子学生と「あきた女子活応援サポーター」との交流会の開催
・業界研究会や合同就職説明会（面接会）の開催
・県内就職者に対する奨学金返還の一部助成（３年間で最大６０万円）

上記支援策の詳しい情報はこちらからご覧ください。
KocchAke!

第３の柱：ふるさと秋田魅力形成モデルづくり

秋田大学では県内市町村と連携し、スポーツ合宿誘致等による「交流人口の拡大モデルづくり」と、聞き書きボランティアの養成やコグニサイズ運動の展開による「高齢社会でも住みよい・安心感のある地域社会構築のモデルづくり」を展開しています。

首都圏大学スポーツ合宿誘致

Ｈ 28：拓殖大学フェンシング部の合宿誘致（男鹿市 11 名）
Ｈ 29：専修大学・東京農業大学フェンシング部の合宿誘致（男鹿市 42 名）
Ｈ 30：筑波大学等へのバレーボール合宿誘致活動の実施

首都圏大学からの教育実習誘致

Ｈ 29：共栄大学の教育実習生の誘致（東成瀬村１名）
Ｈ 30：同上（東成瀬村２名、大館市５名）

聞き書きボランティア養成講座の開催

「聞き書きボランティア」とは、高齢者から体験談を聞き、その人の一人語りの文体で一冊の本を作成し贈呈する活動であり、高校生などを対象に養成講座や実践活動を実施しています。
Ｈ 29：横手市（高校生 30 名）、秋田市（大学生等５名）
Ｈ 30：潟上市（秋田西高 12 名、金足農業 13 名）

認知症予防運動「コグニサイズ」の展開

「コグニサイズ」とは、しりとりや計算など頭を使う作業と有酸素運動を同時に行うことにより、認知機能の維持向上を目指すプログラムであり、秋田大学医学系研究科の教員で組織する「チームコグニサイズ」のメンバーが地域住民への普及活動を展開しています。
Ｈ 28：東成瀬村（９名）
Ｈ 29：男鹿市「セルフケア講座」（19 名 18 回）
Ｈ 30：潟上市（17 名 21 回）・中間事業報告会の開催（自治体職員等 70 名の参加）

事業成果の情報発信

ＣＯＣ＋フォーラムの開催

平成 30 年３月、秋田大学 60 周年記念ホールにおいて「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」フォーラムを、秋田大学、秋田県立大学、秋田高専の共催により開催しました。佐竹秋田県知事の特別講演に続き、各大学の地域を志向した教育プログラム改革やインターンシップの促進など、学生の県内就職率アップのための３年間の取組状況とその成果についての発表や、今後の事業展開に関する意見交換が行われました。
大学関係者や県内事業所、自治体関係者を中心に約 200 名の参加があり、ＣＯＣ＋事業の周知を図るとともに、先進事例としての福井大学の事例発表や文部科学省からの助言により、事業協働機関の連携を更に強化し、取組をより充実させていく契機とすることができました。

ホームページによる情報発信

秋田大学、秋田県立大学、秋田高専では、大学のホームページにＣＯＣ＋事業に関するコーナーを設け、それぞれの事業内容等について情報発信しています。

秋田大学　ＣＯＣ＋　｜　秋田県立大学　ＣＯＣ＋　｜　秋田高専　ＣＯＣ＋　で検索してください。

秋田創生ＣＯＣ＋通信の発行

県内事業所の皆様にＣＯＣ＋事業の周知を図るため、平成 30 年 12 月に「秋田創生ＣＯＣ＋通信」を発行しました。「大学と県内企業による情報交換会」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」など、大学と県内企業の連携した取組や、各大学の地域を志向した教育プログラムの実施状況など、今後も情報発信を行ってまいります。

外部評価の実施

ＣＯＣ＋事業の自主的な改善を促し、事業の質の向上、運営の効率化と透明性を確保するため、平成 30 年 10 月に外部評価委員会（委員長：曽我亨弘前大学教授）を開催しました。
平成 29 年度事業実績については「概ね計画どおりの実績である。」との評価であり、「地域の産業を学ぶ科目の開発」「地域志向科目の教育効果を測定し、授業改善を図ること」「専門家を活用したインターンシップの更なる充実」などの提言をいただきました。
こうした提言を踏まえ、今後、ＣＯＣ＋事業をさらに充実、発展させてまいります。

ＣＯＣ＋の連携図

（事務局情報）

秋田大学　地（知）の拠点推進本部　COC＋事務局
住所　〒010－8502　秋田市手形学園町１－１
電話　018－889－3246　FAX　018－889－3168　E-mail　coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

秋田県立大学　地域連携・研究推進センター
住所　〒010－0195　秋田市下新城中野字街道端西 241－438
電話　018－872－1557　FAX　018－872－1673　E-mail：stic@akita-pu.ac.jp

秋田工業高等専門学校　ＣＯＣ＋事務局
住所　〒011－8511　秋田市飯島文京町１番１号
電話　018－847－6108　FAX　018－857－3191　E-mail　coop-edu@akita-nct.ac.jp

秋田創生 COC+通信

2018.12月

秋田就職サポート会議を開催しました

８月８日(水)秋田商工会議所ホール８０において、平成３０年度第１回秋田就職サポート会議を開催しました。この会議は学生の県内就職率アップを図るため、ＣＯＣ＋参加大学や秋田県、秋田商工会議所などの事業協働機関の就職担当者が一堂に会し、各団体の取組に関する情報共有や、今後の対策強化についての意見交換を行うことを目的に毎年２回開催しております。

会議では大学や事業協働機関等の各団体から学生の県内就職の状況・動向、事業の取組、採用活動の取組等について発表があり、「大学と企業による情報交換会」*や「秋田ものづくりオープンカレッジ」*など、大学と企業等の連携した取組を強化していくことしました。(＊3P参照願います)

地(知)の拠点

ジョブシャドウイングを実施しました

秋田県立大学が12社においてジョブシャドウイングを実施しました。

うち５社(＊印)は秋田大学との連携による実施です。

実施日	実施企業	所在地	参加者
8/7	エイデイケイ富士システム(株)	秋田市	8 ＊
8/9	秋田エプソン(株)	湯沢市	8 ＊
8/28	日本製紙(株)秋田工場	秋田市	5 ＊
8/28	ニプロファーマ(株)大館工場	大館市	5
9/3	(株)秋田今野商店	大仙市	4
9/10	横手建設(株)	横手市	3
9/12	(株)ウエンディ・ジャパン	秋田市	9 ＊
9/13	秋田湯美工業(株)	横手市	4
9/14	日立オートモティブシステムズ(株)秋田事業所	横手市	4 ＊
9/14	(株)ヤマダフーズ	美郷町	6
9/19	(株)池田	由利本荘市	4
9/20	秋田指月(株)	羽後町	4

ジョブシャドウイングとは、学生が事業所で働く人に「影」のように寄り添い、その仕事内容や職場での様子を１日だけ観察するインターンシップの一形態です。

ジョブシャドウイングのプログラム

①代表者からの講話
②社員からの業務内容紹介
③若手社員とのランチミーティング
④職場見学
⑤社員との意見交換
⑥まとめのレポート作成

▼参加した学生の感想

- 業界の現状について話しを聞くことが出来て、とても有意義であった。
- 将来このような形で仕事をするのだという具体的なイメージを持つことができた。
- 代表者の話を聞いて、自分が世の中をどう変えたいか、どう良くしていきたいかを考えるようになった。
- もともと秋田県での就職を考えていました。今回のジョブシャドウイングでは、その気持ちがますます大きくなりました。
- 自分の好きなこと、興味があることは、やはり働く上で大きなモチベーションになるし、働く原動力になるなと思いました。
- 働いている社員の方々が、強い責任感をもって仕事に臨んでいることが分かり、大いに刺激を受けた。
- 自分も適切な報告が出来るよう、大学での教育とのやり取りにおいて意識付けしていきたい。
- コミュニケーション能力と自分で考え動く積極性が必要だと感じた。
- 目標があるという事がとても大事だとわかりました。

参加した学生にとって、将来の職業選択肢の一つとして県内企業を考える機会になったようです。

このジョブシャドウイングは、来年の春休みにも実施しますので、企業の皆様のご協力をお願い致します。

「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました

秋田大学・秋田県立大学・秋田高専の３校の就職推進担当と県内企業の採用担当が一堂に会し、「大学と県内企業による情報交換会」を開催しました。

日程・会場・参加企業数

９月５日(水) 県北会場　北秋田市民ふれあいプラザコムコム ── 10社参加
９月６日(木) 中央会場　秋田大学手形キャンパス総合研究棟 ── 55社参加
９月７日(金) 県南会場　横手市交流センターわいわいプラザ ── 14社参加

【プログラム】
第１部●セミナー「採用活動を進めるためには」(学生の就職状況や就活スケジュールの実情等について)
第２部●セミナー「企業の魅力を伝えるためには」(発表企業：秋田ダイハツ㈱様／㈱熊谷機械設計様)
第３部●個別相談会

県北会場

中央会場

県南会場

参加者からは、「学生採用について背中を押されたように感じた。」などの前向きな意見が多く寄せられており、県外企業による旺盛な採用攻勢の中にあって、今後の県内企業によるより積極的な学生へのアプローチが期待されます。

第３回秋田ものづくりオープンカレッジを開催しました

秋田大学と秋田県立大学及び秋田県の主催、あきた企業活性化センターの共催により、「第３回秋田ものづくりオープンカレッジ」を開催しました。本イベントは、COC+事業の一環として、学生にオンリーワンの技術をもった元気な県内企業を知ってもらうことを目的に、10月17日(水)に秋田県立大学、10月23日(火)に秋田大学の両キャンパスにおいて、県内の自動車、航空機、医療福祉機器、情報通信の４分野に携わる38社がブースを出展し、事業内容や製品の紹介、企業の魅力のＰＲを行いました。

秋田大学と秋田県立大学の両会場とも約 250 名の学生が来場し、実際の製品に触れながら企業担当者の説明に熱心に聞き入りました。参加した学生からは、「県内企業の技術力や研究について知ることができ、また、働くことへの意識が高まった」などの感想が寄せられており、来年度も引き続き開催したいと考えております。

第２部として、「世界にはばたくものづくり講演会」も開催され、医工連携の最先端で活躍する株式会社セントラルユニ(東京都)様とエヌピーエス株式会社(大館市)代表取締役社長の池田秀雄氏による講演が行われ、両会場合わせて約170名の参加がありました。

第21回秋田高専COC+講演会を開催しました

11月９日(金)秋田高専大講義室において、第21回COC+講演会を開催しました。

秋田高専COC+講演会は県内企業経営者や技術者、秋田県庁などの産業振興や雇用促進を担当する行政官等の講演を通じて、本校学生が地域を理解し、地域の課題を発見・解決しようとする気付きを与え、地域に定着する若者人口を増大させることを目的としたものです。

今年度４回目となる本講演会では株式会社アクトラスの代表取締役真田慎氏を講師に迎え、２年生167名を対象として「未来の技術者のための心構え」という演題で講演が行われました。様々な事例をもとに技術の進歩についてや製品開発の現状について紹介していただき、初めてのCOC+講演会となった２年生にとって、技術や企業を知る上で大変有意義なものとなりました。

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(ＣＯＣ+)

【平成27年度～平成31年度】

【COC+大学】　秋田大学
【COC+参加大学】　秋田県立大学・秋田工業高等専門学校
【COC+協力大学】　国際教養大学・秋田公立美術大学・日本赤十字秋田看護大学
【事業協働機関】　秋田県・秋田商工会議所・秋田県商工会連合会
秋田県中小企業団体中央会・秋田県ふるさと定住機構
秋田銀行・北都銀行・秋田高専産学協力会

秋田大学 [発行者] 秋田大学地(知)の拠点推進本部
TEL 018-889-3246 FAX 018-889-3168 E-mail coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

⑭情報発信

COC＋の連携図

- **秋田大学　地（知）の拠点推進本部　COC＋事務局**
  住所 〒010-8502　秋田市手形学園町1-1
  電話 018-889-3246　FAX 018-889-3168　E-mail coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp
- **秋田県立大学　地域連携・研究推進センター**
  住所 〒010-0195　秋田市下新城中野字街道端西241-438
  電話 018-872-1557　FAX 018-872-1673　E-mail stic@akita-pu.ac.jp
- **秋田工業高等専門学校　COC＋事務局**
  住所 〒011-8511　秋田市飯島文京町1-1
  電話 018-847-6108　FAX 018-857-3191　E-mail coop-edu@akita-nct.ac.jp
- **国際教養大学　教務課履修チーム**
  住所 〒010-1211　秋田市雄和椿川字奥椿岱193-2
  電話 018-886-5870　FAX 018-886-5910　E-mail studentrecords@aiu.ac.jp
- **秋田公立美術大学　事務局学生課**
  住所 〒010-1632　秋田市新屋大川町12-3
  電話 018-888-8105　FAX 018-888-8101　E-mail kyomu@akibi.ac.jp
- **日本赤十字秋田看護大学　総務課**
  住所 〒010-1406　秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
  電話 018-829-3045　FAX 018-829-3030　E-mail kikaku@rcakita.ac.jp

文部科学省採択
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）

地（知）の拠点

6大学連携
『秋田おらほ学認証』制度
がスタートしました。

秋田創生COC＋協議会

秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
国際教養大学　秋田公立美術大学　日本赤十字秋田看護大学
秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会
秋田県ふるさと定住機構　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会

「秋田おらほ学認証書」は秋田の魅力や現状を理解し、地域課題解決のために行動する意欲を持った学生の証です。

「秋田おらほ学認証」制度とは？

◆ＣＯＣ＋事業３本の柱の取組で、学生の地元就職率10%アップ！

秋田県内６大学（秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校、国際教養大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学）では、人口減少が進む秋田県を活性化させるため、秋田県や県内経済団体等と連携し、地元秋田に就職する学生を増やす取組（ＣＯＣ＋事業）を推進しています。

第１の柱：6大学連携「秋田おらほ学」の展開（地域アイデンティティを持つ学生の育成）
第２の柱：大学と地元企業群による若者の県内就職・定着支援
（学生と県内企業とのマッチングを促進）
第３の柱：交流人口の拡大と助け合い社会の構築

◆秋田のために行動する学生に「秋田おらほ学認証書」を交付します。

「秋田おらほ学認証」制度は、第１の柱の取組の一環であり、「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」が、地域志向科目の学修等を通して、秋田の魅力や現状、課題について理解し、課題解決に必要な知識や技能を修得するとともに、地域課題解決のために主体的に行動する意欲を有すると認められる学生に対して、「秋田おらほ学認証書」を交付します。

◆「秋田を元気にしたい」という学生の意欲を受け止めてください。

「秋田おらほ学認証」を受けた学生が、『秋田を元気にしたい』、『秋田のために頑張ろう』という意欲を胸に、県内企業や自治体への就職を目指します。

エントリーシートの記述や面接の機会を通じて、秋田の大学で、秋田を学んだ成果を直接確かめ、積極的な採用を検討してください。

「地域志向科目」には、どんな科目がありますか。

◆秋田大学「ＣＯＣキャリア認証プログラム」

○教養基礎教育科目（全学共通）
「秋田の歴史」、「秋田の自然と文化」、「秋田のくらし」、
「秋田の産業」、「秋田の再生可能エネルギー」、
「秋田の地域資源と観光」など
○専門科目（各学部学科）
教育文化学部：「秋田学基礎」、「地域学基礎」、
「地域連携プロジェクトゼミ」など
医　学　部：「地域医療・コミュニケーションとチーム医療」、
「地域看護学実習」、「地域理学療法学」、
「地域作業療法学」など
理 工 学 部：「秋田の環境と資源」、「地域産業論」、
「プロジェクト実践研究Ⅱ」など

秋田大学「地域連携プロジェクトゼミ」

◆秋田県立大学「あきた地域学課程」

○標準コース：「あきた地域学」（全学１年生必修）
○上級コース：「あきた地域学アドバンスト」（上級必修）、
「地域ビジネス起業論」、「建築計画と風土」など

秋田県立大学「あきた地域学」

◆秋田高専：「地域教育プログラム」

「地域産業Ⅰ」、「地域産業Ⅱ」、「地域史」、「地域計画」、
「地域密着型校外実習」（県内企業でのインターンシップ）、
「COC+講演会」など

◆国際教養大学：「秋田学」、「地域発展論」など

◆秋田公立美術大学：「地域プロジェクト演習」、「地域産業研究」など

秋田高専「COC+講演会」

「秋田おらほ学認証」を受けるための要件は？

（１）地域志向科目を３科目６単位以上修得すること。

（２）県内でのインターンシップ等の実績があること。

各大学が定める「地域志向科目」を3科目6単位以上修得するとともに、県内事業所におけるインターンシップや、企業や地域と連携した「課題解決型の授業」の実績が必要です。この２つの要件をいずれもクリアした学生について、各大学の推薦に基づき小論文の審査を行い、認証者を決定します。

「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」とは？

◆県内大学と行政、県内経済界が連携し、若者の地元定着を推進します。

人材の地方への集積を目指すＣＯＣ＋事業を推進するため、秋田県内６大学と秋田県、県内経済団体等により設立された組織であり、学生の県内就職率アップのため、地域アイデンティティを持った学生の育成や、インターンシップなど、大学や学生と県内企業とのマッチングを促進する取組を連携して実施しています。

構成団体　県内6大学　秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会
秋田県ふるさと定住機構　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会

Ⅳ. 資　料
平成 27 年度～平成 29 年度

分野1資料【平成 27 年度～平成 29 年度】

第1の柱
6大学連携による「秋田おらほ学」の展開

①6大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築
（事業協働機関全体）

②「COCキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

③「あきた地域学課程」の実施（秋田県立大学）

④「COC+授業」等の実施（秋田工業高等専門学校）

①６大学連携による秋田おらほ学認証制度の構築（事業協働機関全体）

平成２８年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
第１回教育プログラム開発委員会を開催しました。

８月２日（火）秋田大学百周年記念館２階会議室において、事業責任大学である本学、参加大学・協力大学と自治体、企業等の担当者による「第１回教育プログラム開発委員会」を開催しました。

同委員会は、地域に貢献できる人材育成及び若者の地元定着を目的に、秋田の芸術・文化、歴史、先端技術・科学など地域に根ざした「地域志向科目」を核にした教育プログラム（秋田おらほ学）を考えるものです。６大学がまず、それぞれの特徴を生かした教育カリキュラムを整備し、将来的には各大学の「地域志向科目」が共通で学べる教育システム構築を目指しています。

はじめに、本学の小川理事（地方創生・研究担当）が、「各大学はそれぞれ独自の地域学を設定し、その後、６大学で連携して教育プログラムの開発を進めていくことになる。協働機関である行政、経済界から助言、要望をいただきながら、オール秋田で秋田おらほ学の形をつくっていきたい」と挨拶しました。

次に、各大学が、地域を志向したカリキュラム等の現状について説明したあと、参加者からは、次の意見が出されました。

○「秋田おらほ学」の定義づけをまず、はっきりしたものにしたい。
○県内の光る企業紹介を「秋田おらほ学」に盛り込み、低学年のうちから、各企業の魅力を伝えるプログラムはどうか。
○「秋田で暮らすこと」の価値、意義について学ぶようなプログラムも大切ではないか。
○秋田を知る、秋田に愛着を持つ取り組みに、「秋田ふるさと検定」がある。基礎として繋がる内容もあるのではないか。
○「創業や起業のノウハウ」といった実践的な教育プログラムも考えてみたらどうか。
○ふるさと定住機構を通じて他地域から移住された方々から体験談を聞く、学ぶという教育プログラムはどうか。
○短期のインターンシップ、例えばジョブ・シャドーイングの中で「工場見学や会社紹介（講演）」から学ぶことも有効だ。

今後の取り組みとして、教育プログラム開発委員会の下部組織、実務者が議論する実践的な組織として、６大学の教員、事務職員らで組織する「秋田おらほ学検討委員会（仮称）」を立ち上げる予定。参加の皆さまからいただいた、ご意見、ご助言を踏まえ、さまざまな角度から教育プログラム開発を進めていくことを確認しました。

平成２８年度第１回教育プログラム開発委員会の様子

教育プログラム開発委員会規程

（趣旨）
第１条　この規程は、秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要綱（以下「協議会要綱」という。）第６条第３項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（委員長及び副委員長）
第２条　委員会に委員長及び副委員長を置く。
２　委員長は協議会要綱第６条第２項第１号に規定する委員をもって充てる。
３　副委員長は委員の中から委員長があらかじめ指名し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

（会議）
第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項について協議するため、会議を開催する。
（１）「秋田おらほ学」の教育プログラムに関すること
（２）「秋田おらほ学」の認証に関すること
（３）その他「６大学の連携による「秋田おらほ学」の展開」に関し必要な事項
２　会議は、委員長が招集し、委員長が座長となる。
３　委員が出席できないときは、代理者を出席させることができる。
４　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

（補則）
第４条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規程は、平成２８年６月１０日から施行する。

６大学「秋田おらほ学」検討委員会設置規程

（設置）
第１条　ＣＯＣ＋事業第１の柱である６大学の連携による「秋田おらほ学」の展開に関して、次に掲げる事項についてより実務的に検討するため、教育プログラム開発委員会の下に６大学「秋田おらほ学」検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。
（１）「秋田おらほ学」の教育プログラムに関すること。
（２）「秋田おらほ学」の認証に関すること。
（３）その他、６大学の連携による「秋田おらほ学」の展開に関し必要な事項。

（組織）
第２条　検討委員会は、事業責任大学、参加大学及び事業の一部を協力する大学が、教員及び事務職員各１名を委員として選任し組織する。
２　検討委員会に委員長及び副委員長を置く。
３　委員長は事業責任大学が選任した教員をもって充てる。
４　副委員長は委員の中から委員長があらかじめ指名し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

（会議）
第３条　検討委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が座長となる。
２　委員が出席できないときは、代理者を出席させることができる。
３　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

（補則）
第４条　この規程に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この規程は、平成２８年１２月７日から施行する。

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
６大学「秋田おらほ学」検討委員会を開催しました。

９月 26 日（火）秋田大学地方創生センター２階２０６号室において、６大学「秋田おらほ学」検討委員会を開催しました。
同委員会は、COC+事業第１の柱である「６大学連携による"秋田おらほ学"の展開」として、「地域志向科目」を核にした教育プログラム(秋田おらほ学)を整備するにあたり、教育プログラム開発委員会の下部組織として発足しました。６大学の教員・事務担当者等の実務者が"秋田おらほ学"の制度構築にむけて、実践的な協議を行います。

はじめに、本学の銭谷委員長が「今年３月に開催した委員会では全体の今後のスケジュールや各大学の取組状況、他県の取組状況等の意見交換を行った。今回はその議論を踏まえ、前回議論となった論点や今後の取組についてじっくりと協議をしていきたい。」と挨拶しました。

次に、各大学が、地域を志向したカリキュラム等の現状や今後の取組について説明したあと、参加者からは次の意見が出され、協議がなされました。
○地域志向科目が難しい場合は、地域関連科目として柔軟な設定をしてはどうか。
○１０単位以上を条件にするのが難しいとすれば、各々の独自プログラムをパッケージで認証してはどうか。
○カレッジプラザやテレビ授業を使って、他大学の科目をうけられるシステムにしてはどうか。
○面接、小論文は多人数のため難しいが、認証審査としてのプレゼンテーションを科目として盛り込むほうが実践的だ。
○県内就職の際に、企業が採用したくなるような認証であるべきだ。

今後は先進的な取組をしている他県の COC+大学への視察を行いながら、"秋田おらほ学"について検討を深めるとともに、６大学間の連携・調整を図っていくこと確認しました。

６大学「秋田おらほ学」検討委員会の様子

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
第１回教育プログラム開発委員会を開催しました。

９月 26 日（火）秋田大学百周年記念館２階会議室において、第１回教育プログラム開発委員会を開催しました。
同委員会は、COC+事業第１の柱である「６大学連携による"秋田おらほ学"の展開」として、秋田の自然、人、社会、文化、産業等に関連した「地域志向科目」を核にした教育プログラム(秋田おらほ学)を整備し、地域に貢献できる人材の育成及び若者の地元定着を目指しています。

はじめに、委員長である本学の小川理事（地方創生・研究担当）が「秋田大学・県立大学・高専のそれぞれの地域を志向した教育プログラムの取組や秋田おらほ学の展開について、県や経済団体、協力大学の皆様からご意見をいただきたい。」と挨拶しました。

次に、各大学から教育プログラムの現況や今後の取組について説明があり、参加者からも次のような意見が出され、協議がなされました。
○科目名だけでは地域を志向した科目であることが分からない。サブタイトルをつけてはどうか。
○アクティビティの要素がある科目も入れた方が良い。
○単位に拘らず、科目の内容によってポイント制にしてはどうか。
○認証審査の方法として面接や小論文は物理的に難しいため、プレゼンテーションを科目に組み込めないか。
○称号を就職活動時に活用するためには、認証時期を検討する必要がある。

今後は県外の COC+大学等への視察を行いながら、先進地の事例を参考に、早期に認証制度を構築することを確認しました。

平成２９年度第１回教育プログラム開発委員会の様子

②「COCキャリア認証プログラム」の実施（秋田大学）

○秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム実施要項

（平成 29 年 3 月 29 日学長裁定第 297 号）

改正　平成 30 年 11 月 21 日一部改正

（趣旨）

第 1 条　この要項は，秋田大学(以下「本学」という。)が地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(ＣＯＣ＋)において実施するＣＯＣキャリア認証プログラム(以下「本プログラム」という。)に関し，必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条　本プログラムは，次条に定める授業科目(以下「地域志向科目」という。)の学修により，秋田県の現状や課題について理解するとともに，修得した専門的な知識や技能を活用し，地域課題解決のために主体的に行動できる人材を育成することを目的とする。

（地域志向科目）

第 3 条　本プログラムを構成する授業科目は，高等教育グローバルセンター及び各学部において審議し，学務系委員長会議を経て，地(知)の拠点推進本部長が別に定める。

（修了要件）

第 4 条　本プログラムを修了するためには，地域志向科目を 10 単位以上修得しなければならない。ただし，10 単位のうち，4 単位以上は教養基礎教育科目又は別に定める科目から修得しなければならない。

（修了証の交付）

第 5 条　前条の修了要件を満たしたものに秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム修了証(以下「修了証」という。)を交付し，あきた創生推進士の称号を授与する。

2　修了証は学位授与の際に交付する。

3　就職活動等のため，学位授与に先立ち本プログラムの修了(修了見込みを含む。)の証明が必要な場合は，別に定める修了(見込み)証明書を交付する。

（補則）

第 6 条　この要項に定めるもののほか，必要な事項は別に定める。

附　則

1　この要項は，平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

2　平成 28 年度以前の入学生が，平成 28 年度以前に開講された地域志向科目を修得していた場合は，当該単位を第 4 条に定める修了要件に含めることができるものとする。

附　則(平成 30 年 11 月 21 日一部改正)

この要項は，平成 31 年 4 月 1 日から実施する。

○秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム実施要項の取扱い

（平成 29 年 3 月 31 日地(知)の拠点本部長裁定）

（趣旨）

第 1 条　この取扱いは，秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム実施要項(以下「要項」という。)第 3 条から第 6 条の規定に基づき，秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラム(以下「本プログラム」という。)の実施に関し，必要な事項を定める。

（地域志向科目）

第 2 条　要項第 3 条に規定する地域志向科目は別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

（別に定める科目）

第 3 条　要項第 4 条ただし書きに規定する科目は，秋田学基礎及び地域学基礎とする。

2

（修了証等の様式）

第 4 条　要項第 5 条第 1 項に規定する修了証の様式は別記様式 1 のとおりとする。

2　同条第 3 項に規定する修了(見込み)証明書の様式は別記様式 2 のとおりとする。

（補則）

第 5 条　この取扱いに定めるもののほか，必要な事項は別に定める。

2

附　則

この取扱いは，平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

別表 1

番号	科目群・分類	授業科目名－サブタイトル－	単位数	開講年度 26	27	28	29
1	主題別科目（人間と文化）	教養ゼミナール 1－民俗芸能の実習と演奏動作の研究－	1			○	
2	主題別科目（人間と文化）	人権と共生－ボランティア活動論－	1	○	○	○	○
3	主題別科目（人間と文化）	日本社会入門Ⅰ	2	○	○	○	○
4	主題別科目（人間と文化）	日本社会入門Ⅱ	2	○	○	○	○
5	主題別科目（人間と文化）	教養ゼミナール 1－自然エネルギーを考える－	1	○	○	○	○
6	主題別科目（人間と文化）	教養ゼミナール 1－自然環境・社会環境と、共生社会－	1			○	○
7	主題別科目（人間と	地球の環境と資源Ⅱ－資源問題と地球環境－	1	○	○	○	○

	文化）						
8	主題別科目（人間と文化）	自然環境と住まい－建築環境学入門－	2	○	○	○	○
9	主題別科目（生活と保健）	教養ゼミナール 1－聞き書きによる人間関係の構築	1			○	○
10	主題別科目（生活と保健）	医学と健康ⅡＡ・Ｂ－新しい医療機器を生み出す医工連携の実際－	1		○	○	
11	主題別科目（生活と保健）	医学と健康ⅡＡ・Ｂ－日本におけるがん診療の現状－	1				○
12	主題別科目（生活と保健）	医学と健康Ⅲ－加齢と保健医療－	2	○	○	○	○
13	主題別科目（生活と保健）	がん治療～検診・診断・治療・看取り～	2	○	○	○	○
14	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 1－地域医療の問題点－	1	○	○	○	○
15	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 1－地域の生活史を考える－	1	○	○	○	
16	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 1－防災教育について考える－	1	○	○	○	○
17	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 1－雪国の防災を科学する－	1	○	○	○	○
18	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 2－ジオパーク学入門－	2	○	○	○	○
19	主題別科目（地域社会）	教養ゼミナール 2－マタギ学入門：山の自然と文化：－	2			○	○
20	主題別科目（地域社会）	地域と食文化	2	○	○	○	
21	主題別科目（地域社会）	秋田の歴史－城下町を歩く－	1	○	○	○	○
22	主題別科目（地域社会）	秋田の自然と文化Ａ・Ｂ－秋田の自然・資源・社会・文化－	1	○	○	○	○
23	主題別科目（地域社会）	防災学基礎Ⅰ－防災のための地球科学入門－	1	○	○	○	○
24	主題別科目（地域社会）	防災学基礎Ⅱ－地域防災学入門－	1	○	○	○	○
25	主題別科目（地域社会）	津波防災基礎－広い低平地における津波対策を考える－	1				○
26	主題別科目（地域社会）	農村と人々の暮らし－農村地理学入門－	2			○	○
27	主題別科目（技能の	秋田大学論－がんばれ！秋大生－	1	○	○	○	○

	活用）						
28	主題別科目（技能の活用）	キャリアデザインⅡ－仕事理解－	1		○	○	○
29	主題別科目（技能の活用）	キャリアデザイン総論	2			○	○
30	主題別科目（技能の活用）	「起業力」養成ゼミナール	2		○	○	○
31	主題別科目（技能の活用）	鉱業博物館業務体験	1		○	○	○

別表 2

番号	開講学部・学科等	授業科目名	単位数	開講年度 26	27	28	29
	国際資源学部						
1	国際資源学部	資源学実習	1	○	○	○	○
	教育文化学部　学校教育課程						
1	学校教育課程	教職入門Ⅰ	2	○	○	○	○
2	学校教育課程	教職入門Ⅱ	2		○	○	○
3	学校教育課程	幼児の理解と指導	2	○	○	○	○
4	学校教育課程	環境歴史学概論	2		○	○	○
5	学校教育課程	地誌学概論	2		○	○	○
6	学校教育課程	地域社会学概論	2	○	○	○	○
7	学校教育課程	生物学フィールド実習	2			○	○
8	学校教育課程	地域食品健康論	2		○	○	○
9	学校教育課程	食生活実験・演習Ⅰ（地域食材の調理実習）	2		○	○	○
10	学校教育課程	住居学概論	2		○	○	○
11	学校教育課程	発達教育演習	2			○	○
12	学校教育課程	教育学演習Ⅰ	2		○	○	○
13	学校教育課程	教育学演習Ⅱ	2		○	○	○
14	学校教育課程	教育学演習Ⅲ	2		○	○	○
15	学校教育課程	教育心理学実習Ⅰ	1	○	○	○	○
16	学校教育課程	教育心理学実習Ⅱ	1		○	○	○
17	学校教育課程	教育心理学実習Ⅲ	1			○	○
18	学校教育課程	教育心理学実習Ⅳ	1			○	○
	教育文化学部　地域文化学科						
1	地域文化学科	秋田学基礎	2	○	○	○	○

2	地域文化学科	地域学基礎	2	○	○	○	○
3	地域文化学科	地域資源活用論	2	○	○	○	○
4	地域文化学科	地域振興論基礎	2	○	○	○	○
5	地域文化学科	地域統計学基礎	2	○	○	○	○
6	地域文化学科	地域統計技法A	2		○	○	○
7	地域文化学科	地域統計技法B	2		○	○	○
8	地域文化学科	地域生活学概論	2	○	○	○	○
9	地域文化学科	地域社会学概論	2	○	○	○	○
10	地域文化学科	地域社会基礎ゼミ	1		○	○	○
11	地域文化学科	住環境科学Ⅰ（環境共生住居論）	2		○	○	
12	地域文化学科	住環境科学Ⅱ（住環境と健康）	2		○	○	○
13	地域文化学科	地域食品健康論	2		○	○	○
14	地域文化学科	食生活環境論（地域と食文化）	2		○	○	
15	地域文化学科	地域マーケティング論	2			○	○
16	地域文化学科	地誌学概論	2		○	○	○
17	地域文化学科	地域づくり論	2		○	○	○
18	地域文化学科	地域情報処理	2		○	○	○
19	地域文化学科	環境歴史学概論	2		○	○	○
20	地域文化学科	地域文化概論	2		○	○	○
21	地域文化学科	地域文化論演習	2		○	○	○
22	地域文化学科	住居学概論	2		○	○	○
23	地域文化学科	食生活実験・演習Ⅰ（地域食材の調理実習）	2		○	○	○
24	地域文化学科	住生活調査・演習Ⅱ（夏季・地域環境）	2			○	○
25	地域文化学科	地域食資源活用実験・演習	2		○	○	○
26	地域文化学科	観光地域論	2		○	○	○
27	地域文化学科	地域環境基礎実験実習Ⅰ	2		○	○	○
28	地域文化学科	地域環境基礎実験実習Ⅱ	2		○	○	○
29	地域文化学科	地域統計分析演習	2		○	○	○
30	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅰ	2		○	○	○
31	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅱ	2			○	○
32	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅲ	2		○	○	
33	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅳ	2			○	
34	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅴ	2		○	○	○
35	地域文化学科	地域環境野外実験Ⅵ	2			○	
36	地域文化学科	生物学フィールド実習	2			○	○
37	地域文化学科	地域社会学演習	2			○	○
38	地域文化学科	地域データベース論	2			○	○
39	地域文化学科	教育心理学実習Ⅰ	1		○	○	○
40	地域文化学科	教育心理学実習Ⅱ	1		○	○	○
41	地域文化学科	教育心理学実習Ⅲ	1			○	○
42	地域文化学科	教育心理学実習Ⅳ	1			○	○
43	地域文化学科	日本史実習Ⅰ	2			○	○
44	地域文化学科	日本史実習Ⅱ	2		○	○	
45	地域文化学科	地域連携プロジェクトゼミ	2			○	○
46	地域文化学科	特定地域研究ゼミ	2			○	○
	医学部　医学科						
1	医学科	医療行動科学	3			○	○
2	医学科	地域医療・コミュニケーションとチーム医療（新）	1			○	○
3	医学科	地域医療・コミュニケーションとチーム医療（旧）	1	○	○	○	
4	医学科	社会医学実習	1	○	○	○	○
5	医学科	早期地域医療研修	1	○	○	○	
6	医学科	地域医療実習	2	○	○	○	○
	医学部　保健学科　看護学専攻						
1	保健学科看護学専攻	公衆衛生学	1	○	○	○	○
2	保健学科看護学専攻	保健情報学	1	○	○	○	○
3	保健学科看護学専攻	社会福祉学	2	○	○	○	○
4	保健学科看護学専攻	生活支援原論（障がい者福祉援助論）	1	○	○	○	○
5	保健学科看護学専攻	保健福祉行政論Ⅰ	1	○	○	○	○
6	保健学科看護学専攻	保健福祉行政論Ⅱ	1	○	○	○	○
7	保健学科看護学専攻	多職種連携論（医療福祉関連職種論）	1	○	○	○	○
8	保健学科看護学専攻	在宅看護論（在宅看護方法論）	2	○	○	○	○
9	保健学科看護学専攻	在宅看護実習	1	○	○	○	○
10	保健学科看護学専攻	地域看護学概論（公衆衛生看護学概論）	1	○	○	○	○
11	保健学科看護学専攻	地域看護方法論（公衆衛生看護方法論）	2	○	○	○	○
12	保健学科看護学専攻	地域看護活動論（公衆衛生看護活動論）	1	○	○	○	○
13	保健学科看護学専攻	地域看護管理論（公衆衛生看護管理論）	1	○	○	○	○
14	保健学科看護学専攻	地域看護学実習（公衆衛生看護実習）	2	○	○	○	○
15	保健学科看護学専攻	統合看護実習Ⅰ	1	○	○	○	○
16	保健学科看護学専攻	セルフヘルプの実際	1				○
	医学部　保健学科　理学療法学専攻・作業療法学専攻						
1	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	公衆衛生学	1	○	○	○	○
2	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	保健情報学	1	○	○	○	○
3	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	社会福祉学	2	○	○	○	○
4	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	生活支援原論（障がい者福祉援助論）	1	○	○	○	○
5	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	保健福祉行政論Ⅰ	1	○	○	○	○
6	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻	多職種連携論（医療福祉関連職種論）	1	○	○	○	○
7	保健学科理学療法学専攻	地域理学療法学	1	○	○	○	○
8	保健学科作業療法学専攻	地域作業療法学	1	○	○	○	○
	理工学部						
1	理工学部	高齢者・障害者の交通計画	2	○	○	○	○
2	理工学部	福祉のまちづくり	2	○	○	○	○
3	理工学部	福祉のまちづくり演習	1	○	○	○	○
4	理工学部	地域産業論	1	○	○	○	○
5	理工学部	プロジェクト活動Ⅰ	1	○	○	○	○
6	理工学部	プロジェクト活動Ⅱ	2	○	○	○	○
7	理工学部	インターンシップⅠ（県内企業等での実施の場合）	1	○	○	○	○
8	理工学部	インターンシップⅡ（県内企業等での実施の場合）	2	○	○	○	○
9	理工学部	ボランティア参加	1	○	○	○	○

別記様式1

［別紙参照］

別記様式2

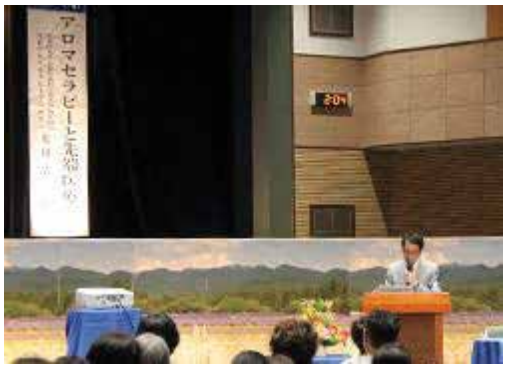
［別紙参照］

あきた地域学の地域研修を美郷町で実施しました

平成 29 年 6 月 24 日（土）、今年度から全学必修化して実施している地域志向科目「あきた地域学」の地域研修（フィールドワーク）の第 1 回目として、生物資源科学部の学生 82 名が美郷町を訪れました。

当日は町内の調査見学として、清水が湧き出す「六郷湧水群」のほか、町内に点在するお寺や見ごろを迎えたラベンダー園などを訪れました。また町主催の講演会にも参加させていただくなど、美郷町のスタッフの方々の御協力により充実した地域研修となりました。

なお、生物資源科学部の地域研修の第 2 回目は、7 月 1 日（土）に三種町をフィールドとして実施する予定です。



COC+事業

	開催日	場所	題目	講演者
第1回COC+研究会 企業関係者12名 自治体等関係者 1名 高専卒業生 12名 高専関係者 9名	H28・1・23 （2016年）	中野サンプラザ 12：00～13：30 14：00～17：00 参加者 33名 卒業生 11名 企業関係者 12名 自治体等関係者 1名 高専関係者 9名	「秋田はあなたを待っている」 Aターンに関する要望 COC+の概要説明(15分) 「Dreams Come True」～夢の実現・限りない可能性～(30分) 「県外へ、そして秋田へ」～秋田高専卒業生のAターン体験談 「TDKは秋田とともに」TDKが求める秋田での人材～ 「Aターン技術者への想い」～わが社が求める技術者～	秋田工業高等専門学校 物質工学科 准教授 丸山耕一 氏 株式会社三栄機械 代表取締役社長 齊藤 民一 氏 TDK株式会社秋田工場 電子部品ビジネスカンパニーセンサビジネスグループ 品質保証課 遠藤 学 氏（環境都市 平成18年卒） TDK株式会社 戦略本部人事教育グループ 人材開発部採用課長 森 和美 氏 大森建設株式会社 取締役執行役員技術営業部長 石井 昭浩 氏（土木 昭和56年卒）
第2回COC+研究会	H28・3・11 （2016年）	秋田高専テクノコミュニティ 参加者19名 企業関係者 6名 自治体等関係者 1名 高専関係者 12名	COC+の概要説明(15分) 「建築・都市空間の定量的分析と秋田の空間研究からデザインについて」 「電界制御技術を適用した高効率CMP技術の開発」 「福祉介護機器の開発事例」 「秋田の素材を生かす」	秋田工業高等専門学校 物質工学科 准教授 丸山耕一 氏 秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 助教 鎌田 光明氏 秋田工業高等専門学校 機械工学科 教授 池田 洋 氏 秋田工業高等専門学校 機械工学科 教授 宮脇 和人 氏 秋田工業高等専門学校 物質工学科 教授 上松 仁 氏
第3回COC+研究会	H28・5・31 （2016年）	ホテルメトロポリタン秋田 参加者25名 企業関係者 15名 自治体等関係者 1名 高専関係者 9名	（秋田高専産学協力会総会に合わせて） COC+の概要説明(15分) 一産学協力会会員企業の皆様と取り組みたいこと一	秋田工業高等専門学校 物質工学科 准教授 丸山耕一 氏
第4回COC+研究会	H28・7・23 （2016年）	中野サンプラザ 12：00～13：30 14：00～16：30 計13名 企業関係者 5名 高専関係者 8名	Aターンに関する面談 COC+のねらい(15分) 「Aターン就職の現状と支援施策について」 「インスペック株式会社の紹介とAターン体験談」 「株式会社五洋電子の紹介」 「絶対に負けられないAターンがそこにある」	秋田工業高等専門学校 物質工学科 准教授 丸山耕一 氏 秋田県産業労働部 雇用労働政策課 課長 石川 聡 氏 インスペック株式会社生産部生産課 宮越 徹 氏（機械第33期 H13卒） 株式会社五洋電子 管理本部人事総務部 部長代理 吉永 行応 氏 ノリット・ジャポン株式会社 経営管理部 部長 根本紘利 氏
第5回COC+研究会 （第17回技術研究会） （機械学会秋季講演会）	H28・9・17 （2016年）	秋田県民会館ジョイナス 参加者68名 企業関係者 31名 大學関係者 19名 自治体等関係者 2名 秋田高専関係者 16名	ポスターセッション 特別講演	パネル展示・製品展示 20機関 カタログ展示 12社 秋田高専シーズ展示 専攻科特別研究 19件 地方創生担当教員(前刷り付き) 8件
第6回COC+研究会	H29・1・28 （2017年）	中野サンプラザ 14：00～14：20 14：20～17：00	開会の挨拶・COC+の概要について 講演 「Aターン就職の現状と支援施策について」 「我が社のチャレンジ」 「期待する人材について」 「東光グループの事業紹介と今後の展開」 「秋田エプソンの概要とAターン者に期待すること」	秋田工業高等専門学校 副校長 野坂 肇 秋田県産業労働部産業政策課 課長 兼子 達弘 氏 株式会社 カミテ 代表取締役社長 上手 康弘 氏 秋田化学工業株式会社 代表取締役 丹野 恭行 氏 東光鉄工株式会社 専務取締役 菅原 訪順 氏 秋田エプソン株式会社 総務部部長 田口 淳 氏
秋田高専地域共同テクノセンター第18回技術研究会・第7回秋田高専COC＋研究会	H29・9・15 （2017年）	テクノコミュニティ 14：00～16：30	【基調講演】 「牛の第一胃（ルーメン）の機能をまねたバイオプロセスの開発」 【シーズ発表】 「金属二次資源のリサイクル技術」 「天然資源を利用した生理活性物質の探索及び天然アナログの創製」 「高齢者・障がい者のための福祉機器の開発」 「ウェアラブルモーションセンサを用いた動作計測」	秋田工業高等専門学校 物質・生物系 バイオ・アグリエ学コース 教授 上松 仁 氏 秋田工業高等専門学校 物質・生物系 マテリアル・プロセス工学コース 准教授 野中 利瀬弘 氏 秋田工業高等専門学校 物質・生物系 バイオ・アグリエ学コース 助教 児玉 猛 氏 秋田工業高等専門学校 機械系・知能機械コース 准教授 小林 義和 氏 秋田工業高等専門学校 機械系・知能機械コース 助教 齊藤 亜由子 氏

COC+講演会

	対象者	開催日	場所	題目	講演者
第1回COC+講演会	本科3年生	H28.1.20	秋田高専大講義室	雇用創出のための産業振興	秋田県企画振興部 地方創生監 島崎 正実 氏
第2回COC+講演会	本科3年生	H28.4.25	秋田高専大講義室	石文化とふるさとでの地域貢献	株式会社寒風 常務取締役 鈴木 博 氏(土木6期)
第3回COC+講演会	本科5年生・専攻科生	H28.6.8	秋田高専大講義室	医療福祉分野におけるロボット活用の課題と将来展望	中部大學工学部ロボット理工学科教授 大日方五郎氏
第4回COC+講演会	本科4年生	H28.7.6	秋田高専大講義室	インターンシップにおけるリスクマネジメントとは	津村コンサルタンツ事務所 代表 津村 守 氏
第5回COC+講演会	専攻科生	H28.10.5	秋田高専大講義室	起業と社会貢献	ノリット・ジャポン株式会社 代表取締役 菅原 久典氏
第6回COC+講演会	本科2年生	H28.11.16	秋田高専大講義室	高専生の発明と秋田県の発明の現状	佐々・藤盛特許事務所 代表弁理士 佐々健太郎 氏
第7回COC+講演会	本科5年生	H28.12.7	秋田高専大講義室	「特許権の取得から特許権侵害を巡る攻防まで」	あきた知的財産事務所 代表弁理士 齋藤 昭彦 氏 和特許事務所 渥美 元幸 氏
第8回COC+講演会	本科3年生	H29.1.12	秋田高専大講義室	「地方創生と人口減少克服を目指して」	秋田県企画振興部 地方創生監 島崎 正実 氏
第9回COC+講演会	本科4年生	H29.1.18	秋田高専大講義室	「知っておきたい税のこと」	菅谷浩税理士事務所 税理士 菅谷 浩 氏
平成29年度最先端技術講演会・第10回COC+講演会	本科5年生 専攻科	H29.6.7	秋田高専大講義室	「完璧品質ものづくりと価値づくり経営」	東京大学 ものづくり経営研究センター 特任研究員 佐々木久臣氏
第11回COC+講演会	本科3年生	H29.7.5	秋田高専大講義室	「石文化創造による社会貢献・・・地域になくてはならない企業であるために」	株式会社 寒風 常務取締役 鈴木 博 氏
第12回COC+講演会	本科4年生	H29.8.2	秋田高専大講義室	「インターンシップにおけるリスクマネジメントとは」	日本大学 工学部情報工学科 教授 上田 清志 氏
第13回COC+講演会	専攻科生	H29.10.4	テクノコミュニティ	「起業と企業連携」	株式会社秋田テクノデザイン 代表取締役 伊藤 毅 氏
第14回COC+講演会	本科2年生	H29.11.1	秋田高専大講義室	「未来の技術者のための心構え」	株式会社アクトラス 代表取締役 眞田 慎 氏
第15回COC+講演会	本科5年生	H29.12.6	秋田高専大講義室	「企業の研究は特許をとるためにある」	佐々・藤盛特許事務所 代表弁理士 佐々健太郎 氏
第16回COC+講演会	本科4年生	H29.12.20	秋田高専大講義室	「秋田県の産業と産学官連携の成果」	秋田県立大学 理事（研究・地域貢献本部長）鎌田 悟 氏
第17回COC+講演会	本科3年生	H30.1.17	秋田高専大講義室	「地方創生と人口減少克服を目指して」	秋田県あきた未来創造部 次長 高橋 修 氏

分野2資料【平成 27 年度～平成 29 年度】

第2の柱
3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進

⑤「秋田就職サポート会議」及び「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催（事業協働機関全体）

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の実施（秋田大学）

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

⑧「地域密着型校外実習」等の実施（秋田工業高等専門学校）

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
第１秋田就職サポート会議を開催しました。

８月９日（水）、秋田商工会議所ホール８０において、第１回秋田就職サポート会議（大学生の県内就職促進に向けた情報交換会）を開催しました。

秋田大学及び COC+事業参加大学（秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）は、県内就職率１０％アップを目指して取組を進めていますが、平成 29 年度卒業予定者の県内就職について、前年度以上に厳しい状況にあるとされていることから、早期に COC+関係大学と事業協働機関及び関係団体の就職実務担当者が一堂に会し、現状確認と今後の対策について意見交換を行う必要があると判断し、同会議を開催したものです。

はじめに、平成 28 年度卒業生の県内就職状況や平成 29 年度卒業予定者の就職動向について、各大学から説明があり、今年は前年に比べ、更に首都圏企業の採用意欲が高く、既に内定が出尽くしている状況であること、その結果として、県内就職率は前年度を下回ることが予想されることが報告されました。

また、各大学の取組の紹介があり、秋田大学からは９月に県内三カ所で「県内企業との情報交換会」を実施することや、「ものづくりオープンカレッジ」の取組などが紹介され、県立大学からはジョブシャドウイングの強化、秋田高専からは県内企業を対象とした研修会の報告がありました。

秋田県からは、「秋田 GO!EN アプリ」の取組や奨学金返還助成制度について、説明がありました。

これを受け、次のような現状報告や意見が出されました。

- 県内企業の出足が昨年同様であり、大手に比べて遅いことが影響している。県内企業の内定が遅く、早く内定が出た県外企業に流れている。
- 賃金格差対策を充実させないと、県内と県外を両にらみしている学生は県外に出てしまう。
- 例年よりも１ヶ月早く募集を出し、新規採用者に対して新しい手当を制度化するなど待遇改善に取り組んでいるが、応募状況は前年に比べ厳しい。
- 賃金格差など首都圏企業の魅力を越えてまで地元に残ろうと思うモチベーションを学生に与えられるか不安。
- 会員企業に、もっと早めに動き出さなければ県内学生を採用できないことを伝えたい。
- 地元企業でも全国的に活躍する場があることをアピールできる場を作ってもらいたい。
- 県外学生向けの就職フェアであっても県内学生にも是非活用してもらいたい。
- 企業担当者は説明会等でもっと積極的に学生にアピールすべき。
- 各大学の取組について、情報発信の依頼があれば協力していきたい。

就職活動については、ルールを遵守しながら、どうすれば早い段階から企業情報を学生に提供、アピールできるのかなどについて、企業と大学の就職担当者がフェイストゥフェイスで情報交換を行いながら、県内就職促進に向け、より一層協力していくことを確認して会議を締めくくりました。

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
第２回秋田就職サポート会議を開催しました。

１月 31 日(水)、秋田商工会議所ホール 80 において、平成 29 年度第２回秋田就職サポート会議を開催しました。

昨年８月に引き続き、本年度第２回目となる今回は、平成 30 年度卒業予定者の就職活動が本格化する前に、ＣＯＣ＋の関係大学と事業協働機関並びに関係団体の担当者が一堂に会し、情報共有を図りながら、今後の対策の強化、拡充について協議するため開催しました。

はじめに、平成 29 年度卒業予定者の就職動向について、各大学から説明がありました。今年は例年に比べ更にスピード感が増し、首都圏や関西都市部企業の採用意欲が旺盛で、昨年夏頃には就職を希望する学生のほとんどが内定を得ていたため、県内就職率は大変厳しい状況であることが報告されました。また、平成 30 年度卒業予定者の就活スケジュールについて、ハローワークの求人公開が６月から４月に変更になったことなどの情報が共有されました。

続いて、各大学・事業協同機関等の取組実績及び今後の事業計画について、以下のような現状報告や意見が出されました。

- 秋田ものづくりオープンカレッジや秋田大学と県内企業による情報交換会等を開催し、好評を得た。（秋田大学）
- 企業説明会やバスツアーなどの試みを行っているほか、「ジョブシャドウイング」では効果をあげてきている。（県立大学）
- 地域教育プログラムの着実な実行とインターンシップや企業説明会について強化している。（秋田高専）
- 就職担当者が県内企業への理解を深める取組や地域理解深化の促進プログラムのほか、県内インターンシップに参加する学生への経済的支援や新たな流入人口を生むための活動なども行っている。（国際教養大学）
- 就活情報サイト「KocchAke」で就職支援イベント等を発信し、業界研究会やセミナー、交流会などを開催している。インターンシップのガイドブックを作成したほか、奨学金返還助成、就職応援のための「秋田 GO!EN アプリ」も配信している。（秋田県あきた未来創造部）
- 中小企業向けのセミナーや IoT や AI をテーマとしたイベントのほか県内企業の新入社員研修等を行う予定となっている。（秋田県情報産業協会）
- 各大学の新年度のイベント等は企業に対して積極的に広めていきたい。秋田の魅力を知るための「秋田ふるさと検定」の学生周知にもご協力いただきたい。（秋田商工会議所）
- Ａターンフェアに県内学生も参加してもらっている。企業に対してはブースの作り方などの説明会を開いている。１DAY インターンシップ等も開催してもらえれば学生も参加しやくするのではないか。（秋田ふるさと定住機構）
- 会員企業に対する「KocchAke」やインターンシップについての情報提供や、採用情報の早めの発信も促したい。（秋田機械金属工業会）
- 早い段階で採用情報の早期化、短期化に対応する必要がある。秋田県の魅力をいかに伝えるかということも重要。(秋田県産業労働部) 等

出席者から多くの事例が出され、互いに参考になる取組について情報交換することができ、非常に有意義な会議となりました。最後に、経済界・企業には対しては大学とこれまで以上に積極的なコンタクトをとっていただくことをお願いし、COC+関係機関全体で連携を図ってくことを確認し、閉会しました。

⑤「秋田就職サポート会議」及び「秋田ものづくりオープンカレッジ」の開催（事業協働機関全体）

平成 29 年度　秋田創生 COC+協議会後援 第 2 回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学 が開催されました。

10 月 26 日（木）、秋田大学において第 2 回「秋田ものづくりオープンカレッジ」が、昨年度に引き続いて開催されました。

このイベントは、秋田大学と秋田県の主催によるもので、就職活動中の学生だけではなく、1・2 年次の学生に対しても、早い段階から県内企業をアピール、認知してもらうよい機会となっていることから、県内学生の県内就職につながる取組を進めている「秋田創生 COC+協議会」として、初めて後援させていただき、協議会会員への周知に協力させていただきました。

第 1 部では「あきたの元気なものづくり企業展」として、手形キャンパス大学会館に特設会場が設けられ、自動車や航空機産業、医療機器分野など、秋田を支える優れた技術をもった企業が 30 社以上出展しました。

各ブースには学生が次々と訪れ、和やかな雰囲気のなか、企業担当者の丁寧な説明に興味深そうに聞き入っていました。

また、同キャンパス 60 周年記念ホールで行われた第 2 部「世界にはばたくものづくり講演会」には、学生や職員・企業担当者など約 100 名の参加があり、パラマウントベット株式会社取締役営業総括部長の坂本郁夫氏から、医療・介護機器の動向、および医療・介護機器参入へのポイントについて、続いて、横手市に本社を置く株式会社アトラス代表取締役の眞田慎氏から、県内企業の医工連携の取り組みについてご講演をいただきました。

第 2 部　講演会の様子

第 1 部企業展の様子

秋田の活躍する企業を知りたい！

就職前だけど企業を知らないなあ・・・

秋田のものづくりどんな製品作っているの？

将来どんな分野で活躍できるのだろう？

第二回 秋田ものづくりオープンカレッジ

参加無料!!

in 秋田県立大学　平成 29 年 10 月 24 日（火）

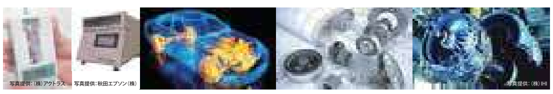
in 秋田大学　平成 29 年 10 月 26 日（木）

第1部　あきたの元気なものづくり企業展　11:00-15:00

会場　秋田県立大学本荘キャンパス メディア交流棟ラーニングコモンズ

会場　秋田大学手形キャンパス 学生会館特設会場

秋田を支える優れた技術を持った企業が集結し、学生向け企業展を開催します。
自動車や航空機産業、医療機器分野などで活躍する企業に触れてみませんか。



第2部　秋田から技術発信！
最先端で活躍するリーダーたちの講演会を開催します。

第 1 部終了後　各大学構内

主催：秋田大学・秋田県立大学・秋田県
共催：（公財）あきた企業活性化センター　後援：秋田創生 COC+ 協議会

第 1 部　あきたの元気なものづくり企業展　出展企業一覧

No	企業名	所在地	主要製品等
1	(有)アイハラ	横手市	G ショック文字盤や針のスクリーン印刷・パッド印刷
2	秋田渥美工業(株)	横手市	自動車用部品製造およびアフターマーケット製品の製造
3	秋田エプソン(株)	湯沢市	迅速免疫染色装置の開発と製造及びプリンター関連部品とウエアラブル機器の製造
4	秋田化学工業(株)	にかほ市	半導体製造装置の表面処理
5	秋田上日工業(株)	大仙市	自動車用金属パイプの切断・加工およびロー付け加工品の製造
6	(株) 秋田新電元	由利本荘市	ダイオード、サイリスタ、トランジスタ、パワーモジュール
7	秋田住友ベーク(株)	秋田市	自動車、飛行機、医療などの分野で利用されるプラスチック製品関連の開発・製造
8	(株)アクトラス	横手市	自動制御機器、情報機器および医療機器の開発、製造、販売
9	(株)アスター	横手市	高効率コイルやカシメ機など自動車関連部品・産業機械装置の開発・製造
10	東電化工業(株)	大仙市	電子部品、プリント基板、セラミック基板等の表面処理
11	(株)五十鈴製作所	秋田市	鋳造・自動化等の各種産業機械の設計・製作・販売
12	インスペック(株)	仙北市	半導体関連分野向け画像検査システムの開発・製造・販売
13	エヌピーエス(株)	大館市	医療装置・プラスチック成形品及び試薬製造
14	大橋鉄工秋田(株)	横手市	自動車用丸棒／パイプ(パーキングロッド等)の製造販売
15	(株)小滝電機製作所	大館市	車載 LED 基板ベースの製造、無線モジュール、CCD モジュールの開発製造等
16	(株)カミテ	小坂町	自動車、医療機器の金属プレス金型の設計、部品製造
17	協和精工(株)	羽後町	切削工具、腕時計(自社ブランドとOEM品)の製造販売
18	小林工業(株)	由利本荘市	各種金型や CNC サーボプレス機の設計・製作
19	(株)三栄機械	由利本荘市	生産設備・航空機・自動車関連設備の開発
20	三共光学工業(株)	美郷町	大・小径レンズ、産業機器用特種レンズなので各種レンズ製造販売
21	千秋技研(株)	秋田市	機械装置の設計製作、ネジ締め機、カシメ機
22	(株)タニタ秋田	大仙市	ヘルスメーター、体内脂肪計の健康測定機器などの製造
23	(株)チバ・テクノ	湯沢市	各種抵抗器、放電加工機用ワイヤー電極線
24	東京端一(株)	大仙市	精密プレス部品、プラスチック成形部品
25	東光鉄工(株)	大館市	各種鋼構造物の設計製作、機械装置／プレス金型の設計製作、ドローン
26	(株)東北フジクラ	秋田市	酸素センサ、圧力センサの製造、フレキシブルプリント配線板の製造、実装
27	ニプロ(株)	大館市	人工透析用ダイアライザー、注射筒、輸液セット、体外診断薬等の製造
28	(株)三井光機製作所	秋田市	各種光学プリズムの研磨、蒸着、接合及び組立
29	三菱マテリアル電子化成(株)	秋田市	機能性フッ素化成品、導電性粉末および機能性薄膜材料等の製造
30	山本精機(株)	潟上市	航空エンジン／ロケット部品、航空エンジン整備用機材、航空機機体部品の製造
31	ユーティーケー工業(株)	秋田市	工業化住宅部品、自動車部品、金型製作
32	YURI ホールディングス(株)	由利本荘市	由利本荘市　電子部品製造、機械加工、基板実装電子機器組立、アグリ事業

（50 音順）

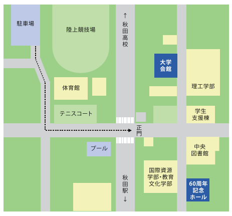
会 場 の ご 案 内

in 秋田県立大学 本荘キャンパス　平成 29 年 10 月 24 日（火）
由利本荘市土谷字海老ノ口８４-4

（第 1 部企業展）　メディア交流棟ラーニングコモンズ
（第 2 部講演会）　共通施設棟 AV ホール

in 秋田大学 手形キャンパス　平成 29 年 10 月 26 日（木）
秋田市手形学園町１番１号

（第 1 部企業展）　大学会館特設フロア
（第 2 部講演会）　60 周年記念ホール



本イベントに関するお問い合わせ先		
第 1 部　ものづくり企業展	秋田県 産業労働部 地域産業振興課 輸送機産業振興室 公益財団法人あきた企業活性化センター 取引振興課	TEL０１８－８６０－２２４２ TEL０１８－８６０－５６２３
第 2 部　ものづくり講演会	秋田県 産業労働部 地域産業振興課 技術振興班	TEL０１８－８６０－２２４６

「秋田大学と県内企業による情報交換会」開催概要

■実施内容■

県内企業様の採用活動や学生の就職活動状況について情報交換を行い，今後の秋田県を担う人材を定着させるための課題や将来展望について考える。

大学と企業様のみ参加のスタイルだからこそ出来る「本音」での情報交換会を開催します。

■開催日及び会場■

以下のいずれかの日程で企業様の参加しやすい日程をお選びください。

※会場は変更になる場合がございます

９月６日（水）・・・県北会場
【北秋田市民ふれあいプラザ コムコム２階研修室Ｄ】
＜所在地＞018-3312　北秋田市花園町１０－５

９月７日（木）・・・県南会場
【横手市交流センターわいわいプラザ３階研修室３】
＜所在地＞ 010-8502　横手市駅前町１－２１

９月８日（金）・・・秋田会場
【秋田大学手形キャンパス
学生支援棟２階ミーティングルーム】
＜所在地＞　010-8502　秋田市手形学園町１－１

■当日のスケジュール■

第１部：学生の就職活動状況について（８０分）
・１３：００～１３：１０（１０分）　セミナーの主旨説明
・１３：１０～１４：１０（６０分）　学卒採用スケジュールについての説明
・１４：１０～１４：２０（１０分）　補足説明
第２部：個別相談会　※企業様は自由参加，ブースに分かれて相談します
・１４：３０～（最大１６：００まで）
※個別相談会のため終了時間は企業様毎に異なります。

■お申込方法■

「秋田大学学生支援・就職課就職推進担当」までメールにてお申込ください。
メールには次の内容を御記載ください。

記載内容	＜件名＞	【企業名】秋田大学と県内企業による情報交換会　申込
	＜本文＞	①企業名　②参加希望の有無　③参加希望日程　④参加者名
		⑤第２部の個別相談会にて情報交換したい内容

お申込締切：８月１０日（木）　１７時まで
メールアドレス：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

※当日参加も可能ですが，参加企業数の把握のため出来るだけ事前にお申込くださいますようお願いいたします。

■お問い合わせ・申込先■

秋田大学　学生支援・就職課　就職推進担当
Tel：018-889-2262
E-mail：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

以　上

⑥「インターンシップセミナー」、「大学と県内企業による情報交換会」の開催及び「ジョブシャドウイング」の開催（秋田大学）

９／６～９／８「秋田大学と県内企業による情報交換会」を実施しました

秋田大学就職推進担当では９月６日（水）から９月８日（金）の期間で県内企業様との情報交換会を開催し，合計６４社様に御参加いただきました。

この情報交換会は，本学学生の就活状況及び昨今の採用スケジュールについて伝えるとともに，それを踏まえて秋田大学と県内企業様とが密に情報交換を行い，県内就職へのマッチングを図ることをねらいに，本学で初めて実施しました。

第１部のセミナーでは，本学学生の就活状況や採用スケジュールについて改めて説明し，学生により企業情報を伝えていくためにも，求人票などの採用情報を「いつ」「どこに」「どのように」出していくのかが重要であると説明していきました。その後，学生目線で企業名を露出するためのアプローチ方法をご提案していきました。

第２部では，企業様に事前に伺っていた質問事項をもとにブース割をし，現在の採用状況や疑問・相談など就職推進担当職員と情報交換を行いました

参加いただいた企業様からは「現状を知ることができて参考になった」，「今後もまた開催してほしい」といった声が多数ありました。

今後も積極的に県内企業様と情報交換を行っていき，今後の秋田を担う人材のマッチングに繋げていけるよう県内企業様と協力していければと思っております。

秋　田　大　学

秋田大学と県内企業による情報交換会

企業様の採用活動や学生の就活状況について。
大学と企業様で「本音」で語る情報交換にしましょう

■開催日時・会場　※いずれかの中で参加しやすい日程をお選び下さい
９月６日（水）北秋田市民ふれあいプラザ コムコム2階　研修室D
９月７日（木）横手市交流センター　わいわいプラザ3階　研修室3
９月８日（金）秋田大学内　手形キャンパス　学生支援棟2階ミーティングルーム
※会場が変更になる場合もございます。

■実施内容
13：00～（80分）　セミナー「学生の就職活動状況について」
14：30～　個別相談会

■お申込方法　申込期限：8月10日（木）17時まで
以下の内容を記載しメールにてお申込ください
＜件名＞【企業名】秋田大学と県内企業による情報交換会　申込
＜本文＞　①企業名　②参加希望の有無　③参加希望日程
④参加者名　⑤個別相談にて情報交換したい内容

大卒を採用予定の企業様はぜひ御参加ください！

≪お問い合わせ先・申込先≫
秋田大学学生支援・就職課　就職推進担当
TEL：018-889-2262
E-mail：sj01@jimu.akita-u.ac.jp

９月６日（県北）参加企業１２社

NO.	企業名
1	秋田土建（株）
2	アキモク鉄工（株）
3	（株）伊藤羽州建設
4	（株）伊徳
5	エヌピーエス（株）
6	幸和機械（株）
7	住鉱テック（株）
8	（株）タクト
9	東光コンピュータ・サービス（株）
10	東光鉄工（株）
11	戸田重機鉄工（株）
12	ニプロ（株）大館工場

９月７日（県南）参加企業１４社

NO.	企業名
1	秋田屋美工業（株）
2	秋田指月（株）
3	インスペック（株）
4	エスアイアイ・セミコンダクタ（株）秋田事業所
5	三共光学工業（株）
6	（株）サンコーホーム
7	（株）自然科学調査事務所
8	（株）デジタル・ウント・メア
9	ナガイ白衣工業（株）
10	睦特殊金属工業（株）
11	（株）ヤマダフーズ
12	横手建設（株）
13	横手精工（株）
14	高吉建設（株）

９月８日（中央）参加企業３８社

NO.	企業名
1	アイ・エム・サービス（株）
2	秋印（株）
3	（株）アキタシステムマネジメント
4	秋田東北商事（株）
5	秋田トヨタ自動車（株）
6	（株）アチカ
7	伊藤工業（株）
8	羽後設備（株）
9	ADK富士システム（株）
10	（株）エスツー
11	雄勝セラミックス（株）
12	（株）オクトライズ
13	北日本コンピューターサービス（株）
14	（株）コア
15	（株）シグマソリューションズ
16	（株）清水組
17	昭和コンクリート工業（株）
18	（株）菅与組
19	（株）スズキ部品秋田
20	千秋技研（株）
21	損保ジャパン日本興亜キャリアビューロー（株）
22	ダイワ工業（株）
23	中田建設（株）
24	マックスバリュ東北（株）
25	（株）日情秋田システムズ
26	（株）日本ハウスHD
27	フクダ電子北東北販売（株）
28	（株）ホクエツ秋田
29	丸大機工（株）
30	（株）三井光機製作所
31	むつみ造園土木（株）
32	（株）メディセオ
33	山ニシステムサービス（株）
34	ユーティーケー工業（株）
35	ユナイテッド計画（株）
36	ユナイテッドリニューアブルエナジー（株）
37	リコーITソリューションズ（株）
38	菱明三菱電機機器販売（株）

９月６日～９月８日　合計：６４社

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

これが「リアルな現場」だ！！
（ジョブシャドウイング）

ジョブシャドウイングって、なに？

主に1・2年生を対象として行うインターンシップのひとつで、「仕事ってなに？」「働くってどういうこと？」を企業などの現場で働く人のそばで学び、自分の将来を考えるきっかけとする、キャリア教育プログラムのひとつです。

訪問先は、秋田県内で注目されている航空機産業に参入し、積極的に取り組んでいる地元 由利本荘市の㈱三栄機械です。
経営者から経営戦略を、各職場の担当者（メンター）から実務に関するリアルな話をお聞きします。みなさんの将来を考える絶好の機会ですので、ふるって参加して下さい！

実施日　：平成28年3月８日(火)９：３０～15：00
訪問先　：株式会社三栄機械（由利本荘市）
対　象　：システム科学技術学部　１・２年生
　※賠償保険に加入が条件となります
定　員　：８名
　※参加は先着順とします
　※定員に満たない場合中止することがあります
集合場所：本荘キャンパス北口 ロータリー
問合せ　：就職情報センター　担当：野崎
申　込　：1月29日（金）～2月８日（月）
　本荘C地域連携･研究推進センター
　（就職情報センターのとなりです）

ジョブシャドウイングのメリットはなに？

○将来を考えるきっかけづくりになります

職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり、話を聞いたりすることで、「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」が明確になり、自分の働く姿を具体的にイメージできるようになります。また、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。

○目標とする人、なりたい自分が見つかります

今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングによる仕事の観察は社会の仕組みを知る貴重な体験となり、将来目指すべき自分の姿が見えてきます。

シャドウ「影」になり仕事を観察する日程

時　間	予　定	備　考
9:30	集合（本荘C 北口ロータリー）	
10:00～10:30	㈱三栄機械　到着 日程説明・諸注意	企業側窓口担当 各メンター
10:30～11:00	経営者講話 （企業戦略・経営戦略）	
11:00～12:00	職場見学① （各部署）	各メンター
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:30	午前中の振り返り	
13:30～14:30	職場見学② （各部署）	各メンター
14:30～14:50	意見交換	経営者
14:50	㈱三栄機械　出発	

※予定を変更する場合があります

「職場観察型」インターンシップ

ジョブシャドウイング

平成28年 **3/2 水**

実施企業

ヤマダフーズ

（美郷町）

納豆発祥の地、秋田県で納豆を製造する食品製造メーカー、業務用納豆のシェアは業界ナンバーワン。
従業員数は５００人超、本学の卒業生はこれまで１２名が就職、平成２７年度卒業見込者１名内定

？ ジョブシャドウイングって、なんですか？

主に１・２年生を対象として行うインターンシップのひとつで、「仕事ってなに？」「働くってどういうこと？」を企業などの現場で働く人（メンター）のそばで学び、自分の将来を考えるきっかけとする、キャリア教育プログラムのひとつです。

地(知)の拠点 秋田県立大学COC＋の参加校です

文部科学省平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択

秋田県立大学

ジョブシャドウイングのメリットってなんだろう？

メリット

○将来を考えるきっかけづくりになります
職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり話を聞いたりすることで、将来を考えるきっかけになります。「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」を少しずつ明確にして、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。

○目標とする人、なりたい自分がみつかります
今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングでの出会いは貴重な体験となり、社会との接点が深くなり、将来目指すべき自分の姿が見えてくるかもしれません。

たった１日だけど、どんなふうに過ごすの？

時間	内容	備考
8：30	大学出発	
10：00～10：30	事業所到着（あいさつ・諸注意）	メンター顔合わせ
10：30～12：00	職場見学（従業員の仕事ぶり観察）	
12：00～13：00	昼食（ランチミーティング）	メンターとの懇談
13：00～15：00	会議参加（商品開発会議など）	
15：00～15：30	経営者からの講話	経営理念など
15：30～16：00	実施レポート作成	
16：00	終了	
17：30	大学到着	

※このスケジュールは現在の予定で、一部変更する可能性があります。
※参加に際し、保険加入と事前研修の受講が必要です。なお、応募者多数の場合は選考を行う場合があります。

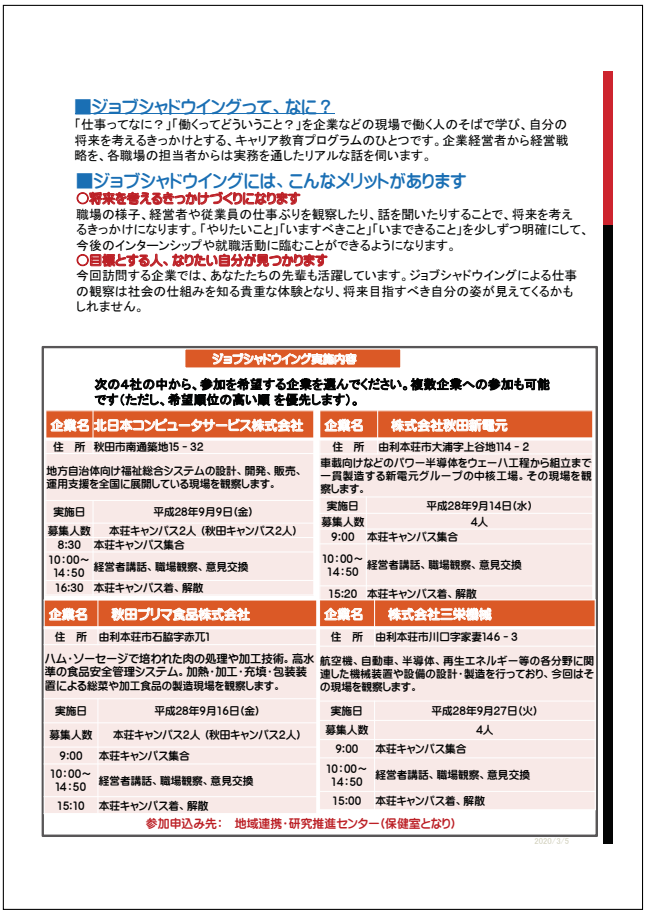
ジョブシャドウイング参加申込書

提出日	平成28年　月　日		学籍番号	フリガナ	
学科		学年	B	氏名	
電話番号	－　－				
※メールは学籍番号アドレス宛に送信します。 やむを得ない事情で他のアドレス宛を希望する場合は、下記の携帯かPCを囲み、記入してください。					
携帯／PC　メールアドレス：					
保険加入状況 （いずれかの数字を囲む） ※不明点の確認は保護者へ	1．後援会で、学研災と学研賠に加入している				
	2．後援会で学研災に加入済み、秋田Cで学研賠に加入した				
	3．参加が決まったら保険に加入し、証書の写しを提出する				
緊急連絡先	保護者氏名		電話番号		
	住所				

申込期限　2/10（水）17時まで、地域連携チーム または 就職チームのいずれかに提出

問い合わせ・申し込み　地域連携･研究推進センター（地研センター棟１階）　TEL 018-872-1557
就職支援チーム（管理棟１階）　TEL 018-872-1695

これが「リアルな現場」だ！！
ジョブシャドウイング　9月実施
「職場観察型」インターンシップ
参加者募集
（2016.3.8 株式会社三栄機械での様子）
実施企業
北日本コンピュータサービス株式会社（9月9日）
株式会社秋田新電元（9月14日）
秋田プリマ食品株式会社（9月16日）
株式会社三栄機械（9月27日）
対　象
システム科学技術学部 1・2年生
決定方法
先着順とします
参加条件
賠償責任保険加入（学研災・学研賠又はスポット保険）
問い合わせ
地域連携・研究推進センター　高石（0184-27-2109）
キャリア支援センター　キャリア支援チーム　野崎（0184-27-2184）
募集期間
受　付
7月4日（月）～22日（金）　17時まで
本荘キャンパス　地域連携・研究推進センター
（保健室となり）
秋田県立大学は秋田大学COC+の参加校です
文部科学省平成27年度
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」採択
秋田県立大学


■ジョブシャドウイングって、なに？
「仕事ってなに？」「働くってどういうこと？」を企業などの現場で働く人のそばで学び、自分の将来を考えるきっかけとする、キャリア教育プログラムのひとつです。企業経営者から経営戦略を、各職場の担当者からは実務を通したリアルな話を伺います。
■ジョブシャドウイングには、こんなメリットがあります
○将来を考えるきっかけづくりになります
職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり、話を聞いたりすることで、将来を考えるきっかけになります。「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」を少しずつ明確にして、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。
○目標とする人、なりたい自分が見つかります
今回訪問する企業では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングによる仕事の観察は社会の仕組みを知る貴重な体験となり、将来目指すべき自分の姿が見えてくるかもしれません。
ジョブシャドウイング実施内容
次の4社の中から、参加を希望する企業を選んでください。複数企業への参加も可能です（ただし、希望順位の高い順 を優先します）。
企業名 北日本コンピュータサービス株式会社
住　所 秋田市南通築地15－32
地方自治体向け福祉総合システムの設計、開発、販売、運用支援を全国に展開している現場を観察します。
実施日 平成28年9月9日（金）
募集人数 本荘キャンパス2人（秋田キャンパス2人）
8:30 本荘キャンパス集合
10:00～14:50 経営者講話、職場観察、意見交換
16:30 本荘キャンパス着、解散
企業名 株式会社秋田新電元
住　所 由利本荘市大浦字上谷地114－2
車載向けなどのパワー半導体をウェーハ工程から組立まで一貫製造する新電元グループの中核工場。その現場を観察します。
実施日 平成28年9月14日（水）
募集人数 4人
9:00 本荘キャンパス集合
10:00～14:50 経営者講話、職場観察、意見交換
15:20 本荘キャンパス着、解散
企業名 秋田プリマ食品株式会社
住　所 由利本荘市石脇字赤丁1
ハム・ソーセージで培われた肉の処理や加工技術。高水準の食品安全管理システム。加熱・加工・充填・包装装置による総菜や加工食品の製造現場を観察します。
実施日 平成28年9月16日（金）
募集人数 本荘キャンパス2人（秋田キャンパス2人）
9:00 本荘キャンパス集合
10:00～14:50 経営者講話、職場観察、意見交換
15:10 本荘キャンパス着、解散
企業名 株式会社三栄機械
住　所 由利本荘市川口字家妻146－3
航空機、自動車、半導体、再生エネルギー等の各分野に関連した機械装置や設備の設計・製造を行っており、今回はその現場を観察します。
実施日 平成28年9月27日（火）
募集人数 4人
9:00 本荘キャンパス集合
10:00～14:50 経営者講話、職場観察、意見交換
15:00 本荘キャンパス着、解散
参加申込み先：　地域連携・研究推進センター（保健室となり）

「職場観察型」インターンシップ
ジョブシャドウイング
9月実施
募集期間
7月4日(月)受付開始
～11日(月)まで
参加者募集
先着順だよ！
実施企業
㈱秋田今野商店
マックスバリュ東北㈱
北日本コンピューターサービス㈱
㈱ヤマダフーズ
秋田プリマ食品㈱
ジョブシャドウイングって、なんですか？
主に1・2年生を対象として行うインターンシップのひとつで、「仕事ってなに？」「働くってどういうこと？」を企業などの現場で働く人（メンター）のそばで学び、自分の将来を考えるきっかけとする、キャリア教育プログラムのひとつです。
秋田県立大学は秋田大学COC＋の参加校です
文部科学省平成27年度
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択
秋田県立大学

募集企業
㈱秋田今野商店（大仙市）
9月7日（水）・定員3名
酒、味噌、醤油などの醸造に用いられる種麹を生産する、全国有数の専門メーカー。同社と本学が共同開発した種麹「吟味」は、県大発ブランドの日本酒「究（きわむ）」に使用。創業明治43年、従業員30名
マックスバリュ東北㈱（秋田市）
9月8日（木）・定員3名
秋田市に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の4県で、マックスバリュとザ・ビッグ・マックスバリュエクスプレスを合わせ93店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット 従業員683名 卒業生は8名就職
北日本コンピューターサービス㈱（秋田市）
9月9日（金）・定員2名
本県情報関連産業のパイオニア。地方自治体向け福祉総合システムの設計、開発、販売。生活保護システムの業界シェアは日本一、顧客は100%行政機関。 従業員258名 卒業生は10名就職
㈱ヤマダフーズ（美郷町）
9月15日（木）・定員6名
納豆発祥の地、秋田県で納豆を製造する食品製造メーカー。業務用納豆のシェアは業界ナンバーワン。従業員数は500人超、卒業生は13名就職。
秋田プリマ食品㈱（由利本荘市）
9月16日（金）・定員2名
業務用の総菜や加工食品を製造・販売するプリマハムの子会社。ハンバーグ、とんかつ、つくねなどのほか、比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。従業員は120名、卒業生は3名就職
※北日本コンピューターサービス㈱と秋田プリマ食品㈱は本荘キャンパスとの合同開催であり、掲載定員は秋田分です。
ジョブシャドウイングのメリットってなんだろう？
メリット
○将来を考えるきっかけづくりになります
職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり話を聞いたりすることで、将来を考えるきっかけになります。「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」を少しずつ明確にして、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。
○目標とする人、なりたい自分がみつかります
今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングでの出会いは貴重な体験となり、社会との接点が深くなり、将来目指すべき自分の姿が見えてくるかもしれません。
たった1日だけど、どんなふうに過ごすの？
時間 | 内容 | 備考
8：30 | 大学出発 |
10：00～10：30 | 事業所到着（あいさつ・諸注意） | メンター顔合わせ
10：30～12：00 | 職場見学①（従業員の仕事ぶり観察） |
12：00～13：00 | 昼食（ランチミーティング） | メンターとの懇談
13：00～15：00 | 職場見学②（従業員の仕事ぶり観察） |
15：00～15：30 | 経営者からの講話 | 経営理念など
15：30～16：00 | 実施レポート作成 |
16：00～17：30 | 終了～大学到着 |
※このスケジュールは現在の予定で、一部変更する可能性があります。
※参加に際し、保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※本プログラムは主に1・2年生を対象とし、先着順で受付します。なお3年生は定員に空きがある場合参加を認めます。
※参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（説明会は7/29または8/5開催予定）
問い合わせ・申し込み
地域連携・研究推進センター（地研センター棟1階）永田　TEL 018-872-1557
キャリア支援チーム（管理棟1階）　TEL 018-872-1695

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

募集企業

株式会社日立超LSIシステムズ 秋田事業所（秋田市）
2月15日（水）・ 定員４名
高い技術力を活かし、自動車、社会インフラ分野を中心にソフトウェア、システム製品を設計・開発している企業。秋田事業所（秋田市雄和）では、主に大手車載器機メーカー向けのカーナビ、Audio機器、周辺監視カメラ、ドライブレコーダー等製品の基本ソフトウェア(OS、Device Driver)開発を手がけている。
全社従業員約650名 うち秋田事業所 約85名

秋田精工株式会社（由利本荘市）
2月23日（木）・ 定員２名
YURIホールディングスの企業の一つ。自動化・省力化機械の設計や製作に加え、航空宇宙品質マネジメントシステムJISQ9100認証を取得して航空機内装品の組立や航空機部品の機械加工など事業の拡大を図っている。今回はそれらの機械加工、組立について観察する。従業員184名。卒業生1名在職。

株式会社斉藤光学製作所（美郷町）
２月24日（金）・ 定員４名
昭和52年に埼玉県にてガラス材の研磨加工企業として創業。その後M&Aなどにより事業の拡大を図り、現在は秋田県に事業を集約。半導体、通信分野等に使用される先端材料ウエハの受託研磨加工とともに、技術サービスとして大手企業、大学等向けに関連分野の研究開発支援を実施している。従業員56名。

株式会社東北フジクラ（秋田市）
３月8日（水）・　定員４名
携帯電話、カメラなどのほか自動車ライト回りの電子機器用基板としてのFPC（フレキシブルプリント配線板）。血圧計、産業用空圧器機用途としての半導体圧力センサ。医療用途に多き使用されているセラミック酸素センサ。国内外の大手メーカーに納入されるこれらの製品の製造工程を観察する。
従業員440名。卒業生3名在職。

メリット

ジョブシャドウイングのメリットってなんだろう？

○将来を考えるきっかけづくりになります
職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり話を聞いたりすることで、将来を考えるきっかけになります。「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」を少しずつ明確にして、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。

○目標とする人、なりたい自分がみつかります
今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングでの出会いは貴重な体験となり、社会との接点が深くなり、将来目指すべき自分の姿が見えてくるかもしれません。

たった１日だけど、どんなふうに過ごすの？

時間	内容	備考
8：30	大学出発	本荘キャンパスから送迎
10：00～10：30	事業所到着（あいさつ・諸注意）	メンター顔合わせ
10：30～12：00	職場見学①（従業員の仕事ぶり観察）	
12：00～13：00	昼食（ランチミーティング）	メンターとの懇談
13：00～15：00	職場見学②（従業員の仕事ぶり観察）	
15：00～15：30	経営者からの講話	経営理念など
15：30～16：00	実施レポート作成	
16：00～17：30	終了～大学到着	

※このスケジュールは現在の予定で、一部変更する可能性があります。
※参加に際し、保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。なお３年生は定員に空きがある場合参加可能です。
※参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（説明会は**1月25日、26日**実施予定）

問い合わせ・申し込み　地域連携・研究推進センター（保健室となり）高石　TEL 0184-27-2109
キャリア支援チーム　野崎　TEL 0184-27-2184

募集企業

小玉醸造㈱（潟上市）
2月10日（金）・ 定員４名
秋田を代表する味噌・醤油と清酒の醸造元。明治12年、味噌、醤油の醸造業として創業。「ヤマキワ」の秋田味噌は県内一の生産量を誇る。大正２年には酒造業も始め、「太平山」は全国新酒鑑評会などで数多くの金賞を受賞している。従業員57名、卒業生は院生が１名就職

マックスバリュ東北㈱（秋田市）
2月15日（水）・ 定員４名
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の４県で、マックスバリュとザ・ビッグ・マックスバリュエクスプレスを合わせ94店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。従業員683名、卒業生は8名就職

インターフェイス㈱（秋田市）
２月17日（金）・ 定員４名
化粧品や日用品、サプリメントなどの安全性や有用性を研究・調査する臨床試験受託機関。“秋田美人”をモニターに、新製品の開発のため国内外の大手メーカーから依頼された化粧品などの臨床試験を行っている。平成18年設立のベンチャー企業。従業員20名、卒業生は3名就職

メリット

ジョブシャドウイングのメリットってなんだろう？

○将来を考えるきっかけづくりになります
職場の様子、経営者や従業員の仕事ぶりを観察したり話を聞いたりすることで、将来を考えるきっかけになります。「やりたいこと」「いますべきこと」「いまできること」を少しずつ明確にして、今後のインターンシップや就職活動に臨むことができるようになります。

○目標とする人、なりたい自分がみつかります
今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。ジョブシャドウイングでの出会いは貴重な体験となり、社会との接点が深くなり、将来目指すべき自分の姿が見えてくるかもしれません。

たった１日だけど、どんなふうに過ごすの？

時間	内容	備考
8：30	大学出発	秋田キャンパスから送迎
10：00～10：30	事業所到着（あいさつ・諸注意）	メンター顔合わせ
10：30～12：00	職場見学①（従業員の仕事ぶり観察）	
12：00～13：00	昼食（ランチミーティング）	メンターとの懇談
13：00～15：00	職場見学②（従業員の仕事ぶり観察）	
15：00～15：30	経営者からの講話	経営理念など
15：30～16：00	実施レポート作成	
16：00～17：30	終了～大学到着	

※このスケジュールは標準例で、訪問する事業所により異なります。
※参加に際し、保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。なお３年生は定員に空きがある場合参加を認めます。
※参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（説明会は**1/26**または**1/30**開催予定）

問い合わせ・申し込み　地域連携・研究推進センター（地研センター棟１階）永田　TEL 018-872-1557
キャリア支援チーム（管理棟１階）　TEL 018-872-1695

1 年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

ジョブシャドウイング

募集開始

募集期間 7/10（月）～14（金）

参加費 無料（本荘キャンパスから送迎）

受付方法 先着順（事務局窓口にて）

申し込み・問い合わせ先
地域連携・研究推進センター（保健室となり）高石 TEL 0184-27-2109
キャリア支援チーム 野崎 TEL 0184-27-2184

実施企業

9/4 横手建設㈱ ※建築環境システム学科対象
9/6 秋田指月㈱
9/8 北日本コンピューターサービス㈱
9/11 ㈱東北フジクラ
9/13 日本製紙㈱秋田工場
9/15 ㈱秋田新電元
9/20 秋田プリマ食品㈱

地（知）の拠点 秋田県立大学は秋田大学COC＋の参加校です

文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択

秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

県内では**秋田県立大学だけ**が実施しているジョブシャドウイングには、一昨年から延べ**70名弱の学生が体験**しており、なかには複数企業に参加している学生もいます。**参加者全員が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。

皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でもわかるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければわかりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果からわかっています。

ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所では、あなたたちの**先輩も活躍**しています。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿をみつけてみましょう。

募集企業

横手建設㈱
9月４日（月）・ 定員４名
※建築環境システム学科の学生対象
大正６年創業、今年で100周年を迎える総合建設業（建築・土木工事）。県南を基盤に、国・地方公共団体発注工事のほか、商業施設から一般住宅まで手掛ける。完全週休二日制（土・日・祝）を導入し、ワークライフバランスにも積極的に取り組んでいる。社内各部署の観察のほか、建設現場での観察も行う。従業員38名、卒業生1名在職

秋田指月㈱
９月6日（水）・ 定員４名
国内コンデンサメーカーの草分け、株式会社指月電機製作所（兵庫県）の秋田県における生産並びに研究・開発拠点。EV・HEVなどの自動車用途品や自然エネルギーなどの電力変換用途品、環境との調和を目指す省エネ製品などを生産。設計担当の技術部や欧州向けHEVコンデンサ製造ラインを観察する。従業員359名、卒業生5名在職。

北日本コンピューターサービス㈱
９月８日（金）・ 定員３名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
顧客は100パーセント行政機関。都庁とも取引実績あり。地方自治体向け福祉総合システムの設計、開発、販売が主な事業。生活保護システムの業界シェアはNo.1。
他様々な行政分野のコンピュータ・システムの開発・サポートを行う情報処理サービスの現場を観察する。従業員261名、卒業生9名在職

㈱東北フジクラ
９月11日（月）・ 定員４名
最新機器（カメラ、スマートフォン、自動車など）に基板として使用されているFPC（フレキシブルプリント配線板）。血圧計・給湯器などから工場設備のエア圧調整等に広く使用されている圧力センサ、医療用に多用されている酸素センサなどユニークな製品を製造。普段見られない電子部品の製造工程を観察する。従業員450名、卒業生3名在職。

日本製紙㈱秋田工場
９月13日（水）・ 定員２名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
日本トップクラスの製紙会社。紙製品や木を原料としたケミカル製品などを製造する総合バイオマス企業。秋田工場では、主に段ボール原紙と洋紙を生産。さらにエネルギー事業としてバイオマス発電・風力発電にも取り組む。紙が製造される工程やボイラータービンの動力設備、環境保全の取り組みなどを観察します。
グループ連結11,741名、秋田工場200名 東証一部上場

㈱秋田新電元
９月15日（金）・ 定員４名
ウェーハプロセスからアッセンブリーまで一貫製造を行う新電元工業グループの半導体製造主幹工場。生産設備の自社設計や新製品の研究開発も行う。製品の開発部署や工場内で使用する全ての部材を受け入れする検査部署、製品製造部署の各工程を観察する。従業員750名、卒業生9名在職

秋田プリマ食品㈱
９月20日（水）・ 定員２名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
国内ハム・ソーセージ製造大手４社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のチキンサラダ生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインも観察します。
従業員180名、卒業生は３名在職

当日のプログラム例（企業ごとに異なります）

本荘キャンパス集合（8:30～9:30の予定）
○企業概要の説明 ○職場観察
○経営者からの講話 ○企業の方との意見交換
○ランチミーティング ○体験レポート作成

これまでのレポートはこちらから

※参加には保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※本プログラムは学部１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（説明会は**7/28**または**7/31**開催予定）

1 年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ

ジョブシャドウイング

募集開始

募集期間 7/10（月）～14（金）

参加費 無料（秋田キャンパスから送迎）

受付方法 先着順（下記申込先にて）

申し込み・問い合わせ先
地域連携・研究推進センター（地研センター棟１階）永田 TEL 018-872-1682
キャリア開発センター（管理棟1階）TEL 018-872-1695

実施企業

8/9 アルフレッサファインケミカル㈱
9/8 北日本コンピューターサービス㈱
9/11 ㈱秋田今野商店
9/13 日本製紙㈱秋田工場
9/15 ㈱ヤマダフーズ
9/20 秋田プリマ食品㈱

地（知）の拠点 秋田県立大学は秋田大学COC＋の参加校です

文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択

秋田県立大学

ジョブシャドウイングって、なんのため？

県内では**秋田県立大学だけ**が実施しているジョブシャドウイングには、一昨年から延べ**70名弱の学生が体験**しており、なかには複数企業に参加している学生もいます。**参加者全員が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。

皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でもわかるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければわかりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果からわかっています。

ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所では、あなたたちの**先輩も活躍**しています。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿をみつけてみましょう。

募集企業

アルフレッサファインケミカル㈱
８月９日（水）・ 定員４名
医薬品卸では国内トップクラスのアルフレッサグループ企業。医薬品原薬を製造する会社として2015年秋田市に設立。最新鋭の自動制御システムで各種医療用原薬を製造。医療用医薬品原薬の製造工程や試験、品質管理などについて観察します。
従業員106名 卒業生は院生1名在職

北日本コンピューターサービス㈱
９月８日（金）・ 定員３名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
顧客は100%行政機関。都庁とも取引実績あり。地方自治体向け福祉総合システムの設計、開発、販売が主な事業。生活保護システムの業界シェアはNo. 1。様々な行政分野のコンピュータ・システムの開発・サポートを行っている情報処理サービスの現場を観察します。従業員261名 卒業生は9名在職

㈱秋田今野商店
９月11日（月）・ 定員４名
酒、味噌、醤油などの醸造に用いられる種麹を生産する全国有数の専門メーカー。同社と本学が共同開発した種麹「吟味」は、県大発ブランドの日本酒「究（きわむ）」に使用。本社、研究所と今年完成した新工場を訪問し、種麹の製造工程や麹菌、酵母菌の培養などについて観察します。創業明治43年、従業員30名

日本製紙㈱秋田工場
９月13日（水）・ 定員２名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
日本トップクラスの製紙会社。紙製品や木を原料としたケミカル製品などを製造する総合バイオマス企業。秋田工場では、主に段ボール原紙と洋紙を生産。さらにエネルギー事業としてバイオマス発電・風力発電にも取り組む。紙が製造される工程やボイラータービンの動力設備、環境保全の取り組みなどを観察します。
グループ連結11,741名、秋田工場200名 東証一部上場

㈱ヤマダフーズ
９月15日（金）・ 定員４名
納豆発祥伝説のある地で納豆を製造する、県内屈指の食品メーカー。特に業務用納豆の国内シェアはNo. 1。豆腐、豆乳、豆乳ヨーグルトも製造。本社・工場を訪問し、原料処理から出荷まで、一連の納豆製造工程や品質管理、商品開発について観察します。
従業員500名超。卒業生は11名在職

秋田プリマ食品㈱
９月20日（水）・ 定員２名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
国内ハム・ソーセージ製造大手４社の一つ、プリマハムの100%子会社。業務用のそう菜やハンバーグなどの加工食品の製造が主な事業。比内地鶏スープなど地元秋田の食材を使った商品も開発。 工場内で、品質管理・商品開発部署のほか、最近流行のチキンサラダ生産用に導入した自動化設備など各種製造ラインも観察します。
従業員180名、卒業生は３名在職

当日のプログラム例（企業ごとに異なります）

秋田キャンパス集合（8:30～9:30の予定）
○企業概要の説明 ○職場観察
○経営者からの講話 ○企業の方との意見交換
○ランチミーティング ○体験レポート作成

これまでのレポートはこちらから

※参加には保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。なお３年生は定員に空きがある場合参加を認めます。
※参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（説明会は**7/26**または**7/28**開催予定）

⑦「ジョブシャドウイング」の実施（秋田県立大学）

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ　参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間　1/10（水）～16（火）

参加費用　無料（本荘キャンパスから送迎）

実施企業
2/13 ㈱日立超LSIシステムズ（秋田事業所）
2/19 山二建設資材㈱
2/21 ㈱五洋電子
2/23 ㈱アチカ
3/7　エイブリック㈱（秋田事業所）
3/9　DOWAセミコンダクター秋田㈱

受付方法　先着順（下記窓口にて）
※電話・メールによる受付はできません

地域連携・研究推進センター　高石
TEL 0184-27-2109

キャリア情報センター　野崎
TEL 0184-27-2184

予定時間　集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（本荘キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、県内では**秋田県立大学だけ**が実施しています。

一昨年から延べ**100名を超える学生が体験**しており、複数企業に参加している学生もいます。**全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答**しています。

皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でもわかるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければわかりません。**お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多い**ことが、参加学生のアンケート結果からわかっています。

ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、**どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。**「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所では、あなたたちの**先輩も活躍**しています。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿をみつけてみましょう。

募集企業

㈱日立超LSIシステムズ［秋田市］
2月13日（火）・定員4名
高い技術力を活かし、自動車、社会インフラ分野を中心にソフトウェア、システム製品を設計・開発している企業。秋田事業所（秋田市雄和）では、主に大手車載機器メーカー向けのカーナビ、Audio機器、周辺監視カメラ、ドライブレコーダー等製品の基本ソフトウェア開発を手がけている。各部署を見学するほか、社内検討会議の様子なども観察します。全社従業員約680名うち秋田事業所約70名、卒業生8名在職。

山二建設資材㈱［秋田市］
2月19日（月）・定員4名
※建築環境システム学科の学生対象
県内の工務店に住宅建築資材を販売する建材販売部門と総合建設業から受注する専門分野別建設部門の２本柱で事業を営んでいる。昭和56年4月に親会社㈱山二の建材部から発展的に分社し、37年目を迎えた。建設途中の現場を観察するほか、お客様の住宅イメージを容易に実現するために最近導入したVRによる住宅設計などの体験も行います。従業員90名、卒業生2名在職。

㈱五洋電子［潟上市］
2月21日（水）・定員4名
秋田県と宮城県に製造拠点を持つ日立グループの電子機器設計・製造会社。海外向け業務用無線通信機器、半導体・FPD用制御ユニット、放送・映像機器等の製品を開発・製造している。さらに、生産技術力に実績があり、LCAやIoTを駆使した高効率な生産システムを構築し、部品自動挿入ロボット等の生産自動化設備を自社開発している。生産技術部のLCA技術推進業務などを観察します。従業員418名、卒業生3名在職。

㈱アチカ［秋田市］
2月23日（金）・定員2名
※秋田キャンパスとの合同開催、掲載定員は本荘分
官公庁や民間企業向けに、システム構築や保守・運用、アウトソーシングなどのITサービスの提供、アプリケーションソフトウエアなどの開発を行っている。また、フリーアドレスやノー残業データを採用するなど、ワークスタイルの改革を行っている。開発現場の現状や問題解決のための手法などを観察します。従業員92名、卒業生は５名在職。

エイブリック㈱［大仙市］
3月7日（水）・定員4名
2018年1月に現エスアイアイ・セミコンダクタ株式会社から社名変更予定。CMOS ICの自社開発後、民生機器や携帯端末、車載機器向けの低消費電流、低電圧動作、超小型パッケージ技術を特徴とする半導体製品を提供している。秋田事業所はさらに加速する自動車の電子化やIoT社会の実現に向け重要な製造拠点となる。製造工程や社内会議の様子などを観察します。従業員グループ連結850名、秋田事業所185名。

DOWAセミコンダクター秋田㈱［秋田市］
3月9日（金）・定員4名
私たちの生活に欠かすことのできない身近な家電製品（スマートフォン、ロボット掃除機等）や最先端医療機器の血液センサなどに搭載される化合物半導体材料（高純度ガリウム、ガリウム砒素基板、LEDチップ等）を国内外の電機メーカーなどに提供している。製造ラインのほか、QC活動の取り組みの様子などを観察します。従業員280名、卒業生1名在職。

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※ 本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（**1/25、1/29、1/30**のいずれかの希望日に申し込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択

秋田県立大学

1年次からはじめる「職場観察型」インターンシップ　参加者募集！

ジョブシャドウイング

募集期間　1/10（水）～16（火）

参加費用　無料（秋田キャンパスから送迎）

実施企業
2/9　マックスバリュ東北㈱
2/16　㈱たけや製パン
2/19　インターフェイス㈱
2/20　秋田酒類製造㈱
2/23　㈱アチカ

受付方法　先着順（下記窓口にて）
※電話・メールによる受付はできません

地域連携・研究推進センター
（地研センター棟１階）永田
TEL 018-872-1682

キャリア情報センター（管理棟１階）
TEL 018-872-1695

予定時間　集合　8:30～9:30の指定時刻
解散　17:00前後
（秋田キャンパス発着）

実習内容
○経営者からの講話
○職場観察
○企業の方との意見交換
○ランチミーティング
○観察のまとめ記入

詳しくは、QRからweb掲載の過去レポートを確認▼

ジョブシャドウイングって、なんのため？

ジョブシャドウイングは、県内では秋田県立大学だけが実施しています。

一昨年から延べ100名を超える学生が体験しており、複数企業に参加している学生もいます。全ての参加者が「自分にとって有効」な体験だったと回答しています。

皆さんに知ってもらいたいのは、その企業がどのように仕事をしているのか？ということです。どんなことをやっている企業かは、ネット検索でもわかるかもしれませんが、働き方は実際に見聞きしなければわかりません。お客さんとして見るイメージと、働く側として見る企業イメージでは全く違う印象を抱く学生が多いことが、参加学生のアンケート結果からわかっています。

ジョブシャドウイングは就職活動の準備ではありませんので、どの企業に参加するかは必ずしも重要なことではありません。「やりたいこと」「いますべきこと」を少しずつ明確にして、今後に生かしましょう。また、今回訪問する事業所では、あなたたちの先輩も活躍しています。貴重な出会いと体験を通して、将来目指すべき自分の姿をみつけてみましょう。

募集企業

マックスバリュ東北㈱［秋田市］
2月９日（金）・定員４名
秋田市土崎に本社を置き、秋田、青森、岩手、山形の４県で、マックスバリュとザ・ビッグ、マックスバリュエクスプレスを合わせ95店舗を展開するイオングループのスーパーマーケット。現社長は生え抜きの女性。店舗での商品管理業務や本社の各部署での仕事などを観察します。従業員651名、卒業生は4名在職。

㈱たけや製パン［秋田市］
2月16日（金）・定員４名
昭和26年創業。本県の製パン業界をリードし、県内シェアは６割を誇る。昭和43年にパン業界全国一位のヤマザキ製パンと業務提携。製パン事業を核に、和洋菓子事業、コンビニの店舗開発事業も展開。弁当の製造・販売、宅配事業を行う秋田米飯給食協同組合は関連会社。パン、和洋菓子などの製造工程や商品開発、食品衛生管理などを観察します。従業員675名、卒業生は6名在職。

インターフェイス㈱［秋田市］
2月19日（月）・定員４名
化粧品や日用品、サプリメントなどの安全性や有用性を研究・調査する臨床試験受託機関。“秋田美人”をモニターに、新製品の開発のため国内外の大手メーカーから依頼された化粧品などの臨床試験を行っている。平成18年設立のベンチャー企業。モニター試験、画像処理、データ整理など臨床試験の現場を観察します。従業員20名、卒業生は３名在職。

秋田酒類製造㈱［秋田市］
2月20日（火）・定員４名
秋田を代表する酒蔵の一つ、昭和19年、12の造り酒屋が集まり発足。県内トップの出荷量を誇り、「高清水」は同社の代表銘柄。先進の機器を導入した御所野蔵を新設。日本酒、焼酎、梅酒のほか、純米酒を配合した化粧水などの化粧品「酒屋のスキル」も開発・販売している。仕込みから出荷までの酒造りの一連の工程や分析などを観察します。従業員121名、卒業生院生1名在職、平成30年3月卒業生1名採用内定。

㈱アチカ［秋田市］
2月23日（金）・定員２名
※本荘キャンパスとの合同開催、掲載定員は秋田分
官公庁や民間企業向けに、システム構築や保守・運用、アウトソーシングなどのITサービスの提供、アプリケーションソフトウエアなどの開発を行っている。また、フリーアドレスやノー残業データを採用など、ワークスタイルの改革を行っている。開発現場の現状や問題解決のための手法などを観察します。従業員92名、卒業生は５名在職。

注意事項

※ 参加には保険加入が必要です。後援会加入者は、申込前に学研災・学研賠の加入状況を確認して下さい。
※ 本プログラムは主に１・２年生を対象とし、先着順で受付します。
※ 応募の状況や企業の都合により定員や日程等を変更する場合があります。
※ 参加決定者は、事前説明会に必ず出席してください。（1/25、1/30、1/31のいずれかの希望日に申し込み）

地（知）の拠点　文部科学省平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」採択

秋田県立大学

COC＋研修会

	開催日	場所	題目	講演者
第1回COC＋研修会	H28.2.17	秋木製鋼株式会社 秋田高専テクノラボラトリー	鉄鋼材料の熱処理	秋田高専機械工学科教授　磯部浩一氏
第2回秋田高専COC＋研修会・秋田高専産学協力会第68回研修会	H28.9.1	カレッジプラザ　大講義室	「秋田県の人口および工業に着目した地域特性分析」 「泥炭地盤の地盤変形解析」 「液晶を用いたミリ波偏向デザイスの開発について」	秋田高専　環境都市工学科　助教　谷本真佑　氏 秋田高専　環境都市工学科　准教授　山添誠隆　氏 秋田高専　電気情報工学科　准教授　田中将樹　氏
第3回COC＋研修会・第69回秋田高専産学協力会研修会(インターンシップ特集)	H29.3.27	にぎわい交流館AU 第一研修室	①実績ある企業におけるインターンシップの取組方 ②秋田県内企業のインターンシップの取組方 ③卒業生による体験談	JXエンジニアリング(株)　総務人事部　沖田寛明　氏 東電化工業(株)代表取締役社長　若泉裕明　氏 東電化工業(株)　秋田高専卒業生(物質工学科)　門松幸太　氏
第71回秋田高専産学協力会・第4回秋田高専COC＋研修会	H29.9.4	【工場見学】 (株)小滝電気製作所 【交流会】 プラザ杉の子	①「スイッチトリラクタンスジェネレータを用いたマイクロ水力発電」 ②「秋田県由利本荘市芋川流域における鉄材腐食環境について」	秋田高専　電気・電子・情報系　助教　中沢吉博　氏 秋田高専　土木・建築系　助教　中嶋　龍一朗　氏
秋田工業高等専門学校産学協力会第72回研修会・第5回秋田高専COC＋研修会	H29.12.12	【工場見学】 由利工業(株)・秋田精工(株) 【交流会】 ホテルアイリス	①「医療分野への応用を目指した極低温流体の伝熱・流動状態」 ②「細胞膜類似リン脂質極性基含有ポリマー(MPCポリマー)の生化学および環境分野での利用」	秋田高専　機械系　機械システムコース　准教授　野澤正和　氏 秋田高専　物質・生物系　バイオ・アグリ工学コース　教授　榊秀次郎　氏
第73回秋田工業高等専門学校産学協力会・第6回秋田高専COC＋研修会	H30.3.12	【インターンシップ講演会・交流会】 ホテルメトロポリタン秋田	①花王(株)におけるインターンシップの取り組み ②花王(株)の秋田高専卒業生によるインターンシップ体験談	・花王(株)　酒田工場　地区サービスセンター課長　佐藤好志　氏 ・秋田高専卒業生(H28年3月電気情報工学科卒業)　田中　彦　氏
			①アルフレッサファインケミカル(株)におけるインターンシップの取り組み ②アルフレッサファインケミカル(株)の秋田高専卒業生によるインターンシップ体験談	・アルフレッサファインケミカル(株)　取締役 秋田工場長　佐藤謙治　氏 ・秋田高専卒業生(H29年3月物質工学科卒業)　竹谷　佳菜衣　氏

分野3資料【平成 27 年度～平成 29 年度】

第3の柱
ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（秋田大学）

⑨「聞き書きボランティア養成講座」の開催

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

⑪首都圏大学等に対するスポーツサークル等の合宿誘致活動および教育実習誘致活動の実施

第3回日本聞き書き学校 in 男鹿

「聞き書き」とは，お年寄りや先達の方々が語る「ことば」を聞き，それを書き記すことで一冊の本にまとめることをいいます。
お年寄りや先達の方々が，楽しかったこと，悲しかったこと，苦労したことなどを語ることにより自身を振り返っていただくとともに，聞き手は語りの中から多くのことを学びます。
日本聞き書き学校はこれまでに２回の全国大会を開催し，3回目の今年は男鹿市を会場に開催します。
皆様の御参加をお待ちしております。

募　　集　聞き手となる方　先着30名
※初心者も歓迎します

開 催 日　平成２６年８月２９日（金）～３１日（日）

場　　所　男鹿観光ホテル
秋田県男鹿市北浦湯本字草木原２１　TEL:0185-33-2171

プログラム

２９日（金）12:45　イントロダクション
13:00　はじめての聞き書き学校（聞き書き初心者・希望者のみ）
15:30　活動状況報告会
17:30　開校式・ウエルカムパーティー

３０日（土）10:00　基調講演「秋田（男鹿）の方言について」
講　師　佐藤　　稔 秋田大学名誉教授
11:15　聞き書き実践講座「なまはげの里に生きる」
語り手　なまはげ
聞き手　中村　順子 秋田大学医学系研究科教授
13:30　聞き書きスキルアップ講座（希望者のみ）
講　師　小田　豊二 日本聞き書き学校教務主任
15:30　特別講演「演題未定」
講　師　柳田　邦男 日本聞き書き学校校長
17:30　懇親会

３１日（日）　8:00　閉校式・修了証書授与式
9:00　男鹿市観光ツアー（有料・希望者のみ）

参 加 費　25,000円（2泊3日5食付き，秋田駅から会場までの送迎バス(希望者）付き）

参　　加　上記3日間を通して御参加いただける方
条　　件　※1日単位での参加については事務局（裏面）にご相談下さい。

聞き書きボランティア養成講座

日時

第1部　平成29年 1月21日（土）
①10時－12時　「聞き書き」のすすめ
聞き書きとは何だろう／なぜいま聞き書きか
②13時－15時　「聞き書き」実践教室
インタビュー／聞き方教室・質疑応答

第2部　平成29年 2月11日（土）
③9時30分－12時 聞き書き作品の講評

＊講座を修了された方には「修了証」が交付されます。

場所

男鹿市民文化会館 大会議室
（男鹿市船川港船川海岸通り2号14-2）

講師 天野　良平 先生

＊プロフィール　天野　良平（アマノリョウヘイ）
金沢大学名誉教授／日本聞き書き学校講師
昭和24年岐阜県郡上市生まれ。金沢大学理学部、同大学院、さらに東北大学大学院に学ぶ。昭和52年より金沢大学医療技術短期大学部（前身）で教鞭をとり、平成8年金沢大学医学部保健学科教授になる。途中2年間（フランス留学）を除いて、一貫として金沢大学の教壇に立ち続け「大学は人を育てるところ、これに尽きる」と説く。平成27年3月定年退職、同4月金沢大学名誉教授となる。平成21年より聞き書き活動を始め、平成24年8月日本聞き書き学校講師となる。

「聞き書き」とは

相手の話を聞いて、それを文章にまとめ、後世に残すことを言います。長い人生の中で「楽しかったこと」「うれしかったこと」「悲しかったこと」「つらかったこと」をお年寄りから思い出してもらい、聞き書きによるお年寄りの物語を冊子にまとめる過程で、たくさんのことを学んでみませんか?

「COC+事業」とは

地域のための大学として地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的とする事業です。

募集人数

先着20人

参加費

無料
ただし、第1部（1月21日）はお昼をはさみますので各自で昼食をご用意ください。

参加条件

＊①～③全てに参加できる方
＊今後も継続的に活動できる方

持参するもの

筆記用具・ノート
（ICレコーダーなどの録音機器がある方はご持参ください）

申込方法

FAX、メールのいずれかで、氏名・住所・電話番号をお知らせください

締切　平成28年1月16日(月)17時

申し込み・問い合わせ先

秋田大学
地（知）の拠点推進本部
TEL　018-889-3173
FAX　018-889-3168
E-mail　coc25@jimu.akita-u.ac.jp

主催
秋田大学地（知）の拠点推進本部

平成２８年度 男鹿市「聞き書きボランティア養成講座」開催要項

H28.10.28

１．趣旨
　平成２８年度の秋田大学地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）の取組で、「聞き書きボランティア養成講座」の開催に関し、必要な事項を定める。

２．目的
　「聞き書きボランティア」の育成を核とした新たな地域コミュニティの創造による助け合い社会の形成によって、定住社会としての若者の評価を高めることに繋げる。
　また、生まれ育った地域を愛する心の醸成と伝統文化の継承に繋げる。

３．開催日程
　第１部　平成２９年１月２１日（土）
　　①１０：００～１２：００　「聞き書き」のすすめ
　　聞き書きとは何だろう／なぜいま聞き書きか
　　②１３：００～１５：００　「聞き書き」実践教室
　　語り手へのインタビュー／聞き方教室・質疑応答
　第２部　平成２９年２月１１日（土）
　　③　９：３０～１２：００　聞き書き作品の講評・修了証の交付

４．会場
　男鹿市民文化会館「大会議室」
　〒010-0511　秋田県男鹿市船川港船川海岸通り2号14-2　　℡　0185-23-2251

５．講師
　天野　良平／日本聞き書き学校認定講師・金沢大学名誉教授

６．語り手・テーマ
　(1) 語り手　石垣（いしがき）　禮之輔（れいのすけ）　89歳　男鹿市北浦北浦字杉原10-11
　　【経歴】
　　昭和63年3月教員退職（北浦中学校長）
　　市体育指導委員、市民生委員、市社会教育委員、市青少年健全育成委員、市指定民族文化財「北浦の鹿島祭り」保存会会長
　(2) テーマ　「男鹿市北浦の暮らしーむかしといま～「北浦の鹿島祭り」を通じて～」(仮)

７．募集人数
　男鹿市在住の希望者（一般、学生問わない）　先着２０名

８．参加費
　無料　　※第１部（１／２１）の昼食は各自が準備

９．参加条件
　・第１部①、②、第２部③　ともに参加できる方

10．持ち物、準備
　筆記用具、ノート（ＩＣレコーダーなど録音機器があれば持参）、希望によりＩＣレコーダー貸与可能

11．配布テキスト
　・ワークブック「聞き書き」をはじめよう
　・作品集（第３回日本聞き書き学校in男鹿 2014.8.29～31）

12．修了証
　全日程を修了した者には、2月11日に日本聞き書き学校認定講師から修了証を交付する。

13．申込み方法と締切
　ＦＡＸ、メールのいずれかによる。（電話による受付はしない。）
　締切　平成２９年１月１６日（月）１７時

14．主催
　秋田大学地（知）の拠点推進本部

15．申込み・問い合わせ先
　秋田大学地（知）の拠点推進本部（ＣＯＣ事務局）
　℡ 018-889-3173　FAX 018-889-3168
　E－mail　coc25@jimu.akita-u.ac.jp

16．その他
　(1) 募集の周知
　　①チラシを作成し男鹿市に配布
　　②秋田大学ホームページに掲載
　　③男鹿市広報掲載について依頼
　(2) 協力依頼
　　社会福祉法人男鹿市社会福祉協議会
　　傾聴ボランティアの参加者に対してＰＲしていただき、聞き書きボランティア活動の拡大を図る。

平成 28 年度　秋田大学 COC＋事業「聞き書きボランティア養成講座」の作品贈呈式を行いました。

平成 29 年 2 月 22 日（水）14 時から男鹿市北浦市民センターで平成 28 年度聞き書きボランティア養成講座（1 月 21 日、2 月 11 日開講）の参加者が作成した作品（冊子）を語り手の石垣禮之輔さん（北浦郷中連合会長）へ贈呈しました。

「聞き書き」とは、お年寄りの話を聞いて、それを記録し、後世に残すことをいいます。聞き書きにより物語をまとめる過程で、お年寄りからたくさんのことを学ぶとともにお年寄りにとっては話すことで生きがいを感じることに繋がることをねらいとしています。

地元の北浦鹿島祭りの話しから戦時中の話、残しておきたい方言、また師範学校から秋田大学創設の話まで多種に富んだ石垣さんの人生の語りを 1 つの作品にまとめた参加者からは「方言という言葉の壁にぶつかりながらも、話しの面白さにひきこまれた。興味を持つことでわからないことの 1 つ 1 つを調べたので時間はかかったが、昔の話を形に残していくことの大切さを知ることができた」と感想がありました。

なお、養成講座は秋田大学 COC+事業の取組として男鹿市では初めての開催です。

ｉＰａｄを使用した「脳トレ」の様子

作 品（冊子）

平成 29 年 1 月 12 日（木）
秋田魁新報掲載

地(知)の拠点

聞き書きボランティア養成講座

プログラム

第1部　平成29年 11月11日（土）
①10時－12時　「聞き書き」のすすめ
聞き書きとは何だろう／なぜいま聞き書きか
②13時－15時　「聞き書き」実践教室
インタビュー／聞き方教室・質疑応答

第2部　平成29年 12月16日（土）
③9時30分－12時 聞き書き作品の講評
＊講座を修了された方には「修了証」が交付されます。

場所

秋田大学百周年記念館2F会議室
（秋田市手形学園町1-1）

講師 天野　良平 先生

＊ プロフィール　天野　良平（アマノリョウヘイ）
金沢大学名誉教授 / 日本聞き書き学校講師
昭和24年岐阜県郡上市生まれ。金沢大学理学部、同大学院、さらに東北大学大学院に学ぶ。昭和52年より金沢大学医療技術短期大学部（前身）で教鞭をとり、平成8年金沢大学医学部保健学科教授になる。途中2年間（フランス留学）を除いて、一貫して金沢大学の教壇に立ち続け「大学は人を育てるところ、これに尽きる」と説く。平成27年3月定年退職、同４月金沢大学名誉教授となる。平成21年より聞き書き活動を始め、平成24年8月日本聞き書き学校講師となる。

「聞き書き」とは

お年寄りの話を聞き、その話をその人のしゃべり言葉で書き、一冊の本にまとめ後世に残す活動であり、高齢者とのコミュニケーションツールの一つとして注目されています。

秋田大学ではCOC＋事業の第三の柱（ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）の取組として聞き書きボランティア養成講座を開講します。

お年寄りの長い人生の中で「楽しかったこと」「うれしかったこと」「悲しかったこと」「つらかったこと」を思い出していただき、その物語を冊子にまとめる「聞き書き」を体験学習し、様々なボランティア活動で活用してみませんか？

募集人数

先着20人

参加費

無料

ただし、第1部（11月11日）はお昼をはさみますので各自で昼食をご用意ください。

参加条件

全日程参加できる方

持参するもの

筆記用具・ノート

ICレコーダーなどの録音機器がある方はご持参ください。

＊希望によりICレコーダー貸与可能。

申込方法

FAX、メールのいずれかで、
氏名・住所・電話番号・E-mail
をお知らせください

締切　平成29年11月2日(木)17時

申し込み・問い合わせ先

秋田大学
地（知）の拠点推進本部
TEL　018-889-3173
FAX　018-889-3168
E-mail　coc25@jimu.akita-u.ac.jp

主催
秋田大学地（知）の拠点推進本部

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
「聞き書きボランティア養成講座」第 1 部を開催しました。

秋田大学は平成 29 年 11 月 11 日（土）、秋田大学百周年記念館で平成 29 年度「聞き書きボランティア養成講座」を開催しました。

「聞き書き」とは、お年寄りの話を聞き、その話をその人の話し言葉で書き、一冊の本にまとめ後世に残す活動であり、高齢者とのコミュニケーションツールの一つとして注目されています。

長い人生の中での「楽しかったこと」、「うれしかったこと」、「小さい頃の遊びや暮らし」などをお年寄りから思い出してもらい、聞き書きにより物語をまとめる過程で、お年寄りからたくさんのことを学ぶと共に、お年寄りにとっては話すことで生きがいを感じていただくことをねらいとしています。

この養成講座は、第 1 部と第 2 部から構成されており、今回開催された第 1 部は、本学及び秋田県立大学の学生や社会人など 5 名の参加があり、天野良平先生（日本聞き書き学校講師／金沢大学名誉教授）を講師に迎えて行われました。

午前中は「『聞き書き』のすすめ」と題して、聞き書きとは何だろう、なぜいま聞き書きが必要とされているのかについて学び、午後からは参加者同士が聞き手、語り手になって聞き方について練習をし、その後、秋田大学鉱業博物館ボランティアガイドの斎藤朗子さんに「語り手」をお願いし、聞き方実践教室を行いました。

第 2 部は 12 月 16 日（土）に開催し、今回語り手に語っていただいた内容に基づき、参加者が作成した冊子（聞き書き作品）についての講評を行う予定です。

聞き書きボランティア養成講座の様子

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
「聞き書きボランティア養成講座」第 2 部を開催しました。

秋田大学は平成 29 年 12 月 16 日（土）、秋田大学地方創生センター1 号館 206 号室で平成 29 年度「聞き書きボランティア養成講座」第 2 部を開催しました。

第 2 部となる今回は第 1 部（11 月 11 日開催）で語り手に話していただいたお話を、参加者が作品にしたものを発表し、それぞれについて講評を行いました。

参加者の皆さんからは、「同じ話を聞いても人によって表現の仕方が違うことに驚いた」、「聞き書きという手法を今後コミュニケーションに生かしていきたい」等の意見がありました。

今回の講評を元に参加者は作品をさらにブラッシュアップし、完成した聞き書き作品を語り手にお渡しする予定です。

※「聞き書き」とは
お年寄りの話を聞き、その話をその人の話し言葉で書き、一冊の本にまとめ後世に残す活動であり、高齢者とのコミュニケーションツールの一つとして注目されています。

講評の様子

修了証授与

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

平成 28 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
秋田大学がコグニサイズ促進協力施設に認定されました

このたび、秋田大学は「コグニサイズ促進協力施設」に認定されました。

協力施設として認定されるのは、全国で 3 施設目となります。「コグニサイズ」とは国立長寿医療研究センターが考案した運動法で、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語です。例えば、「歩きながら計算する」といった「有酸素運動＋頭を使う作業」の組み合わせで、認知症予防の効果が期待できる運動のことです。

平成 28 年度は、5、6 月の毎週金曜日、教職員を対象に、コグニサイズを実施しました。また、「コグニサイズ促進協力施設」として認定された本学では、東成瀬村の住民を対象とし、9 月 1 日から毎週木曜日の半年間、コグニサイズを展開しています。今後も「コグニサイズ促進協力施設」として充実した活動を続けてまいります。

コグニサイズ促進協力施設認定証
協力施設認定 2015-003 号
国立大学法人　秋田大学　殿

秋田大学職員による「チーム コグニサイズ」

コグニサイズ促進協力施設認定証

協力施設認定 2015-003 号

国立大学法人　秋田大学　殿

国立長寿医療研究センターが定めるコグニサイズ指導者(藤田　智恵殿)を
中心としたコグニサイズを普及する協力施設として認定する

2016 年 9 月 1 日
認定期間：2015 年 11 月 27 日から 2018 年 11 月 26 日まで

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター　理事長　鳥羽　研二

認 定 証

指導者第 S201500022 号

藤田　智恵　殿

あなたは国立長寿医療研究センターが定めるコグニサイズ指導者として認定する

2015 年 12 月 14 日
認定期間：2015 年 12 月 14 日から 2018 年 12 月 13 日まで

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター　理事長　鳥羽　研二

認 定 証

指導者第 S201600070 号

久米　裕　殿

あなたを国立長寿医療研究センターが定めるコグニサイズ指導者として認定する

2016 年 12 月 6 日
認定期間：2016 年 11 月 8 日から 2019 年 11 月 7 日まで

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター　理事長　鳥羽　研二

NHKなどでも
特集番組が
度々組まれて
いました！！

気軽に楽しく誰でもできる

コグニサイズで
楽しく認知症予防

9月～2月までの毎週木曜日 9:30-11:30
東成瀬村保健センターにて開催

秋田大学教員による「チームコグニサイズ」
が皆さんをお待ちしています！

コグニサイズとは？

国立長寿医療研究センターが開発した認知症予防プログラムです。体を使う運動課題と頭を働かせる認知課題の２つを同時に行うことで、記憶力の向上、脳内の記憶と学習能力に関係する海馬（かいば）の委縮を食い止め、改善へと導く可能性をもたらします。

村の保健師と秋田大学の教員が共同し、体も頭も心も若々しく保つ秘訣をまじえながら、皆様にやさしく伝授致します。

参加者の皆様へ

初回は9月1日(木)9：30～です。
当日は、体力測定と脳トレを予定しています。

服装：動きやすい服装
持ち物：内履き、タオル
水分補給用の飲み物

対象

60歳以上
75歳未満の方
※要介護認定を受けていない方

申し込み

電話での申し込みとなります。下記電話番号まで。
締め切りは
8月15日（月）

お問い合わせ先
東成瀬村民生課
電話番号：47-3405
交通手段でお困りの方はご相談ください

主催：東成瀬村・秋田大学（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）

NEWS&TOPICS
ニュース&トピックス
2016.09. ›››2016.12.

ストレッチの様子

SEPTEMBER 9

東成瀬村「コグニサイズ教室」開講式を開催

9月1日、東成瀬村保健センターで「コグニサイズ教室」開講式を開催しました。秋田大学と同村が共催し、住民の健康づくりを目的にスタートさせるものです。「コグニサイズ」とは国立長寿医療研究センターが考案した運動法で、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語です。例えば、「歩きながら計算する」といった「有酸素運動＋頭を使う作業の組み合わせで、認知症予防の効果が期待できる運動のことです。

健康チェックの後、開講式では「認知症とコグニサイズについての説明」、「身体機能測定」、「iPadを使用した「脳トレ」、「コグニサイズ初級編」を行いました。

参加者たちは体をほぐすストレッチの後、さっそく「コグニサイズ」に初挑戦。椅子に座ってステップを踏みながら、しりとりをする運動など、それぞれがゲーム感覚で楽しみながらも真剣に取り組んでいました。終始和気あいあいとした雰囲気の中で行われ、笑い声が絶えない「初体験」になりました。

健康チェックの様子

東成瀬村「コグニサイズ教室」開講式が開催されました

９月１日（木）東成瀬村保健センターにおいて「コグニサイズ教室」開講式を開催しました。本学と同村が共催し、住民の健康づくりを目的にスタートさせるものです。「コグニサイズ」とは国立長寿医療研究センターが考案した運動法で、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語です。例えば、「歩きながら計算する」といった「有酸素運動＋頭を使う作業」の組み合わせで、認知症予防の効果が期待できる運動のことです。

当日は、７名の住民の皆様、東成瀬村保健師２名、本学担当者５名が参加しました。健康チェック後、開講式では、「認知症とコグニサイズについて」の説明、身体機能測定、ｉＰａｄを使用した「脳トレ」、コグニサイズ初級編を行いました。

参加者たちは、体をほぐすストレッチの後、さっそく「コグニサイズ」に初挑戦。「椅子に座ってステップを踏みながら、しりとりをする」運動など、それぞれがゲーム感覚で楽しみながらも、真剣に取り組んでいました。終始、和気あいあいとした雰囲気の中で行われ、笑い声が絶えない「初体験」になりました。

健康チェックの様子

開校式の様子

ｉＰａｄを使用した「脳トレ」の様子

ストレッチの様子

平成 28 年度　秋田大学 COC＋事業
東成瀬村「コグニサイズ教室」いよいよ"中級"編へ。
活発な活動続く。

秋田大学と東成瀬村がタッグを組み、頭と体を同時に使って認知症などを予防しようという「コグニサイズ教室」が、９月から週１回のペースで同村保健センターを会場に行われています。11 月 10 日(木)に行われた「第９回教室」ではいよいよ「中級編」へと内容がレベルアップしました。

同日は本学からコグニサイズ指導者、理学療法士の教員と保健学科の学生２名が参加。同教室メンバーである地元住民９人とともに和気あいあいと笑顔の中でプログラムに取り組みました。

コグニサイズは、コグニション（認知）とエクササイズ（運動）を掛け合わせた造語。国立長寿医療研究センター（愛知県）が考案した新しい運動で、数を数えながら体を動かすなど、同時に２つの動作をすることで認知症の予防を目指すものです。

同日から始まった「中級編」では、「コグニラダー」と呼ばれる運動に挑戦。「はしご」の上を歩きながら、手をたたいたり、足を動かしたり、仲間と一緒に楽しみました。

同村での教室は来年２月まで続けられます。

※平成 28 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業 秋田大学がコグニサイズ促進協力施設に認定されました。大学では全国で初めて。⇒
https://www.akita-.ac.jp/honbu/social/pu_position_plus13.html

写真：①

写真：②

・全員でバランス運動。片足上げ（写真：①）や、足をクロスさせてラインを進み、体をならす（写真：②）

写真：③

写真：④

・本学学生と参加者が声を掛け合って中級編の「ラダー」に挑戦（写真：③）
・ラダーをまたぎ、同時に手もたたく。「難しい」と言いながらも笑顔に（写真：④）

平成 28 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
東成瀬村「コグニサイズ教室閉講式」を実施しました

秋田大学は東成瀬村と連携し、住民の健康づくりを目的とした認知症予防プログラム『コグニサイズ』の実践教室を半年間にわたり展開してきましたが、初級から上級までの全てのプログラムを終え、２月 23 日に同教室の閉講式を行いました。

この『コグニサイズ』の実践、普及活動は、本学が進める「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC＋)」の一環で、地域の健康コミュニティ形成を目指すもの。平成 28 年９月に大学としては全国で初めて「コグニサイズ促進協力施設」に認定されたことを受け、コグニサイズ指導者資格を持った医学系研究科の教員のほか、看護師、理学療法士や作業療法士の教員らで結成したチームを中心にこの活動を進めてきました。

閉講式には同村の佐々木哲男村長も出席し、週１回、計 22 回のエクササイズに参加し健康づくりに励んできた９名のプログラム修了者を称えました。また、藤田智恵助教から、修了者一人ひとりに修了証が手渡されると、「健康な生活リズムができ、体力が出てきた。」「雪かき後の疲労感が違う」「教室終了後も自主サークルとして続けたい」などの声が寄せられました。

ステップ台を使い昇降しながらしりとりをする
有酸素運動と認知課題を取り入れた運動

東成瀬村　佐々木哲男村長から一言

参加者の皆さんに、大学から修了証の授与

参加者と記念撮影

平成 28 年度　秋田大学ＣＯＣ＋事業
東成瀬村「コグニサイズ学習会」を開催しました

３月９日（木）東成瀬村保健センターにおいて「コグニサイズ学習会」を開催しました。

この日の学習会には、７人の受講者が出席。一人ひとりに、閉講式(2 月 23 日)に実施した体力測定・認知機能検査の結果を記した「記録表」が、本学の久米裕助教から手渡されました。

それぞれの記録表には、「コグニサイズ教室」開始前に行った同じ内容の体力測定・認知症検査のデータも記載されており、基礎体力向上や記憶機能などの数値で改善が見られました。

久米助教は「もともと基礎体力のある皆さんでしたが、まず、それがうまく維持されている。また、記憶機能や言葉に関する能力がアップしているのが数値で分かります。これからもコグニサイズを続け、その良さを周りの人たちに伝えてください」と話しました。

学習会では、テキストの内容について解説。受講者の皆さんは「(教室が終わり)自己流になってしまうのが心配だったが、これでまたきちんと取り組める」と笑顔で話しました。

受講者の皆さんは、４月から自主サークルとして活動を続けることにしており、東成瀬村でも「地域の健康コミュニティーづくり」の一環として、積極的にサークル活動を支援、コグニサイズの普及を目指します。

コグニサイズ学習会の様子

平成 28 年 11 月 11 日（金）
朝日新聞

東成瀬 認知症予防「コグニサイズ」

頭と体使って有酸素運動

秋田大協力「笑い合って 気持ちに張り」

平成 28 年 7 月 1 日（金）
秋田魁新聞

頭の体操と運動 一緒に

コグニサイズ導入

認知症予防に効果

秋大でも取り組み

1人でも簡単 レッツトライ

⑩「コグニサイズ運動」の展開及び「コグニサイズ」指導者の養成

平成29年3月3日（金）
秋田魁新聞

東成瀬村で認知症予防運動

コグニサイズ効果分析へ

秋田大、9人に半年修了証

平成 29 年度　男鹿なまはげ分校事業「セルフケア講座」実施要項

１．共催

男鹿市，秋田大学男鹿なまはげ分校

２．事業内容

（１）内容

人口減少が進み今後さらなる高齢化の進行が予測できる男鹿市において，一般介護予防事業の基盤とするため，地域包括ケアシステムの一環である自助・互助について学ぶ機会とする。

具体的には，秋田大学教員によるコグニサイズを実施し，認知症予防に取り組み，男鹿市民の健康寿命延伸につなげる。

（２）対象者

男鹿市に住所を有する概ね 65 歳以上の高齢者　　15 名程度

（３）開催会場

男鹿市保健福祉センター　２階（男鹿市船川港船川字片田 74）

（４）日時

平成 29 年 6 月から平成 30 年 2 月まで（計 18 回）

13：30～15：00（初回のみ 13：30～15：30）

※詳細は別紙参照

（５）講師

医学系研究科

保健学専攻　地域生活支援看護学講座　教授　中村　順子

助教　猪股　祥子

助教　藤田　智恵

保健学専攻　作業療法学講座　助教　久米　　裕

助教　津軽谷　恵

附属地域包括ケア・介護予防研修センター

助教　佐藤　亜希子

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業　秋田大学・男鹿市共催「セルフケア講座（コグニサイズで認知症予防）」が始まりました。

本学と男鹿市との共催により、6 月 27 日(木)男鹿市保健福祉センターにおいてセルフケア講座が始まりました。本事業は本学医学系研究科の教員による「コグニサイズ」を実施して、男鹿市における認知症予防に取り組み、市民の健康寿命の延伸を目指すことを目的としたもので、平成 28 年度の東成瀬村に引き続く開講となりました。今後、コグニサイズ初級編から上級編までの計 18 回のプログラムを実践していく予定です。

初日は、18 名の市民が参加しました。健康チェックの後に、開講式を執り行い、コグニサイズの概要説明や東成瀬村での成果などを紹介しました。その後、身体機能測定、ｉＰａｄを使用した認知機能測定などを行い、次回に向けた準備を整えました。

7 月 6 日(木)からはいよいよ実践のスタートです。参加者たちは、健康チェックや柔軟体操などの後、ステップ台を昇降する有酸素運動と、数を数えながら“３の倍数の場合には手を叩く”といった課題を同時に行うコグニサイズ初級編に取り組みました。動作を間違えることも脳への刺激に繋がることから、真剣な中にも終始笑い声があふれる講座となりました。90 分間のエクササイズはあっという間に終了し、参加者からは「体が軽くなったようだ」という声も聞かれました。当日は沢山のメディアの取材もあり、注目の高さが窺えました。次回は 7 月 21 日(金)に実施する予定です。

※「コグニサイズ」とは

国立長寿医療研究センターが考案した運動法で、コグニション（認知機能）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語です。体を使う運動課題と頭を働かせる認知課題の 2 つを同時に行うことで、記憶力の向上、脳内の記憶と学習能力に関係する海馬（かいば）の萎縮を食い止め、改善へと導く可能性をもたらす認知症予防の効果が期待できる運動のことです。

健康チェックの様子

柔軟体操の様子

コグニサイズの様子

テレビ取材の様子

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業　秋田大学・男鹿市共催「セルフケア講座（コグニサイズで認知症予防）」のテレビ取材が行われました！

11 月 9 日(木)、男鹿市で行われている「セルフケア講座（コグニサイズで認知症予防）」において、ABS 秋田放送のテレビ取材が行われました。この講座は秋田大学と男鹿市の共催により、6 月から 2 週間に 1 回のペースで同市保健福祉センターにて開催しており、今回撮影した内容は「知っとく医療のつぼ」（11 月 19 日(日)午前 7 時 20 分～）で一部使用されます。

第 11 回を迎えたこの日は、次回から上級編へレベルアップするのを前に、中級編の総仕上げを行いました。まず健康チェックや入念なストレッチをした後、音楽に合わせてステップ台を昇降する有酸素運動を行い、しっかりと体を温めました。途中、休憩を挟み脈拍計測や水分補給をし、参加者の体調を伺いながら進められました。

コグニサイズ中級編では、ステップを踏みながら数字をカウントし、3 の倍数の時は「手を挙げる」「手拍子をする」といった課題を行い、その後「数字を逆からカウントする」といった課題を増やして行われます。また、コグニラダーと呼ばれる 4 色の運動療法用具を使い、赤色の時は用具の外を踏むなど、足踏みの位置を変える課題を行うなど、慣れさせない工夫が随所に施されています。参加者は、難易度が上がっていく課題に集中して取り組みながら、時に間違えて笑い合ったり、参加者同士で教え合ったりと、コミュニケーションも深まっていくようでした。

ストレッチをしている姿は軽やかで、ステップを踏む足取りも力強く、初級編を行っていたときと比べ、明かな変化が見て取れました。

コグニサイズはメディアで取り上げられることも多くなり、今非常に注目が高まっています。それに伴い、各市町村からの問い合わせも増え、今後ますます認知症予防の取り組みとして浸透していくことが期待されます。参加者からは「今日は膝が痛かったが、どうしても来たくて来た。休み休み行ったが、楽しかった。」という声が聞かれましたが、認知症予防としてはもちろん、地域のコミュニケーションを深める取り組みとしてもますます期待されています。

平成29年7月8日（土）
朝日新聞　21面

認知症予防運動「コグニサイズ」

男鹿市、講座始める

秋大と共催、改善調査

コグニサイズで体を動かす参加者たち＝男鹿市船川港船川

平成29年度　秋田大学COC+事業　秋田大学・男鹿市共催「セルフケア講座（コグニサイズで認知症予防）」の閉講式を行いました。

2月22日(木) 男鹿市保健福祉センターにおいてセルフケア講座の閉講式を行いました。

6月27日にスタートした本事業は、全18回のプログラムを全て終えることとなり、この日は閉講式に先立ち、身体機能評価・認知機能評価を実施しました。参加者たちは、入念に準備体操を行ったのち、握力・タンデム立位・10メートル歩行・5回椅子立ち座りなどの身体的機能テストのほか、iPadを用いた認知機能テストに取り組みました。

閉講式では、柏崎男鹿市市民福祉部長と茂木男鹿なまはげ分校長の出席のもと、久米助教より修了者一人ひとりに修了証が手渡されると、少し緊張した面持ちで受け取っていました。

参加者からは「18回全てに参加した。是非このような講座をまた開催してもらいたい。」、「足取りだけでなく気持ちも軽くなり、毎回来るのが楽しみであった。」、「筋肉がついてきたのが分かる。自宅でもコグニサイズを実践している。」といった声が聞かれました。この日も終始賑やかな会場で、笑い声の絶えない最終日となりました。

準備体操の様子

身体機能評価の様子

認知機能評価の様子

閉講式の様子

平成２８年度ＣＯＣ＋事業
「教育実習誘致」活動実績

H29．４現在

年 月 日	事　　項	実 施 内 容
28.8.1	北秋田市教育委員会と意見交換	北秋田市が平成25年から続けている「共栄大学の教育実習」について、同教育委員会・三澤仁教育長と、担当の同学生課・遠藤元博課長から情報を収集。東成瀬村で展開する際の問題点などを洗い出した。8月5日までに「基礎資料（北秋田市と共栄大学　教育実習の状況について）」を作成。
28.8.8	北秋田市・3小学校から具体的な教育実習内容について情報収集	電話、メールを介して、同市前田小、大阿仁小、合川小の「教育実習内容（実施期間、宿泊場所、費用、従業内容、実習生のスケジュールなど）」を資料として入手。東成瀬村へのプレゼン資料の中に盛り込むこととした。
28.8.10	東成瀬村教育委員会・鶴飼孝教育長、古谷教育次長と打ち合わせ（第1回）	東成瀬村への教育実習誘致について、同教育委員会幹部に対し、秋田大学北秋田分校がコーディネートして行っている「北秋田市への首都圏大学（共栄大学）教育実習」資料をもとに説明した。
28.9.1	東成瀬村教育委員会・鶴飼孝教育長、古谷教育次長と打ち合わせ（第2回）	2013年から東成瀬村で、教員志望の学生たちを連れて「教育視察（1週間）」を行っている淑徳大学（千葉市）・髙橋敏教授に「長期教育実習」を働きかけることにし、電話とメールで同教授にＣＯＣ＋事業の趣旨を説明。
28.9.8	東成瀬村教育委員会・鶴飼教育長、古谷教育次長と打ち合わせ（第3回） ※以降、28年中は打ち合わせを12月22日（第8回）まで実施	淑徳大学へのプレゼン資料作成のための基礎資料（東成瀬村の教育実践、これまでの教育実習生受入など）を収集。「プレゼン資料（東成瀬村の教育実習誘致について）」を作成。
28.9.15	北秋田市・前田小を訪問	北秋田市・前田小を訪問。山本英幸校長と武石祐子教頭と面会し、同省の教育実習について情報収集。同大学生の授業も視察。9月19日、レポート（報告1・前田小の教育実習受入について、報告2・北秋田市教育委員会と共栄大との協定について）として作成。
28.9.16～	淑徳大学・髙橋教授と情報交	淑徳大学・髙橋教授にメールを通じて、プレゼン
10.19	換	資料を送付。髙橋教授はその後、学部担当者会議で「東成瀬村での教育実習」について説明したものの、会議では「学生の安全性、金銭・予算面等の意見がだされ、実施に対して同意が得られなかった」旨の報告があった（10月19日）。
28.11上旬～	本学・北秋田分校長と、共栄大の教育実習誘致計画を協議	北秋田市への教育実習を行っている共栄大学（埼玉県春日部市）でのプレゼンテーションを企画。同大学長、教育学部長との面談日時など調整。
28.12.22	東成瀬村教育委員会・鶴飼教育長と打ち合わせ（第8回）	29年1月に実施する共栄大学でのプレゼンテーションについて、資料のチェック、段取りなどを確認。
29.1.19	東成瀬村教育委員会・鶴飼教育長と打ち合わせ（第9回）	29日1月26、27日に共栄大学で実施するプレゼンテーションについて、教育長と最終確認。
29.1.26	共栄大学（埼玉県春日部市）で「教育実習」誘致プレゼンテーション	東成瀬村教育委員会・鶴飼教育長、秋田大学・濱田純北秋田分校長、西村地域ＣＤが共栄大学を訪問。加藤彰学部長ら同大幹部らの前でプレゼンを行った。プレゼン後、質疑応答と今後の誘致実施スケジュールについても情報交換。29年4月中に、教育実習に関して「東成瀬村教育委員会と共栄大学教育学部」が連携協定を結ぶことを確認した。

※「東成瀬村教育委員会・共栄大教育学部の『教育実習協定』締結式」は平成 29 年 4 月 28 日に東成瀬村で実施。共栄大学から加藤彰学長が来村して、東成瀬村教育委員会の鶴飼孝教育長と調印した。

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
東成瀬村と共栄大学が教育実習に関する協定を締結しました。

４月 28 日（金）東成瀬村教育委員会と共栄大学教育学部並びに教育学専攻科（埼玉県春日部市）が教育実習等に関する協定を締結しました。

15：30 から東成瀬村防災情報センターで行われた締結式では、共栄大学の加藤彰学長と東成瀬村の鶴飼孝教育委員長が協定書を取り交わしました。この協定は少人数教育と小中連携教育を核にして学力向上を進めている東成瀬村教育委員会と、少数精鋭教育によって高い教育成果をあげている共栄大学が連携して実施する教育実習について定めたもので、今後共栄大学は同村に学生を１ヶ月程度派遣し、地域の教育の発展に寄与する人材を育成します。

この取り組みは COC+第 3 の柱「ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」として、首都圏大学から秋田県の小中学校に教育実習合宿を誘致し、地域の交流人口拡大を目指す事業の一環として本学がコーディネートすることによって実現しました。

協定締結の様子

平成 29 年 5 月 5 日（金）
秋田魁新報

村教委が受け入れ
東成瀬で教育実習へ
埼玉の共栄大生

東成瀬村教育委員会はこのほど、埼玉県の共栄大と教育実習に関する協定を結んだ。同大の学生が東成瀬小学校で教育実習を行い、村の交流人口拡大や教育現場の活性化などを図る狙い。

締結は、秋田大が地域活性化や若者の人材育成などを目指す「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環としてコーディネートした。村教委が大学と教育実習に関する協定を結ぶのは初めて。

村教委は今後、毎年実習生を受け入れたい考え。今年は8月下旬から約1カ月間、共栄大の女子学生1人が村内に滞在し、東成瀬小で教育実習を行う予定。

村防災情報センターで行われた締結式では、村の鶴飼孝教育長と共栄大の加藤彰学長が協定書に署名した。

加藤学長が「学力の高い東成瀬村で実習できることに喜びを感じる」とあいさつ。鶴飼教育長は「学生が児童らと触れ合い、多くのことを教え、行動を共にしてくれることは、子どもたちの成長に大きなプラスとなる。新鮮な刺激が生まれ、地域の活性化につながると確信している」と述べた。（木村綱音）

協定書に署名し握手を交わす鶴飼教育長（右）と加藤学長

「首都圏大学合宿誘致事業」

趣　　旨　　首都圏大学の文化系・体育系クラブの合宿誘致により男鹿市の交流人口増大をすすめ、男鹿市民の意識高揚、男鹿市の知名度アップ、地域経済活性化につなげる。
　また、秋田県内各活動団体に対しても合宿に参加することを勧め、本県における活動力(競技力)の向上につなげる。

共　　催　　秋田大学男鹿なまはげ分校
男鹿市

■平成 28 年度実施「拓殖大学フェンシング部夏季合宿」

期　　日　　平成 28 年 8 月 5 日(金)～8 月 11 日(木)　6 泊 7 日

実施大学　　拓殖大学フェンシング部　11 名（＋監督・コーチ等）

練習会場　　男鹿市総合体育館

宿 泊 地　　磯乃家旅館（男鹿市船川港本山門前１）

参 加 者　　秋田県国体候補選手（成年・高校）との合同合宿を予定しており，
また，東北タレント発掘事業（中学生）との合同競技会を予定。
なお，元日本代表監督の講演・指導も予定。

報告

平成 28 年度実施「拓殖大学フェンシング部夏季合宿」について

平成 28 年 8 月
COC＋事務局

期　　日　　平成 28 年 8 月 5 日(金)～8 月 11 日(木)　6 泊 7 日

実施大学　　拓殖大学フェンシング部　11 名（＋監督・コーチ等）

練習会場　　男鹿市総合体育館

宿泊地　　磯乃家旅館（男鹿市船川港本山門前１）

参 加 者　　秋田県国体候補選手（成年・高校）との合同合宿であり、東北タレント発掘事業（中学生）との合同競技会も実施。

《内　容》
　8 月 5 日 から 8 月 10 日（水）まで男鹿市総合体育館において、拓殖大学フェンシング部の合宿が行われた。練習会では、ロンドンオリンピック銀メダリストの千田選手らが合流。期間中は、秋田県国体候補選手との合同練習や東北タレント発掘事業（中学生）合同競技会も行われた

《主な日程》
8 月 6 日（土）　午前・午後　秋田県国体候補選手との合同練習
8 月 7 日（日）　午前　秋田県国体候補選手との合同練習
　　午後　東北タレント発掘事業競技会
8 月 8 日（月）　午前・午後　東北タレント発掘事業競技会
8 月 9 日（火）　午前　元日本代表監督　指導
　　午後　レッスン・ファイティング
8 月 10 日（水）午前・午後　レッスン・ファイティング

分野4資料【平成 27 年度～平成 29 年度】

事業運営・情報発信等

⑫「秋田創生COC+協議会」の開催

⑬情報発信

「秋田創生 COC+協議会」設立会議及び平成 28 年度第 1 回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

秋田大学（学長：山本文雄）は、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校とともに、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）」の採択を受け、秋田県及び経済団体や企業等の皆様と協働で、平成 27 年度からの 5 年間で、学生の県内就職率 10%アップを目指した取り組みを進めています。

この度、関係団体のトップが一堂に会し、今後の COC＋の事業計画等について協議するための「秋田創生 COC＋協議会」の設立会議が開催され、関係 14 団体の代表者を会員とする同協議会が発足しました。

6 月 10 日、秋田大学で開かれた設立会議には、佐竹敬久秋田県知事をはじめ、会員の皆様が出席し、初めに、事業責任大学である本学の山本文雄学長が「秋田創生 COC＋協議会は全県が一体となって、地域の未来を担う若者定着に向け、協力して取り組んでいこうとする場。地域アイデンティティを持った学生を育成し、学生にとって魅力ある就職先の創出・開拓のため、ともに力を合わせて取り組んでいきたい」とあいさつしました。

引き続き、事務局から COC＋事業の概要及び「秋田創生 COC＋協議会設置要綱（案）」の説明があり、原案のとおり設置要綱案が承認され、同協議会が発足しました。

協議会の発足を受け、引き続き第 1 回協議会が開催され、平成 27 年度の事業実績及び平成 28 年度の事業計画等について協議が行われました。

会員の皆様からは、「学生に対して、企業が積極的にアピールする機会が増えなければ、地元定着率のアップは難しいだろう。地元企業の経営者の熱い思いを学生に伝えられるような機会を一緒につくっていきたい」(秋田商工会議所・三浦会頭)、「各企業の社長の思いを聞くのは大切なことだ。銀行はさまざまな企業とのつながりがあり、その情報を学生に伝えていくこともできる」(秋田銀行・湊屋頭取)、「さまざまな組織で出している雇用情報の一元化など、県や大学と一緒になって取り組みたい」(北都銀行・九嶋常務執行役員)など、今後の取り組みについて積極的な発言がありました。

また、秋田県からは▽県内・特定業種認定企業へ就職した学生に対する「奨学金助成制度」▽企業情報の一元化を図る就職支援サイト「kocchAke!」の強化―などについて、秋田県ふるさと定住機構からも若者定着の取り組みの紹介が行われ、最後に、佐竹知事から「最近の流れとして、地元志向の学生が増えている。一流企業でなくとも、一定の条件が合えば地元就職を目指す学生はいる。各事業協働機関が協力し合い、前向きに進めていくことが大切」という力強いメッセージをいただきました。

設立会議及び協議会の様子　（挨拶する山本学長）　（佐竹秋田県知事）

地(知)の拠点

「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」設立会議及び
平成28年度第１回秋田創生ＣＯＣ＋協議会

日時　平成28年6月10日（金）15:00～16:30
場所　秋田大学本部管理棟３階「第１会議室」

次　　第

１　「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」設立会議

（１）秋田大学学長あいさつ

（２）議事１　協議会の設立について

２　平成28年度第１回秋田創生ＣＯＣ＋協議会

（１）協　議

議事１　平成２７年度ＣＯＣ＋事業実績について

議事２　平成２８年度ＣＯＣ＋事業計画について

議事３　教育プログラム開発委員会規程について

（２）その他

配布資料
資 料 １「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」設立会議資料
資 料 ２「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」平成28年度第1回協議会資料
別添資料　平成27年度大学教育再生戦略推進費
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）計画調書

議事１　平成２７年度事業実績について

１　キックオフ・フォーラムの開催

○　２月６日、秋田市において秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校の３大学主催で開催
○　石破茂地方創生担当大臣による記念講演
「大学は地方創生に知恵を」と力説
○　秋田創生ＣＯＣ＋協議会メンバーによるパネルディスカッション
「若者の地元定着にオール秋田で連携していこう」との提言
６大学の学生から「地域活性化、若者の地元定着」についての活発な質問、意見

２　推進体制の整備

【秋田大学】
・秋田大学ＣＯＣ＋実行委員会（委員長＝総括副学長）の設置
・ＣＯＣ＋事務局の設置（地域コーディネーター１名、事務職員１名）
【秋田県立大学】
・ＣＯＣ＋推進会議の設置
【秋田高専】
・事業推進グループ体制（企画室及びＣＯＣ＋事務局）の構築
・事務局：教育改革コーディネーター１名、補佐員２名

３　第１の柱　「秋田おらほ学」の展開

【秋田大学】
・第１回「６大学連携学生プロジェクト部会」の開催

【秋田県立大学】
・「あきた地域学課程」導入に向けたフィールドワーク研修の実施

【秋田高専】
・平成２８年度からの地域教育プログラム実施に向けた準備
・地方創生担当教員を各学科２名以上配置

４　第２の柱　就業支援・若者定着の促進

【秋田大学】
・「就職サポート会議」設置に向けた３大学「学生支援・就職担当者意見交換会」の開催

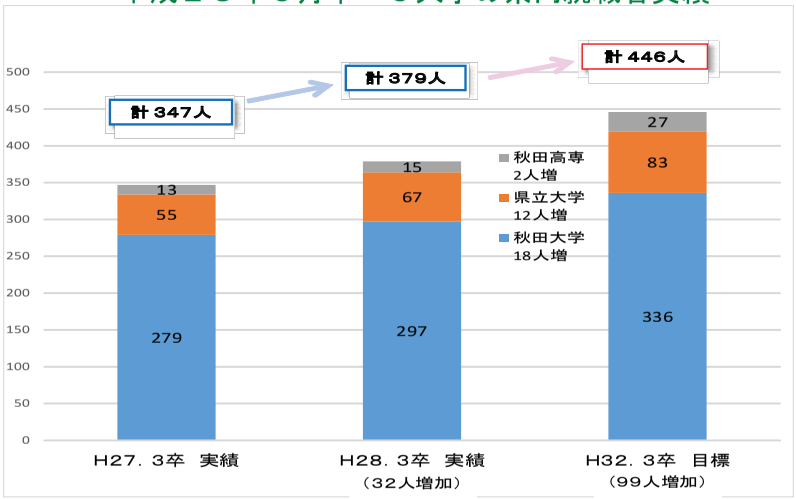
【秋田県立大学】
・ジョブシャドウイングを県内２社で試行

【秋田高専】
・ＣＯＣ＋研究会の開催（東京、秋田）
・ＣＯＣ＋講演会及び技術研修会の開催

５　第３の柱　ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり

【秋田大学】
・「男鹿市と日体大のスポーツ連携協定締結」：男鹿なまはげ分校が仲立
・首都圏等県外大学からの教育実習誘致に向けた東成瀬村との協議
・コグニサイズ運動の指導者研修の受講
・６大学学生を対象とした「聞き書きボランティア講座」の開催

平成２８年３月卒　３大学の県内就職者実績



議事２　平成２８年度事業計画について

１　推進体制の整備等

【共通・ＣＯＣ＋大学】
・４月：ＣＯＣ＋推進コーディネーターの配置（秋田大学）
・６月：「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の設置、第１回協議会の開催

【秋田大学】
・４月：地（知）の拠点推進本部（本部長＝学長）の設置
【秋田県立大学】
・４月：ＣＯＣ推進主監、インターンシップコーディネーター（２名）の配置
【秋田高専】
・高専ＣＯＣ＋のホームページ開設

２　第１の柱　「秋田おらほ学」の展開

【共通・ＣＯＣ＋大学】
・６月：「教育プログラム開発委員会」の設置
・６月：６大学「秋田おらほ学」検討委員会の設置
・７月：第１回「教育プログラム開発委員会」の開催
（全体事業計画等協議）

【秋田大学】
・６大学連携学生プロジェクト部会の開催
・「地域連携プロジェクトゼミ」の導入等

【秋田県立大学】
・「あきた地域学課程」の詳細設計及びフィールドワーク研修の継続等

【秋田高専】
・ＣＯＣ＋講演会の開催（年９回）
・ＣＯＣ＋授業（地域史・地域産業１）の実施
・地域密着型校外実習の実施及び受入企業の拡大
・地域課題解決研究の実施

３　第２の柱　就業支援・若者定着の促進

【秋田大学】
・「就職サポート会議」の設置

【秋田県立大学】
・ジョブシャドウイングの実施
・インターンシップコーディネーター（２名）による受入企業の掘り起こし
・企業との協働によるインターンシッププログラムの開発

【秋田高専】
・ＣＯＣ＋研究会の開催（東京、秋田）
・ＣＯＣ＋講演会及び技術研修会の開催
・高専ＣＯＣ＋のホームページによる情報発信
・地域ニーズとシーズのビッグデータ収集と解析

４　第３の柱　ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり

【秋田大学】
・連携協定自治体との協働による「スポーツ合宿誘致」、「教育実習誘致活動の展開（学内実行委員会、分校活動）
・「聞き書きボランティア講座」の継続、作品集の作成
・コグニサイズ運動担当者学習会の開催と実践活動の展開

議事３　教育プログラム開発委員会規程の制定について

［根拠条文］

○　秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要綱
第６条　協議会にＣＯＣ＋事業の第１の柱である「６大学連携による『秋田おらほ学』の展開」に関する事項を協議するため、教育プログラム開発委員会を置く。
２　委員会は次の各号に掲げる委員で構成する。
（１）秋田大学理事（地方創生・研究担当）
（２）秋田大学長以外の協議会の会員が指名した者　各１名
３　前項のほか、委員会に関し必要な事項は別に定める。

［開発委員会規程案の概要］

○　教育プログラム開発委員会規程案
第３条　委員会は、次の各号に掲げる事項について協議するため、会議を開催する。

（１）「秋田おらほ学」の教育プログラムに関すること
（２）「秋田おらほ学」の認証に関すること
（３）その他「６大学の連携による『秋田おらほ学』の認証」に関すること

○　教育プログラム開発委員会規程案全文は次ページのとおり

秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要綱

（名称）
第１条　本会は、秋田創生ＣＯＣ＋協議会（以下「協議会」という。）と称する。

（目的）
第２条　この協議会は、文部科学省の平成２７年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」に採択された秋田大学をＣＯＣ＋大学（事業責任大学）とする「超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」事業（以下「ＣＯＣ＋事業」という。）について、事業協働地域が一体となって取り組むための「協議の場」として設置する。

（構成）
第３条　協議会は、別表に掲げるＣＯＣ＋事業の事業責任大学、事業協働機関及び事業の一部を協力する大学の代表者により構成する。

（会長）
第４条　協議会に会務を総理する会長を置き､事業責任大学の秋田大学長をもって充てる。
２　協議会に会長を補佐する副会長を置き、参加大学の代表者をもって充てる。
３　会長に事故があるときは、秋田大学長の職務を代理する者をもって充てる。

（会議）
第５条　協議会は、次の各号に掲げる事項について協議するため、会議を開催する。
（１）ＣＯＣ＋事業の事業計画に関すること
（２）ＣＯＣ＋事業の事業実績に関すること
（３）その他ＣＯＣ＋事業の推進に関し必要な事項
２　会議は、会長が招集し、会長が議長となる。
３　会員が出席できないときは、代理者を出席させることができる。
４　会長が必要と認めるときは、会員以外の者の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

（委員会の設置）
第６条　協議会にＣＯＣ＋事業の第１の柱である「６大学の連携による「秋田おらほ学」の展開」に関する事項等について協議するため、教育プログラム開発委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。
（１）秋田大学理事（地方創生・研究担当）
（２）秋田大学長以外の協議会の会員が指名した者　各１名
３　前項のほか、委員会に関し必要な事項は別に定める。

（事務局）
第７条　協議会の事務は、秋田大学において処理する。

（補則）
第８条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附　則
この要綱は、平成２８年６月１０日から施行する。

別表

区分		名称
事業責任大学		秋田大学
事業協働機関	参加大学	秋田県立大学 秋田工業高等専門学校
	参加自治体	秋田県
	参加企業等	秋田商工会議所 秋田県商工会連合会 秋田県中小企業団体中央会 秋田県ふるさと定住機構 秋田銀行 北都銀行 秋田高専産学協力会
事業の一部を協力する大学		国際教養大学 秋田公立美術大学 日本赤十字秋田看護大学

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

７月１３日（木）、秋田大学本部管理棟３階第１会議室において、第１回秋田創生 COC+協議会を開催しました。

同協議会は、秋田大学をＣＯＣ＋大学（事業責任大学）とするＣＯＣ＋事業について、事業協働地域（秋田県）が一体となって取り組むための「協議の場」として設置されており、関係大学をはじめ、秋田県や経済団体等の代表者により構成されています。

はじめに、本学の山本文雄学長が「本事業は今年で中間の３年目となるが、県内就職率を５年で 10 ポイントアップするという高いハードルが設定されており、大変厳しい状況にある。目標を達成するためには、会員の皆様をはじめ、行政・経済界のご理解とご協力が必須である。県内就職者の増加に向けて、積極的にご意見をいただきたい。」とあいさつしました。

引き続き事務局から平成 28 年度 COC+事業実績や平成 29 年度事業計画について説明があり、平成 28 年度卒業生の県内就職やインターンシップの実績、また、秋田大学の「ＣＯＣキャリア認証プログラム」や秋田県立大学の「ジョブシャドウイング」の取組等について報告がなされました。

出席者からは、「中小企業は学生を求めている。大企業と比べると賃金や労働環境で見劣りし決して数多くは採用できないが、それを早く解決出来るような方法を危機感をもって整理したい。」、「秋田県には世界的な技術を持つ企業もあるが、残念ながら産業化が遅れている。中長期的に産業の育成をしながら雇用の場を作ってあげたい。」、「特定の企業と具体的に研究等で採用に結びつくよう、もう一歩突っ込んだ採用活動が必要だ」といった意見が出されました。

また、秋田県からは奨学金返還助成制度の開始や、「秋田 GO!EN アプリ」による県内就職や関連イベント情報の発信などの取組が説明され、秋田県ふるさと定住機構からも職場見学バスツアーなどが紹介されました。

最後に秋田商工会議所三浦会頭から「これは大学だけで解決出来ない。皆様の立場で現状認識して秋田に元気な若者が残れる環境を作っていきたい。」という発言があり、協議会の会員が連携して、一人でも多くの学生が県内企業に就職できるよう取組を強化していくことを確認しました。

（秋田大学・山本学長）

（秋田商工会議所・三浦会頭）

地(知)の拠点

平成29年度第1回秋田創生ＣＯＣ＋協議会

日時　平成29年7月13日（木）13:30～15:00
場所　秋田大学本部管理棟３階「第１会議室」

次　　第

１．開　　会

２．協議事項等
（１）平成28年度ＣＯＣ＋事業実績について
（２）平成29年度ＣＯＣ＋事業計画について
（３）その他

配付資料
資料１：平成28年度ＣＯＣ＋事業実績について
資料２：平成29年度ＣＯＣ＋事業計画について

別添資料１：秋田創生ＣＯＣ＋協議会設置要綱
別添資料２：教育プログラム開発委員会規程
別添資料３：６大学「秋田おらほ学」検討委員会設置規程
別添資料４：秋田大学「ＣＯＣキャリア認証プログラム履修案内」
別添資料５：秋田就職サポート会議関係資料
別添資料６：秋田県立大学ジョブシャドウイング
別添資料７：秋田大学「コグニサイズ教室」関係資料
別添資料８：秋田公立美術大学平成28年度卒業生進路状況
別添資料９：秋田大学と県内企業による情報交換会
別添資料10：平成29年度若者の県内定着促進に関する取組について（秋田県）
別添資料11：秋田ものづくりオープンカレッジ
別添資料12：秋田就職活動支援センター「職場見学ツアー」

参考資料１：平成28年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書
参考資料２：平成29年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書

（資料 1）

平成２８年度ＣＯＣ＋事業実績について

《 全 体 計 画 》

○「ＣＯＣ＋推進コーディネーター」の採用

秋田大学で平成 28 年 4 月にＣＯＣ＋推進コーディネーター1 名を採用し、事業協働機関相互の調整をより円滑に推進する体制を整えた。

○「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」及び「教育プログラム開発委員会」の設立

事業協働地域が一体となって地方創生に取り組むための「協議の場」として、「秋田創生ＣＯＣ＋協議会」の設立総会を平成 28 年 6 月に開催し、同協議会を発足させるとともに、同協議会の下に「教育プログラム開発委員会」を発足させた。**（別添資料１・２）**

《 第 １ の 柱 》:「秋田おらほ学」の展開

○ 教育プログラム開発委員会の開催

8 月に第 1 回教育プログラム開発委員会を開催し、各大学の取組の現状と「秋田おらほ学」の展開の年度別計画等について協議した。

・第 1 段階として、平成 29 年を目途に、3 大学が独自の認証制度により、それぞれの学生に「秋田おらほ学」を提供する体制を構築するとともに、大学間の連携や調整を図るために、同委員会の下に「6 大学秋田おらほ学検討委員会」を設置する。

また、3 月に第 2 回会議を開催し、各大学の取組の現状と、平成 29 年度の補助事業に関する協議を行った。

○「秋田おらほ学検討委員会」の開催

12 月に「検討委員会」を発足させ**（別添資料３）**、平成 29 年 3 月の委員会において、各大学の取組の現状と他県大学のプログラム等について協議した。

一定の単位数の地域志向科目を修得した学生に対して、学長名で称号を授与する「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プラム」の構築を進め、平成 29 年 4 月からスタートさせた。

○ 秋田県立大学：「あきた地域学課程」の試行

「あきた地域学課程」の詳細設計と試行を進め、平成 29 年 4 月から全学必修化により本格的に展開している。

○ 秋田高専：「ＣＯＣ＋授業」等の実施

ＣＯＣ＋授業として、4 年生を対象に前期授業として「地域史」を開講した。後期は「地域産業Ⅰ」を開講し、8 人の実務家教員がオムニバス形式で講義した。また、「ＣＯＣ＋講演会」は、聴講対象学年の学生は全員参加とし、本科学生対象に 7 回、専攻科学生対象に 2 回開催した。

《 第 ２ の 柱 》:「就職支援の取組」について

○ 秋田大学：秋田就職サポート会議等の開催（別添資料５）

6 大学の就職担当者と事業協働機関の実務担当者が一堂に会し、各大学の県内就職促進に向けた取組に関する情報共有を図るための「秋田就職サポート会議」を主催した。

また、県内企業向けのインターンシップセミナーを開催した。

○ 秋田県立大学：新たなインターンシップ制度の実施等（別添資料６）

4 月にＣＯＣ推進主監及びインターンシップコーディネーター2 人を雇用し、推進体制を整備した。

新たなインターンシップの一形態である「ジョブシャドウイング」の導入を進め、企業と共同開発したプログラムに基づき、13 社（新規 11 社）において、合計 51 人の学生が参加するなどインターンシップの取組や県内企業とのマッチングを強化している。

○ 秋田高専：地域の理解・課題発見解決の教育プログラムの導入

地域課題解決型卒業研究担当教員 9 名を選出し、ＣＯＣ＋研修会として技術講演やシーズ紹介、県内企業によるインターンシッププログラムの紹介などを行い、県内関連の卒業研究、特別研究等に 4 人が取り組んだ。地域密着型校外実習（県内企業でのインターンシップ）については 28 人が受講した。

また、ＣＯＣ＋講演会、ＣＯＣ＋研修会参加者に対するアンケート調査、県内企業に対するインターンシップ等に関するアンケート調査を行い、学生と企業の二ーズ・シーズをマッチングさせるためのデータ収集・解析などの取組を進めた。

《 第 ３ の 柱 》:「ふるさと秋田魅力形成モデルづくり」（秋田大学）

・首都圏大学スポーツサークルの合宿誘致：8 月に拓殖大学フェンシング部の合宿を男鹿市で実施した。

・首都圏大学での教育実習誘致のプレゼン実施：1 月に共栄大学（埼玉県）を訪問し、学長、学部長に対し東成瀬村教育長とともにプレゼンを実施した。

・聞き書き養成講座開催（男鹿市民等を対象）：男鹿市において、1 月と 2 月に「聞き書きボランティア養成講座」を開催し、作品集を作成した。

・健康コミュニティづくり：9 月から半年間、毎週 1 回東成瀬村において、認知症予防運動として注目されている「コグニサイズ教室」を開講した。**（別添資料７）**

表１：３大学の県内就職率

	H26	H27		H28		H31
	実績	目標	実績	目標	実績	目標
秋田大学	37.9%	39.9%	37.8%	42.1%	36.4%	48.0%
	279 人	308 人	297 人	328 人	272 人	336 人
秋田県立大学	19.3%	21.3%	25.1%	23.0%	18.4%	29.4%
	55 人	60 人	67 人	65 人	52 人	83 人
秋田工業高等専門学校	9.5%	9.5%	12.8%	11%	22.7%	20.0%
	13 人	13 人	15 人	15 人	27 人	27 人
計	30.0%	32.1%	32.4%	34.1%	30.5%	39.9%
	347 人	381 人	379 人	408 人	351 人	446 人

表２：県内事業所へのインターンシップ参加者数

	H26	H27		H 28		H31
	実績	目標	実績	目標	実績	目標
秋田大学	62 人	100 人	146 人	105 人	1 認人	115 人
秋田県立大学	115 人	125 人	159 人	145 人	184 人	180 人
秋田工業高等専門学校	36 人	36 人	40 人	38 人	28 人	45 人
計	213 人	261 人	345 人	288 人	394 人	340 人

（資料２）

平成２９年度ＣＯＣ＋事業計画について

《 全 体 計 画 》

① 秋田創生ＣＯＣ＋協議会の開催
秋田創生ＣＯＣ＋協議会を開催し、前年度の取組実績や平成２９年度の事業実施計画等について協議する。

② ＣＯＣ＋外部評価委員会を開催する。

③ ＣＯＣ＋フォーラムを開催し、中間事業実績を公表する。

④ 中間事業実績に関するパンフレットを作成する。

⑤ 他都道府県のＣＯＣ＋大学の取組状況視察・意見交換を行い、情報収集する。

《 第１の柱：６大学による「秋田おらほ学」の展開 》

① プログラム開発委員会及び秋田おらほ学検討委員会を開催し、秋田おらほ学について協議検討する。（他県大学の実施状況の確認・検討）

② ＣＯＣキャリア認証プログラムの実施（**秋田大学**）

③ 「あきた地域学課程」における「あきた地域学」必修化の開始、フィールドワークなどの地域研修の実施（**秋田県立大学**）

④ ＣＯＣ＋講演会、ＣＯＣ＋授業、地域密着型校外実習の受入企業数拡大、地域課題解決研究の実施（**秋田高専**）

《 第２の柱：３大学と地元企業群による就職支援・若者定着システムの形成 》

① 秋田就職サポート会議等の開催（**秋田大学**）（別添資料 9）

② インターンシップコーディネーターによる企業訪問の実施、ジョブシャドウイングの実施、協働による実習プログラム開発（**秋田県立大学**）

③ ビッグデータの公開（これまで収集したデータの解析結果の公開）（**秋田高専**）

《 第３の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり 》（秋田大学）

① 男鹿市等と連携し、スポーツサークル等の合宿誘致を実施する。

② 首都圏大学の教育実習誘致の実施

③ 学生や一般市民を対象とした「聞き書きボランティア養成講座」の開催と作品集の作成・配布を行う。

④ 男鹿市でのコグニサイズ運動の展開

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業

基調講演

地方創生を進める上で
高等教育機関に期待するもの

地方創生・国家戦略
特別区域担当大臣
石破　茂 氏

シンポジウム

超高齢・人口減社会における
若者の地元定着の促進と若者の育成
ー学生の地元就職率
10%アップを目指してー

平成２８年
２月６日（土）
13:00 ～ 15:50
秋田市文化会館
小ホール

＊公共交通機関をご利用いただけますよう
ご協力をお願いいたします。

文部科学省 地（知）の拠点

プログラム

- 12:00　開場
- 13:00　開会
- 13:15　基調講演
- 14:25　シンポジウム
  - ▶パネリスト
    - 秋田県知事　佐竹　敬久 氏
    - 秋田商工会議所会頭　三浦　廣巳 氏
    - 秋田銀行頭取　湊屋　隆夫 氏
    - 北都銀行頭取　斉藤　永吉 氏
  - ▶メインコーディネーター
    - 秋田大学長　澤田　賢一
  - ▶サブコーディネーター
    - 秋田大学地域創生センター地域協働部門長　濱田　純
  - ▶学生との質疑応答　秋田大学
    秋田県立大学
    秋田工業高等専門学校
    国際教養大学
    秋田公立美術大学
    日本赤十字秋田看護大学
- 15:40　学生サークル「よさとせ歌舞輝」による演舞
- 15:50　閉会

申込方法
住所、氏名、電話番号を明記し、下記 FAX、e-mail へ１月 20 日（水）までお申込みください。
＊なお、定員を超えた場合はお断りする場合があります。

主催　秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
後援　秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田銀行　北都銀行
秋田県中小企業団体中央会　秋田県ふるさと定住機構　秋田高専産学協力会

お申込・問合せ先　秋田大学 COC プラス事務局
秋田市手形学園町１－１
ベンチャーインキュベーションセンター２F
TEL　018－889-3246　FAX　018-889-3168
e-mail　coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業
（COC+）フォーラム』を開催します。

3月6日（火）、秋田大学 60 周年記念ホールにおいて、『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）フォーラム』を開催します。

このフォーラムは、平成 27 年度に本学を事業責任大学として採択された文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ＋）」において、これまで学生の県内就職率アップを目指して各校が取り組んできた地域を志向した教育プログラム改革や県内就職支援の取組などについて報告するとともに、人口減少の克服を目指す秋田県の新たな県政運営指針や他の地域における事例（福井大学）を紹介しながら、今後の取組の課題や方向性について議論を深め、事業協働機関全体でＣＯＣ＋事業を推進していくことを目的として開催するものです。

参加費は無料です。参加申込につきましては下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、Fax または Email にてお申し込みください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

○ 日時　平成３０年３月６日（火）１３：３０～１７：００
○ 会場　秋田大学　６０周年記念ホール
○ 主催：秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
　後援：秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会
　　秋田県ふるさと定住機構　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会
　　国際教養大学　秋田公立美術大学　日本赤十字秋田看護大学（予定）
○ プログラム：
　・13：30～　開会あいさつ：秋田大学長　山本　文雄
　・13：35～　来賓あいさつ：文部科学省（予定）
　・13：45～　特別講演：秋田県知事　佐竹　敬久
　　「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について
　・14：40～　ＣＯＣ＋事業中間報告：ＣＯＣ＋推進コーディネーター　高橋　訓之
　・14：55～　事例発表：座長　秋田大学総括副学長　小川　信明
　　第一部　学生の県内就職促進の取組について
　　・「福井大学における地元企業就職への取組」
　　福井大学参与・ＣＯＣ＋推進コーディネーター　舟木　幸雄
　　・「秋田大学と県内企業との情報交換会」
　　秋田大学学生支援・就職課長　藤井　和明
　　・「秋田県立大学のジョブシャドウイング」
　　秋田県立大学研究・地域貢献本部ＣＯＣ推進主監　青木　満

地（知）の拠点

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）フォーラム

超高齢・人口減社会における
若者の地元定着の促進と若者の育成

平成２７年度に文部科学省に採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」では、学生の県内就職率１０％アップを目指して、「３本の柱」による取組を進めております。
事業中間年度にあたり、ＣＯＣ＋事業として各校が実施してきた地域を志向した教育プログラム改革や県内就職支援の取組などについて報告するとともに、秋田県の新たな県政運営指針や他の地域における事例（福井大学）を紹介しながら、今後の取組の課題や方向性について議論を深め、事業協働機関全体でＣＯＣ＋事業を推進していくことを目的として本フォーラムを開催いたします。

日時　平成３０年３月６日（火）13：30~17：00
会場　秋田大学　６０周年記念ホール【入場無料・要事前申込】

プログラム

13：30　開会あいさつ　秋田大学長　山本　文雄
　　来賓あいさつ　文部科学省（予定）
13：45　特別講演　「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について
　　秋田県知事　佐竹　敬久
14：40　ＣＯＣ＋事業中間報告
14：55　事例発表
第１部　学生の県内就職促進の取組について
✜ 福井大学における地元企業就職への取組
　　福井大学参与・ＣＯＣ＋推進コーディネーター　舟木　幸雄
◆ 秋田大学と県内企業との情報交換会
◆ 秋田県立大学のジョブシャドウイング
◆ 秋田高専の地域密着型校外実習
第２部　地域を志向した教育プログラムについて
✜ ふくい地域創生士認定制度
　　福井大学理事・副学長　岩井　善郎
◆ 秋田大学 COC キャリア認証プログラムと地域文化学科のコア・カリキュラム
◆ 秋田県立大学あきた地域学課程
◆ 秋田高専ＣＯＣ＋教育プログラム
16：55　閉会あいさつ　秋田県立大学長　小林　淳一

主催：秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
後援：秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会　秋田県ふるさと定住機構
　　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会　国際教養大学　秋田公立美術大学　日本赤十字秋田看護大学（予定）

問い合わせ　秋田大学地（知）の拠点推進本部
TEL：018-889-3246　FAX：018-889-3168　E-mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp

---

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）フォーラム開催要項

○ 目的
　平成２７年度に文部科学省に採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（ＣＯＣ＋）」では、「超高齢・人口減社会における若者の地元定着の促進と若者の育成」をテーマに、学生の県内就職率１０％アップを目指して、「３本の柱」による取組を進めている。
　事業中間年度にあたり、ＣＯＣ＋事業として各校が実施してきた地域を志向した教育プログラム改革や県内就職支援の取組などについて報告するとともに、人口減少の克服を目指す秋田県の新たな県政運営指針や他の地域における事例（福井大学）を紹介しながら、今後の取組の課題や方向性について議論を深め、事業協働機関全体でＣＯＣ＋事業を推進していくことを目的として本フォーラムを開催する。

○ 日時　平成３０年３月６日（火）１３：３０～１７：００
○ 会場　秋田大学　６０周年記念ホール

○ 主催：秋田大学　秋田県立大学　秋田工業高等専門学校
　後援：秋田県　秋田商工会議所　秋田県商工会連合会　秋田県中小企業団体中央会
　　秋田県ふるさと定住機構　秋田銀行　北都銀行　秋田高専産学協力会
　　国際教養大学 秋田公立美術大学　日本赤十字秋田看護大学（予定）

○ プログラム：
　・13：30～　開会あいさつ：秋田大学長　山本　文雄
　・13：35～　来賓あいさつ：文部科学省（予定）

　・13：45～　特別講演：秋田県知事　佐竹　敬久
　　「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について

　・14：40～　ＣＯＣ＋事業中間報告：ＣＯＣ＋推進コーディネーター　高橋　訓之

　・14：55～　事例発表：座長　秋田大学総括副学長　小川　信明
　　第一部　学生の県内就職促進の取組について
　　・「福井大学における地元企業就職への取組」
　　福井大学参与・ＣＯＣ＋推進コーディネーター　舟木　幸雄
　　・「秋田大学と県内企業との情報交換会」
　　秋田大学学生支援・就職課長　藤井　和明
　　・「秋田県立大学のジョブシャドウイング」
　　秋田県立大学研究・地域貢献本部ＣＯＣ推進主監　青木　満
　　・「秋田高専の地域密着型校外実習」
　　秋田工業高等専門学校　副校長　野坂　肇
　　第二部　地域を志向した教育プログラムについて
　　・「ふくい地域創生士認定制度」
　　福井大学理事・副学長　岩井　善郎
　　・「秋田大学ＣＯＣキャリア認証プログラムと地域文化学科のコア・カリキュラム」
　　秋田大学ＣＯＣ＋推進コーディネーター　高橋　訓之
　　秋田大学教育文化学部地域文化学科教授　志立　正知
　　・「秋田県立大学あきた地域学課程」
　　秋田県立大学生物資源科学部長　金田　吉弘
　　・「秋田高専ＣＯＣ＋教育プログラム」
　　秋田工業高等専門学校　副校長　野坂　肇

　・16：55～　閉会あいさつ：秋田県立大学長　小林　淳一

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）フォーラム」を開催

秋田大学は３月６日、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校とともに「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）フォーラム」を開催しました。このフォーラムは、平成 27 年度に本学を事業責任大学として採択された文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生事業（COC+）」について、補助対象期間５カ年の中間年度にあたり、学生の県内就職率アップを目指して各校が取り組んできた地域志向の教育プログラム改革や県内就職支援に関する取組などについて報告し、今後の課題や方向性について議論を深め、事業協働機関全体で本事業を推進していくことを目的として開催したものです。

山本文雄学長の挨拶の後、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の平野博紀室長から来賓挨拶を述べられました。また、事例発表に先立って、秋田県の佐竹敬久知事から県の新たな政策指針となる「第３期ふるさと秋田元気創造プラン」について特別講演がありました。

事例発表は２部構成で実施。第一部では、福井大学の舟木幸雄参与 COC+推進コーディネーターが「福井大学における地元企業就職への取組」として、福井県内５大学連携による 10 のワーキンググループの設置や、企業側から学生への積極的なアプローチを働きかけるシンポジウムや研修会の開催などについて紹介。秋田大学の藤井和明学生支援・就職課長から、大学と県内企業との情報交換会において、企業名の積極的な周知と魅力発信を呼びかけていることや地元就職のメリットや魅力を伝える必要性について発表がありました。さらに、秋田県立大学からはジョブシャドウイング、秋田工業高等専門学校からは地域密着型校外実習について発表がなされました。

第二部では、福井大学の岩井善郎理事・副学長から、幅広い分野・領域から地域に関する基礎的教養を身に付けたことを証明する認定制度である「ふくい地域創生士」制度の創設などについて紹介され、続いて、秋田大学教育文化学部の志立正知教授から、地域を知り体験することからスタートし、発見した地域課題を地域の人々と協働で解決していく地域文化学科コア・カリキュラムの紹介など、各校の地域を志向した教育プログラムについて発表がありました。

当日は、教職員をはじめ、秋田県内外の大学関係者を含む約 200 人の参加者が集まり、地方創生事業に取り組む各大学等の事例に熱心に耳を傾けていました。

挨拶する山本学長

来賓の平野室長

特別講演を行う佐竹知事

平成 30 年３月７日（木）
秋田魁新報　３面

学生の地元定着へ
地方創生、取り組み発表
秋田大などフォーラム

学生の地元定着について考えたフォーラム

平成 29 年度秋田大学全学 FD・SD シンポジウム実施要項

○概要

秋田大学ではCOC（地（知）の拠点整備事業，平成25年度～平成29年度）およびCOC+（地（知）の拠点大学による 地方創生推進事業，平成27年度～平成31年度）の採択に伴い，従来の地域の特性を考慮した各学部の講義等に加えて，特に地域志向を目的とした授業が展開されている。本シンポジウムでは本事業の目的と意義について広く理解いただくとともに，地域志向アクティブ・ラーニング型授業を展開している教員の方々より実践内容、工夫や成果をご紹介いただく。さらにパネルディスカッションにより地域志向型授業を今後設定・展開する際の課題の抽出と解決の方向性に関する議論を行い，COCおよびCOC+事業の成果に基づいた，今後の教育改善への理解を深めることを本シンポジウムの目的としている。

○主催

教育推進総合センター　教育開発部門
地（知）の拠点推進本部

○日時・場所

日時 ： 平成 30 年　3 月 16 日 （金）　13：30～16：00（受付開始 13：00～）
場所 ： 秋田大学手形キャンパス　一般教育 2 号館　203 教室

○プログラム

13：30　開会挨拶　（教育開発部門長　德重 英信）
13：35　COC+事業概要説明
髙橋 訓之　COC+推進コーディネーター

14：00　事例報告・パネルディスカッション

テーマ　：	地域志向科目におけるアクティブ・ラーニングの実践
司　会　：	德重　英信　教育開発部門長
パネラー	地（知）の拠点推進本部　髙橋 訓之　COC+推進コーディネーター
	地方創生センター　水田 敏彦　教授
	地方創生センター　鎌滝 孝信　准教授
	教育文化学部　志立 正知　教授
	医学系研究科　中村 順子　教授
	理工学研究科　網田 和宏　助教

16：00　閉会

○対象者

秋田大学教職員・県内高等教育機関教職員

平成 29 年度　秋田大学 COC+事業
『秋田大学全学 FD･SD シンポジウム』を開催しました。

3月 16 日（金）、秋田大学手形キャンパス一般教育棟 2 号館 203 号室において、「秋田大学全学 FD･SD シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは COC 及び COC+事業の目的と意義について、学内教職員に広く理解いただくとともに、地域志向アクティブラーニング型授業の成果を発表し、今後の課題の抽出と解決の方向性を議論し、教育改善への理解を深めることを目的として開催したものです。

はじめに、德重英信教育開発部門長から挨拶があり、続いて、髙橋訓之 COC+推進コーディネーターより COC 及び COC+事業の概要説明がありました。

次に、地域志向科目の授業を担当している教員より下記のとおり事例報告がありました。

○積雪寒冷地における防災授業の取組（地方創生センター　水田敏彦教授）
○地域文化学科コア･カリキュラムから－H29 年度地域学基礎の実践例－(教育文化学部　志立正知教授)
○保健師コースにおける学習活動と聞き書き(医学系研究科　中村順子教授)
○防災教育を考える、秋田県沿岸部の地域防災考える（地方創生センター　鎌滝孝信准教授）
○「秋田の環境と資源」について（理工学研究科　網田和宏助教）

続いて、「地域志向科目におけるアクティブラーニングの実践」をテーマとして、登壇した教員によるパネルディスカッションを行いました。当日は、本学の教職員を中心に約 50 名の参加者が集まり、質疑応答では積極的な質問がでるなど、活発な議論が交わされました。

平成29年度 第2回全学FD・SDシンポジウム(3月16日実施) アンケート集計結果

◇シンポジウム参加者

学内	37
学外	4
運営担当	6
計	47

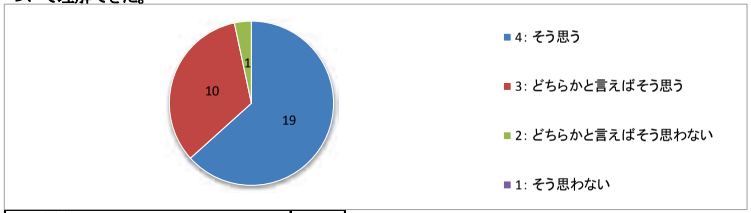
→

学内参加者内訳(パネリスト・運営担当を除く)

国際資源	3	教育文化	2
医学	2	理工	14
事務職員	6	その他	4
		計	31

◇アンケート集計結果 (提出数:30)

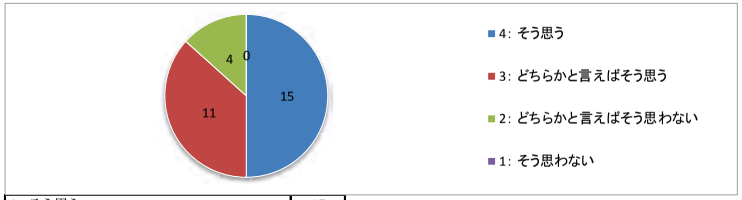
① 秋田大学のCOC+事業及び地域志向科目におけるアクティブ・ラーニングの取組みについて理解できた。



4: そう思う	19
3: どちらかと言えばそう思う	10
2: どちらかと言えばそう思わない	1
1: そう思わない	0

<選択肢[4]の理由>
・アクティブ・ラーニングを行うのにはどのくらい苦労しなければならないかがよく分かった
・各取組みににについて詳しい説明があったから
・学内全体の取組を知ることができたので、良かったです
・数値達成も重要であるが、長い目で見て地域に良い影響を与える取組も重要であると分かった

②開催時期(3月)は適当である。



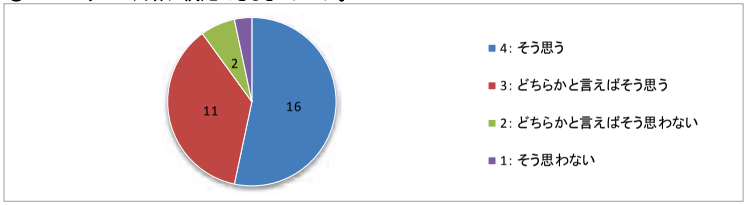
4: そう思う	15
3: どちらかと言えばそう思う	11
2: どちらかと言えばそう思わない	4
1: そう思わない	0

<選択肢[4]の理由>
・授業もなく、学会の時期でもないため

<選択肢[3]の理由>
・他のシンポジウムと重なってしまったが、本日はこちらに参加した。

<選択肢[2]の理由>
・3月は類似のセミナー、フォーラムが多く開催されるので1~2月の方が良いと思います
・運営側は3月はやりやすいと思うが、個人評価表も提出済みで参加しにくい
・学期末、年度末で参加するのが難しい

③シンポジウムの内容は満足できるものだった。



4: そう思う	16
3: どちらかと言えばそう思う	11
2: どちらかと言えばそう思わない	2
1: そう思わない	1

<選択肢[4]の理由>
・今後、アクティブラーニングの視点から授業を行うことが重要となるから
・医学系の取り組みを知ることが出来たのは、良かったです。
・書類には出てこない真意を知ることができた

<選択肢[3]の理由>
・アクティブ・ラーニングの多様な実現方法に関する知見が欲しかった
・各先生の工夫を知れた
・具体的な実践事例が中心で充実したシンポジウムでした。

<選択肢[2]の理由>
・学生の姿が見えない

<選択肢[1]の理由>
・具体性に欠けた

④本シンポジウムにおいて、参考になった事柄や今後取り組みをはじめようと思った点があればお書き下さい。

・地域志向科目のイメージがもちにくかったが、事例紹介がありイメージしやすくなった
・各授業で取り入れられている項目の役割を改めて深く理解できた。
例)地域学基礎で学生が最初に感じた事を書き留める事の理由
例)聞き下記を行うことの理由・効果
・地域の良さを知る取組みの多様さを知ることができ、大変勉強になりました。
・身近な地域でのアクティブラーニングを実践されている志立先生の通町での取組みがとても参考になった。
自身の専門分野での取組みでなければならないという固定観念があったが学生と供に学ぶこと、これまでの専門を生かすのは手法部分であり、専門のレクチャーでなくても良いことがよく分かった。ただ、遠方の地域をフィールドにする場合の予算をCOC終了後同確保したらいいのか大学としての見解を知りたかった。又、こうした講義を実現するための地域のコーディネーターをどう確保するかについても今後大学として是非取り組んでいただきたい
・学内の地域志向科目の概要が良く分かりました
・地域との連携 ・課題を知り、将来解決されると良い
・「地域を見る」というのは良い
・志立先生の授業はご専門とは異なる授業のようで、ご苦労と工夫されている様に思われる。とても良いと感じた

・多様な取組みが紹介されたので、参考にしてみたい ・秋田大学の積極的な取組みに敬意を表します。
ありがとうございました。
・各先生方の取組み内容が分かり参考となりました。
・大学としての進め方が分かったと思いました。宜しくお願いします。
・受講者が少ないという共通問題があると感じた。それをさける仕組みは「必修化」ではないように思う
・「秋田」にこだわらず、「地域」として捉えた取組をされていることがわかりました。規模の大きい授業科目での
取り組み事例があれば良かったと思います。

⑤本シンポジウムにおいて、改善すべきだと思った点があればお書き下さい。

・事前の宣伝が少なく参加者が少なかった点。何かしらの陽性力が必要かも。あるいは切迫感か。
・学生の発表があれば良い
・学生の評価が必要
・地域の方々の意見はどうなのか
・COC+とアクティブ・ラーニングを強引にくっつけた感がします。
・特にありません
・シンポジウムに参加して欲しい対象を充分絞り込みすべきと感じた。数を多く集める事が重要ではなく、とんちん
かんな発言をするような人が入るのをFD・SDとして防ぐ必要もあると思慮します。
・学生の学びに対する評価の問題が取り上げられていなかった。発表者の実感や感想だけでなく、ルーブリックや
能力記述文(～ができる)といった第三者が見てわかる評価方法が求められるのではないでしょうか。
・2~3月に界隈されたシンポジウム、セミナー、フォーラム報告会などでお伺いした内容も散見されたので、開催時期
を見直してもいいと思いました。
・県内出身者と県外出身者の単位取得状況に関するデータがあればいいと思った(県内就職者増大は、
残留と流入どちらによるものか？)
・そもそも県内就職率の向上の主要因が本当にCOC事業にあるのかが明確ではなかった。県内就職者の単位取得状況、
県内就職者への聞き取り等の結果があれば嬉しい
・もう少し短い方が参加しやすいです。13時30分~16時過ぎは半端なので。15時~17時あたりが良いかと。
・アクティブラーニングのやり方などがメインではなかったのですね
・調査、考察に関する講義の照会は多いが、実践に関するものは少なかった
・必修科目を増やすことは、学生の負担にならないか？

⑥今後、FD・SDシンポジウムで取り上げてほしいテーマやご意見・要望等があればお書き下さい。

・Diversityについて
・先生1人での大人数を対象にしたアクティブラーニングのやり方、授業方法
・COCに限らずアクティブラーニングの手法、取り組み、予算の活用等、具体例について
・他大学/学部/地域/企業/協力授業の展開と効果
・分野横断型の講義の照会、先生方個別の地域とのつながりに加えて、組織チームとしてのつながりを知りたかった
・県内他大学の地域連携の取り組みを紹介して頂けるとありがたいです。
・就職の前に大学進学のタイミングで若者の流出があると思います。愛着心を持ってもらうのであれば、小中高生へ
のアプローチも必要なのではないかと思う。そういった取り組みがあれば教えて頂きたいです。
・知、スキルとして即効性があるもの。
・フロアからのコメントは、コメントシートにしても良いかも知れませんね。
(よく分からないコメント、質問防止、タイムマネジメントの為)
・SDをやってほしい

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

秋田創生COC+事業
実績報告書
＜平成27年度～令和元年度＞
秋田創生COC+協議会

発　行　日　令和２年３月
編集・発行　秋田大学地（知）の拠点推進本部

〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町 1-1
TEL 018-889-3246　　FAX 018-889-3168
E-mail：coc-plus@jimu.akita-u.ac.jp